

令和4年度
子ども・子育て支援推進
調査研究事業

令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
里親・ファミリーホーム・施設のあり方の検討に関する
調査研究
報告書

令和5年3月

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

目次

はじめに	4
第1章 事業要旨.....	5
1. 本事業の背景.....	5
2. 調査の主眼・主な調査実施項目	5
3. 調査研究の体制・検討経過	6
第2章 事業目的.....	8
第3章 事業の実施内容.....	9
1. 調査の全体像.....	9
(1) ケアニーズの考え方	9
(2) 特別な配慮に伴うケアニーズについて	9
(3) 調査実施方法	10
3. 調査対象・項目の設定	10
(1) アンケート調査	10
(2) ヒアリング調査	11
第4章 調査等の結果	14
1. アンケート調査結果.....	14
(1) 里親の結果.....	15
(2) ファミリーホームの結果.....	31
(3) 児童養護施設の結果	47
(4) 乳児院の結果.....	67
(5) 児童心理治療施設の結果.....	84
(6) 児童自立支援施設の結果.....	102
(7) 母子生活支援施設の結果.....	119
(8) 自立援助ホームの結果	135
2. ヒアリング調査結果.....	152
(1) 里親	152
(2) ファミリーホーム.....	153
(3) 児童養護施設.....	154
(4) 乳児院.....	155
(5) 児童心理治療施設.....	157
(6) 児童自立支援施設.....	158

(7) 母子生活支援施設.....	159
(8) 自立援助ホーム	161
第5章 分析・考察.....	163
1. 各調査結果のまとめ	163
(1) 里親	163
(2) ファミリーホーム.....	164
(3) 児童養護施設.....	165
(4) 乳児院.....	167
(5) 児童心理治療施設.....	169
(6) 児童自立支援施設.....	171
(7) 母子生活支援施設.....	172
(8) 自立援助ホーム	173
2. 事業全体のまとめ	175
(1) 社会的養育を必要とした背景・理由について	175
(2) 特別な配慮を要するケアニーズについて	175
(3) 特別な配慮を要するケアニーズの複合性について	176
(4) 時間・関係性により変化する特別な配慮を要するケアニーズ	176
(5) 多機関連携にともなうケアニーズ	178
(6) 本事業を踏まえた今後の課題	178
第6章 成果の公表方法.....	179

参考資料

調査票一式

はじめに

令和3年度社会的養育専門委員会の報告書において、里親・ファミリーホームに関して、「里親の種別、里親要件、柔軟な里親制度の運用やファミリーホームと里親の定員等、里親・ファミリーホームのあり方について、施設の小規模化の今後も含めて、速やかに検討を開始」(p20) するよう提言がなされました。また、施設に関しては、「児童福祉施設と自立援助ホームについて、それぞれの機能と果たす役割、これに伴う人員配置基準等の在り方、そして、それらを支える措置費の在り方について、ケアニーズに応じた支援が適切に成されるよう、調査研究を行うなど速やかに検討を開始」(p20) するよう提言がなされました。

この提言を受け、厚生労働省令和4年度子ども・子育て支援推進研究事業として、「里親・ファミリーホーム・施設のあり方検討委員会」を編成しました。事務局については、NTT データ経営研究所があたり、本調査研究を実施させて頂きました。

調査の実施にあたっては、「ケアニーズ」という言葉そのものの定義の曖昧さ、これに加え、子どもと里親及び職員の日々の暮らしからケアニーズを捕捉するということの難しさが言うまでもなく存在していました。関係各位、特に、子どもたちの養育にあたられている方々の貴重なご意見をふまえ、何度か、調査項目の設定を繰り返し行いました。そのためか調査送付時期が遅くなるとともに、調査項目の多さが幾分見られたことはいまでもありません。大変なご苦勞をおかけしたと認識しております。

また、アンケートによって得られたデータを補完すべくヒアリング調査を実施させて頂きましたが、これも年度末の大変お忙しい中であって、ご協力を頂きました。ここにあらためて感謝を申し上げます。

今回、お陰様を持ちまして、子どもたちが複合的な逆境体験を経て施設に入所し、その結果として、多重なケアニーズを抱えている実態の一端を明確化できたのではないかと考えております。

本調査研究は、次年度以降、引き続き、里親や施設職員の日々のいとなみにおける基本的な子どもへの個々のケアのニーズや子どもが集団でいることによって派生するケアニーズの把握等、今回のデータを補完する2次調査の実施を検討していく方向であると伺っております。

今後も微力ではありますが、養育者・支援者のみなさま、そして、何よりも社会的養護を必要とする子どもたちにとって、里親・ファミリーホーム・施設がどうあるべきか、引き続き検討していきたいと考えております。

今後も皆様のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和5年3月

里親・ファミリーホーム・施設のあり方検討委員会 委員長
山田 勝美

第1章 事業要旨

1. 本事業の背景

平成28年の児童福祉法改正により、家庭養育優先の原則が明示され、現在、里親支援体制の充実や、施設における小規模化・地域分散化、高機能・多機能化が進められている。そのような中、新たな法改正に向けて議論がなされた社会的養育専門委員会の報告書（令和4年2月10日公表）において、里親・ファミリーホーム・施設の今後のあり方の検討や、施設の小規模化・地域分散化の推進に向けた検討を開始することが提言されている。

報告書内の提言を受けて、今後の里親・ファミリーホーム・施設のあり方や、施設の小規模化・地域分散化を推進するための第一ステップとして、それぞれの子どものケアニーズや職員負担等の実態を把握することを目的として、以下2つの調査研究事業が立ち上がり、本事業は数の研究1に該当する。

図表1 社会的養育専門委員会の報告書を踏まえた研究事業

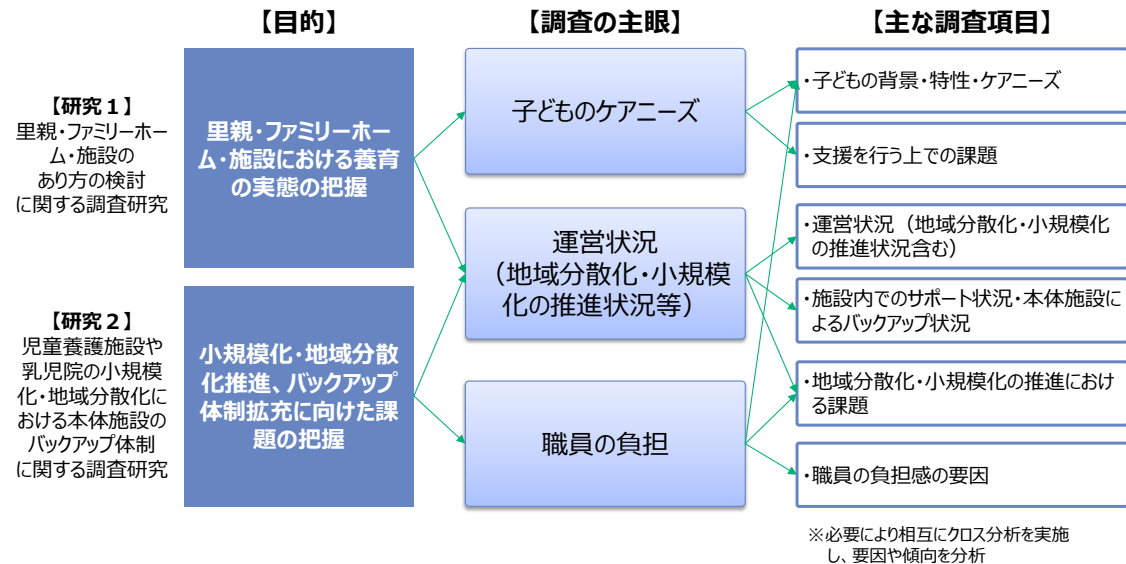
研究1	里親・ファミリーホーム・施設のあり方の検討に関する調査研究*
研究2	児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化における本体施設のバックアップ体制に関する調査研究*

*以下、「里親・ファミリーホーム・施設のあり方の検討に関する調査研究」は「里親・FH・施設のあり方」、「児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化における本体施設のバックアップ体制に関する調査研究」は「バックアップ」と表記する（一部例外あり）。

2. 調査の主眼・主な調査実施項目

前述した2事業は目的・調査内容が重複かつ密接に関連することから、合同で調査を実施して相互に結果を共有しながら実施し、本事業（下図の「研究1」）においては、主に子どものケアニーズ（本事業でいうケアニーズの考え方は後述）、施設等の運営状況について調査を実施した。

図表 2 本事業等の目的・主眼・主な調査項目



3. 調査研究の体制・検討経過

学識経験者と実務者から構成される検討委員会、及び各養育者や施設等の観点から調査内容について助言を頂くための WG を設置し検討を行った。

図表 3 検討委員会及び WG 委員一覧（五十音順、敬称略）

【検討委員会 委員】

役職	氏名	所属・役職
委員長	山田 勝美	山梨県立大学 福祉コミュニティ学科 教授
委員	林 浩康	日本女子大学 人間社会学部社会福祉学科 教授
	浅野 恭子	大阪府女性相談センター 所長
	増沢 高	こどもの虹情報研修センター 研究部長
	河野 洋子	大分県こども・女性相談支援センター センター長

【WG 委員】

区分	氏名	所属・役職
里親	河内 美舟	公益財団法人 全国里親会 会長 社会福祉法人同朋福祉会 理事長・総合園長
ファミリーホーム	北川 聡子	日本ファミリーホーム協議会 会長

区分	氏名	所属・役職
児童養護施設	則武 直美	全国児童養護施設協議会 副会長
乳児院	横川 哲	全国乳児福祉協議会 副会長
児童心理治療施設	西田 篤	広島市こども療育センター 心療部長（愛育園園長） 全国児童心理治療施設協議会 会長
児童自立支援施設	秋吉 修一	全国児童自立支援施設協議会 会長 愛知学園長
母子生活支援施設	村上 幸治	全国母子生活支援施設協議会 副会長
自立援助ホーム	内藤 直人	調査研究委員長

図表 4 担当研究員体制

氏名	役職
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット	
米澤 麻子	アソシエイト・パートナー
桜花 和也	マネージャー
塙 由布子	マネージャー
野村 香織	シニアコンサルタント
中場 海和人	シニアコンサルタント
三道 ひかり	コンサルタント
中村 やよい	コンサルタント

図表 5 検討委員会における検討内容

回数	実施日	主な議題
第1回	令和4年9月15日	(1) 事業の概要 (2) 調査内容
第2回	令和5年3月6日	(1) 調査結果速報のご報告 (2) 分析方針についてのご相談
第3回	令和5年3月27日	(1) 調査結果のご報告 (2) 事業まとめについて

第2章 事業目的

上述の社会的養育専門委員会の報告書（令和4年2月10日公表）においては、里親・ファミリーホームに関して、「里親の種別、里親要件、柔軟な里親制度の運用やファミリーホームと里親の定員など里親、ファミリーホームのあり方について、施設の小規模化の今後も含めて、速やかに検討を開始」との提言がなされている。

また、施設に関しては、「児童福祉施設と自立援助ホームについて、それぞれの機能と果たす役割、これに伴う人員配置基準等の在り方、そしてそれらを支える措置費の在り方について、ケアニーズに応じた支援が適切に成されるよう、調査研究を行うなど速やかに検討を開始」との提言がなされている。

これらを踏まえ、本調査研究では報告書案において提言のあった検討を進めるための第一ステップとして、里親・ファミリーホーム・施設における養育の実態を明らかにし、課題を整理、分析することを目的とする。

第3章 事業の実施内容

1. 調査の全体像

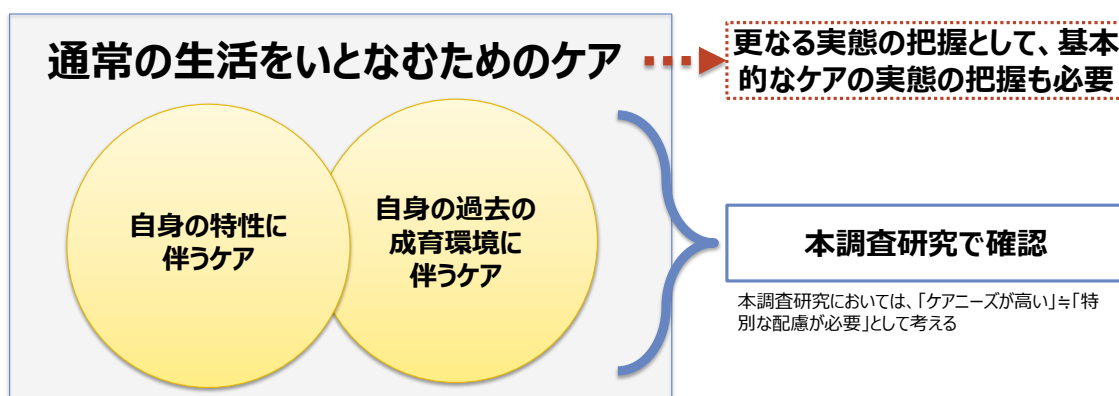
(1) ケアニーズの考え方

子どもの「ケアニーズ」として、通常の生活をいとなむためのケア（ご飯の準備、登校支援、掃除・洗濯、幼児等いる場合には日中の保育、下校後の宿題をみること、共に遊ぶこと、買い物に行くこと、夕食の準備・片づけ、入浴の準備、入浴、就寝の支援等）に加えて、特別な配慮にともなうケアがさらに加わるものと想定している。

正確なケアニーズの捕捉には十分な時間・検討が必要であるが、本調査研究は今後のあり方検討のための探索的研究として、「子ども（母）自身の過去の成育環境」「子ども（母）自身の特性」によって特別な配慮が必要な子ども（または母）がどの程度いるかを把握するための調査を実施する。また、特別な配慮ニーズが、子ども間および家族や学校といった環境との関係性、また、ニーズが複雑化・多重化していく過程の把握を目的として、ヒアリング調査を実施し、より立体的な把握に努め、数字によって得られたデータを補完する。

なお、ケアニーズを正確に把握するためには「通常の生活をいとなむためのケア」の実態を明らかにする必要があるため、今後更なる実態の把握が必要と考える。

図表 6 本事業における「ケアニーズ」のイメージ



(2) 特別な配慮に伴うケアニーズについて

特別な配慮に伴うケアニーズの要素としては、下図の通り、「①子ども（母親）自身の特性」「②子ども（母親）自身の過去の生育環境」があり、年齢や置かれた環境状況が相俟って、生活場面における個別的なケアの課題として表出されるものとする。

図表 7 特別な配慮に伴うケアニーズの整理

＜基本的なケアに加えて特別な配慮が必要となる要素＞

①子ども（母親）自身の特性	・身体的な特性・・・医療的な部分 ・発達の特性・・・認知機能、発達特性の傾向 ・社会・文化的側面・・・外国籍、言語にかかわる ・アタッチメントの課題
②子ども（母親）自身の過去の生育環境	・被虐待経験・・・重複、繰り返される体験 ・分離喪失体験（繰り返される一保護も重要） ・不適切な誤学習 ・その他

①②と相互に強化し合う因子として以下が考えられる事項

○年齢

○置かれた環境状況・・・ケアニーズを強化する因子になっている場合がある

- ・家族・・・面会の頻度、面会の質、親との関係性
- ・学校、友人関係、施設内の子ども間関係（支配的・過度の従順さ）、
- ・地域との関係

※その他の環境上の問題・・・親が正規雇用に就くことが困難等

※ケアニーズの基本は通常の生活をいとなむためのケアを行うことであり、あたりまえの安定した日々のいとなみを持続するためのケアとなる。これに特別な配慮にともなうケアがさらに加わる。

（３）調査実施方法

量的な把握をするためのアンケート調査として、特別な配慮に伴うケアについて把握することとし、重要な側面として代表的な配慮として想定されるケアについての質（内容）・量（頻度）等について調査を実施した。

また、アンケート調査のみでは表せないケアニーズの変化や複雑さ等を確認するために、並行してヒアリング調査を実施した。

3. 調査対象・項目の設定

（１）アンケート調査

社会的養育を必要とする子どもたちのケアに係る実態を把握するための調査として、アンケート調査を実施した。アンケート調査は施設の基本情報（職員数・運営状況等）に加えて、個票において入所・委託している子ども一人一人の状況について調査を実施した。

アンケート調査の目的・対象・項目は以下の通り（アンケート調査項目全体は参考資料の調査票を参照）。

図表 8 アンケート調査の目的・調査対象

カテゴリ	内容
調査目的	「養育の負担が大きい」という現場の従事者の声を踏まえ、どのような体制で子どもたちの養育にあたっているのか、ケアニーズの高い子どもとはどのような子どもを指すのか、等養育主体ならびに子どもの両観点について情報を取得し、現場の実態を把握する。
調査対象 (全て悉皆調査)	・ 里親 ・ ファミリーホーム ・ 児童養護施設 ・ 乳児院 ・ 児童心理治療施設 ・ 児童自立支援施設 ・ 母子生活支援施設 ・ 自立援助ホーム
調査スケジュール	1月～3月
調査方法	オンラインでのwebアンケート（Questant の使用を想定）とExcelでの個票回答を実施

図表 9 アンケート調査項目（子どもの個票）

(1) 基本情報	・年齢 ・性別 ・入所期間 等
(2) 過去の背景	・被虐待経験 ・家族との別離経験 等
(3) 現在の状態像	・心理的な側面（アタッチメント、PTSD・トラウマに関連する部分） ・身体的な側面（疾患、障害等） ・社会的な側面（文化的背景、他者との関係、過去の養育環境） ・日常的なケアに関する部分（一部） 等

(2)ヒアリング調査

アンケート調査の補足として、ケアニーズの変化や複雑さ等を確認するために、並行してヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査先は各協議会・委員等より推薦を頂いた。

図表 10 ヒアリング調査の対象

種別	対象数
里親（4,759 世帯）	2 世帯
ファミリーホーム（427 か所）	2 か所
児童養護施設（612 施設）	4 施設

種別	対象数
乳児院（146 施設）	4 施設
児童心理治療施設（53 施設）	1 施設
児童自立支援施設（58 施設）	2 施設
母子生活支援施設（200 施設）	4 施設
自立援助ホーム（217 施設）	2 施設

図表 11 ヒアリング調査項目

区分	ヒアリング調査対象
共通	1. 基本情報や基本的な取組について （1）基本情報 （2）入所児童（母親）の状況 （3）特徴的な取組や支援等 2. ケアニーズについて（アンケート調査項目を踏まえてご回答ください） （1）社会的養育を必要とした背景について特徴的な課題を抱えている子ども（母親）が多いニーズ（複数） （2）（1）の背景との関連で特別な配慮が必要となる項目 （3）社会的養育を必要とした背景や、それに伴う特別な配慮の関連性や特徴的な組み合わせについて （4）ニーズの重複と、その場合の日常生活での表れ方 （5）ニーズの変化・進展の傾向（年齢、入所からの期間、本人の状態変化） （6）PTSD 関連項目や愛着形成上の問題について、具体的に生じるニーズ（職員が感じられるもの） 3. 現在行っている取り組みや今後求められること （1）ケアにおける課題・工夫・改善点 （2）職員負担に関すること （3）外部との連携等 4. その他

区分	ヒアリング調査対象
	(例；今後の施設のあり方として求められること等)
児童養護施設、 乳児院のみ	5. 施設の小規模化について (1) 小規模化・地域分散化の目的 (2) 小規模施設・地域分散化におけるこども・職員の配置方針 (3) 小規模化・地域分散化における課題 ・職員の負担感及びその背景（特に、本体施設と小規模施設の負担感の差について） ・その他小規模施設・地域分散化による課題と考えていること (4) バックアップの取組内容 ・取組の背景・目的 ・取組内容 ・取組の成果 ・取組において特に重視していること・ポイントと考える点 ・現状の課題認識 ・国等に求めること

第4章 調査等の結果

1. アンケート調査結果

各団体に発出のご協力を頂き、回収率は下図の通りであった。

図表 12 アンケート調査の回収結果

区分	母数または発出 数※	回収数 (施設票)	回収数 (個票)	回収率
里親	4,759	2,146	2,071	45.1%
ファミリーホーム	427	124	515	29.0%
児童養護施設	604	295	2,294	48.8%
乳児院	146	95	1,534	65.1%
児童心理治療施設	53	24	447	45.3%
児童自立支援施設	58	30	448	51.7%
母子生活支援施設	200	101	(母) 628 (子) 1,042	50.5%
自立援助ホーム	217	106	408	48.8%

※母数は令和4年3月31日 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課「社会的養育の推進に向けて」に記載の数を使用（児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設のみ実際の発出数としている）

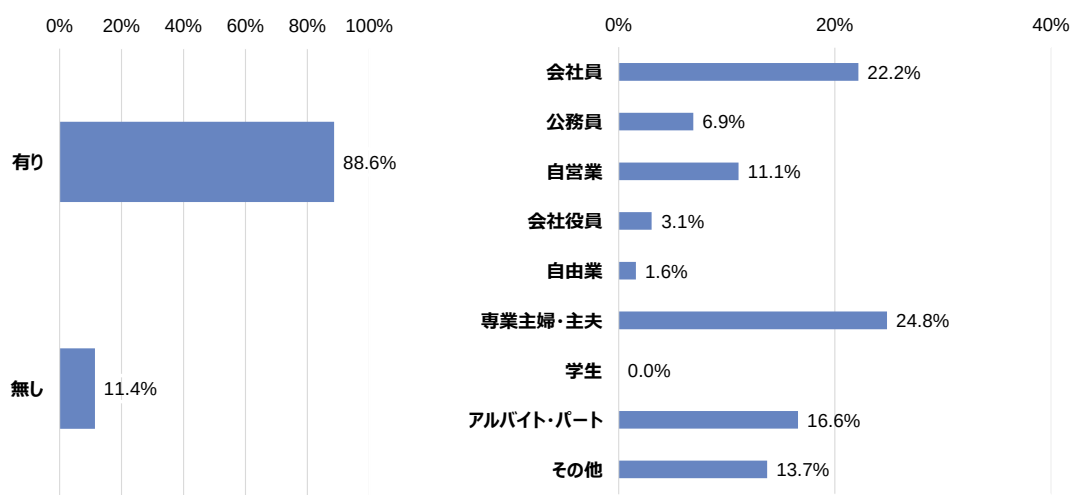
(1)里親の結果

ア)基礎情報

①基本情報

- 里親の職業としては、専業である人が 24.8%と最も多い。次いで多いのが会社員で 22.2%であった。また、2 名以上で養育を行っている里親が 88.6%であった。

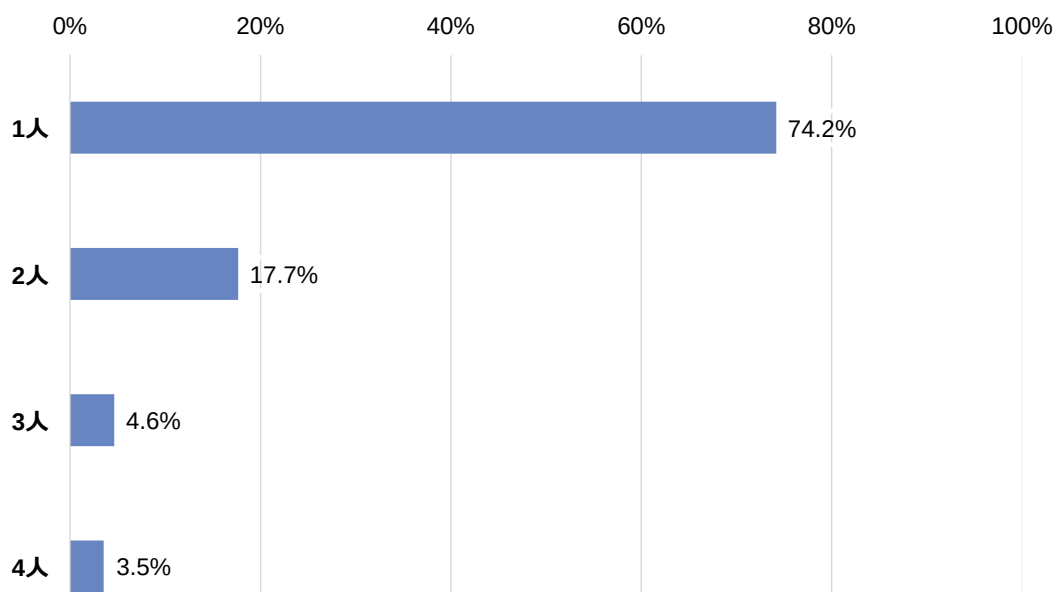
図表 13 一緒に養育を行う同居人の有無(左図)および里親の職業(右図)(共に n=1,506)



②委託児童の状況

- 子どもを受け入れている里親のうち、1 人のみ受けいれているのは 74.2%であった。

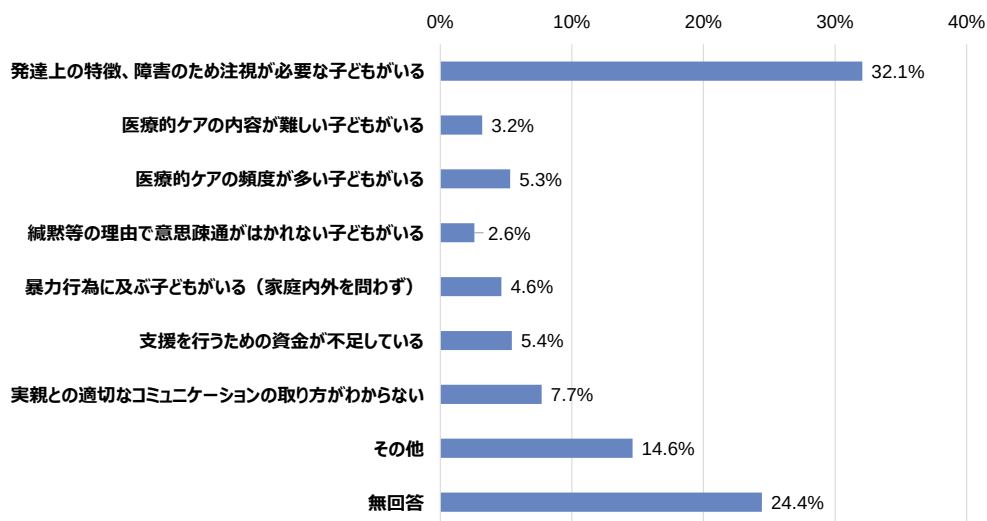
図表 14 委託児童の数(n=1,506)



③現在子どもの支援を行う上で苦労していること

- 「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」が 32.1%と最多であった。

図表 15 子どもの支援を行う上で苦労していること(n=1,506)

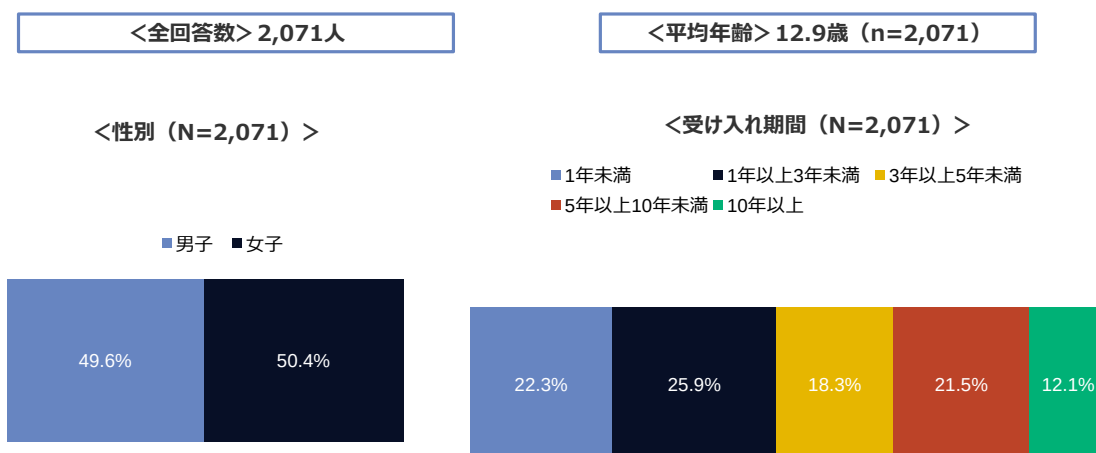


イ)委託児童の状況

①委託児童の基本情報

- 委託児童について 2,071 人分の回答があり、平均年齢は 12.9 歳であった。性別は男 49.6%、女 50.4%、受け入れ期間は 1 年以上 3 年未満が 25.9%と最多であった。

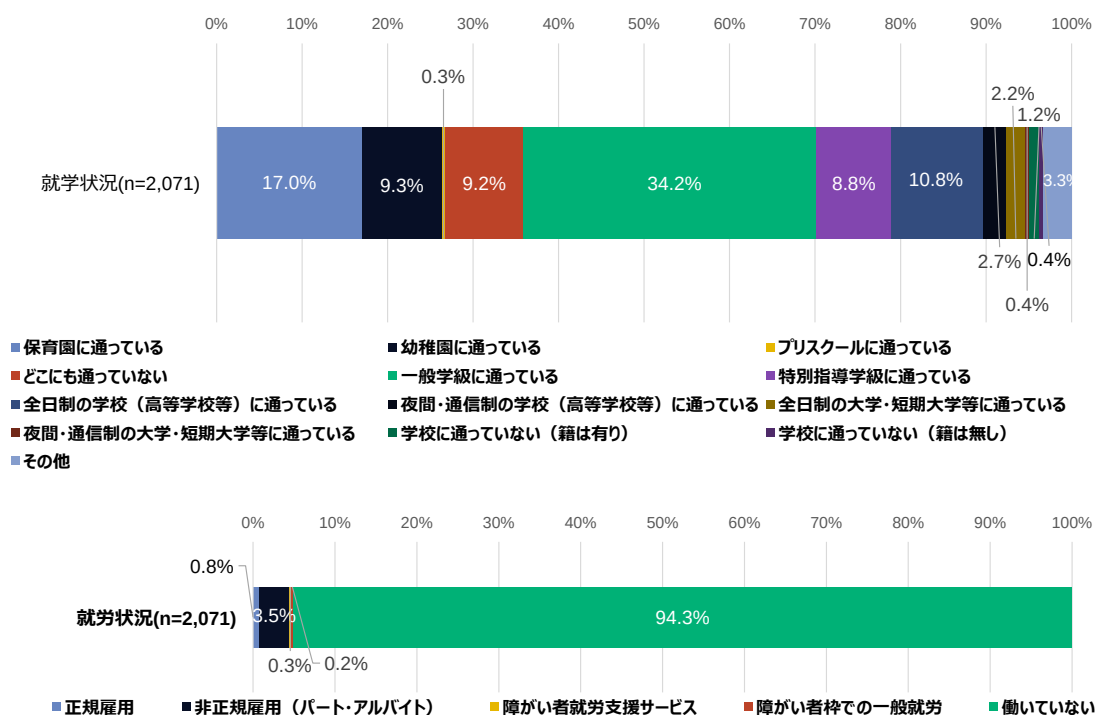
図表 16 委託児童の基本情報



②就学・就労状況

- 就学状況は小中学校の一般学級が 34.2%と最多、次いで保育園の 17.0%であった。一方で、就労状況については「働いていない」が 94.3%と最多であった。

図表 17 就学状況(上図)および就労状況(下図)(n=2,071)



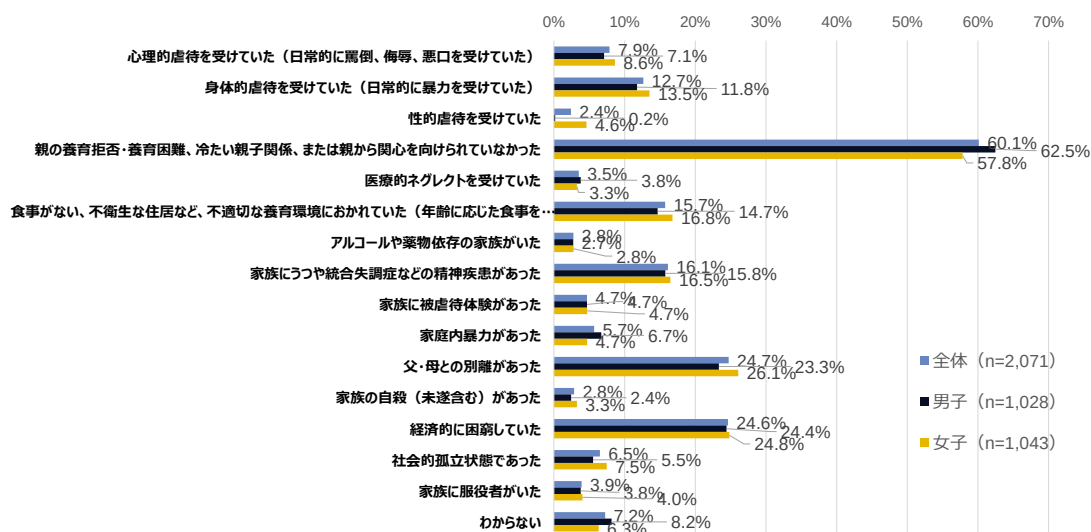
③社会的養育が必要となった背景

- 全体の傾向では、「親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった」が 60.1%と最多、次いで「父・母との別離があった」が 24.7%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別での大きな傾向の違いは見られなかった。

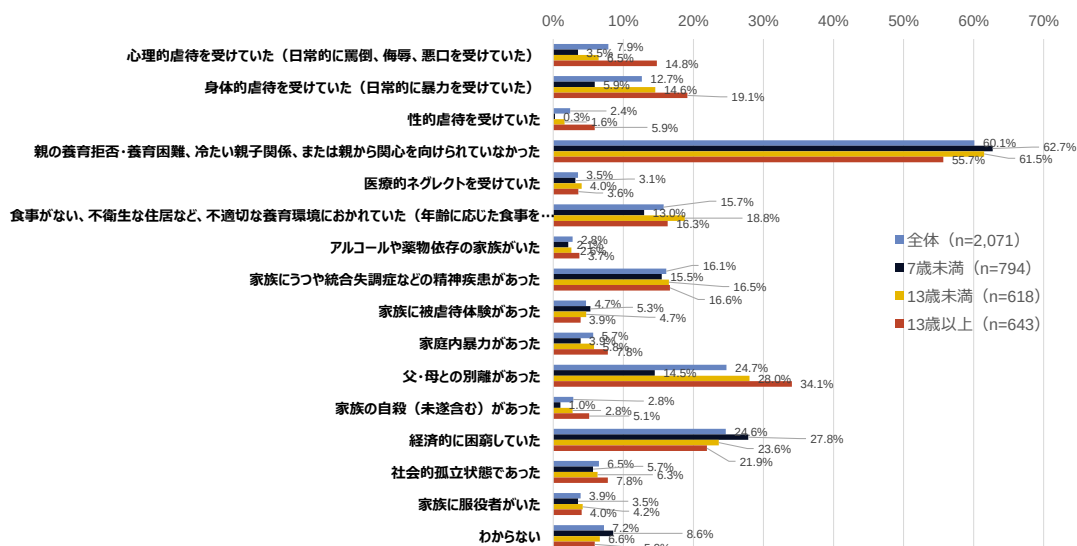
図表 18 社会的養育が必要となった背景【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢区分別において、大きな差は見られなかった。

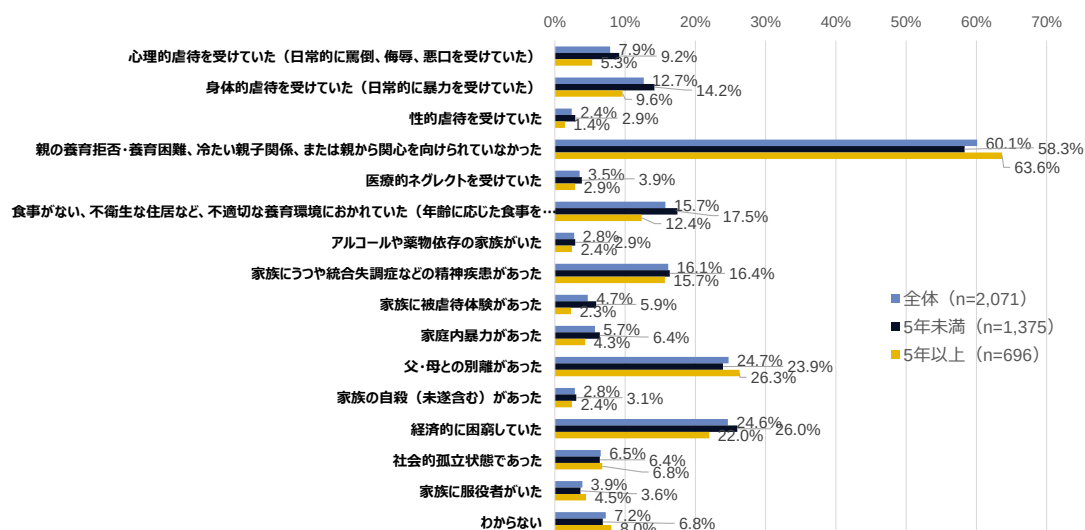
図表 19 社会的養育が必要となった背景【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 委託期間別において、大きな差は見られなかった。

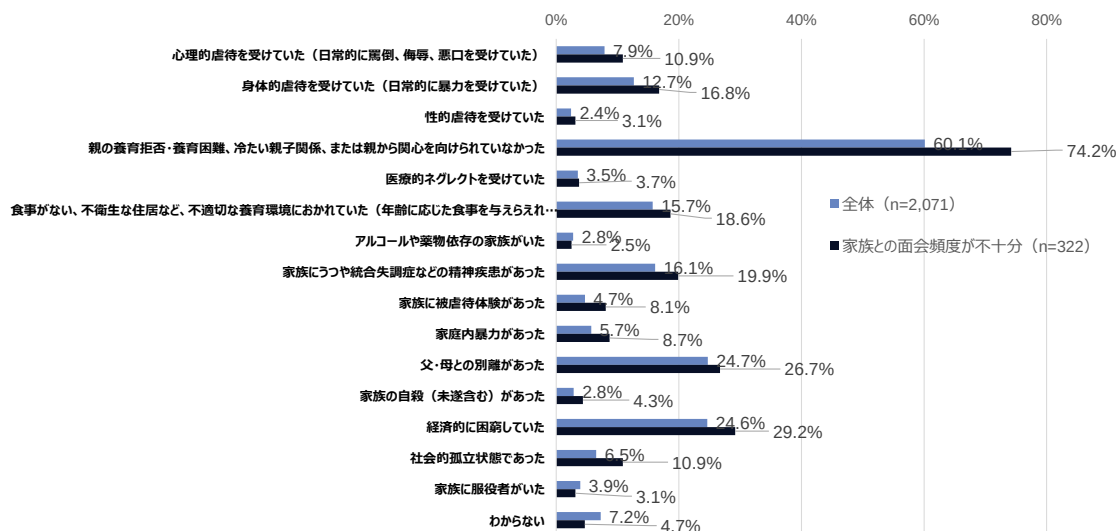
図表 20 社会的養育が必要となった背景【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 全般的に、家族との面会頻度が十分ではない子どもたちのほうが、該当する割合が高い傾向にあった。特に「親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった」においては、10ポイント以上の差があった。

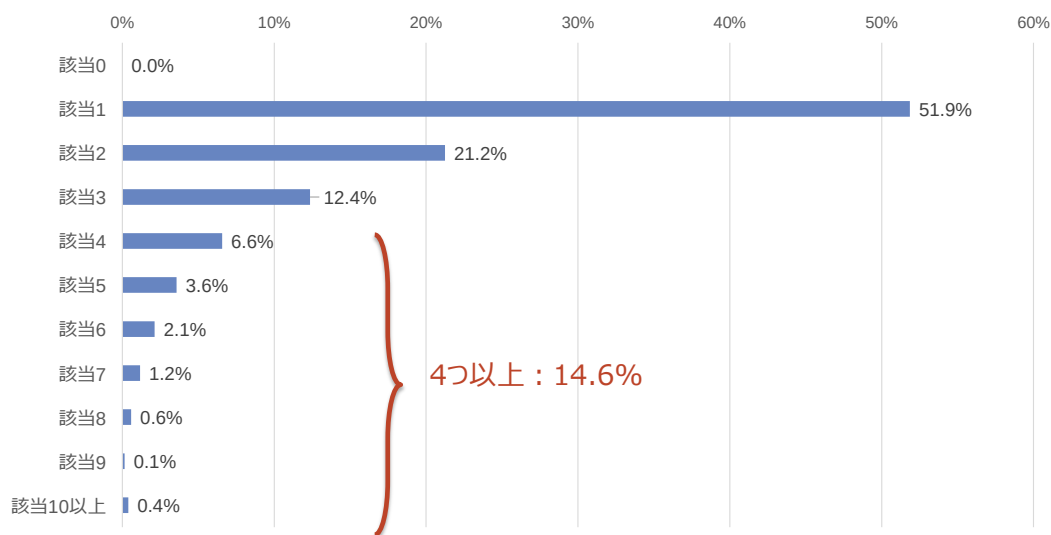
図表 21 社会的養育が必要となった背景【家族との面会頻度別】



<該当数の分布>

- 4つ以上の項目で該当する子どもは全体の14.6%であった。

図表 22 社会的養育が必要となった背景の該当数(n=2,071)



④養育を行う上で特別な配慮が必要な事項について

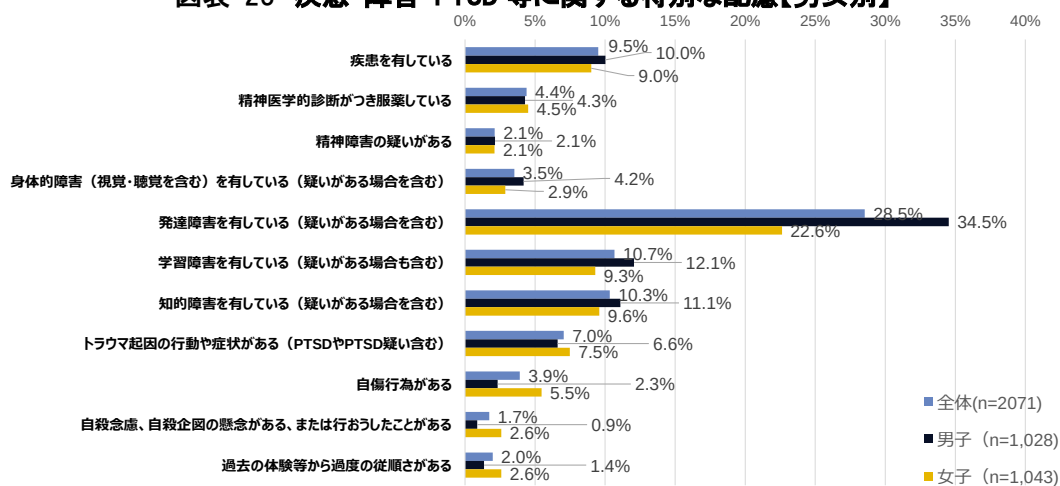
(a) 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮

- 全体の傾向では、「発達障害を有している」が28.5%と最多、次いで「学習障害を有している」が10.7%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 発達障害に関する特別な配慮は男子の方が女子よりも10ポイント以上高い傾向にあった。

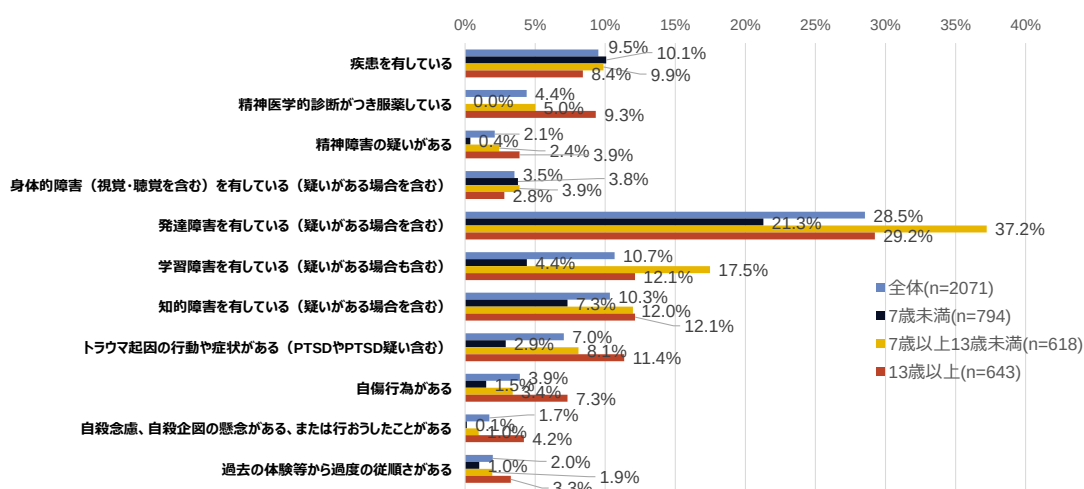
図表 23 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 発達障害および学習障害については、7歳以上13歳未満の子どもにおいて該当する割合が高い傾向にある。発達障害は7歳未満の子どもより、7歳以上13歳未満の子どもの方が15ポイント以上、該当する割合が高かった。学習障害についても7歳未満の子どもより、7歳以上13歳未満の子どもの方が10ポイント以上高い傾向にあった。

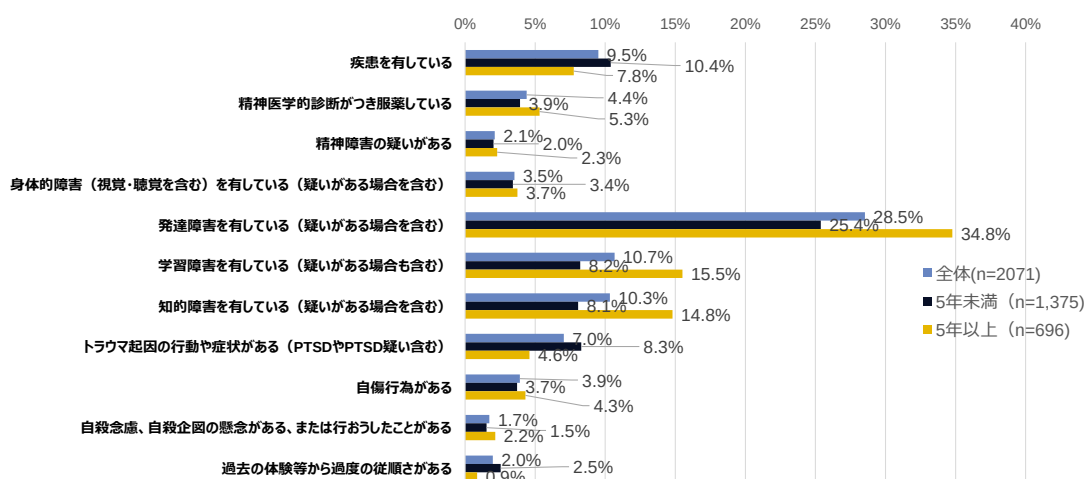
図表 24 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間別に大きな差は見られなかった。

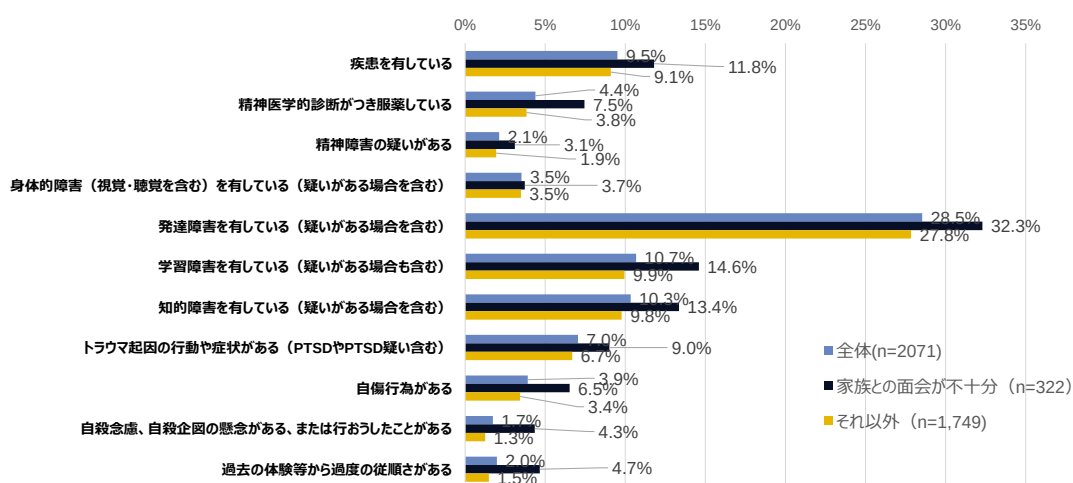
図表 25 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との面会頻度別>

- 全項目において、家族との面会が不十分な子どもの方が特別な配慮が必要になる割合が高い傾向であったが、面会が不十分か否かで該当する割合に 10 ポイント以上の差は見られなかった。

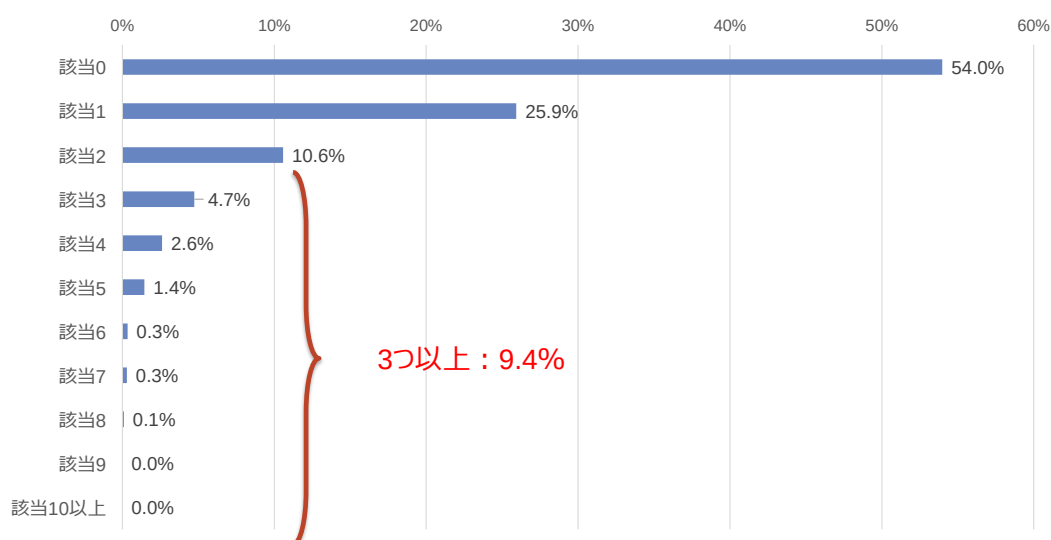
図表 26 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【家族との面会頻度別】



<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数【11 項目における該当数】>

- 該当数は 0 の割合が 54.0%と最多であった。3 つ以上該当する割合は、9.4%であった。

図表 27 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数【11 項目における該当数】
(n=2,071)



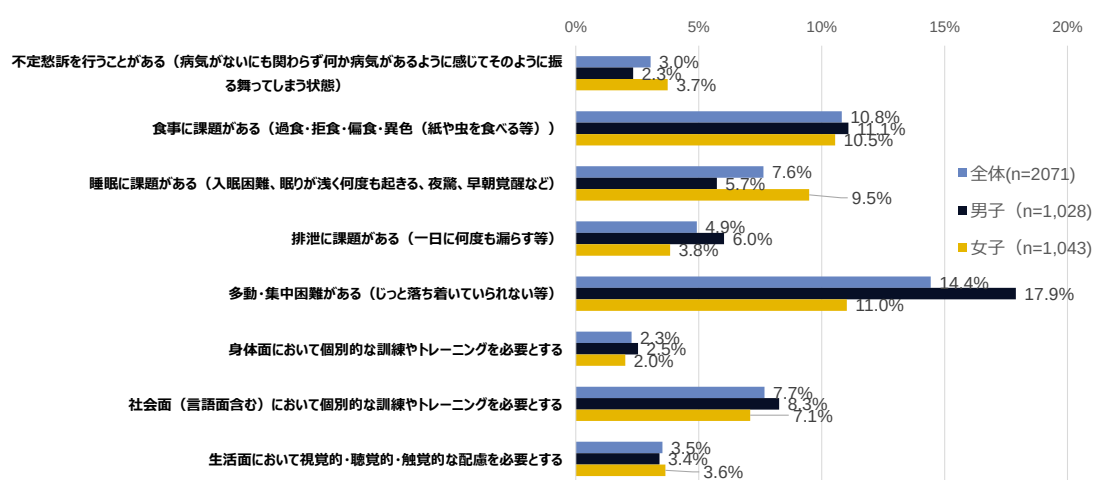
(b) 日常生活における課題等に関する特別な配慮

- 全体の傾向では、「多動・集中困難がある」が 14.4%と最多、次いで「食事に課題がある」が 10.8%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女で大きな差は見られなかった。

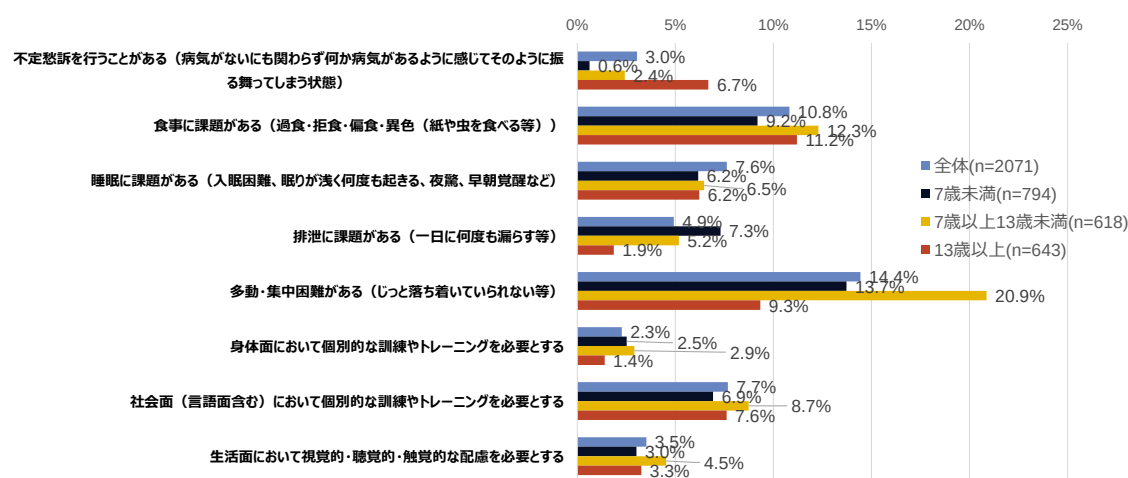
図表 28 日常生活における課題等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 多動・集中困難に関する配慮が必要となるのは、7歳以上13歳未満の子どもの割合が高い。13歳以上の子どもと比較して、10ポイント以上高い傾向にあった。

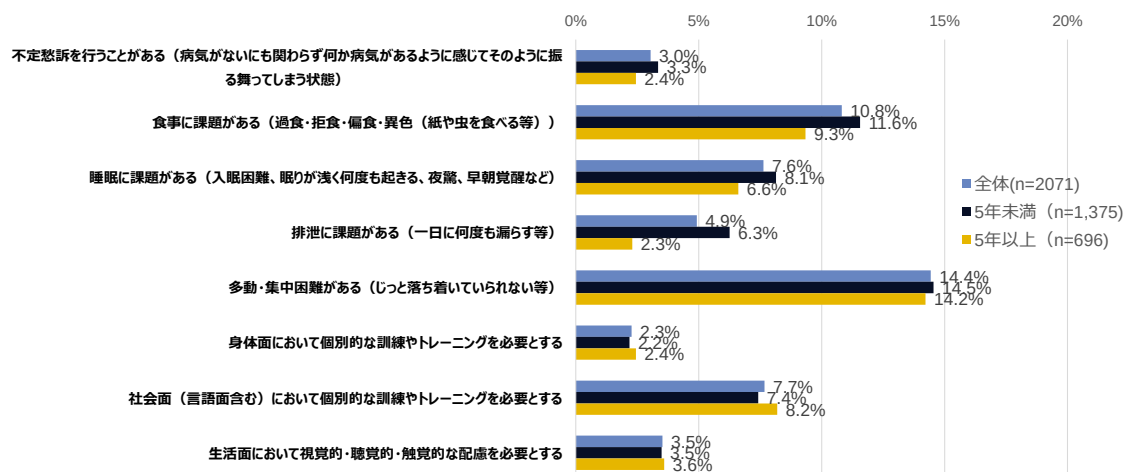
図表 29 日常生活における課題等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間別に大きな差は見られなかった。

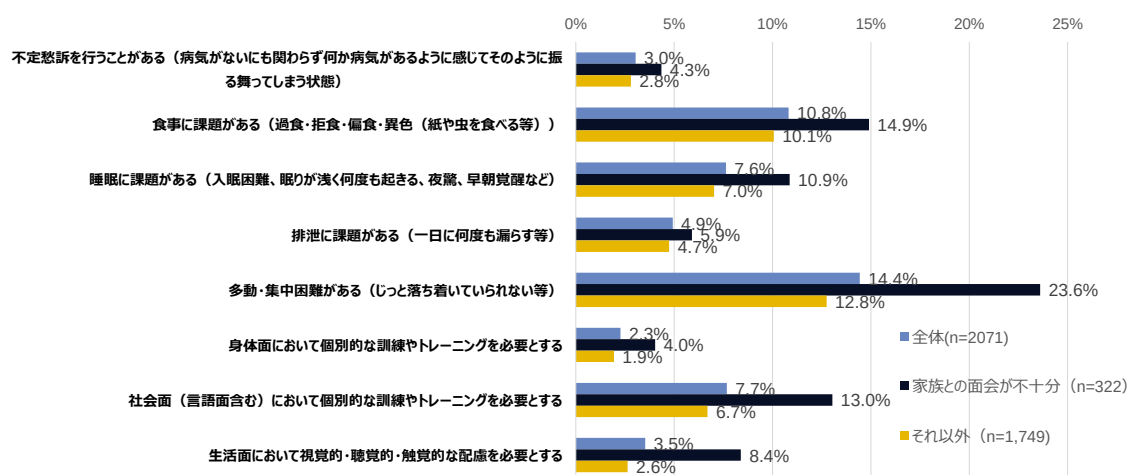
図表 30 日常生活における課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族と面会頻度別>

- 家族との面会が不十分である場合、日常生活における特別な配慮が必要となる割合が高かった。「多動・集中困難がある」については、面会が不十分である子どもの方が、そうでない子どもよりも10ポイント以上高かった。

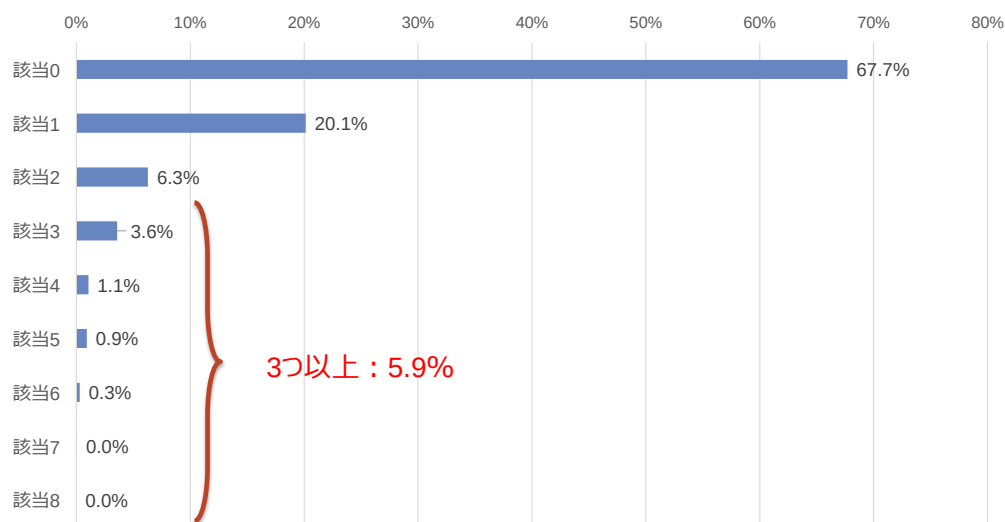
図表 31 日常生活における課題等に関する特別な配慮【家族との面会頻度別】



<日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数【8項目における該当数】>

- 日常生活に関する特別な配慮の該当数が0項目の割合は67.7%であった。

図表 32 日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数【8項目における該当数】



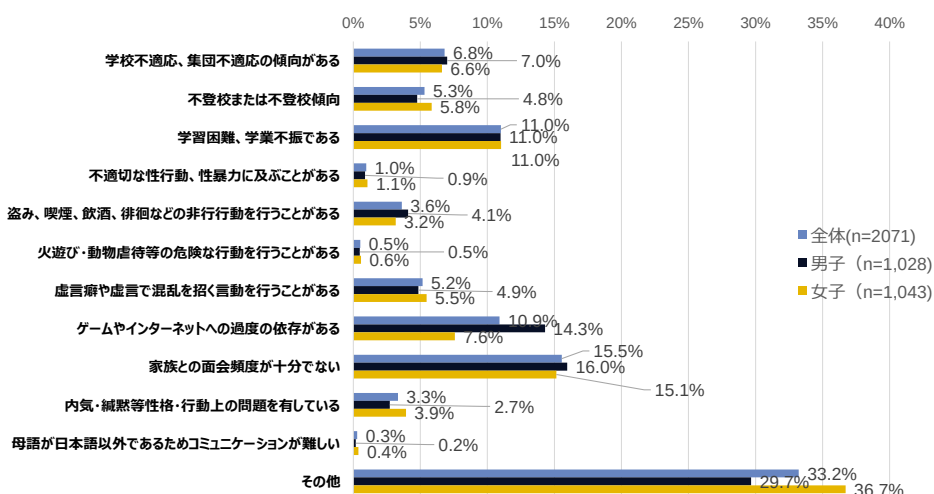
(c) 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮

- 全体の傾向では、「家族との面会頻度が十分でない」が15.5%と最多、次いで「学習困難、学業不振である」が11.0%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別に大きな差は見られなかった。

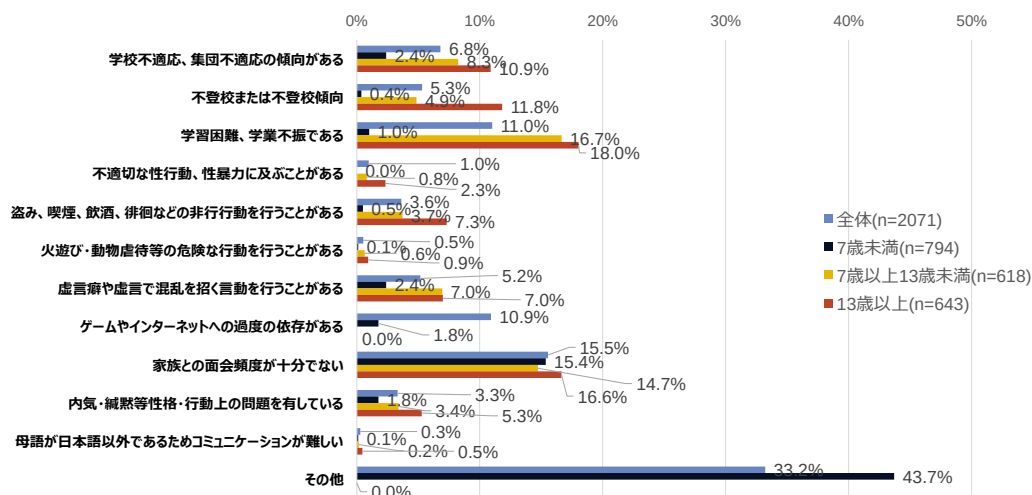
図表 33 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢区分別で大きな差は見られなかった。

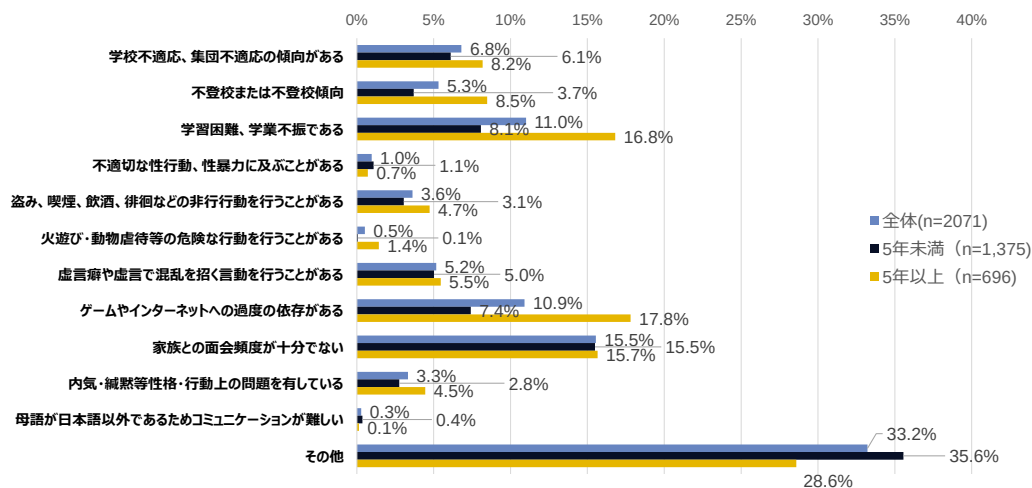
図表 34 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間別に大きな差は見られなかった。

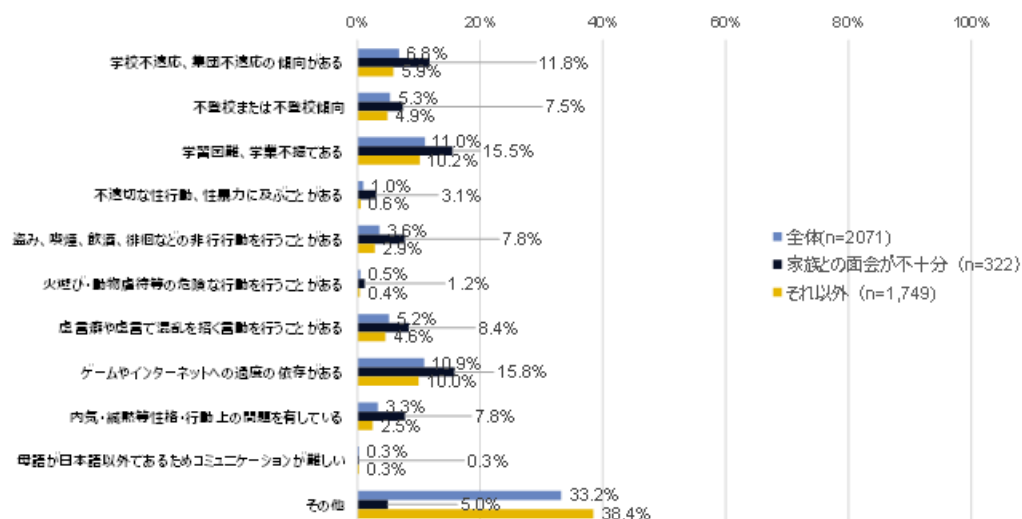
図表 35 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族と面会頻度別>

- 家族との面会頻度が十分でない子どもの方が全体の傾向よりも学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮が必要となる割合が高かった。ただし、面会が不十分か否かで、該当する割合に大きな差は見られなかった。

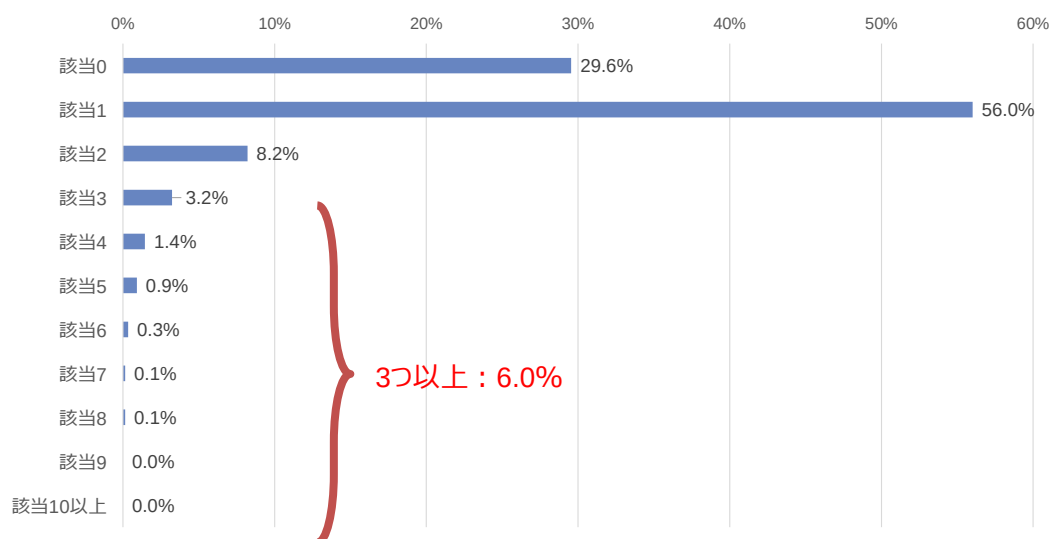
図表 36 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【家族との面会頻度別】



<学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数【12項目の該当数】>

- 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数は、該当項目1つの割合が56.0%と最多であった。3つ以上該当する割合も6.0%であった。

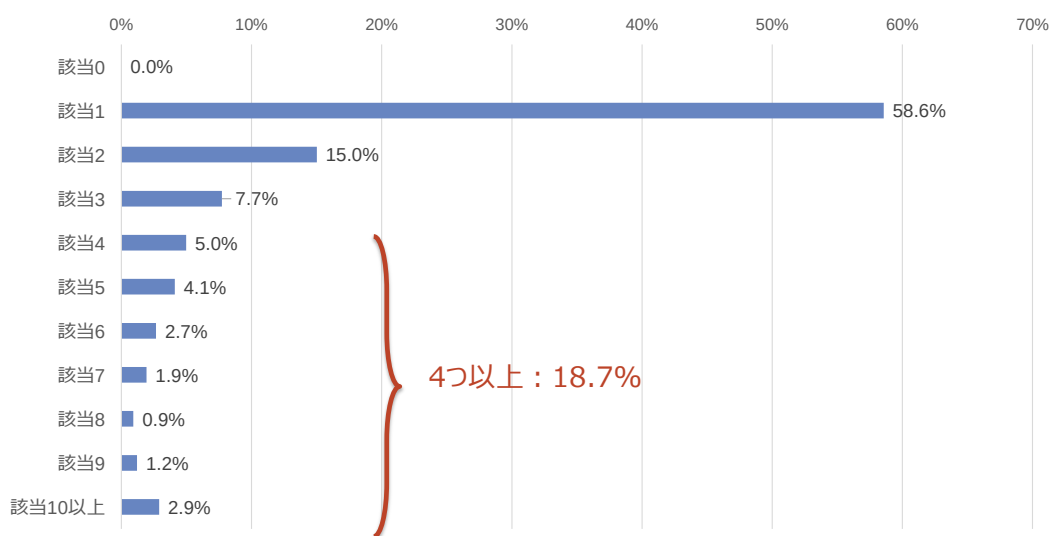
図表 37 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数【12項目における該当数】



(d) 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数【全 31 項目における該当数】

- 複数の特別な配慮が必要である子どもは全体の 41.4%であった。さらに、4 つ以上の特別な配慮を必要とする子どもは全体の 18.7%であった。

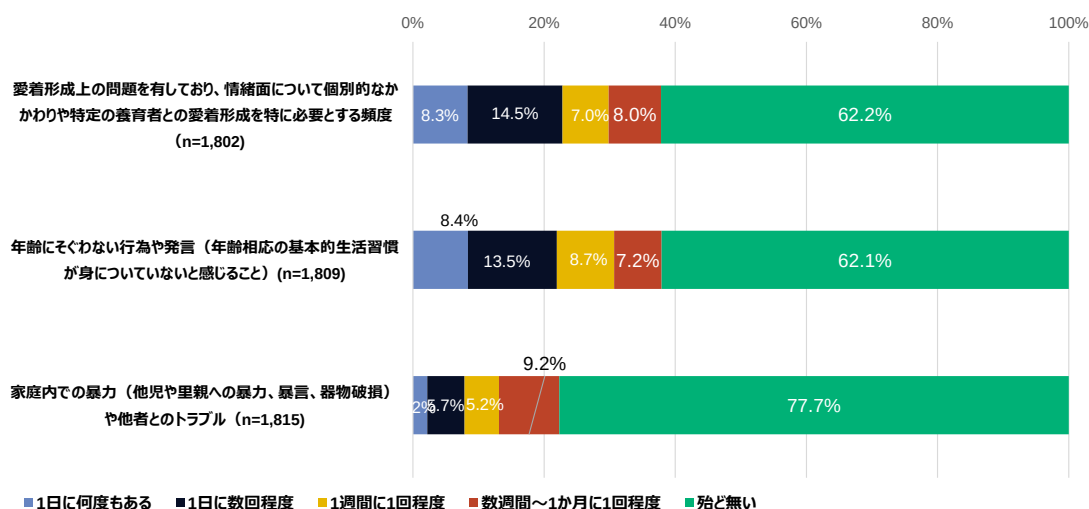
図表 38 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数【全 31 項目における該当数】
(n=2,071)



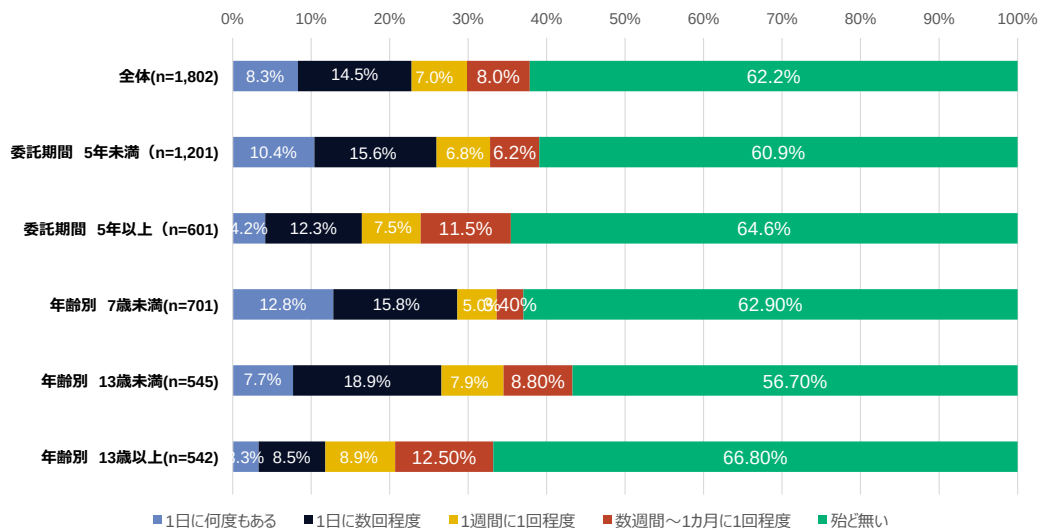
⑤ 特定の行動・事象の発生頻度

- それぞれ、1 日に数回以上ある割合（「1 日に何度もある」と「1 日に数回程度」の合計）は愛着形成が 22.8%、年齢にそぐわない行為や発言が 21.9%、家庭内での暴力や他者とのトラブルが 7.9%であった。

図表 39 特定の行動・事象の発生頻度



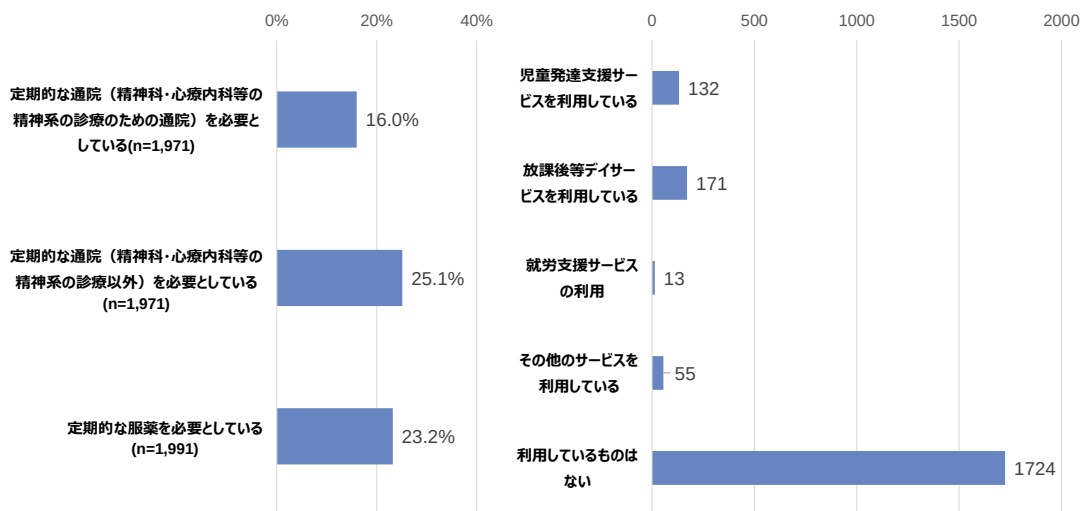
図表 40 愛着形成上の問題を有しており、情緒面について個別的なかかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする頻度



⑥通院・服薬、外部サービスの利用状況

- 精神疾患等で通院する子どもは 16.0%、その他の疾患に起因する通院が 25.1%であった。

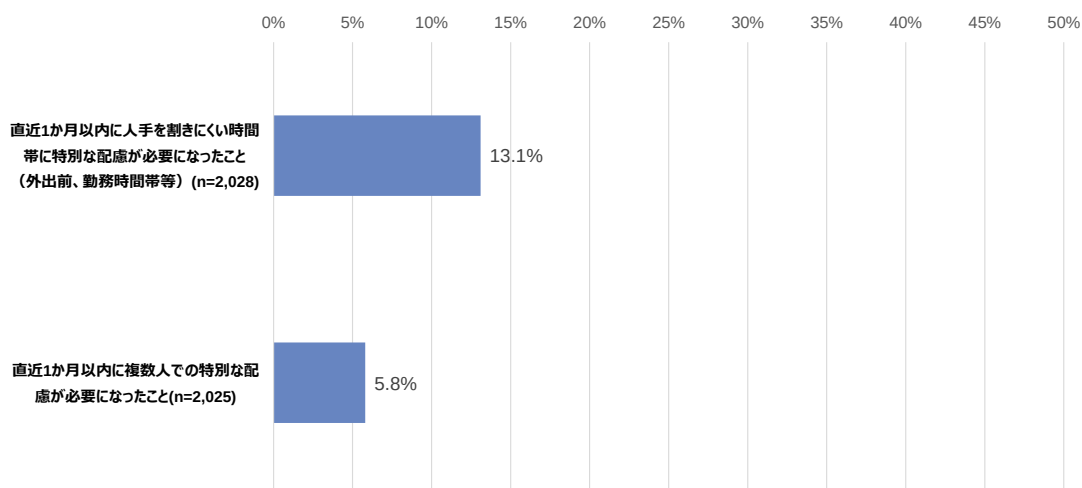
図表 41 通院・服薬の状況(左図)および外部サービスの利用状況(右図)



⑦時間外や複数人での対応が必要になったケース

- それぞれ一定発生している状況であった。

図表 42 時間外や複数人での対応が必要になったケース



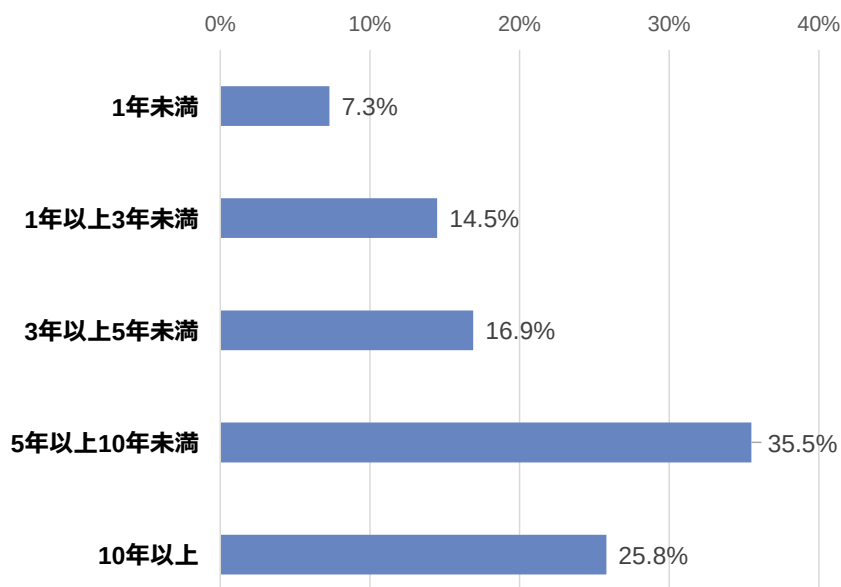
(2)ファミリーホームの結果

ア)基礎情報

①基本情報

- 設立後年数は、5 年以上 10 年未満のファミリーホームが 35.5%と最多であった。

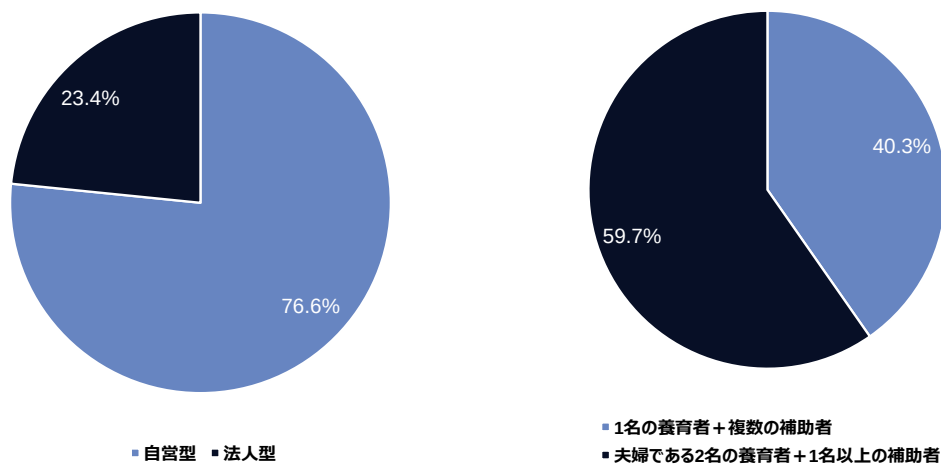
図表 43 ファミリーホームの設立後年数



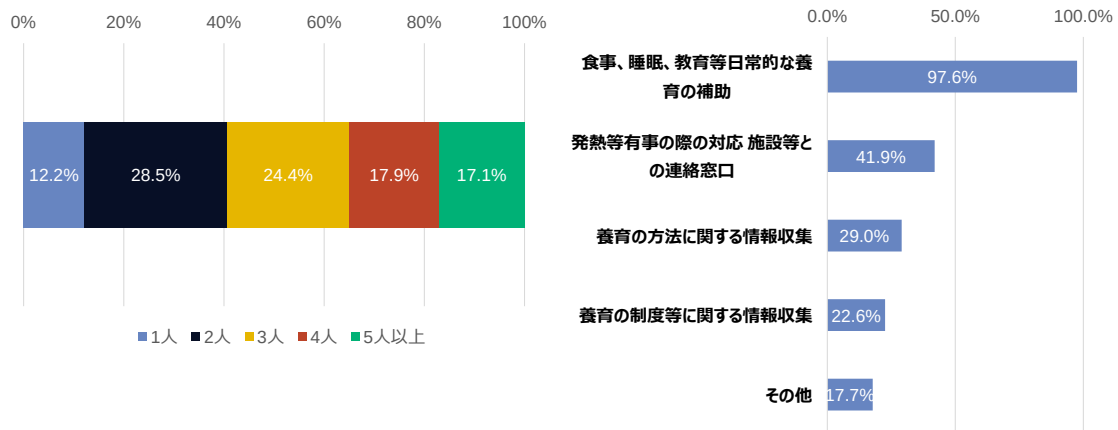
②養育者の状況

- 回答のあったファミリーホームのうち、自営型が 76.6%であった。
- また、「夫婦である 2 名の養育者+1 名以上の補助者」で運営するファミリーホームが 59.7%であった。
- 補助者の数は 2 名であるファミリーホームが 28.5%で最も多い。

図表 44 ファミリーホームの運営体制



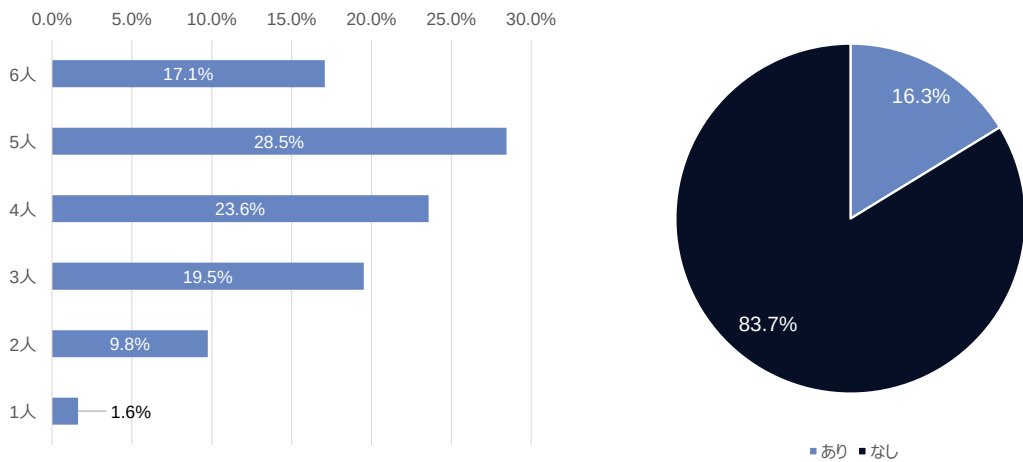
図表 45 ファミリーホームの補助者の人数・役割



③委託児童の状況

- 委託児童の数は5名が最多であり、28.5%を占めていた。
- 現在一時保護の子どもを受け入れているファミリーホームは16.3%であった。

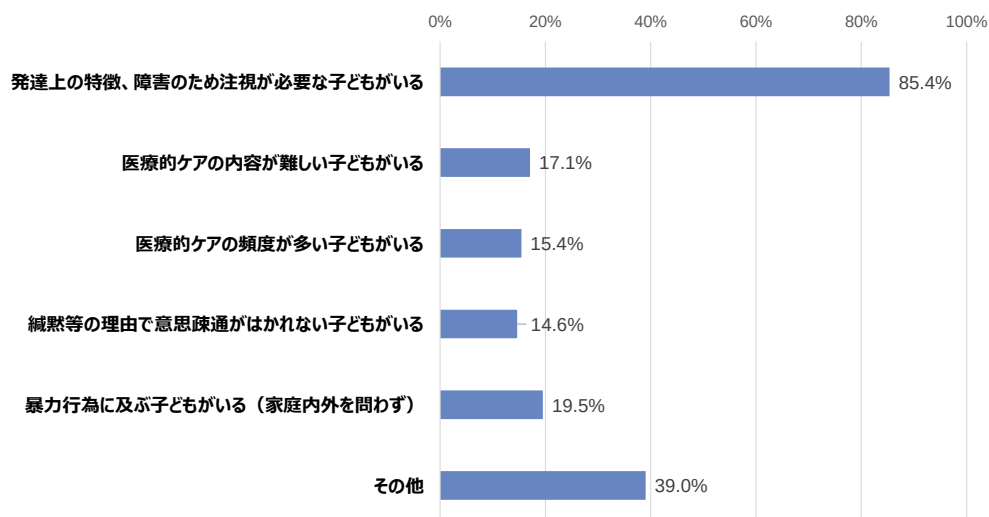
図表 46 委託児童の数(左図)および調査回答時点での一時保護委託の有無(右図)



④現在子どもの支援を行う上で苦労していること

- 子どもの支援を行う上で苦労していることとしては、「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」が85.4%と最多であった。

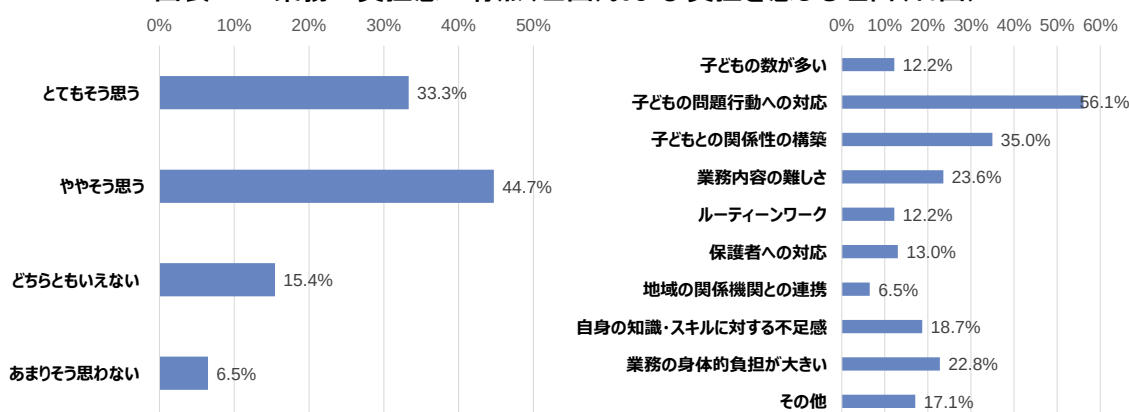
図表 47 現在子どもの支援を行う上で苦労していること



⑤業務の負担感

- 回答のあった123のファミリーホームのうち、業務に負担を感じているのは「とてもそう思う」「ややそう思う」を合計して78.0%であった。負担を感じる最も大きな理由は「子どもの問題行動への対応」であり56.1%であった。

図表 48 業務の負担感の有無(左図)および負担を感じる理由(右図)

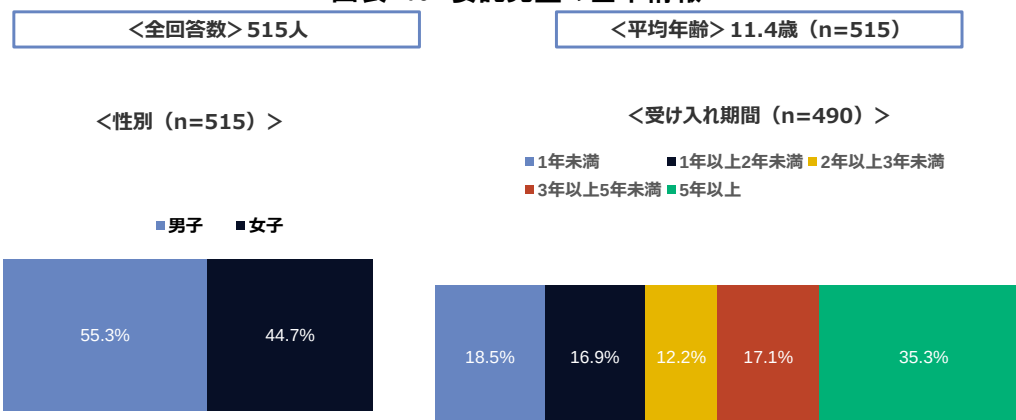


イ)委託児童の状況

①委託児童の基本情報

- 515 人分の回答があり、平均年齢は 11.4 歳であった。
- 性別は男子 55.3%、女子 44.7%、受け入れ期間は 5 年以上が 35.3%と最多であった。

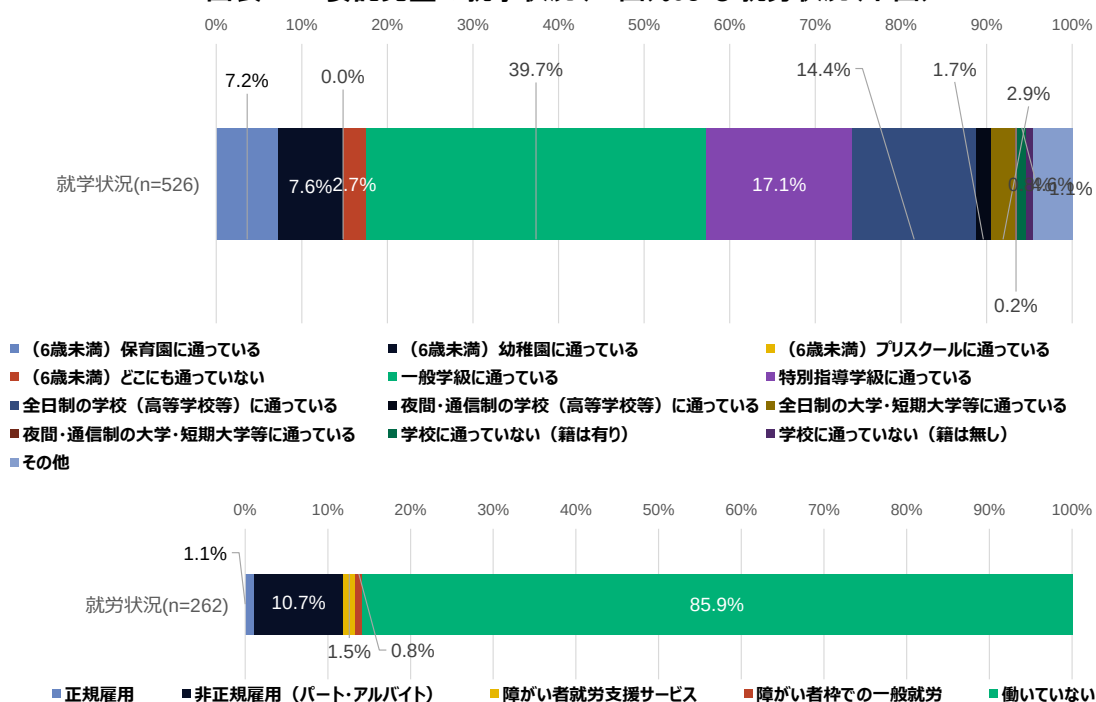
図表 49 委託児童の基本情報



②就学・就労状況

- 就学状況は小中学校の一般学級が 39.7%と最多、次いで全日制の大学・短大、高校等の 17.1%であった。また、就労状況は「働いていない」が 85.9%と最多であった。

図表 50 委託児童の就学状況(上図)および就労状況(下図)



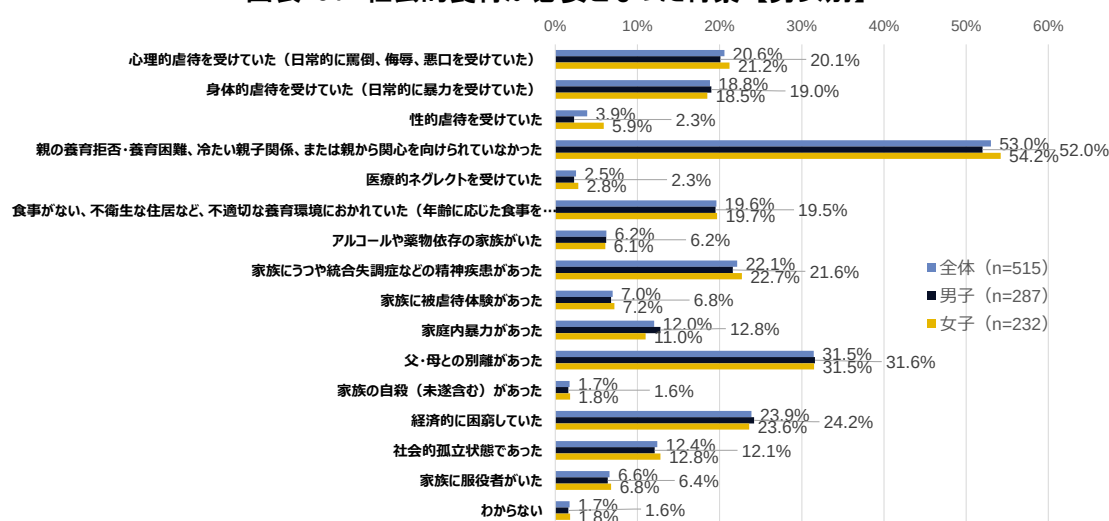
③社会的養育が必要となった背景

- 全体の傾向では、「親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった」が 53.0%と最多、次いで「父・母との別離があった」が 31.5%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女で大きな差は見られなかった。

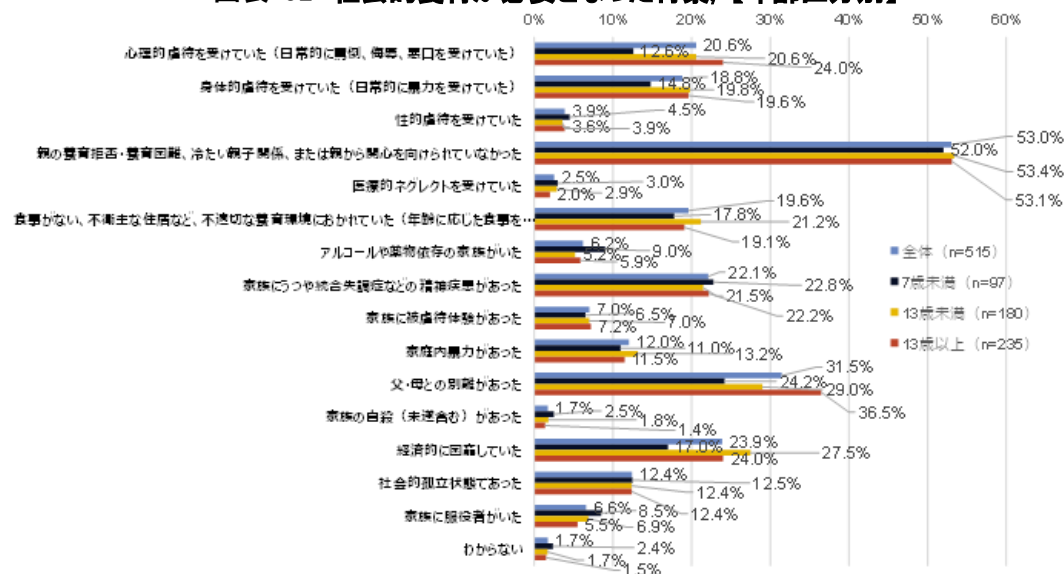
図表 51 社会的養育が必要となった背景【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢区分別において、大きな差は見られなかった。

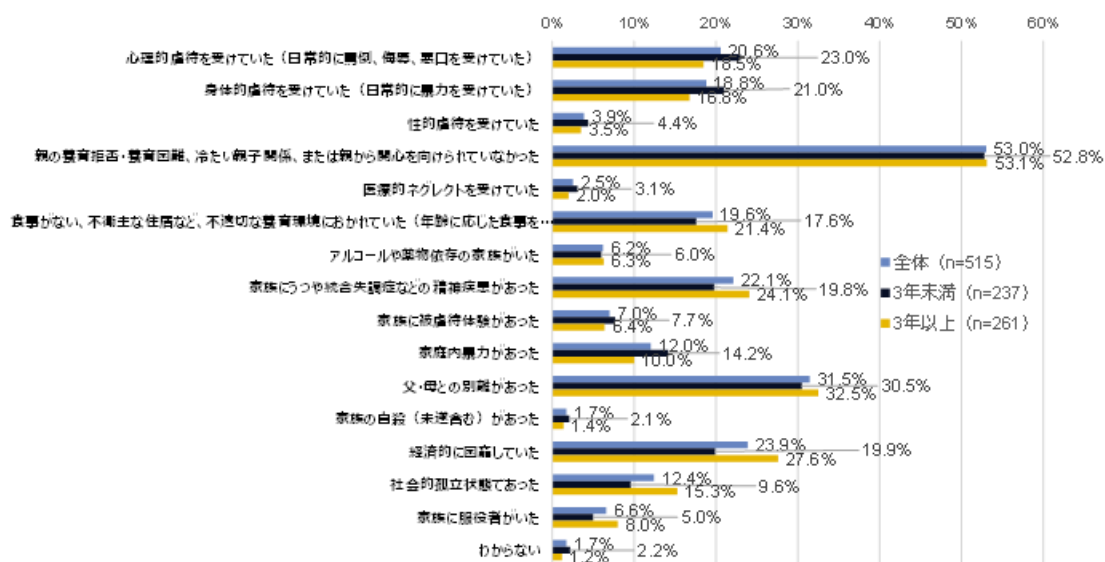
図表 52 社会的養育が必要となった背景【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間別に大きな差は見られなかった。

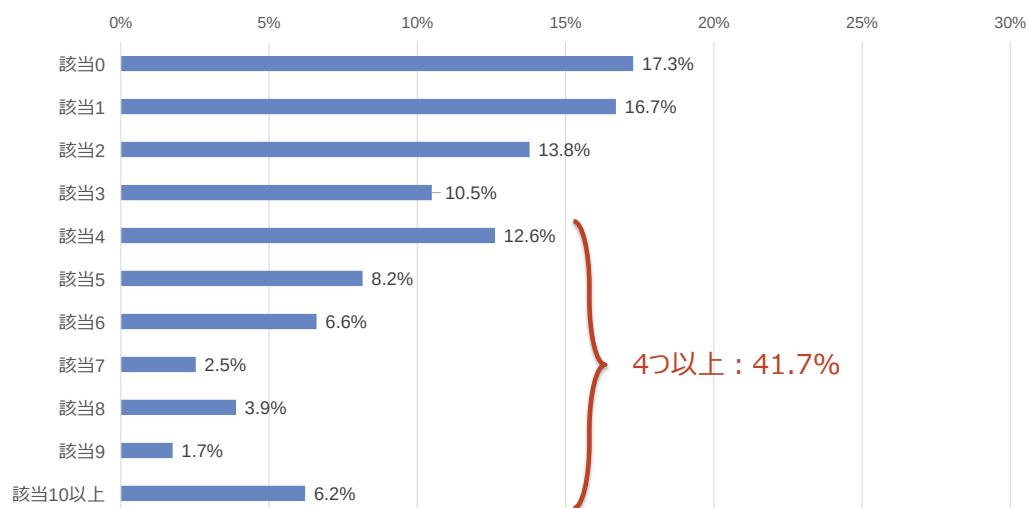
図表 53 社会的養育が必要となった背景【受け入れ期間別】



<該当数の分布>

- 社会的養育が必要となった背景の該当数は 0 が 17.3%であったが、4つ以上の項目で該当する割合も 41.7%であった。

図表 54 社会的養育が必要となった背景の該当数



④養育を行う上で特別な配慮が必要な事項について

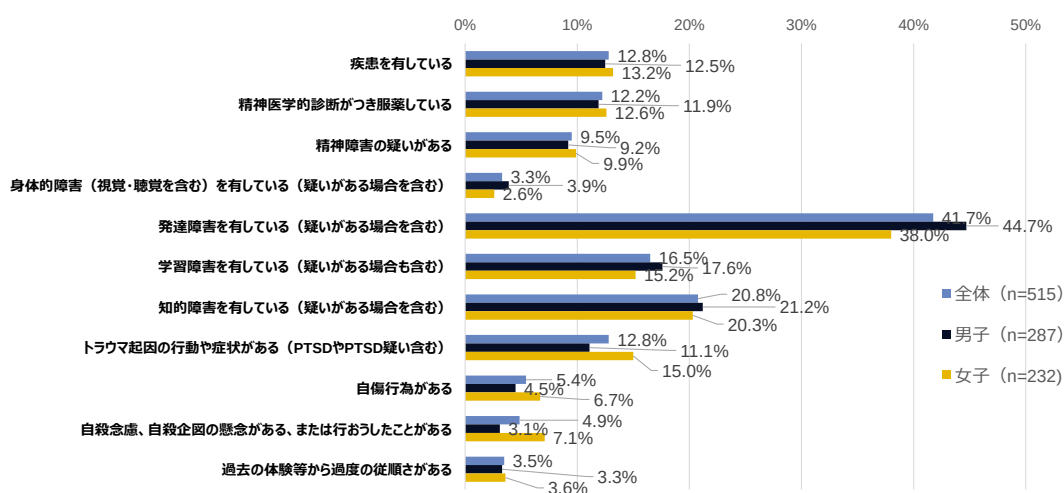
(a) 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮

- 全体の傾向では、「発達障害を有している」が 41.7%と最多、次いで「知的障害を有している」が 20.8%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別で大きな差は見られなかった。

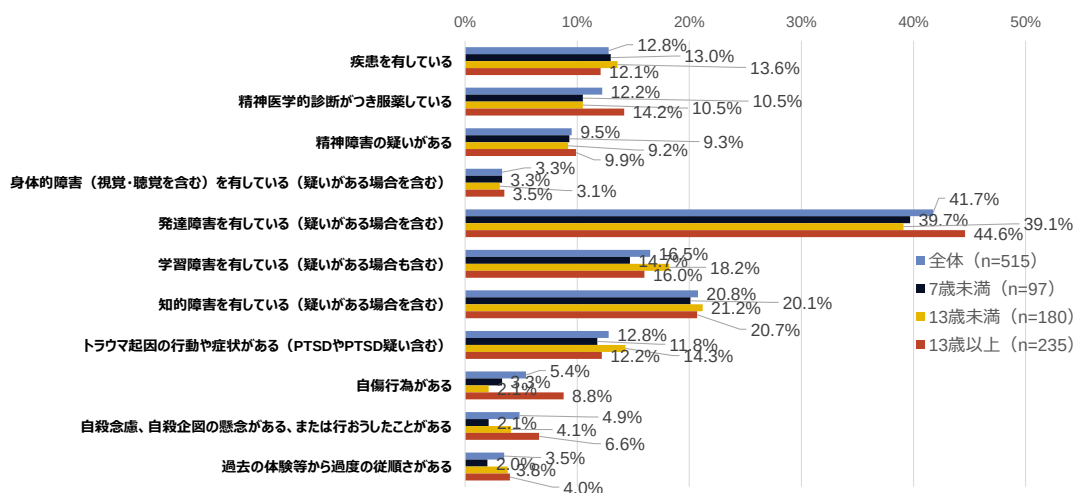
図表 55 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢区分別で大きな差は見られなかった。

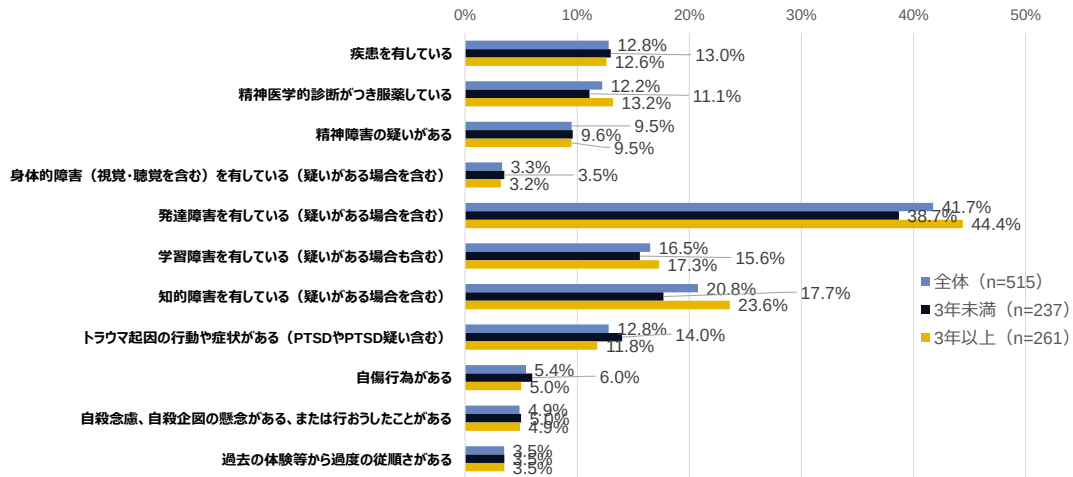
図表 56 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間別に大きな差は見られなかった。

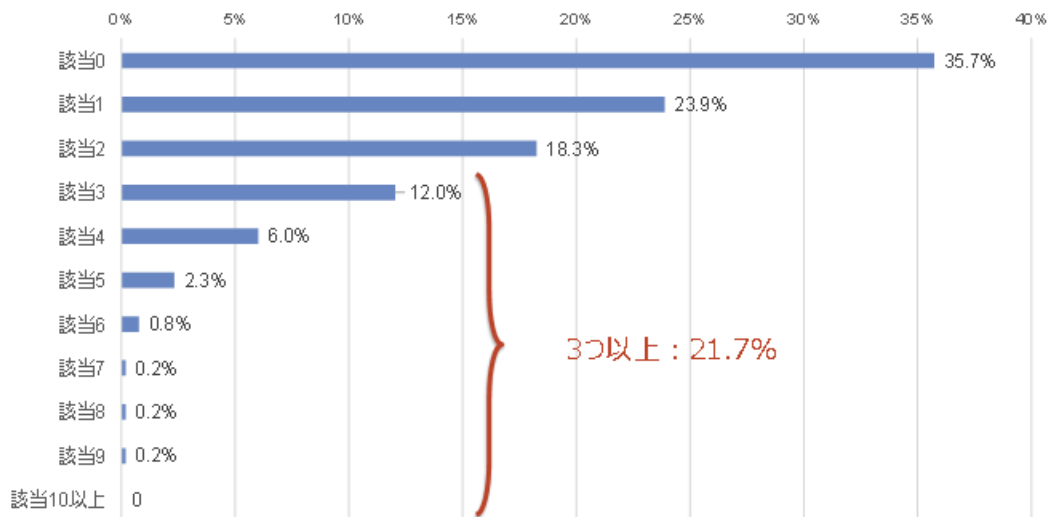
図表 57 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数【11 項目における該当数】>

- 3 つ以上の項目で該当する子どもは全体の 21.7%であった。

図表 58 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数



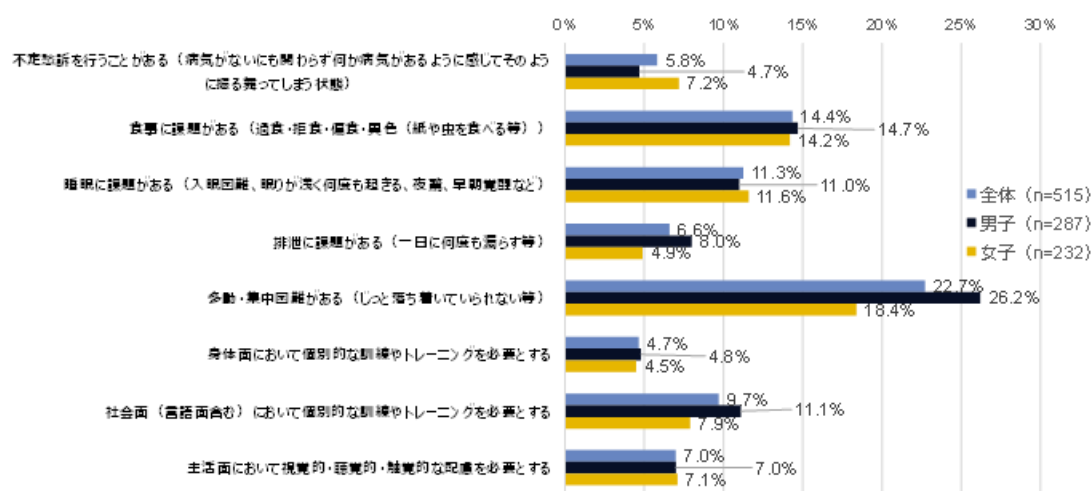
(b) 日常生活における課題等に関する特別な配慮

- 全体の傾向では、「多動・集中困難がある」が 22.7%と最多、次いで「食事に課題がある」が 14.4%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別で大きな差は見られなかった。

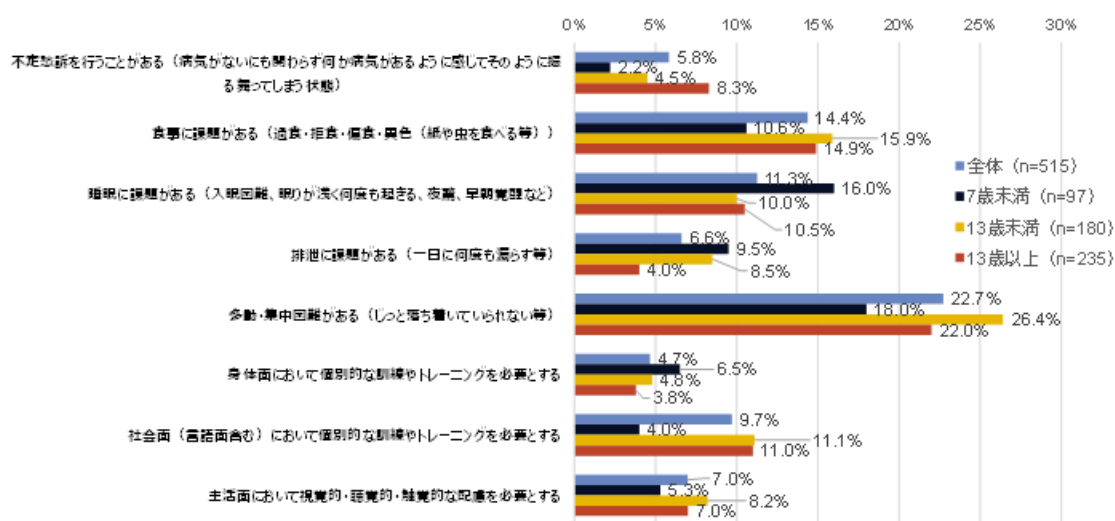
図表 59 日常生活における課題等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢区分別で大きな差は見られなかった。

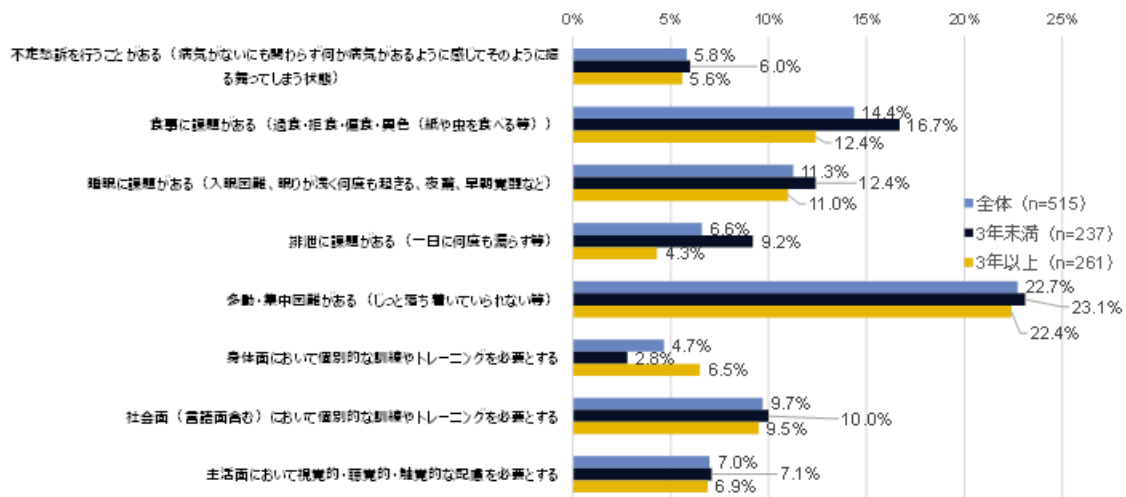
図表 60 日常生活における課題等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間別に大きな差は見られなかった。

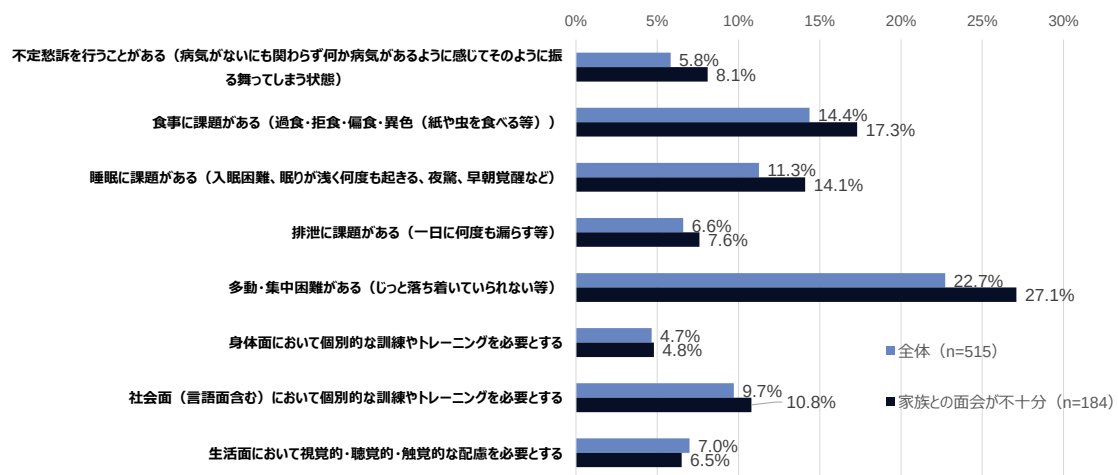
図表 61 日常生活における課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 家族との面会が十分でない場合、日常生活における配慮が必要になる割合が高くなる傾向があった。

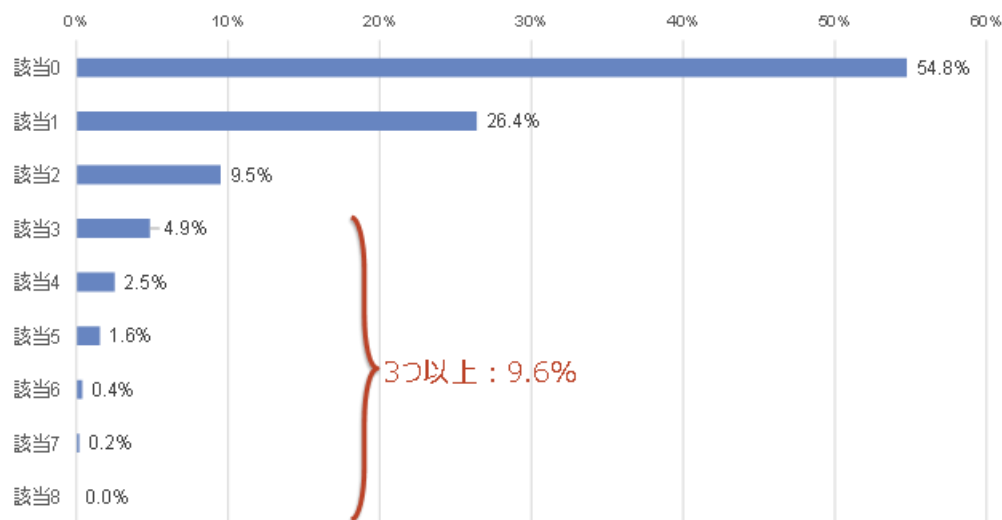
図表 62 日常生活における課題等に関する特別な配慮【家族との面会不十分である場合】



<日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数【8項目における該当数】>

- 日常生活における特別な配慮を必要としない子どもが全体の4.7%を占めていた。

図表 63 日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数



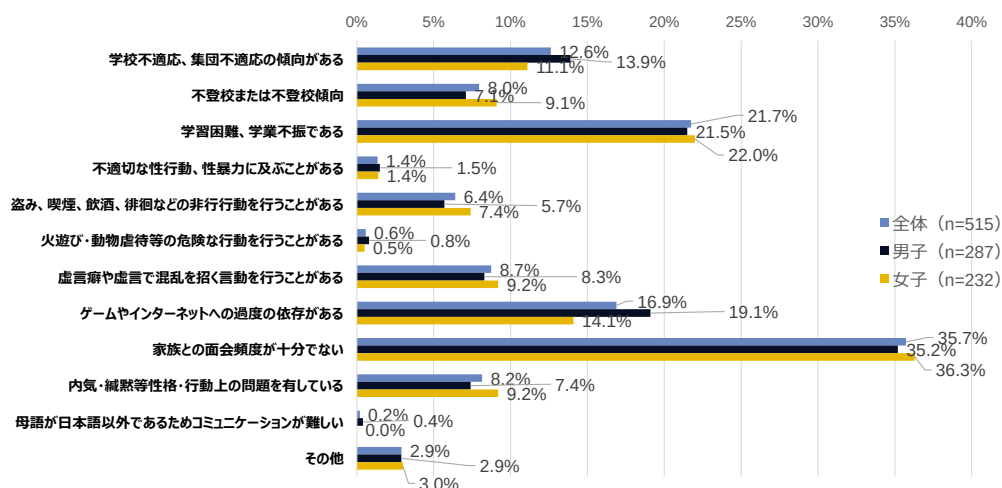
(c) 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮

- 全体の傾向では、「家族との面会頻度が十分でない」が35.7%と最多、次いで「学習困難、学業不振である」が21.7%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別で大きな差は見られなかった。

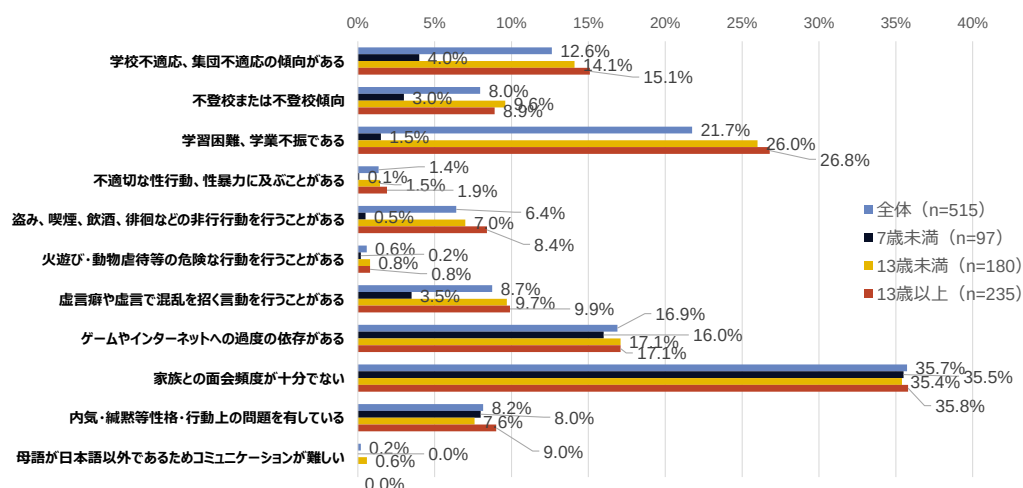
図表 64 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢区分別で大きな差は見られなかった。（7 歳未満の学校関連の課題は参考扱い。）

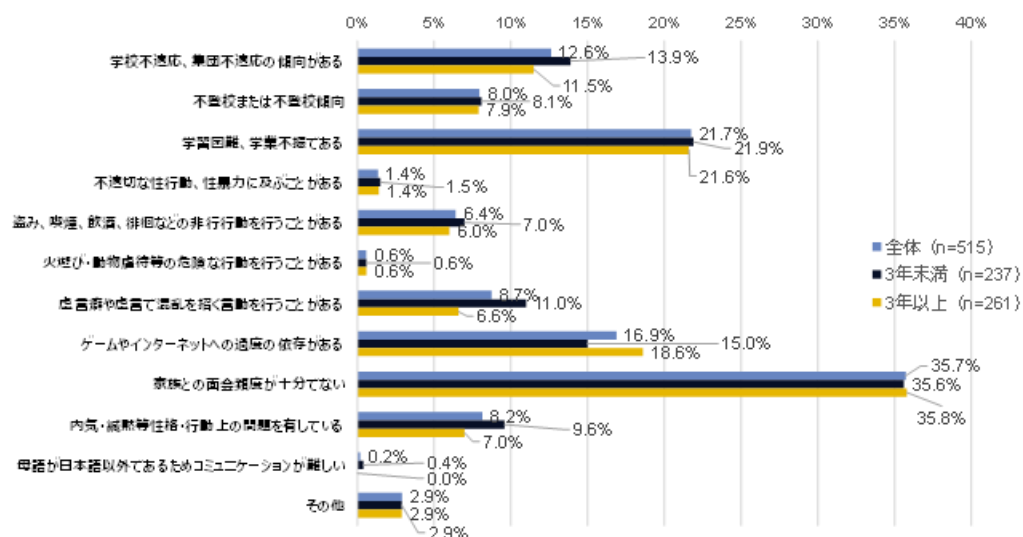
図表 65 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間別に大きな差は見られなかった。

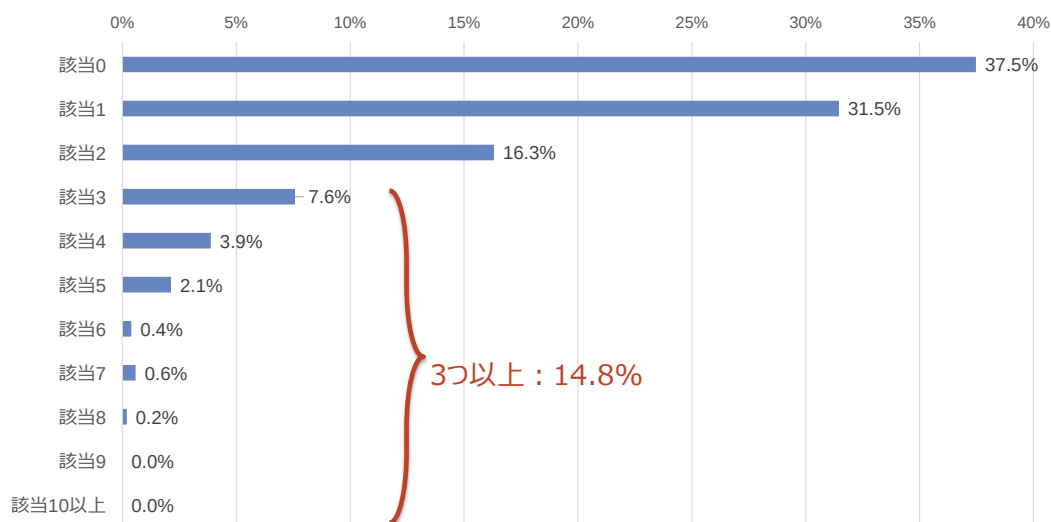
図表 66 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



< 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数【12 項目の該当数】 >

➤ 3 つ以上の項目で該当するのは、全体の 14.8%であった。

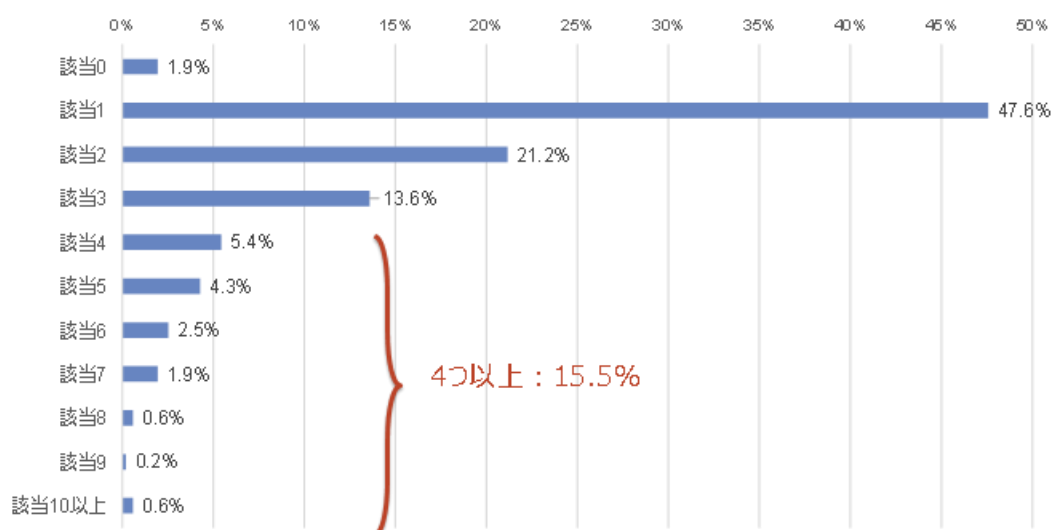
図表 67 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数



(d) 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数【全 31 項目における該当数】

- 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数は 1 が 47.6%と最多であったが、4 つ以上の項目で該当する子どもは全体の 15.5%であった。

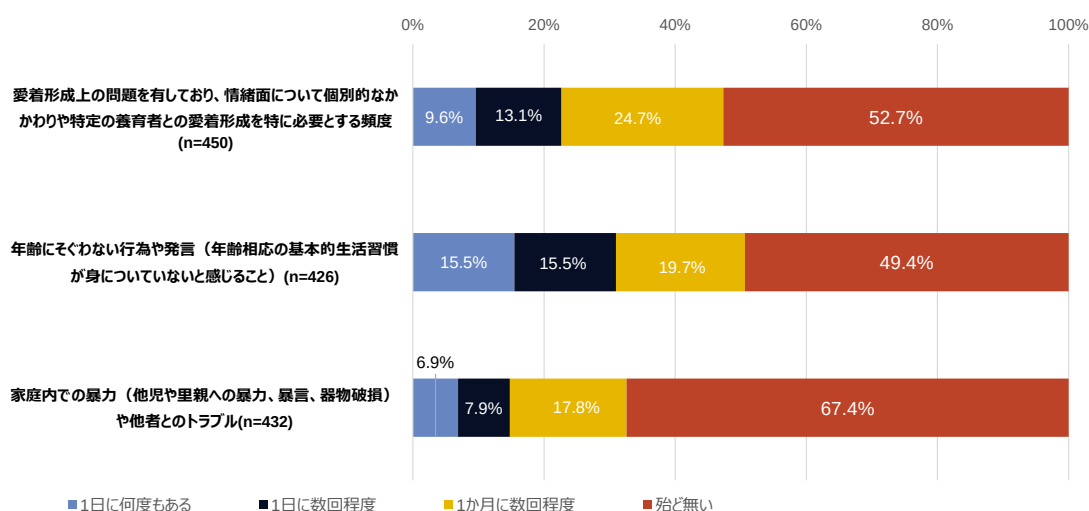
図表 68 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数



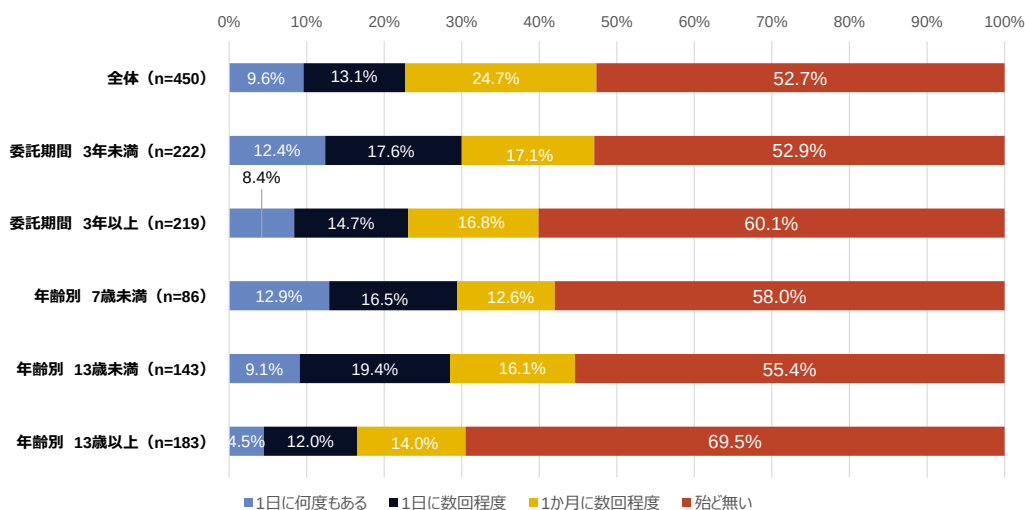
⑤特定の行動・事象の発生頻度

- 1日に数回以上ある割合（「1日に何度もある」と「1日に数回程度」の合計）は愛着形成が22.7%、年齢にそぐわない行為や発言が31.0%、施設内での暴力や他者とのトラブルが14.6%であった。
- 委託期間が3年未満の子どもにおいては、年齢にそぐわない行為や行動が起こる頻度が高かった。
- 暴力行為の発生頻度については、年齢・委託期間で大きな差は見られなかった。

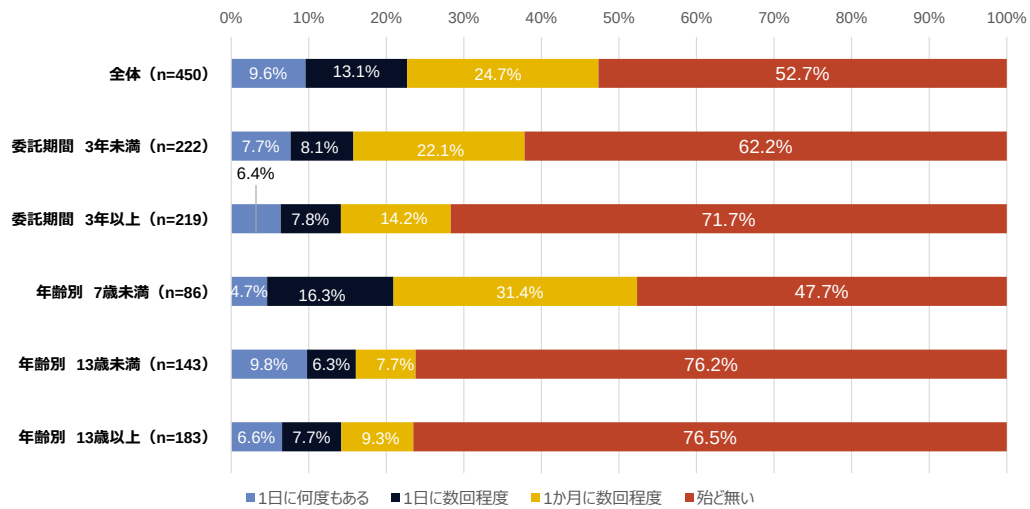
図表 69 特定の事象の発生頻度



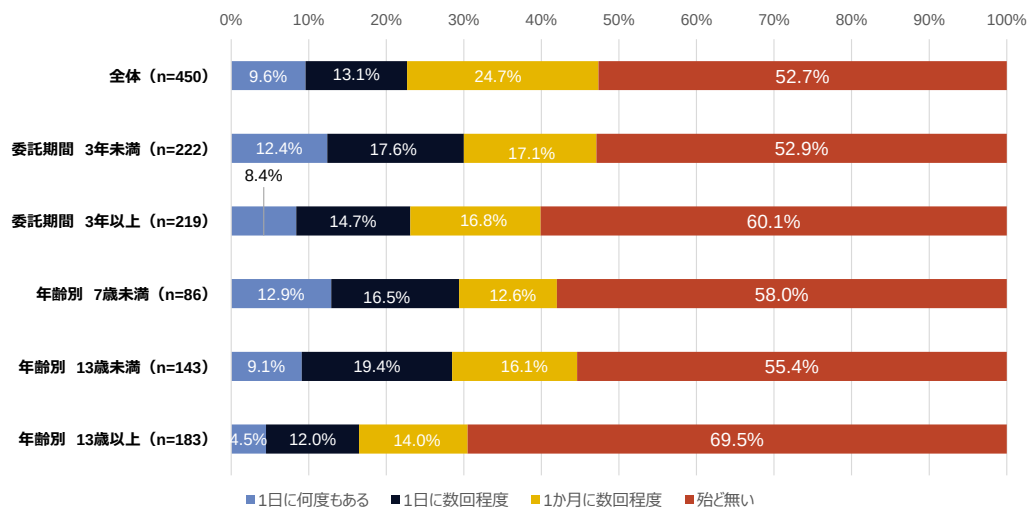
図表 70 愛着形成上の問題に起因する関わりの発生頻度



図表 71 年齢にそぐわない発言や行動を起こす頻度

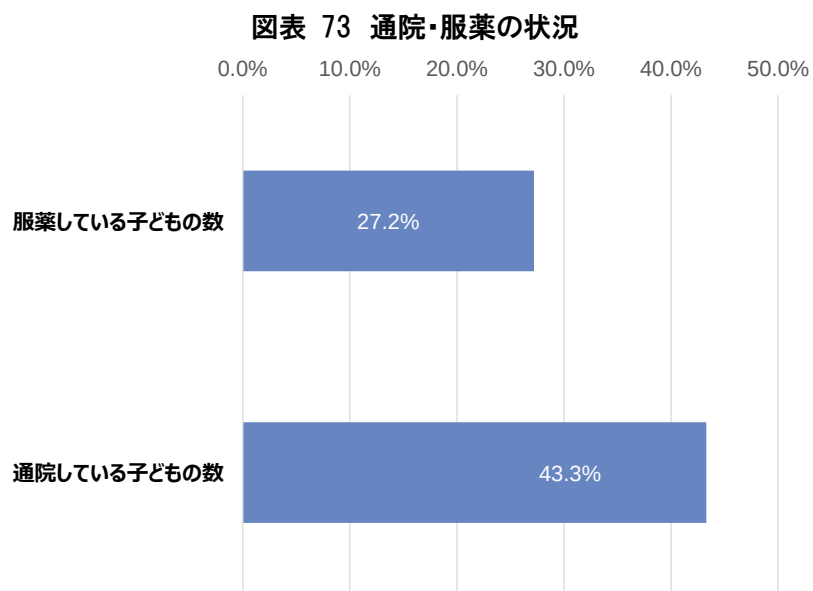


図表 72 家庭内で暴力行為に及ぶ頻度



⑥通院・服薬の利用状況

- 通院している子どもは全体の 43.3%であった。



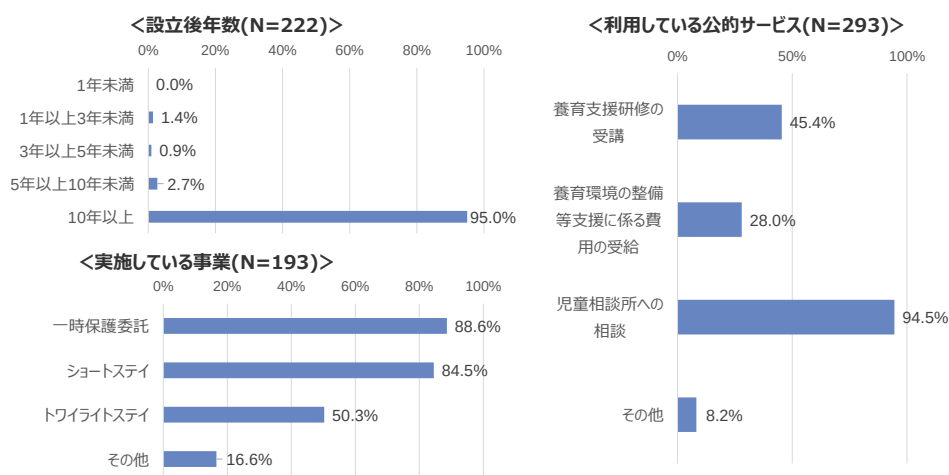
(3)児童養護施設の結果

ア)基礎情報

①基本情報

- 設立年数は、設立後 10 年以上の施設が 95.0%と最多であった。
- 実施事業は、一時保護委託が 88.6%、ショートステイが 84.5%であった。
- 利用している公的サービスは、「児童相談所への相談」が 94.5%と最多、次いで「養育支援研修の受講」が 45.4%であった。

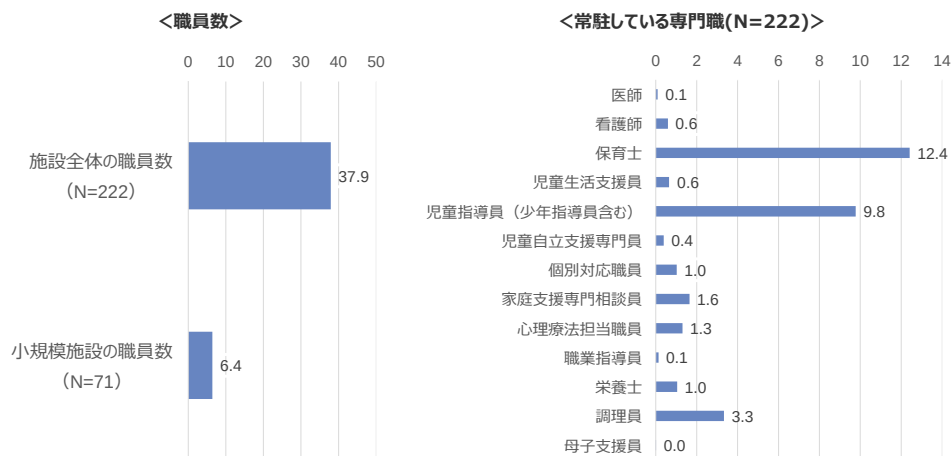
図表 74 施設の基本情報



②職員の状況

- 職員数は全体では平均で 37.9 人、小規模施設では 6.4 人であった。
- 専門職は保育士が 12.4 人と最多、次いで児童指導員（少年指導員含む）が 9.8 人であった。個別対応職員、家庭支援専門相談員、心理療法担当職員、栄養士、調理員も平均 1 人以上であった。

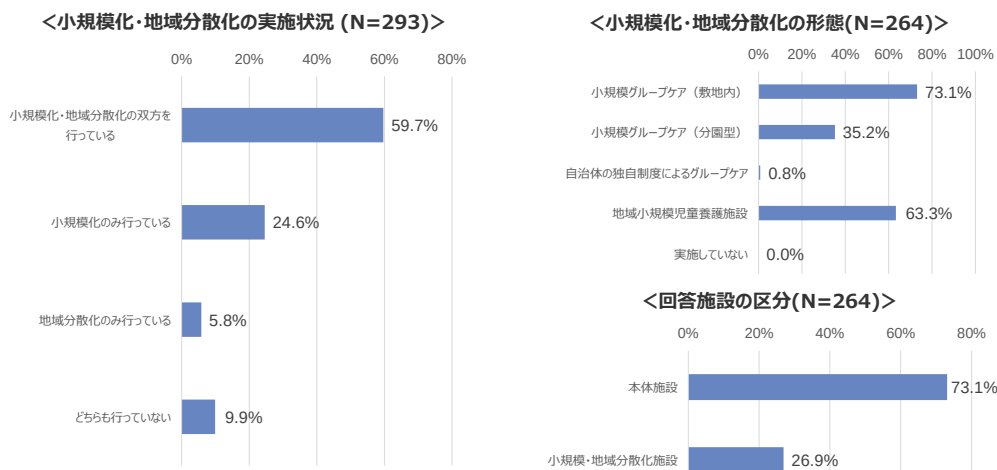
図表 75 施設の職員、専門職の状況



③小規模化・地域分散化の状況

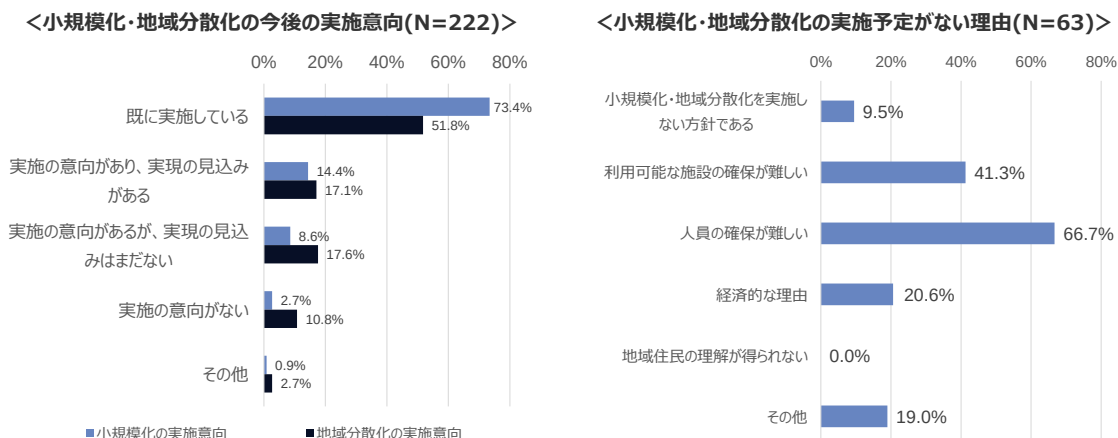
- 小規模化・地域分散化の双方を行っている施設が 59.7%と最多、次いで小規模化のみを行っている施設が 24.6%であった。実施形態は小規模グループケア（敷地内）が 73.1%と最多、地域小規模児童養護施設が 63.3%であった。
- 回答した施設は本体施設が 73.1%、小規模・地域分散化施設が 26.9%であった。

図表 76 小規模化・地域分散化の実施状況・形態等



- 小規模化の実施意向は「実施の意向があり、実現の見込みがある」施設は 14.4%、「実施の意向があるが、実現の見込みはまだない」施設は 8.6%であった（実施済みの施設が 73.4%と最多）。地域分散化の実施意向は「実施の意向があり、実現の見込みがある」施設は 17.1%、「実施の意向があるが、実現の見込みはまだない」施設は 17.6%であった（実施済みの施設が 51.8%と最多）。
- 一方、実施の意向がない施設は小規模化が 0.9%、地域分散化が 2.7%であり、その理由は「人員の確保が難しい」が 66.7%と最多、次いで「利用可能な施設の確保が難しい」が 41.3%であった。

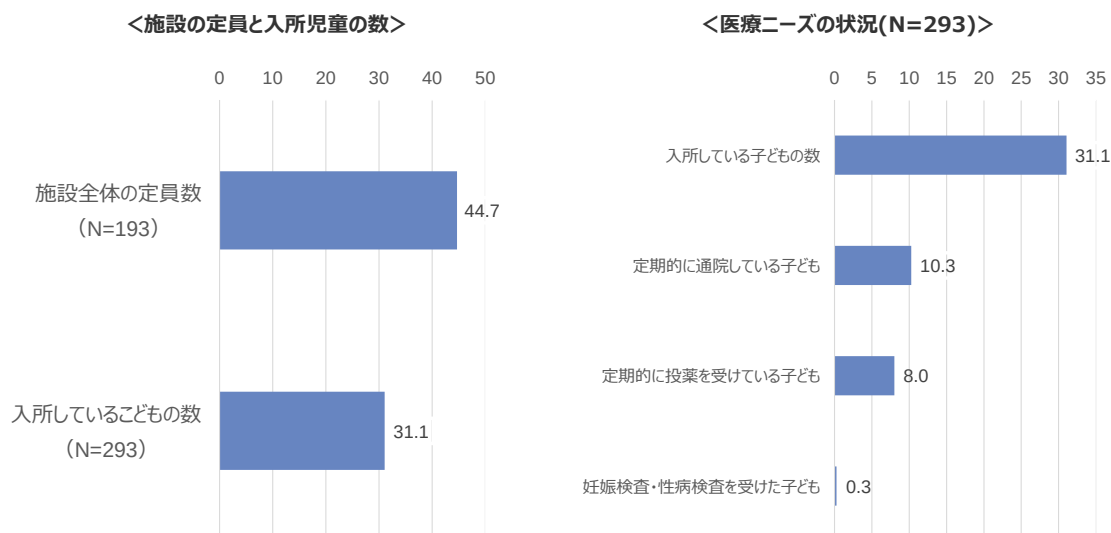
図表 77 小規模化・地域分散化の実施意向



④入所児童の状況

- 定員 44.7 人に対して、入所している児童は 31.1 人であった。
- そのうち、定期的に通院している子ども、投薬している子どもが 10.3 人、8.0 人であり、入所児童の 33.1%、25.7%を占めていた。

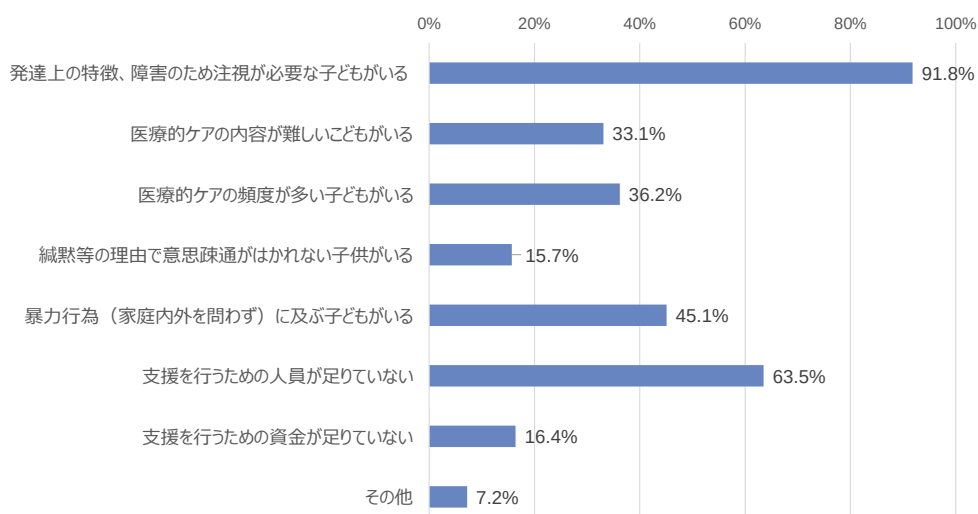
図表 78 施設の定員・入所児童の状況



⑤現在子どもの支援を行う上で苦勞していること

- 「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」が 91.8%と最多、次いで「支援を行うための人員が足りていない」が 63.5%であった。

図表 79 現在子どもの支援を行う上で苦勞していること (N=293)

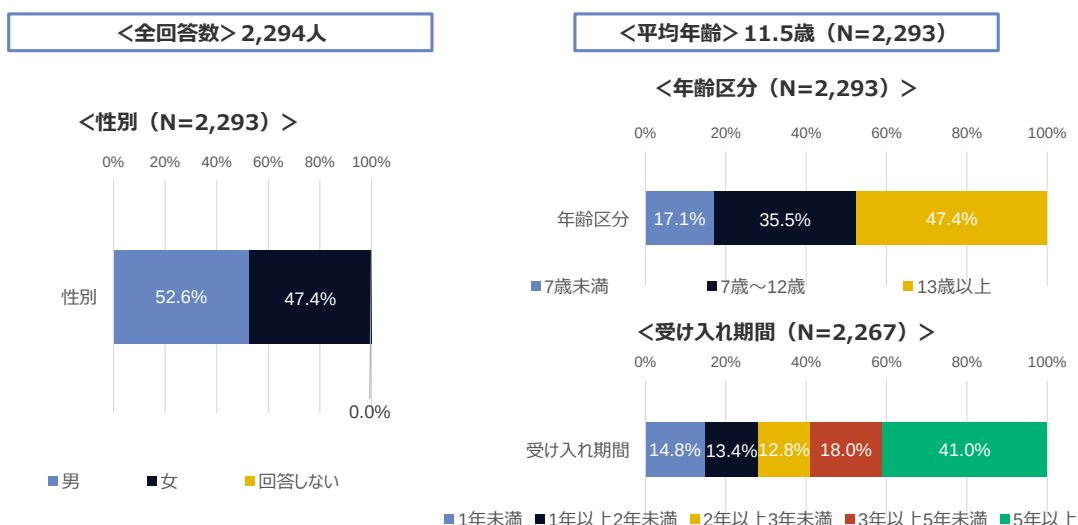


イ)入所児童の状況

①入所児童の基本情報

- 入所児童の個票について 2,294 人分の回答があり、平均年齢は 11.5 歳、13 歳以上が 47.4%と最多であった。
- 性別は男 52.6%、女 47.4%、受け入れ期間は 5 年以上が 41.0%と最多、次いで 3 年以上 5 年未満が 18.0%であった。

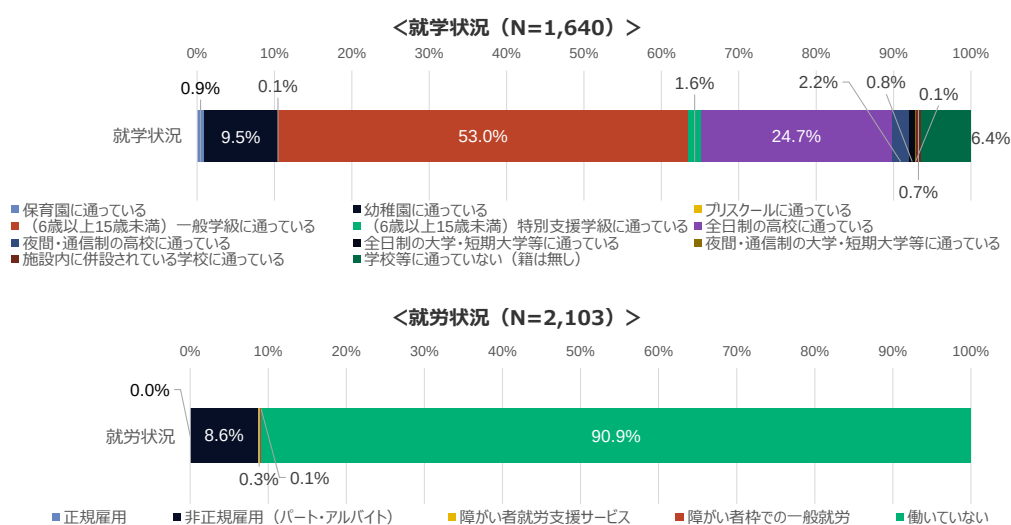
図表 80 入所児童の基本情報



②就学・就労状況

- 就学状況は一般学級が 53.0%と最多、次いで全日制の高校が 24.7%であった。なお、学校等に通っていない（籍なし）も 6.4%あった。
- 就労状況は「働いていない」が 90.9%と最多、次いで非正規雇用（パート・アルバイト等）が 8.6%であった。

図表 81 就学・就労の状況



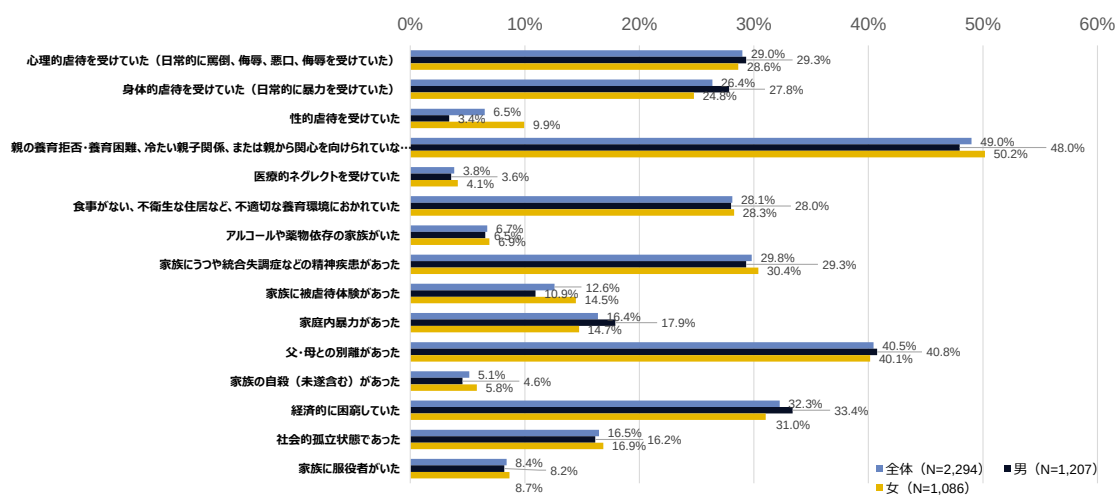
③社会的養育が必要となった背景

- 全体では、「親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった」が49.0%と最多、次いで「父・母との別離があった」が40.5%であった。また、「心理的虐待を受けていた」「身体的虐待を受けていた」「食事が無い、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた」「家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった」「経済的に困窮していた」もそれぞれ30%前後が該当していた。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別での大きな傾向の違いは見られなかった。

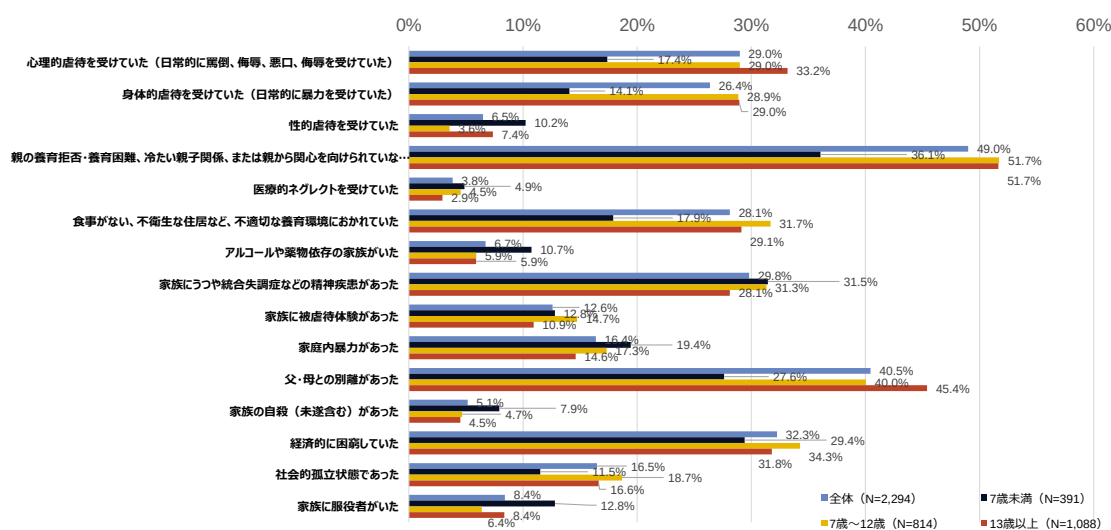
図表 82 社会的養育が必要となった背景【男女別】



<年齢区分別>

- 「親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった」、「食事がない、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた」、「父・母との別離があった」においてが7歳～12歳、13歳以上の方が7歳未満よりも10ポイント以上高かった。

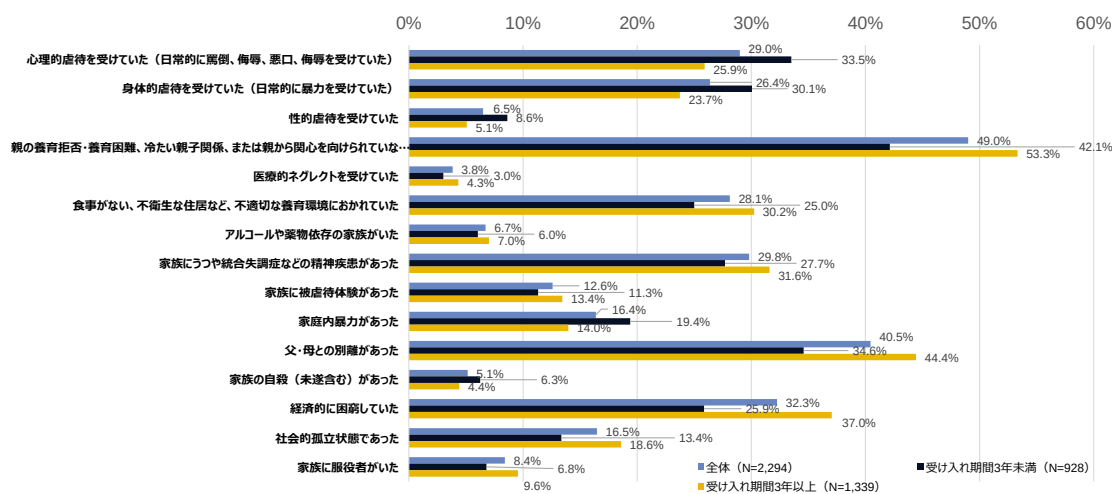
図表 83 社会的養育が必要となった背景【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 「親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった」「経済的に困窮していた」において受け入れ期間が長い方が該当する割合が10ポイント以上高かった。

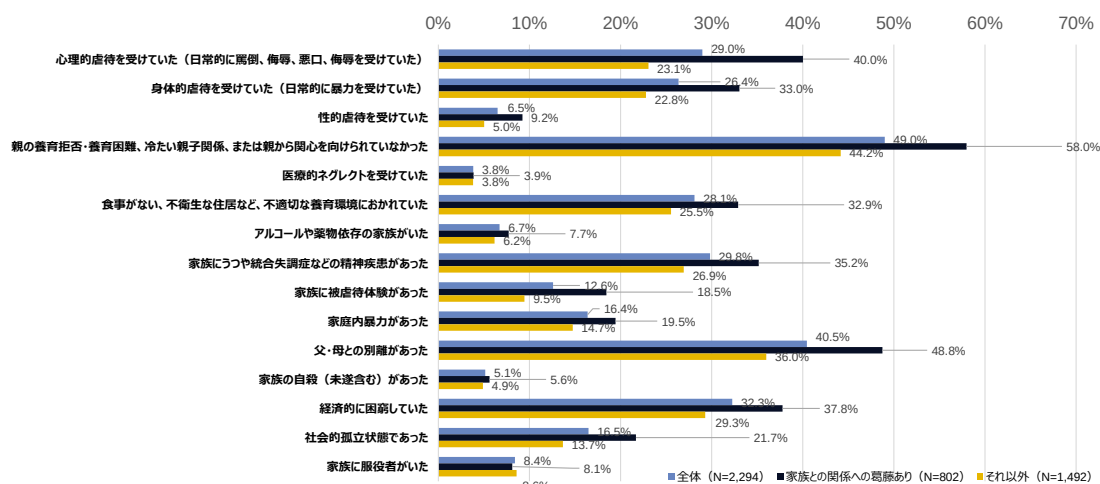
図表 84 社会的養育が必要となった背景【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 全般的に家族との関係に葛藤を抱えている方が該当する割合が高い傾向であり、特に「心理的虐待を受けていた」、「身体的虐待を受けていた」、「父・母との別離があった」において 10 ポイント以上の差があった。

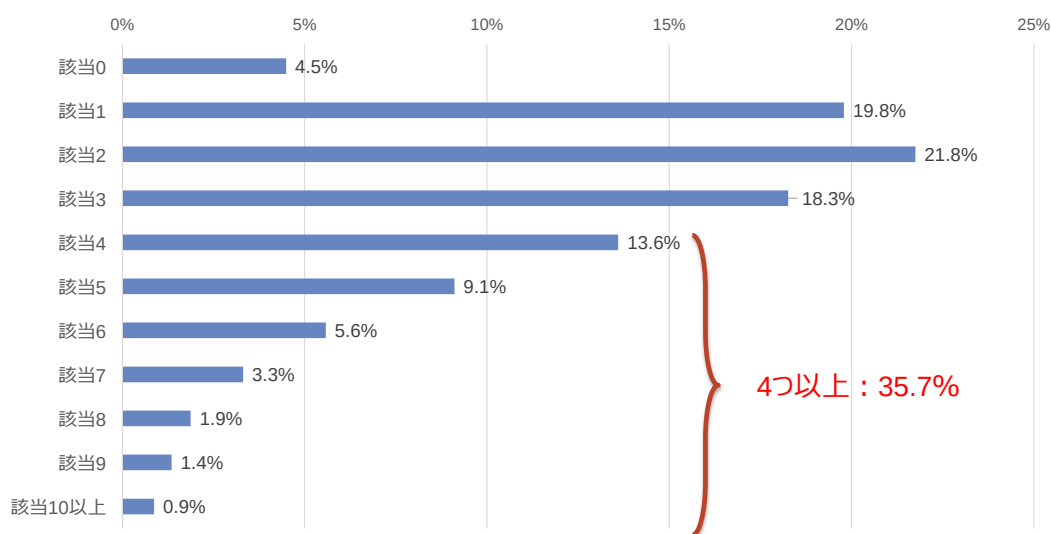
図表 85 社会的養育が必要となった背景【家族との関係への葛藤別】



<該当数の分布>

- 社会的養育を必要とした背景に該当する数は 2 つの割合が 21.8%と最多であった。また、4 つ以上該当する割合は 35.7%であった。

図表 86 社会的養育が必要となった背景の該当数（N=2, 294）



④養育を行う上で特別な配慮が必要な事項について

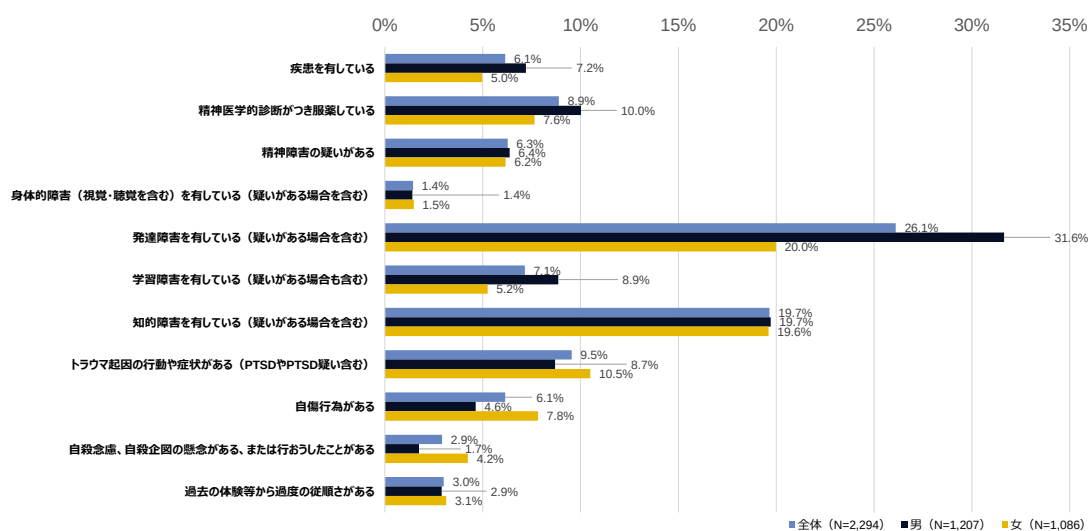
(a) 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮

- 全体では、「発達障害を有している」が 26.1%と最多、次いで「知的障害を有している」が 19.7%であった。また、「トラウマ起因の行動や症状がある」は 9.5%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別では発達障害において男子の方が 10 ポイント以上高かった。

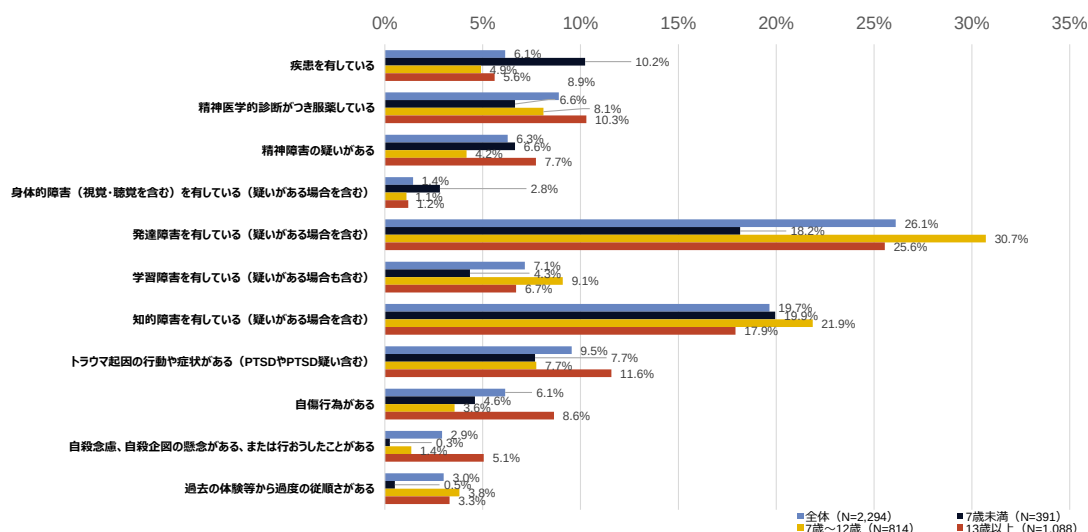
図表 87 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 「発達障害を有している」において、7歳～12歳において7歳未満よりも10ポイント以上高かった。

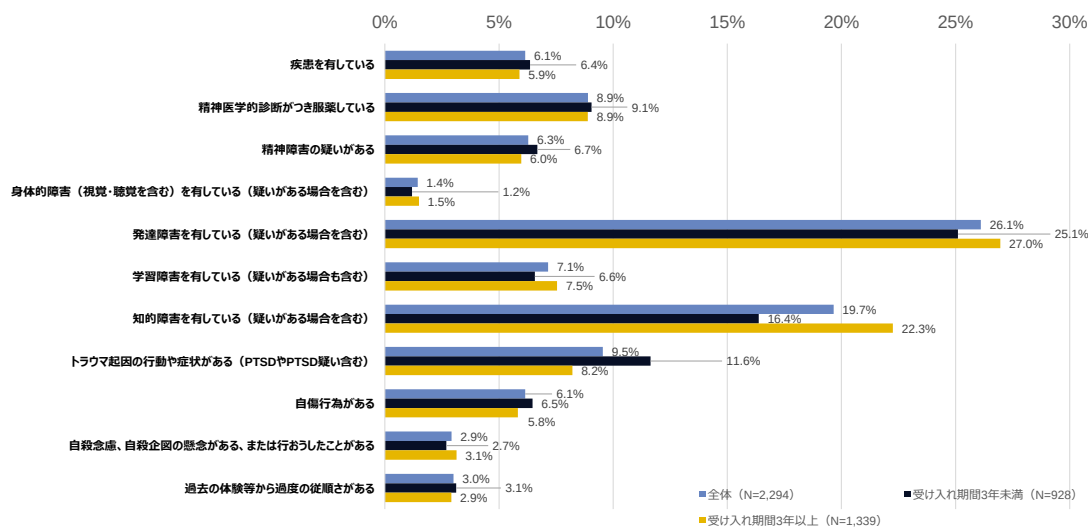
図表 88 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間による大きな傾向の違いは見られなかった。

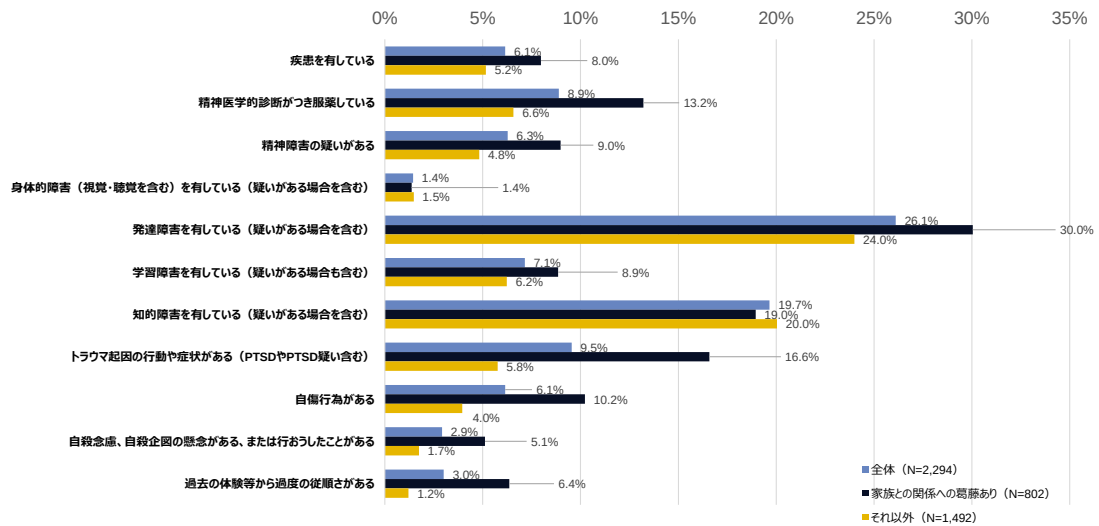
図表 89 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



＜家族との関係への葛藤別＞

- 全般的に家族との関係に葛藤を抱えている方が該当する割合が高い傾向であり、特に「トラウマ起因の行動や症状がある」において差が 10 ポイント以上であった。

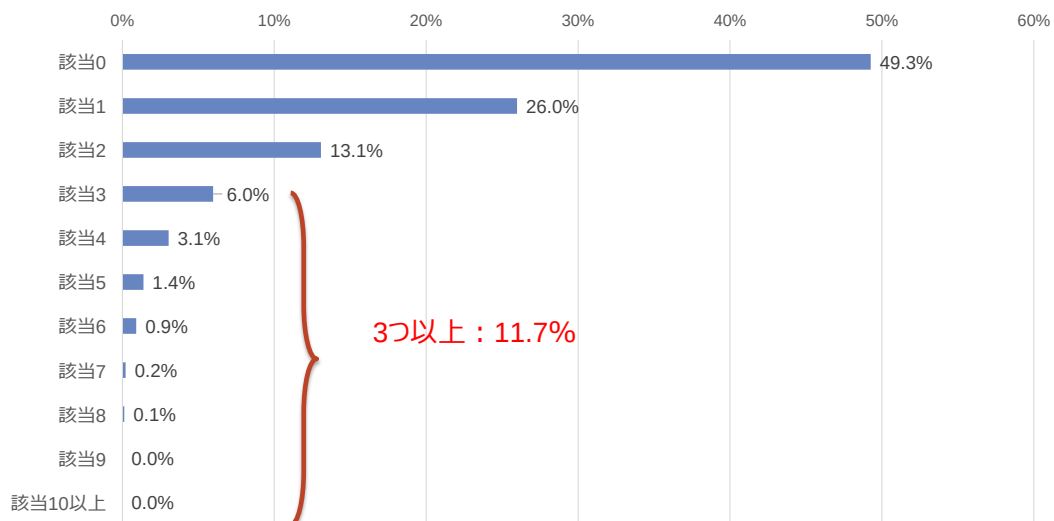
図表 90 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【家族との関係への葛藤別】



＜疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数【11 項目における該当数】＞

- 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数は、0 の割合が 49.3%と最多、次いで 1 つが 26.0%であった。一方、3 つ以上該当する割合も 11.7%であった。

図表 91 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数 (N=2, 294)



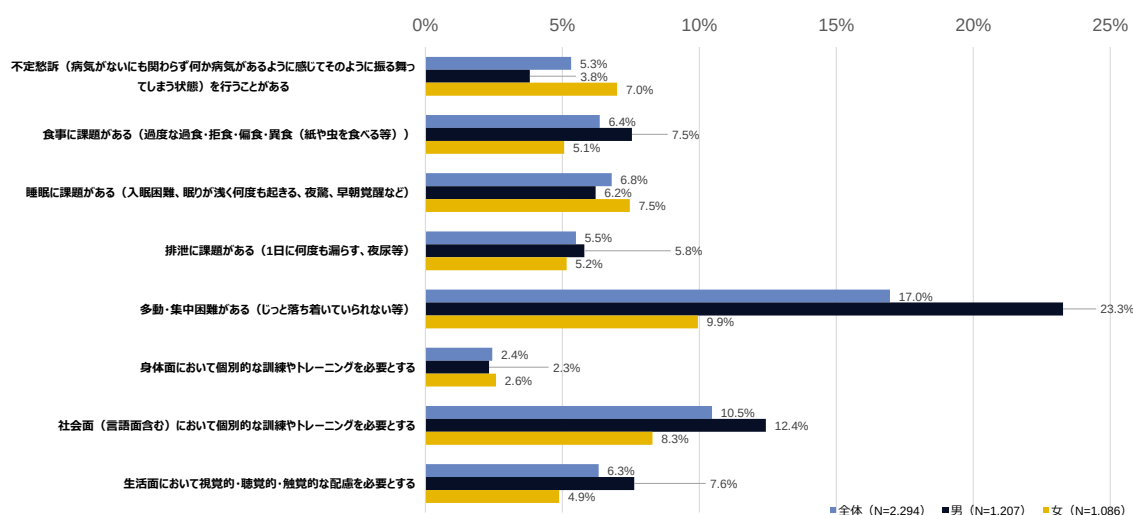
(b) 日常生活における課題等に関する特別な配慮

- 全体では「多動・集中困難がある」が 17.0%と最多、次いで「社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする」が 10.5%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別では、「多動・集中困難がある」において、男子の方が 10 ポイント以上高かった。

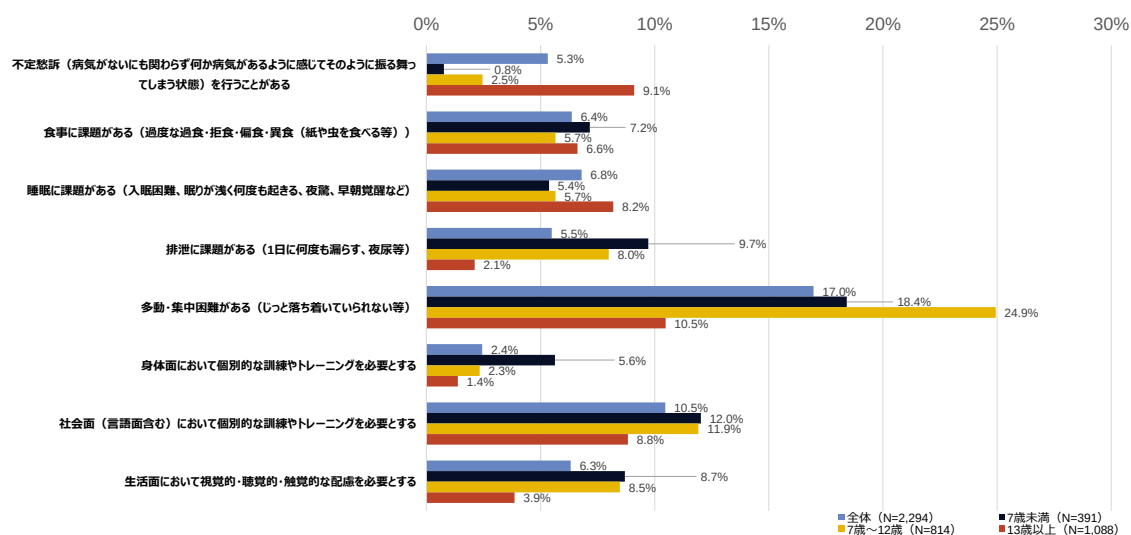
図表 92 日常生活における課題等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 「多動・集中困難」で7歳～12歳が13歳以上よりも10ポイント以上高かった。また、10ポイント未満であるが「不定愁訴」において13歳以上の割合が他区分よりも高い傾向であった。

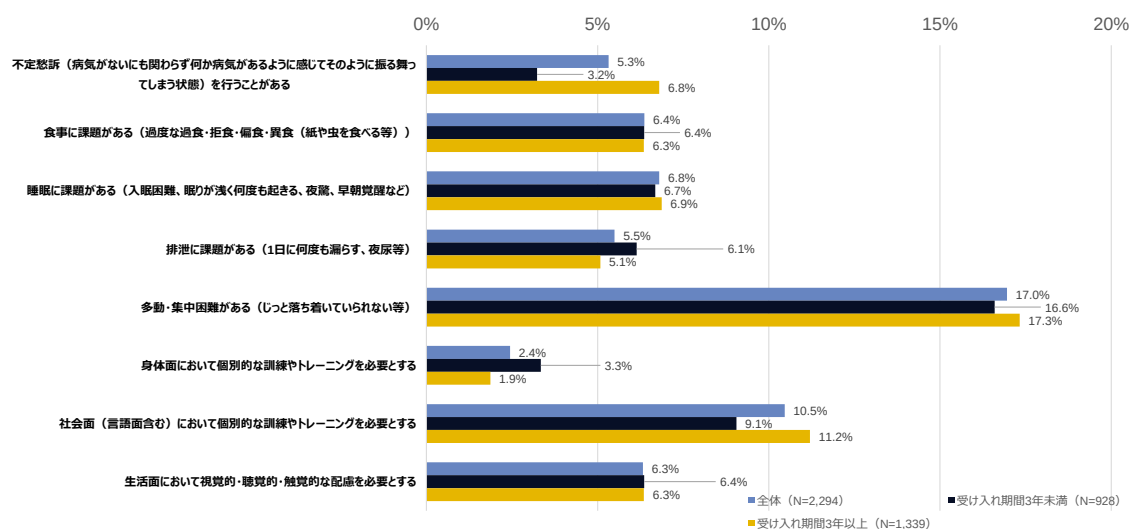
図表 93 日常生活における課題等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間による大きな傾向の違いは見られなかった。

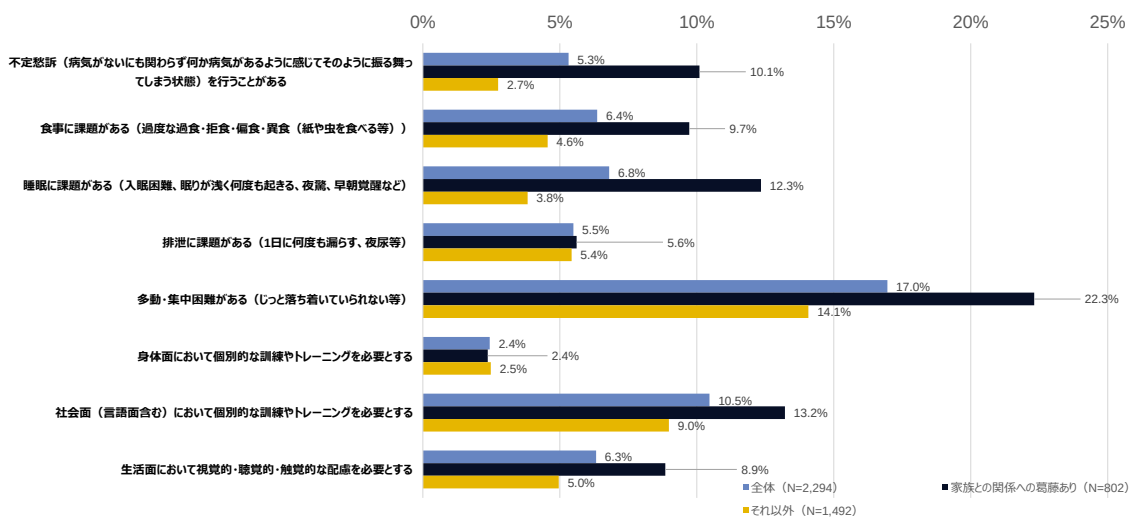
図表 94 日常生活における課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 10 ポイント未満の差であるが、全般的に家族との関係に葛藤を抱えている方が該当する割合が高い傾向であった。

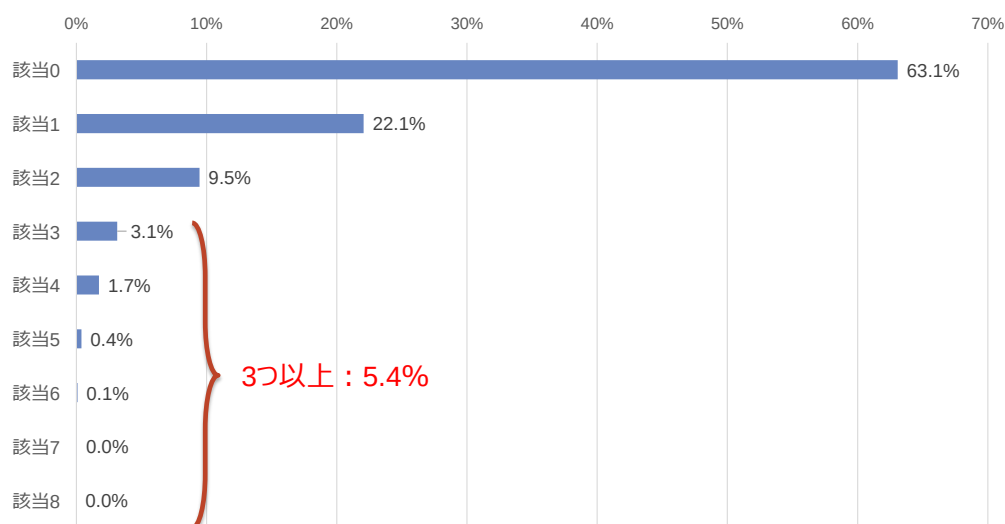
図表 95 日常生活における課題等に関する特別な配慮【家族との関係への葛藤別】



<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数【8 項目における該当数】>

- 日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数は、0 の割合が 63.1%と最多、次いで 1 つが 22.1%であった。

図表 96 日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数 (N=2, 294)



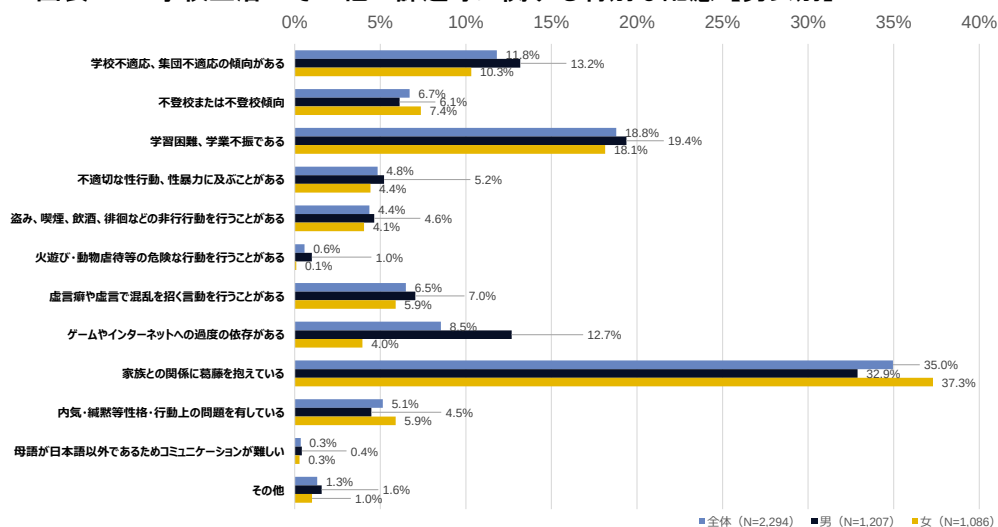
(c) 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮

- 全体では「家族との関係に葛藤を抱えている」が 35.0%と最多、次いで「学習困難、学業不振である」が 18.8%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別での大きな傾向の違いは見られなかった。

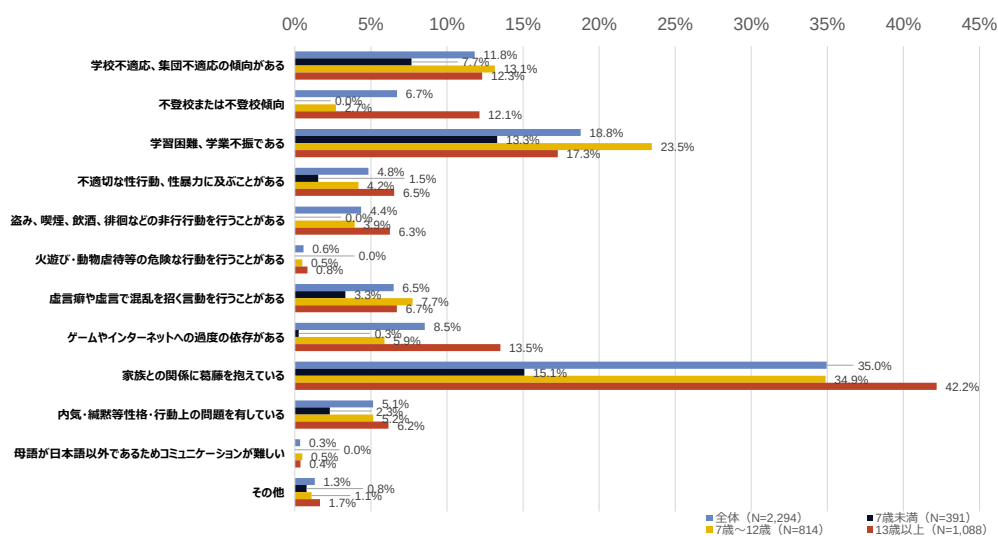
図表 97 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 全般的に 7 歳～12 歳、13 歳以上の方が該当する割合が高い傾向であり、特に「家族との関係に葛藤を抱えている」において差が大きかった。

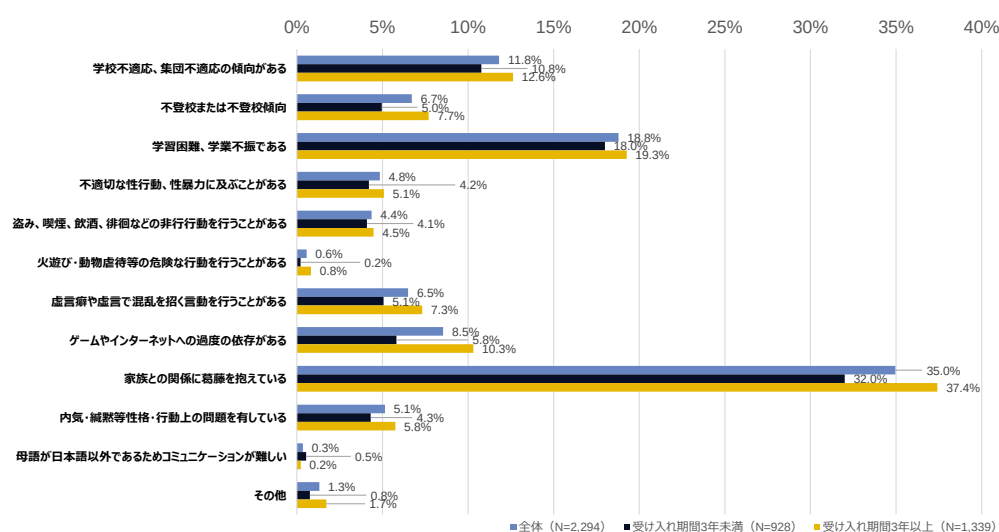
図表 98 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間による大きな傾向の違いは見られなかった。なお、10 ポイント未満であるが、「家族との関係に葛藤を抱えている」において受け入れ期間が3年以上の方が該当する割合が高かった。

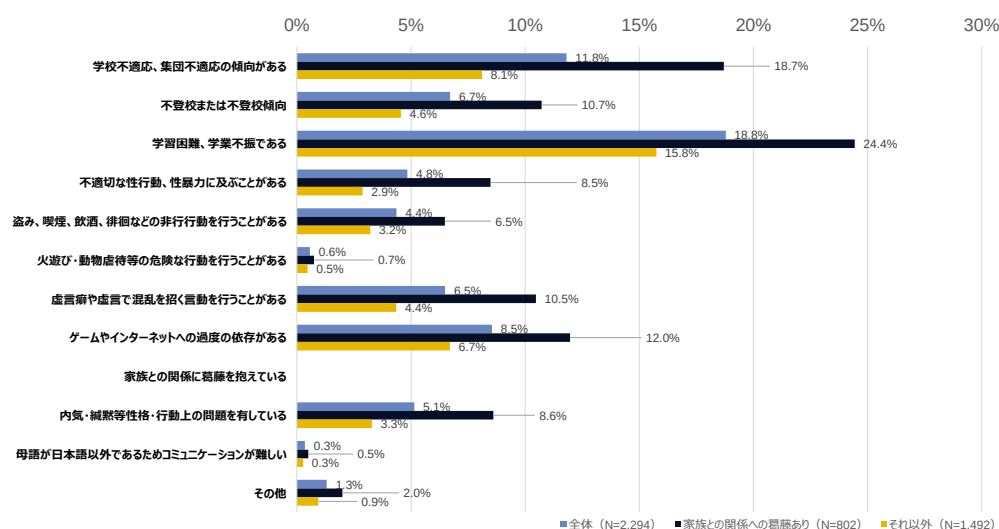
図表 99 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 全般的に家族との関係に葛藤を抱えている方が該当する割合が高く、「学習困難、学業不振である」において差が10ポイント以上であった。

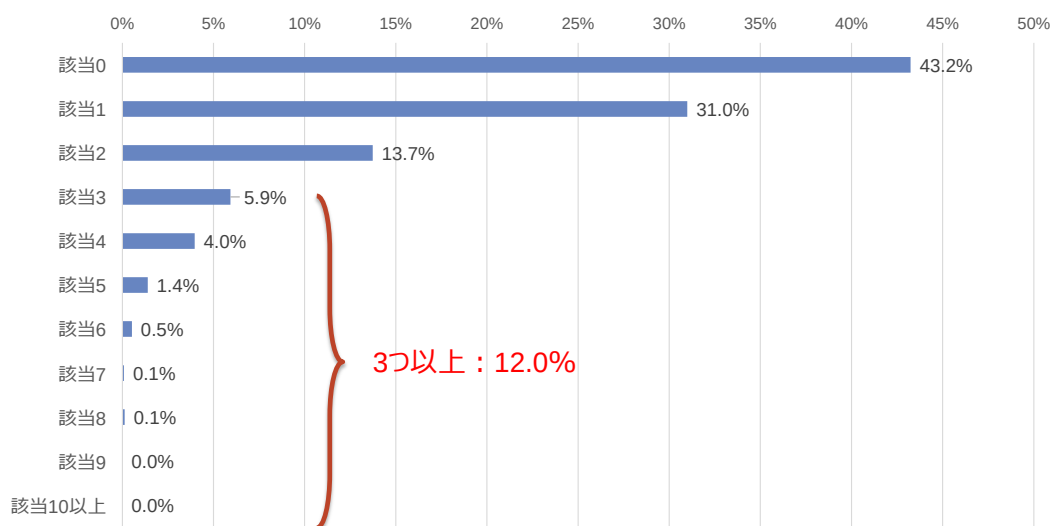
図表 100 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【家族との関係への葛藤別】



<学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数【12 項目の該当数】>

- 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数は、0 の割合が 43.2% と最多、次いで 1 つが 31.0% であった。一方、3 つ以上該当する割合も 12.0% であった。

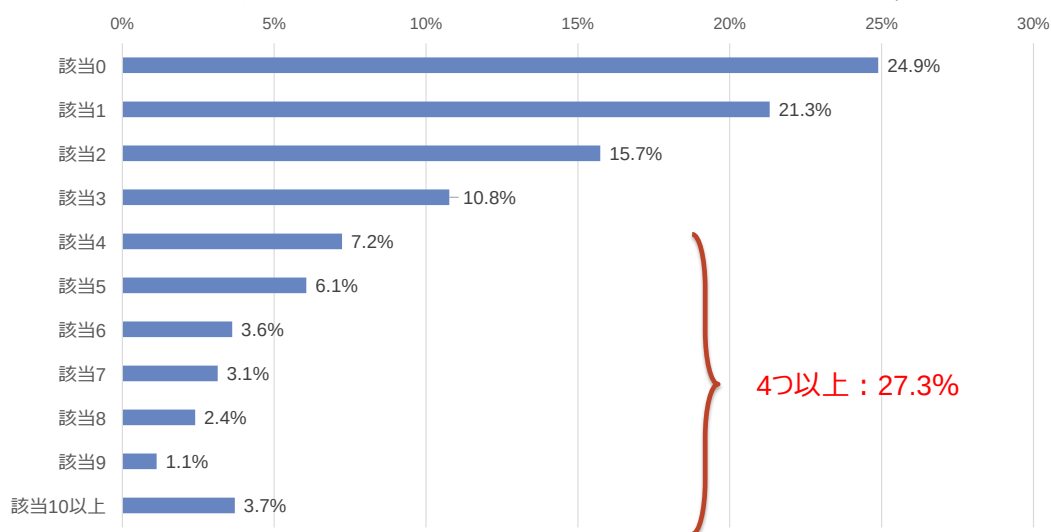
図表 101 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数 (N=2, 294)



(d) 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数【全 31 項目における該当数】

- 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項は 0 の割合が 24.9% と最多、次いで 1 つが 21.3% であった。一方、4 つ以上該当する割合も 27.3% であった。

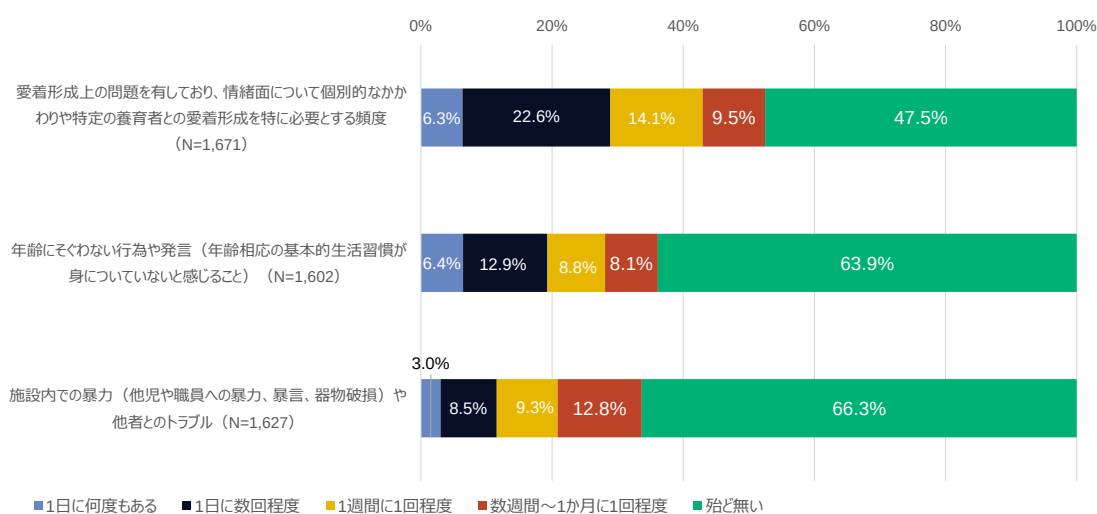
図表 102 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数 (N=2, 294)



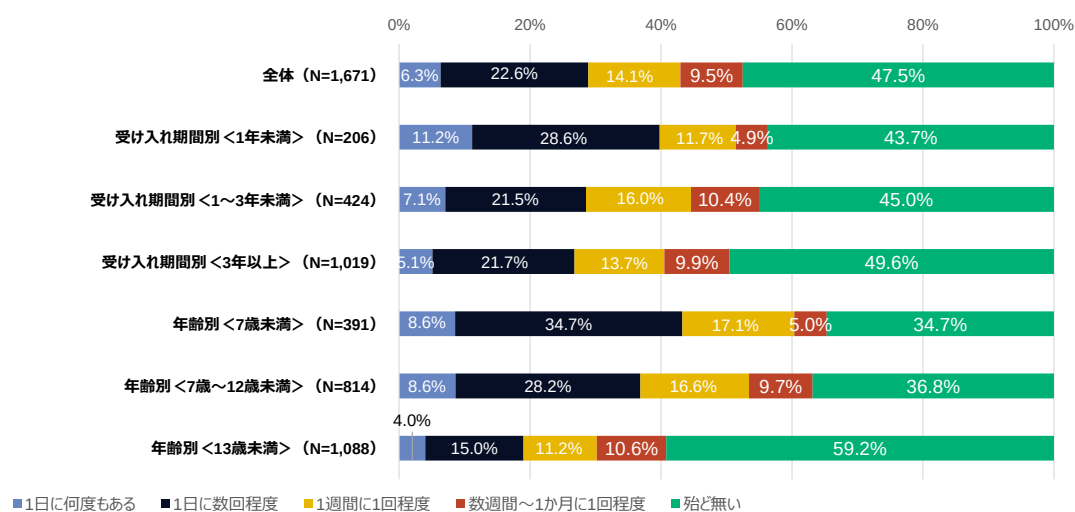
⑤特定の行動・事象の発生頻度

- それぞれ 1 日に数回以上ある割合（「1 日に何度もある」と「1 日に数回程度」の合計）は愛着形成が 28.9%、年齢にそぐわない行為や発言が 19.3%、施設内での暴力や他者とのトラブルが 11.5%であった。
- 愛着形成上の問題を有しており、情緒面について個別的なかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする頻度が 1 日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では 1 年未満が 39.8%、年齢別では 7 歳未満が 43.3%と最多であり、受け入れ期間・年齢による差が見られた。
- 年齢にそぐわない行為や発言の頻度が 1 日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では 1 年未満が 26.4%、年齢別では 7 歳～12 歳が 26.7%と最多であり、受け入れ期間・年齢による差が見られた。
- 施設内の暴力や他者とのトラブルが 1 日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では 1 年未満が 26.4%、年齢別では 7 歳～12 歳が 26.7%と最多であり、受け入れ期間・年齢による差が見られた。

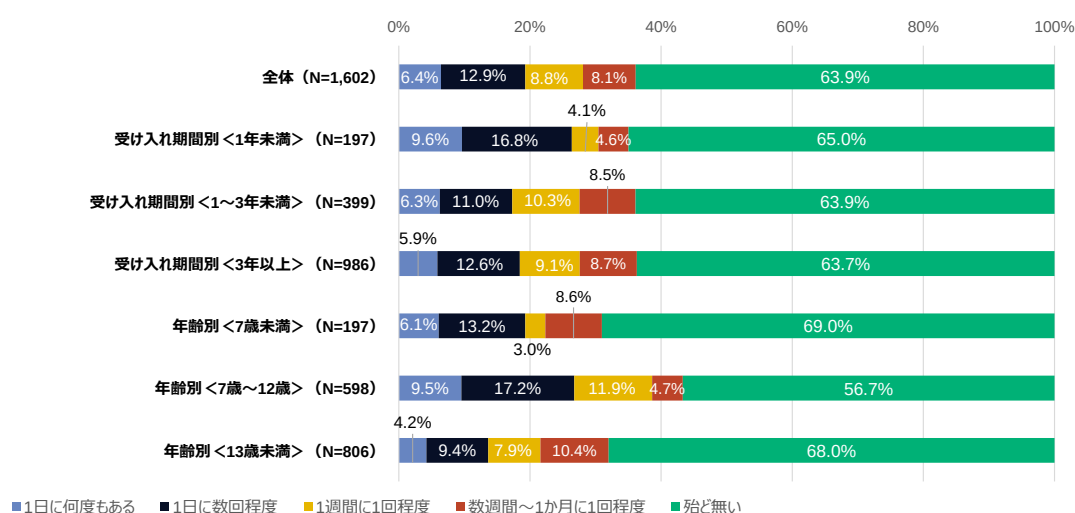
図表 103 特定の行動・事象の発生頻度



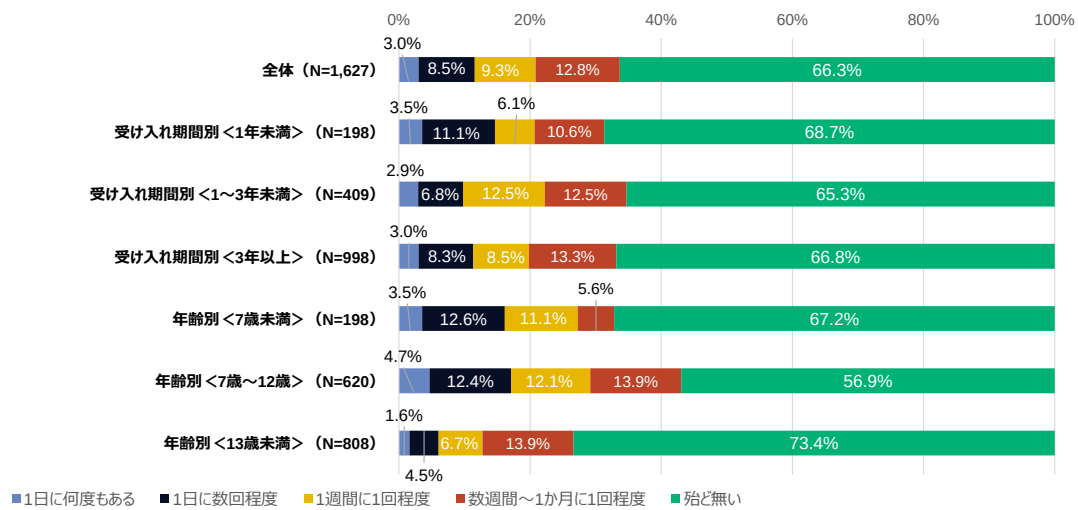
図表 104 愛着形成上の問題を有しており、情緒面について個別的なかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする頻度



図表 105 年齢にそぐわない行為や発言の頻度



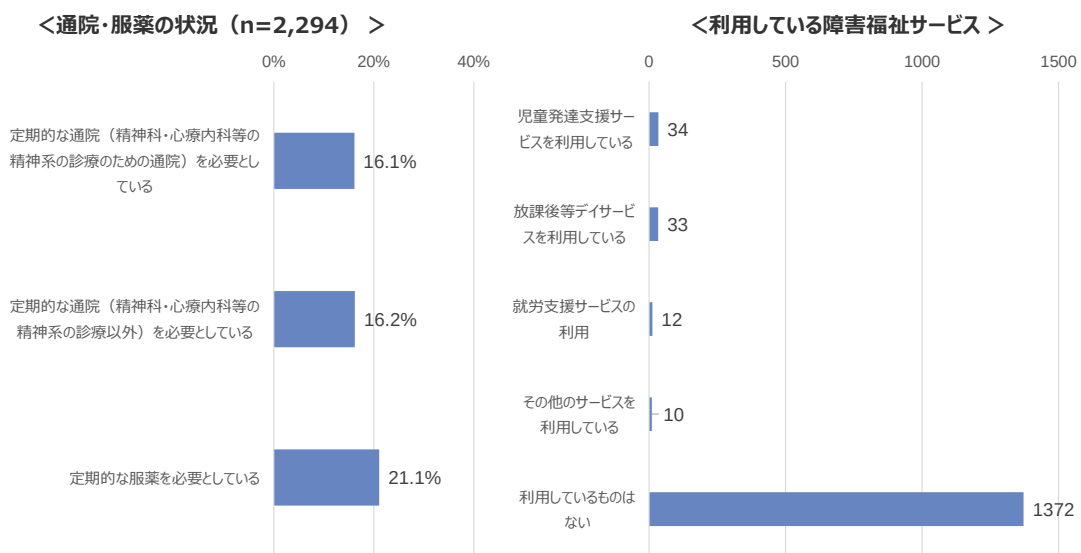
図表 106 施設内の暴力や他者とのトラブルの頻度



⑥通院・服薬、外部サービスの利用状況

- 定期的な通院を必要としている割合は合計で 32.3%、服薬を必要としている割合は 21.1%であった。
- 利用している障害福祉サービスは「利用しているものはない」が 1,372 人と最多であった。

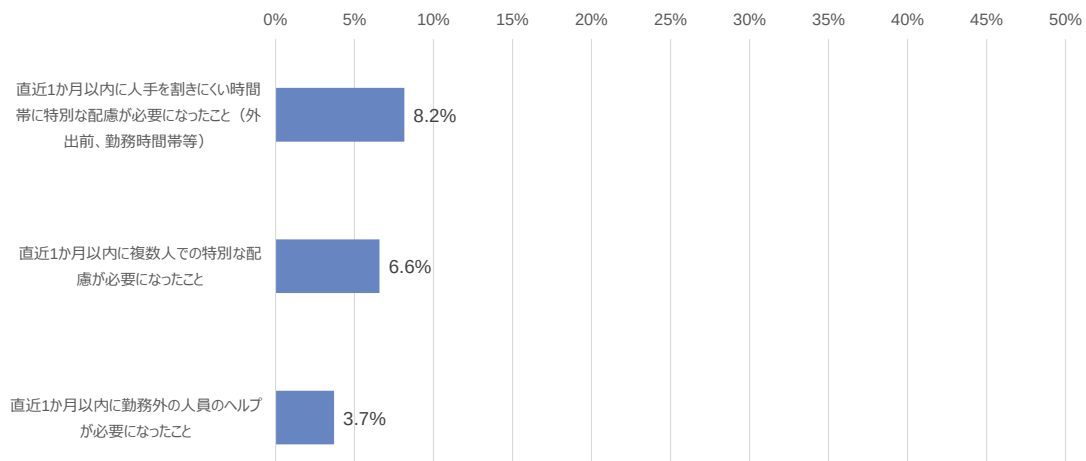
図表 107 通院・服薬、外部サービスの利用状況



⑦時間外や複数人での対応が必要になったケース

- それぞれ一定発生している状況であった。

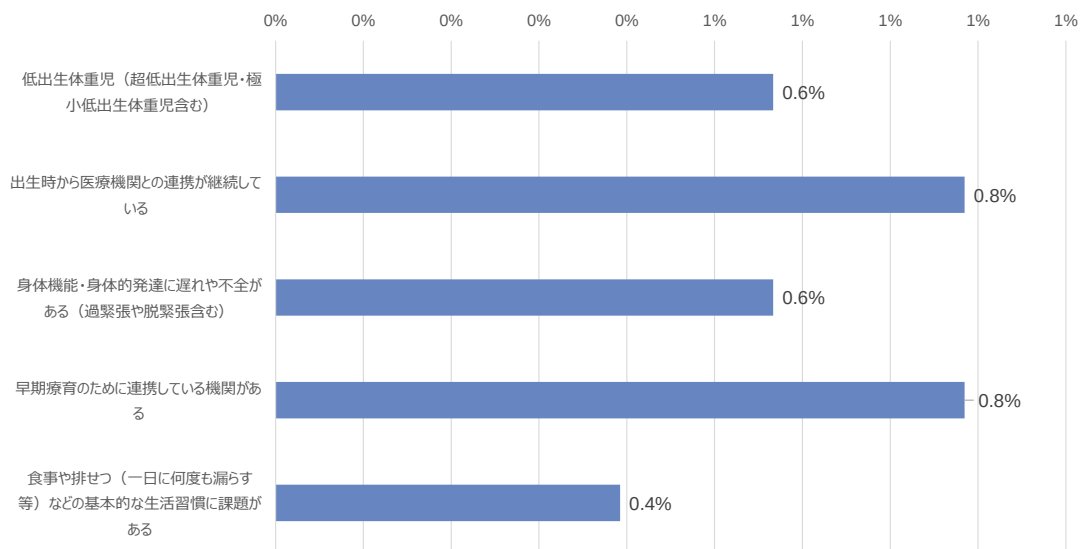
図表 108 時間外や複数人での対応が必要になったケース (N=2,294)



⑧(参考)3歳未満の場合における配慮

- 3歳未満の場合における配慮は以下の通りであった。

図表 109 3歳未満の場合における配慮（N=2,294）



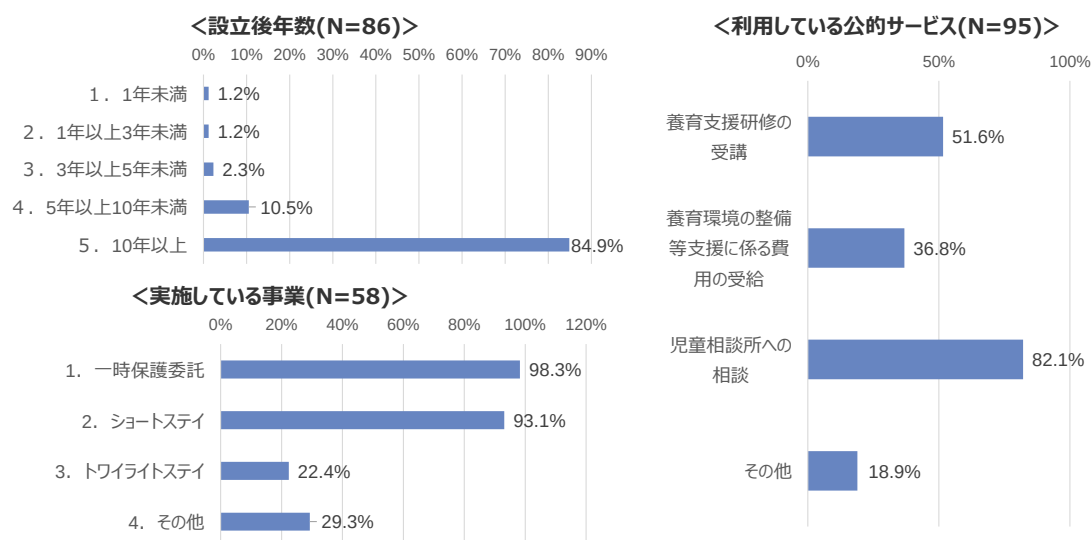
(4)乳児院の結果

ア)基礎情報

①基本情報

- 設立年数は、設立後 10 年以上の施設が 84.9%と最多であった。
- 実施事業は、一次保護委託が 98.3%、ショートステイが 93.1%であった。
- 利用している公的サービスは、「児童相談所への相談」が 82.1%と最多、次いで「養育支援研修の受講」が 51.6%であった。

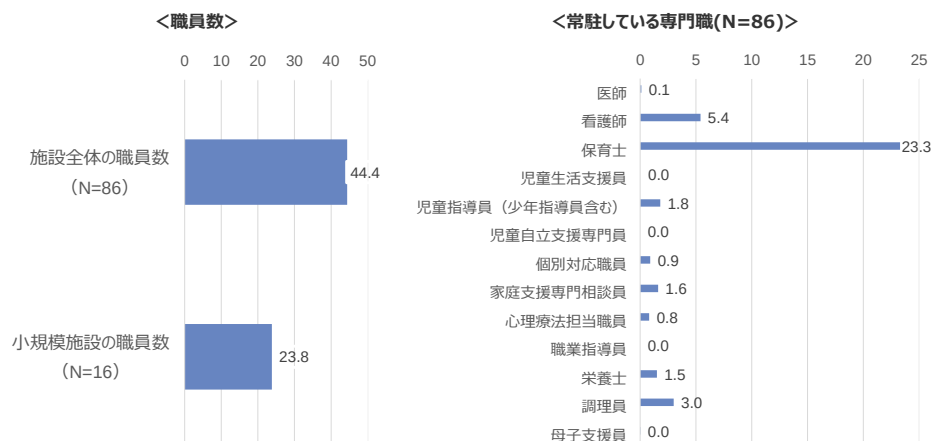
図表 110 施設の基本情報



②職員の状況

- 職員数は全体では平均で 44.4 人、小規模施設では 23.8 人であった。
- 専門職は保育士が 23.3 人と最多、次いで看護師が 5.4 人であった。他、調理員、児童指導員、家庭支援専門相談員、個別対応職員、個別対応職員も平均 1 人以上であった。

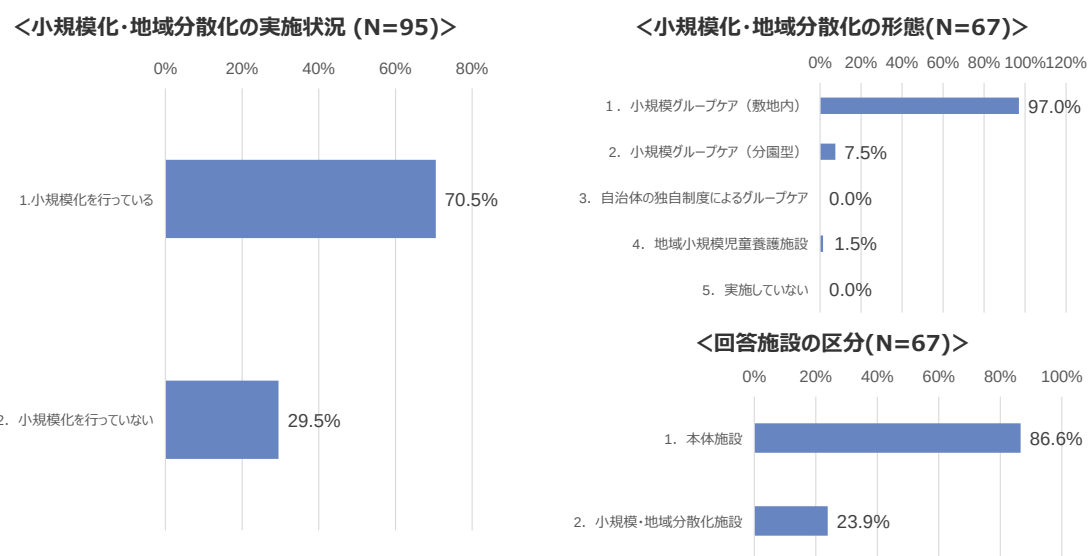
図表 111 施設の職員、専門職の状況



③小規模化・地域分散化の状況

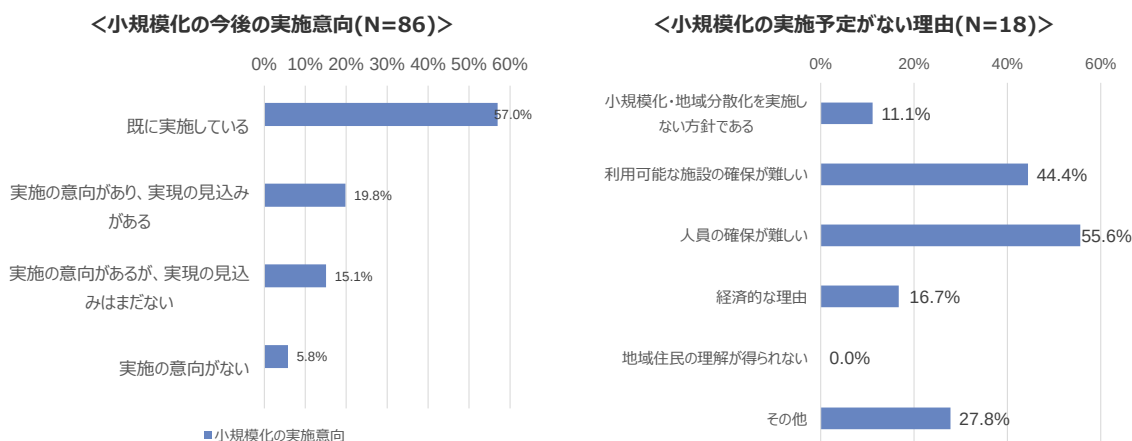
- 小規模化を行っている施設が 70.5%、行っていない施設は 29.5%であった。実施形態は小規模グループケア（敷地内）が 97.0%と最多、小規模グループケア（分園型）が 7.5%であった。
- なお、回答した施設は本体施設が 86.6%、小規模・地域分散化施設が 23.9%であった。

図表 112 小規模化・地域分散化の実施状況・形態等



- 小規模化の実施意向は「実施の意向があり、実現の見込みがある」施設は 19.8%、「実施の意向があるが、実現の見込みはまだない」施設は 15.1%であった（実施済みの施設が 57.0%と最多）。一方、小規模化実施の意向がない施設は 5.8%、その理由は「人員の確保が難しい」が 55.6%と最多、次いで「利用可能な施設の確保が難しい」が 44.4%であった。

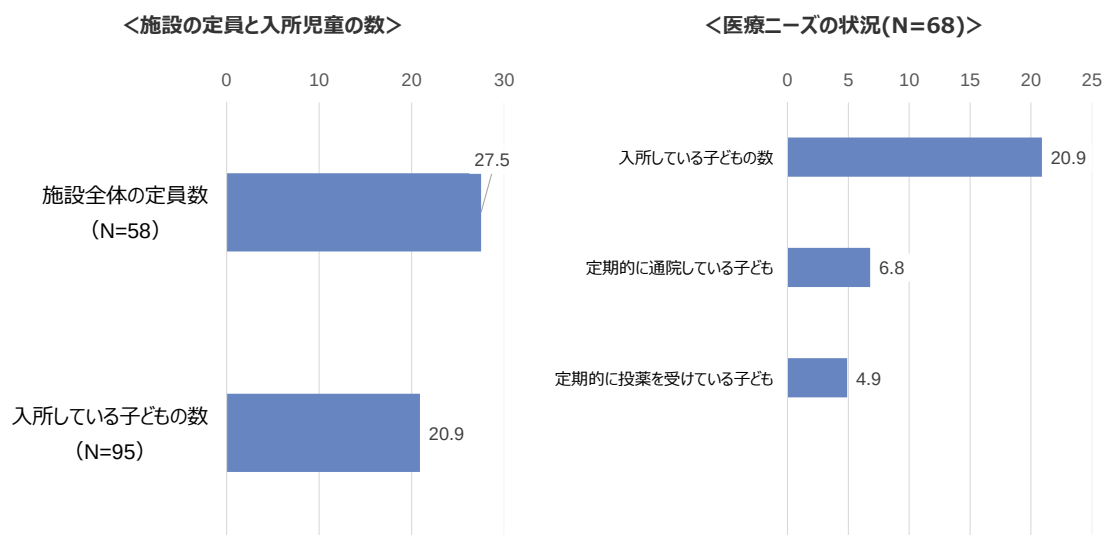
図表 113 小規模化・地域分散化の実施意向



④入所児童の状況

- 定員 27.5 人に対して、入所している児童は 20.9 人であった。
- そのうち、定期的に通院している子ども、投薬している子どもが 6.8 人、4.9 人であり、入所児童の 32.5%、23.4%を占めていた。

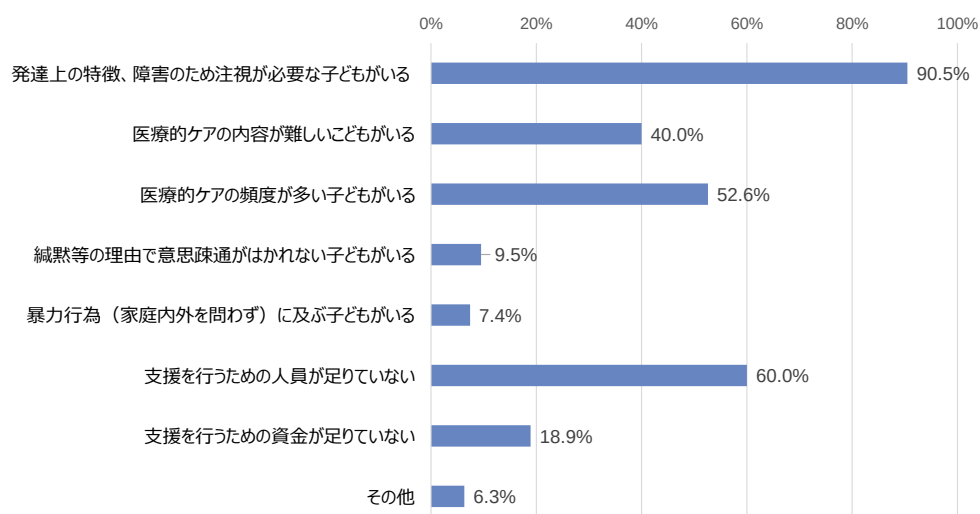
図表 114 施設の定員・入所児童の状況



⑤現在子どもの支援を行う上で苦勞していること

- 「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」が 90.5%と最多、次いで「支援を行うための人員が足りていない」が 60.0%であった。

図表 115 現在子どもの支援を行う上で苦勞していること(N=95)

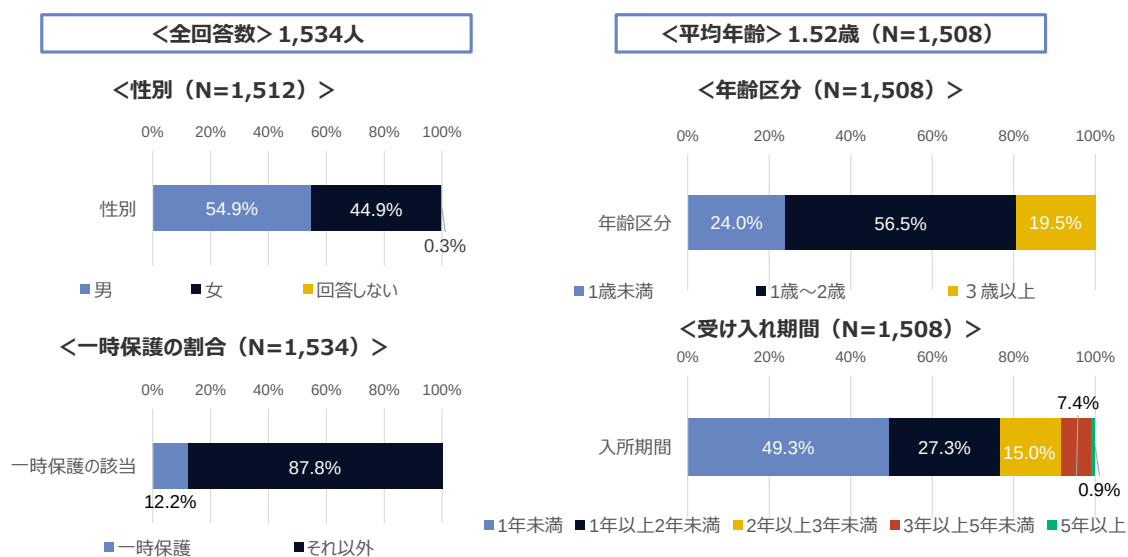


イ)入所児童の状況

①入所児童の基本情報

- 入所乳児・幼児の個票について 1,534 人分の回答があり、平均年齢は 1.52 歳であった。
- 性別は男 54.9%、女 44.9%、受け入れ期間は 1 年未満が 49.3%と最多、次いで 1 年以上 2 年未満が 27.3%であった。
- また、一時保護が全体の 12.2%であった。

図表 116 入所児童の基本情報



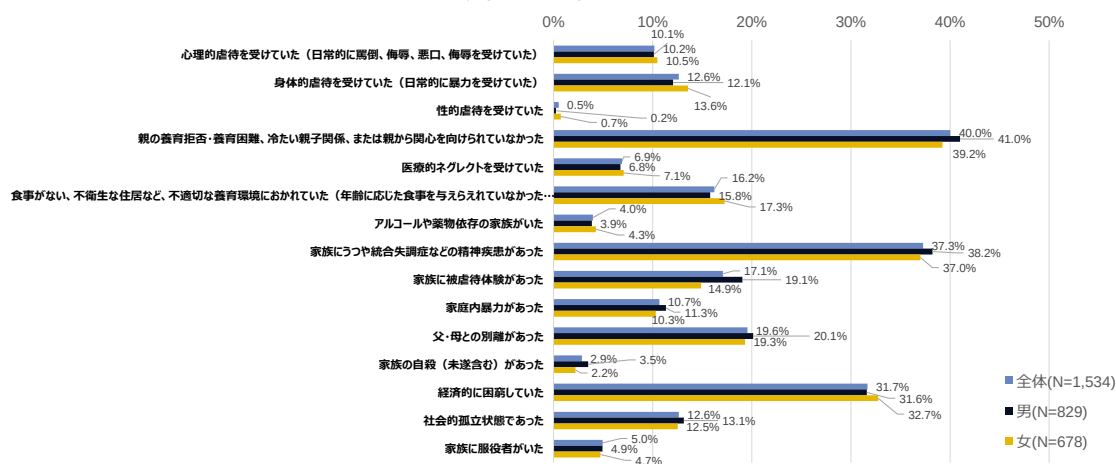
②社会的養育が必要となった背景

- 全体では「親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった」が 40.0%と最多、次いで「家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった」が 37.3%、「経済的に困窮していた」が 31.7%であった。また、「食事がない、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた」「家族に被虐待体験があった」もそれぞれ 15%以上が該当していた。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別での大きな傾向の違いは見られなかった。

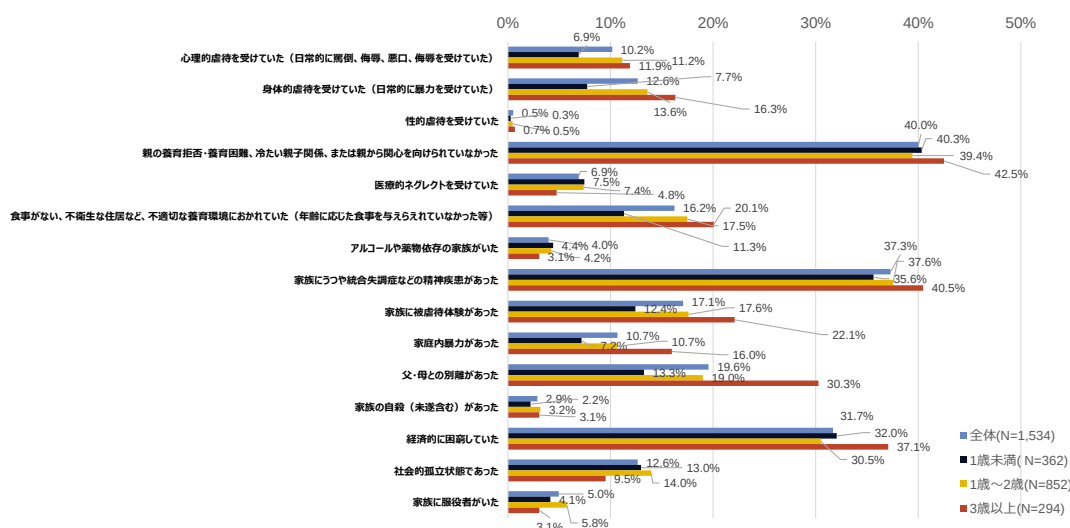
図表 117 社会的養育が必要となった背景【男女別】



<年齢区分別>

- 「父・母との別離があった」では13歳以上の年齢区分は10ポイント以上高かった。

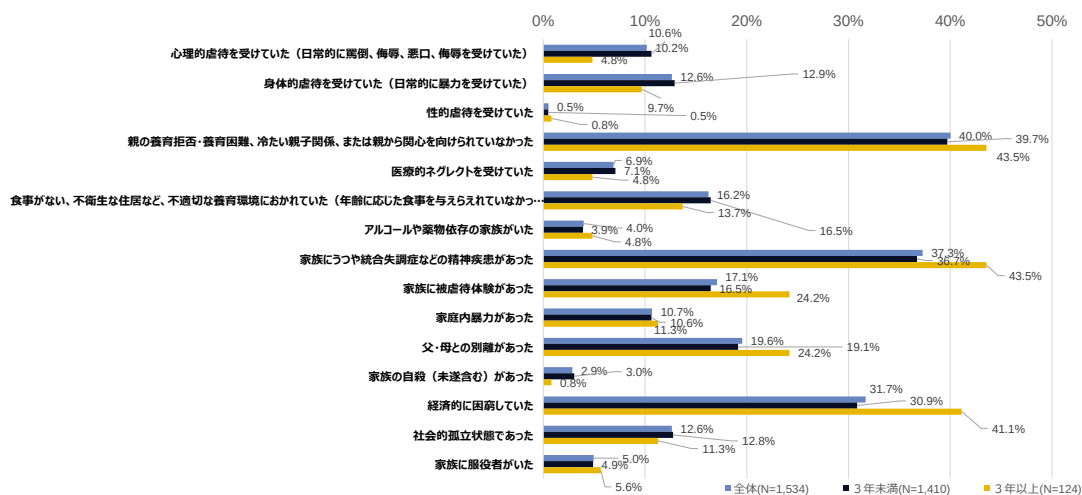
図表 118 社会的養育が必要となった背景【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 「経済的に困窮していた」において受け入れ期間が3年以上の方が10ポイント以上高かった。

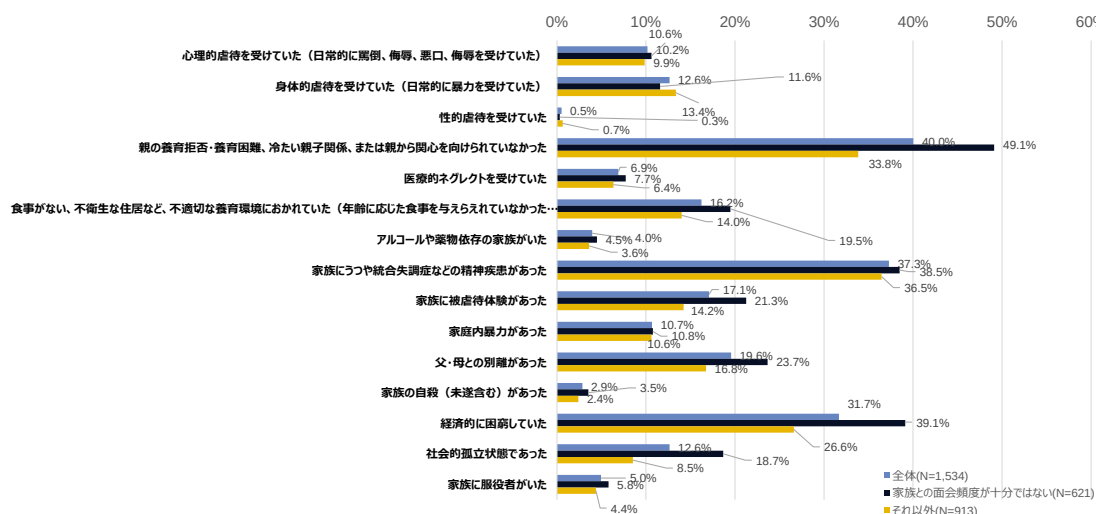
図表 119 社会的養育が必要となった背景【受け入れ期間別】



<家族との面会頻度別>

- 「親の養育拒否」「経済的に困窮していた」において、家族との面会頻度が不十分な場合の方が10ポイント以上高かった。

図表 120 社会的養育が必要となった背景【家族との面会頻度別】

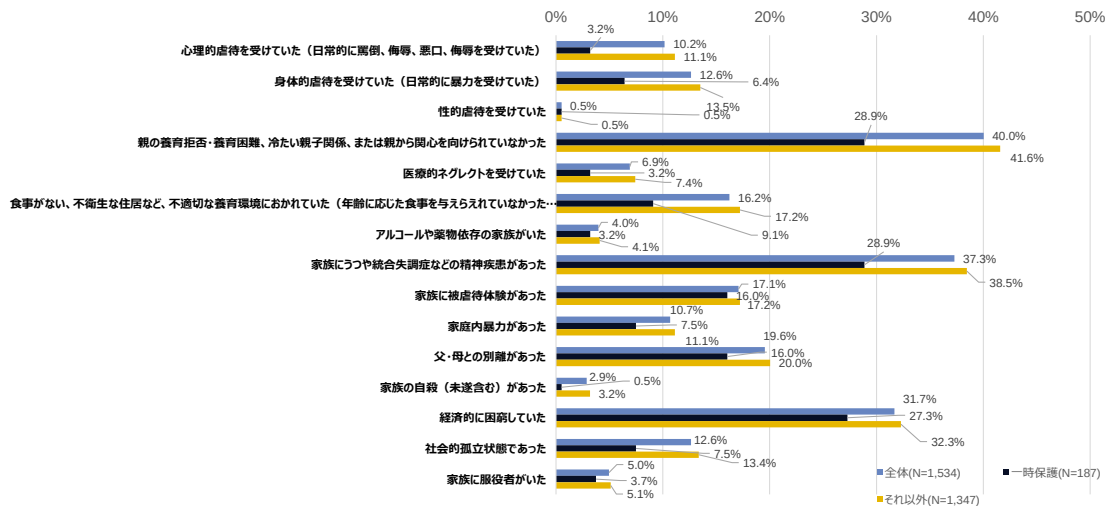


<一時保護別>

- 全般的に一時保護の方の割合が低い傾向であった。

※一時保護の場合は十分に背景を把握しきれていない可能性もあることに留意

図表 121 社会的養育が必要となった背景【一時保護別】

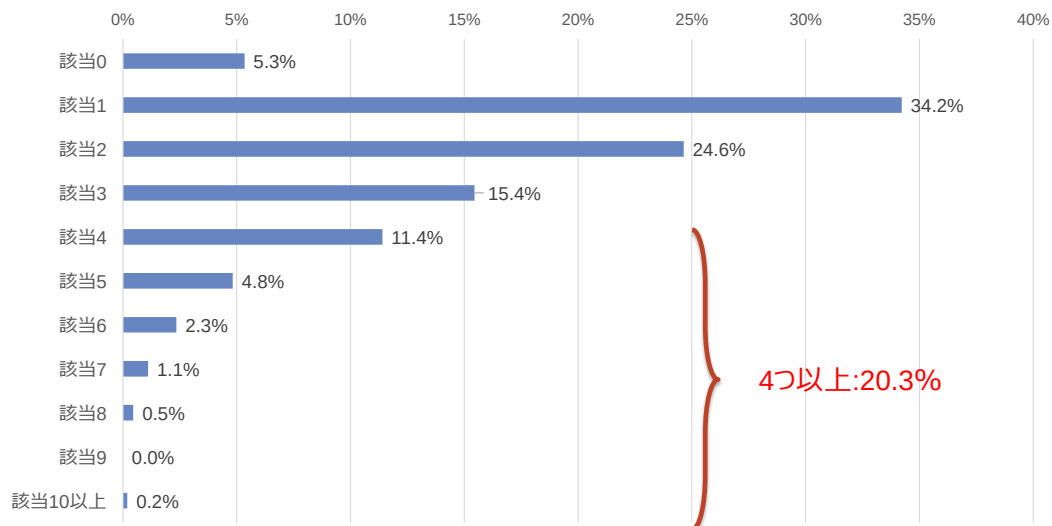


<該当数の分布>

- 社会的養育を必要とした背景に該当する数は1つの割合が34.2%と最多であった。

また、4つ以上該当する割合は20.4%であった。

図表 122 社会的養育が必要となった背景の該当数(N=1,534)



③養育を行う上で特別な配慮が必要な事項について

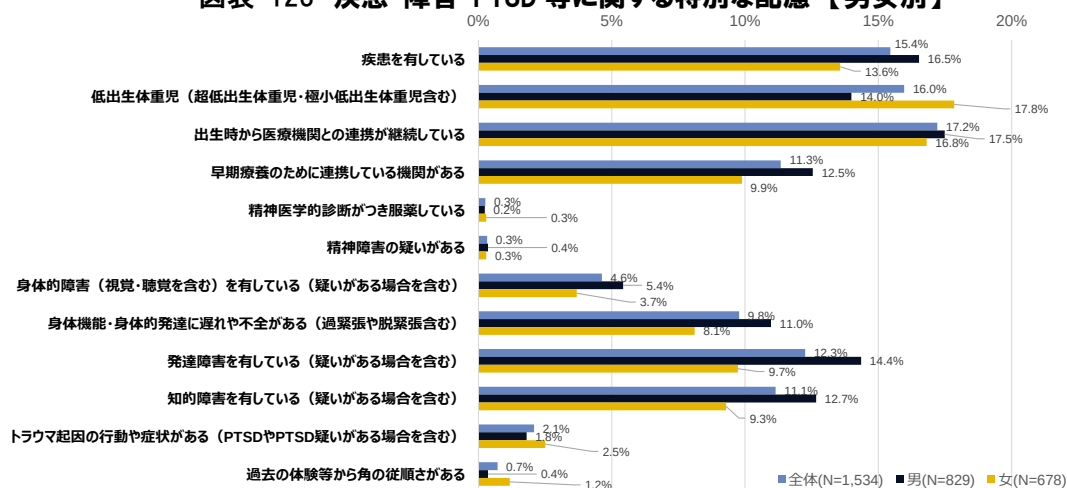
(a) 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮

- 全体では「出生時から医療機関との連携が継続している」は 17.2%と最多、次いで「低出生体重児（超低出生体重児・極小低体重児含む）」が 16.0%、「疾患を有している」が 15.4%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

➤ 男女別で大きな傾向の違いは見られなかった。

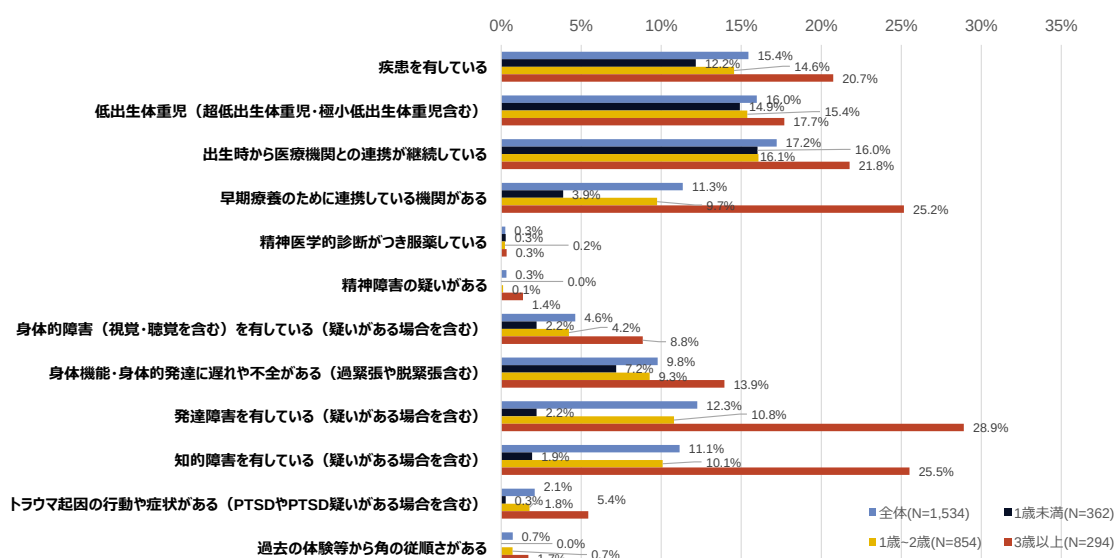
図表 123 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

➤ 「早期療養のために連携している機関がある」「発達障害を有している」「知的障害を有している」において3歳以上の方の割合が10ポイント以上高かった。

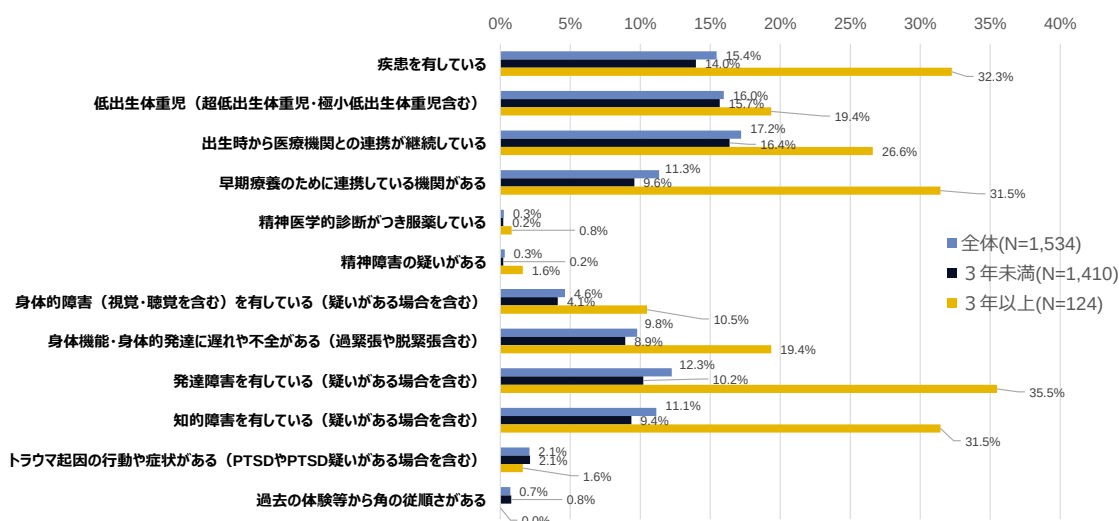
図表 124 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 全般的に受け入れ期間 3 年以上の方が該当する割合が高い傾向であり、「疾患を有している」「早期療養のために連携している機関がある」「発達障害を有している」「知的障害を有している」において 10 ポイント以上高かった。

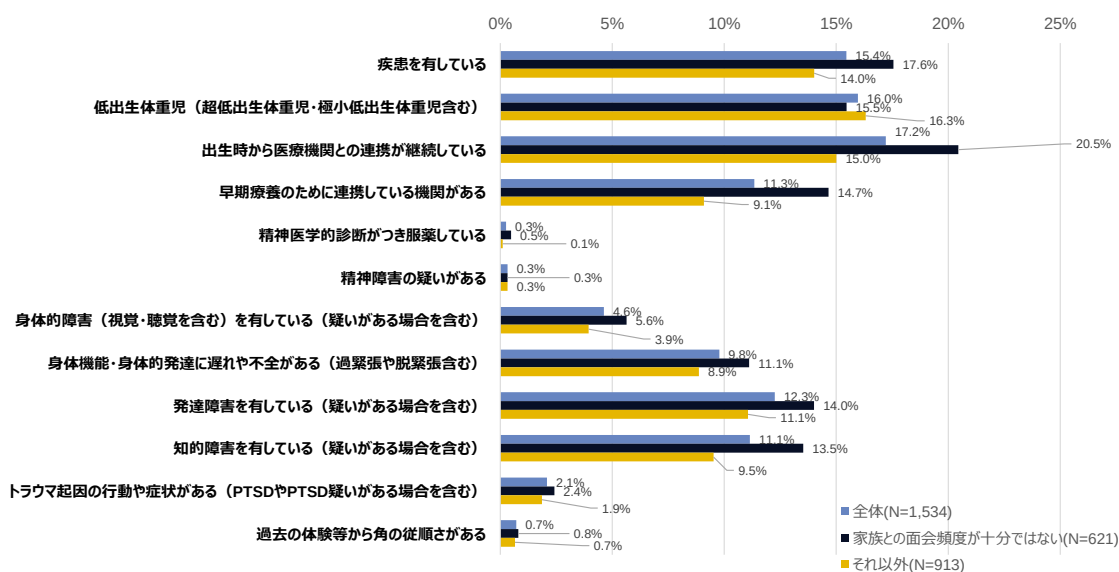
図表 125 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との面会頻度別>

- 家族との面会頻度別による大きな傾向の違いは見られなかった。

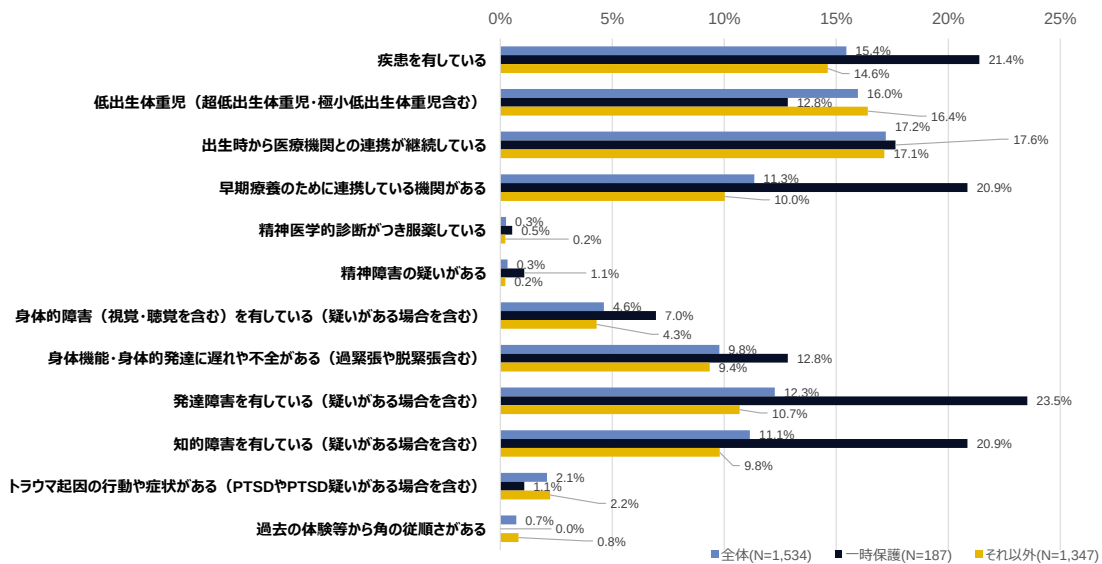
図表 126 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【家族との面会頻度別】



<一時保護別>

- 「発達障害を有している」において一時保護の方の割合が 10 ポイント以上高かった。

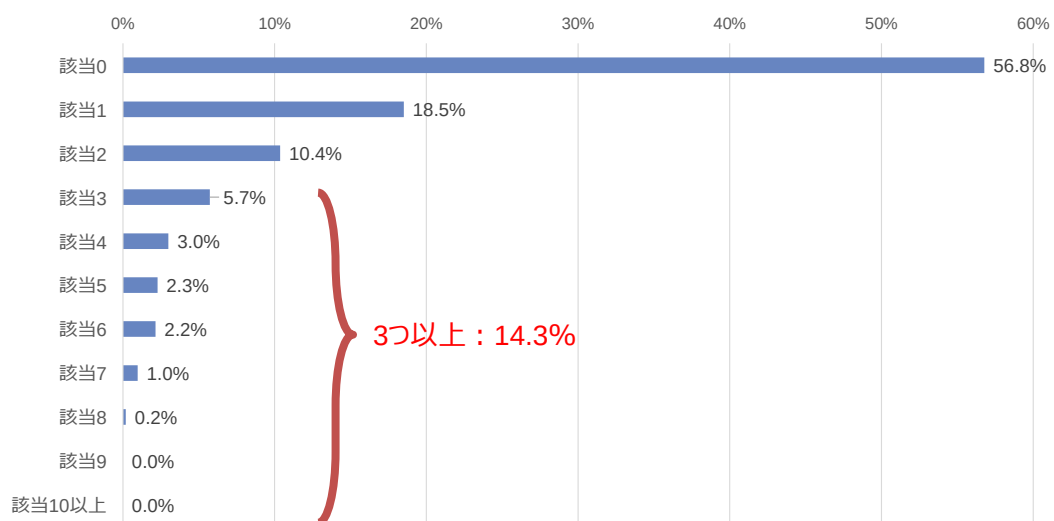
図表 127 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【一時保護別】



<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数【12 項目における該当数】>

- 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数は、0 の割合が 56.8%と最多、次いで 1 つが 18.5%であった。一方、3 つ以上該当する割合も 14.3%であった。

図表 128 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数(N=1,534)



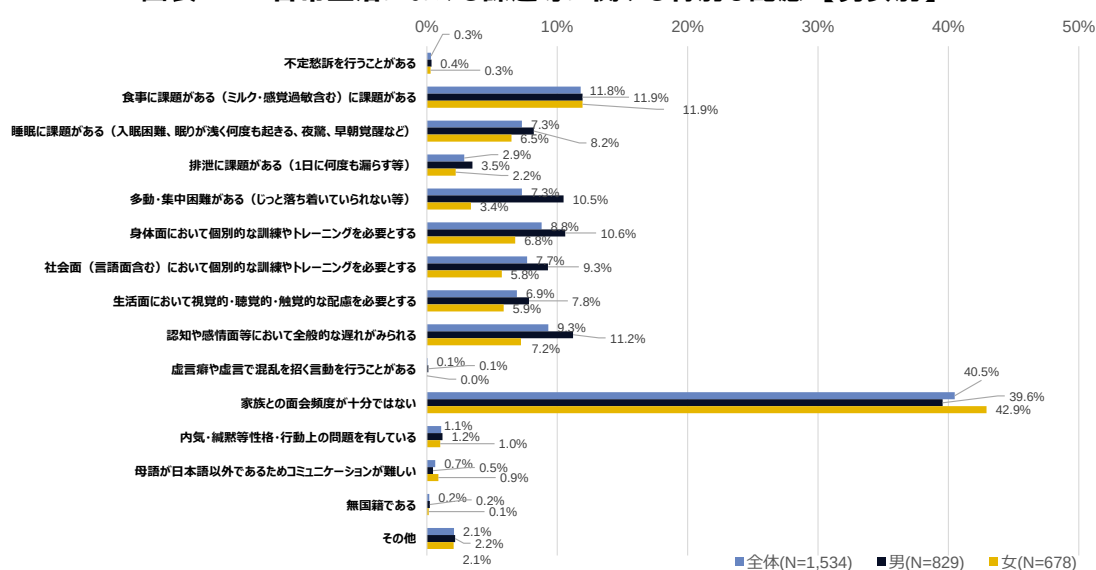
(b) 日常生活における課題等に関する特別な配慮

- 全体では「家族と面会頻度が十分ではない」が40.5%と最多、次いで「食事に課題がある」が11.8%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別では大きな傾向の違いはみられなかった。

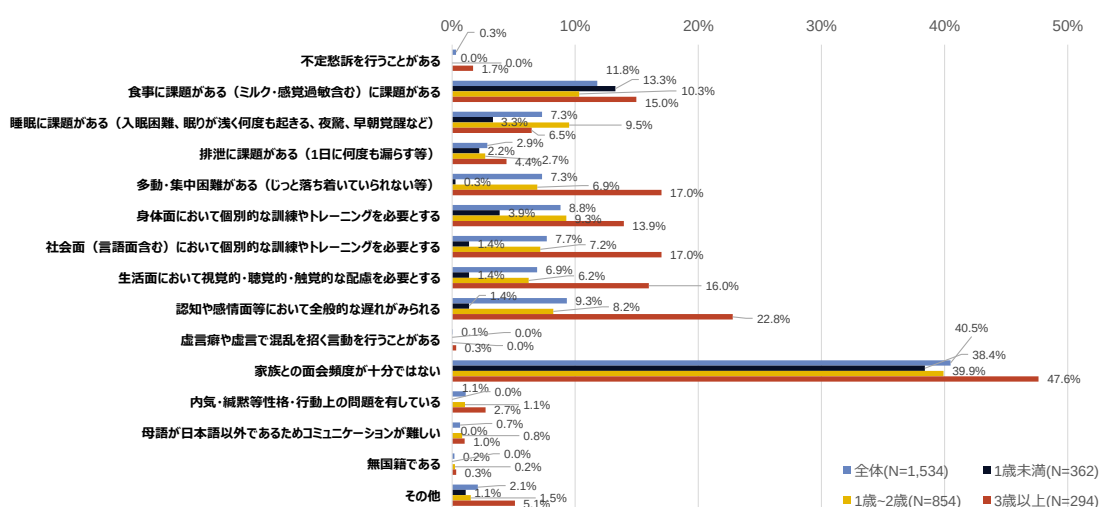
図表 129 日常生活における課題等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢区分別による大きな傾向の違いは見られなかった。

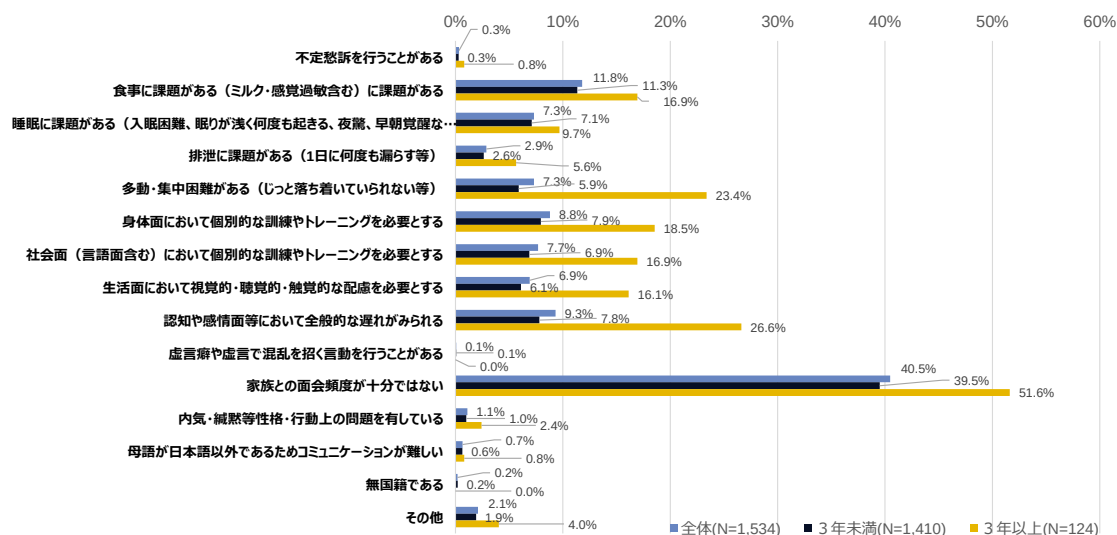
図表 130 日常生活における課題等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 「多動・集中困難がある」「身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする」「認知や感情面等において全般的な遅れがみられる」「家族との面会頻度が十分ではない」において3年以上の方の割合が10ポイント以上高かった。

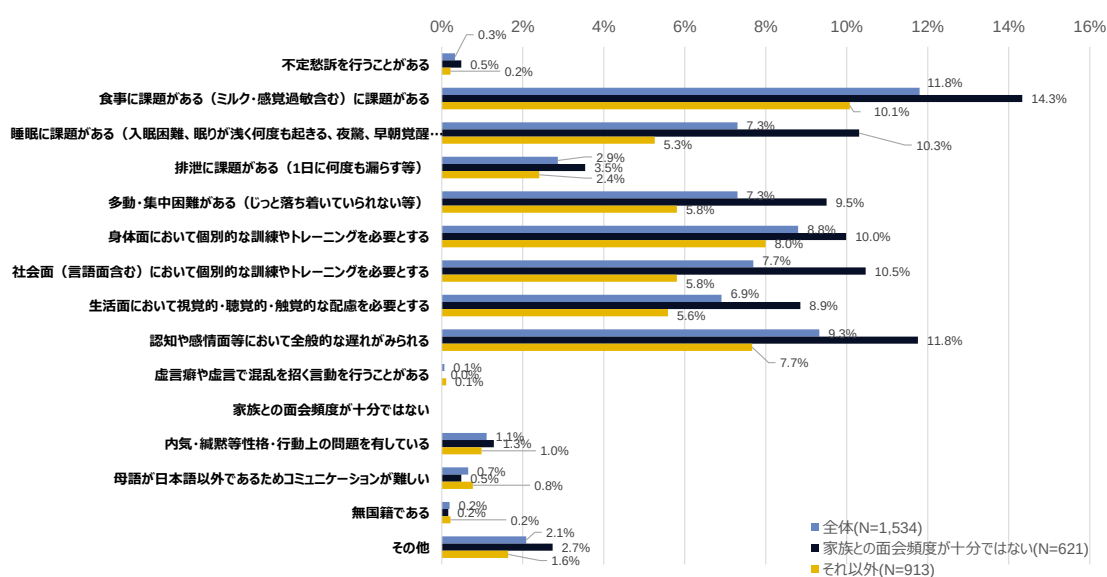
図表 131 日常生活における課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 家族との関係への葛藤別による大きな傾向の違いは見られなかった。

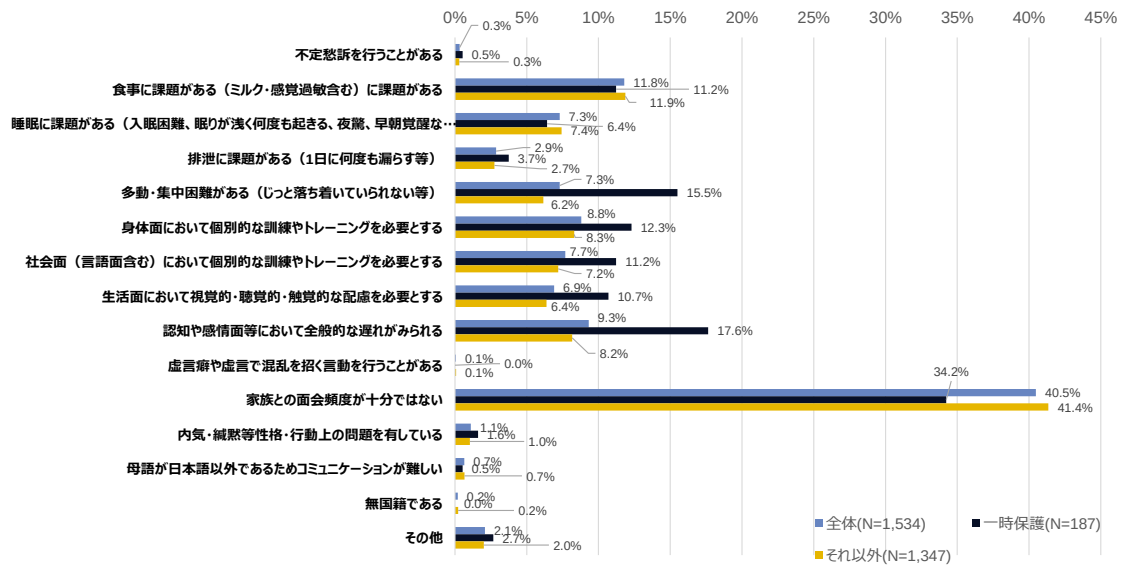
図表 132 日常生活における課題等に関する特別な配慮【家族との関係への葛藤別】



<一時保護>

- 一時保護別による大きな傾向の違いは見られなかった。

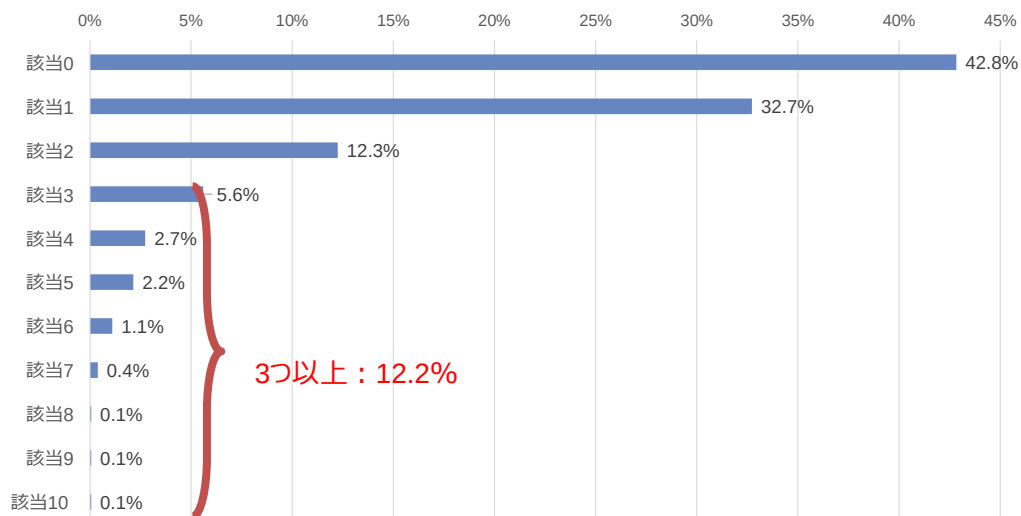
図表 133 日常生活における課題等に関する特別な配慮【一時保護別】



<日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数【15項目における該当数】>

- 日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数は、0の割合が42.8%と最多、次いで1つが32.7%であった。また3つ以上該当する割合は12.2%だった。

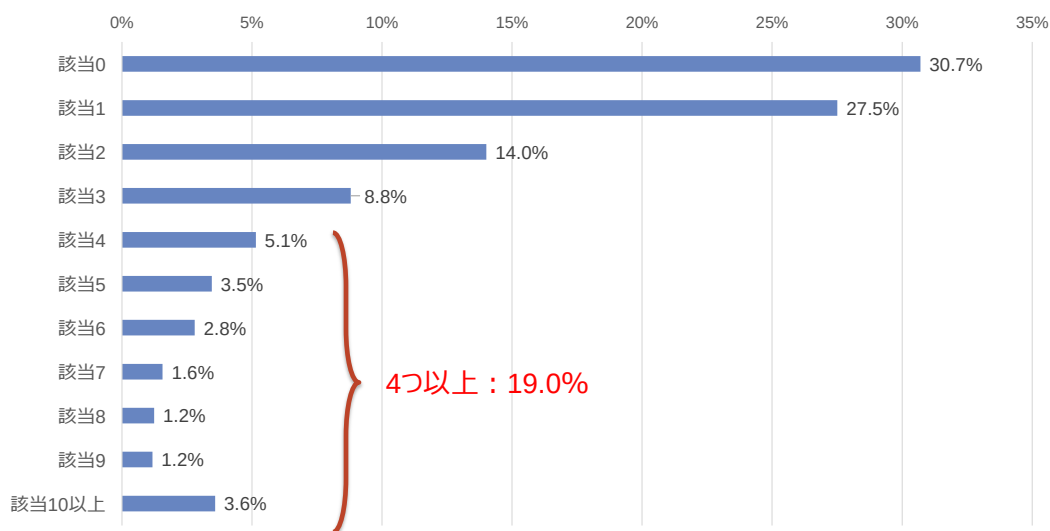
図表 134 日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数(N=1,534)



(d) 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数【全 31 項目における該当数】

- 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項は 0 の割合が 30.7%と最多、次いで 1 つが 27.5%であった。一方、4 つ以上該当する割合が 19.0%であった。

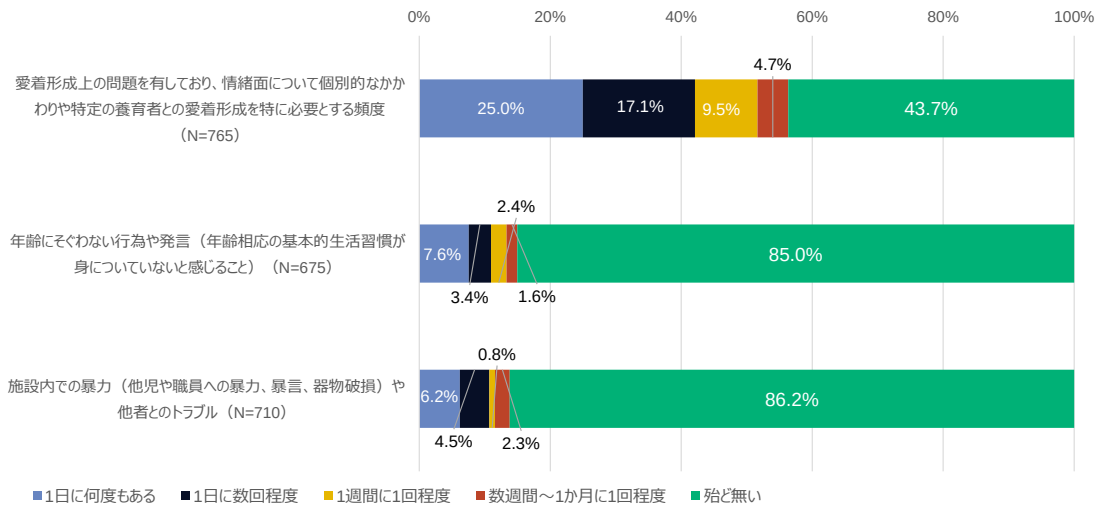
図表 135 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数 (N=1,534)



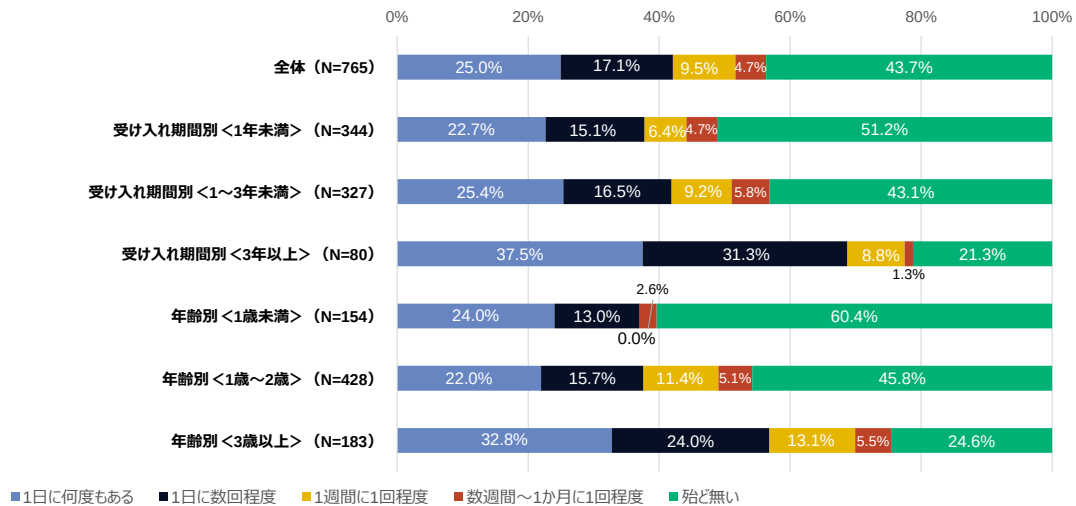
⑤特定の行動・事象の発生頻度

- 1日に数回以上ある割合（「1日に何度もある」と「1日に数回程度」の合計）は愛着形成が 42.1%、年齢にそぐわない行為や発言が 11.0%、施設内での暴力や他者とのトラブルが 10.7%であった。
- また、愛着形成上の問題を有しており、情緒面について個別的なかかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする頻度が 1日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では 3年以上が 68.8%、年齢別では 3歳以上が 56.8%と最多であり、受け入れ期間・年齢による差が見られた。
- 年齢にそぐわない行為や発言の頻度は、1日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では 3年以上が 23.7%、年齢別では 3歳以上が 19.2%と最多であり、受け入れ期間・年齢による差が見られた。
- 施設内での暴力（他児や職員への暴力、暴言、器物破損）・他者トラブルでは、1日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では 3年以上が 22.2%、年齢別では 3歳以上が 15.9%と最多であり、受け入れ期間・年齢による差が見られた。

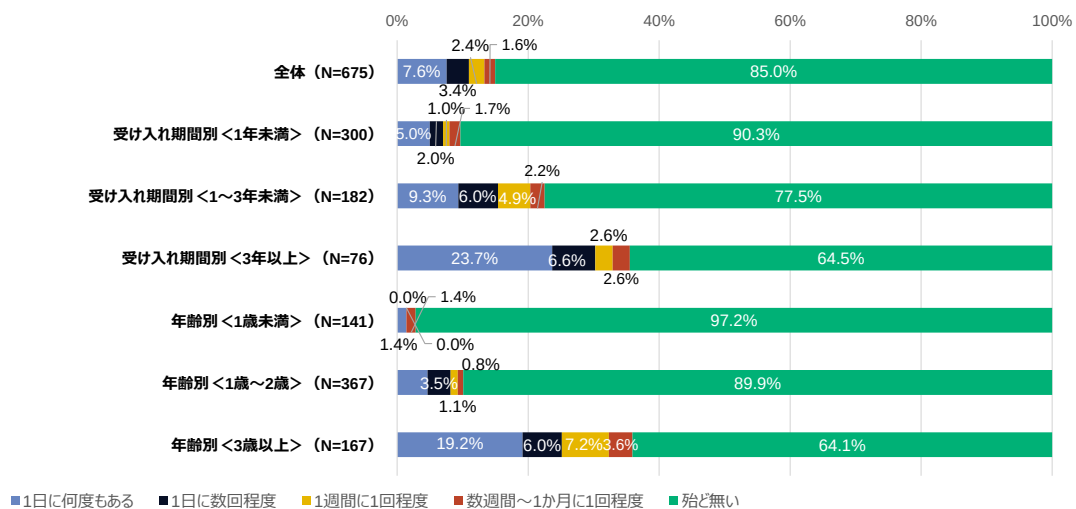
図表 136 特定の行動・事象の発生頻度



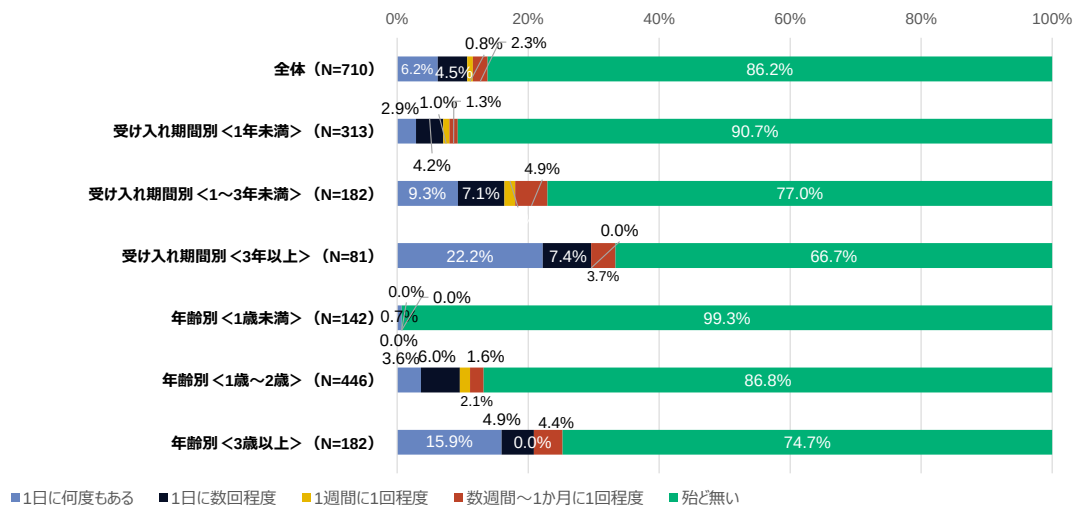
図表 137 愛着形成上の問題を有しており、情緒面について個別的なかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする頻度



図表 138 年齢にそぐわない行為や発言の頻度



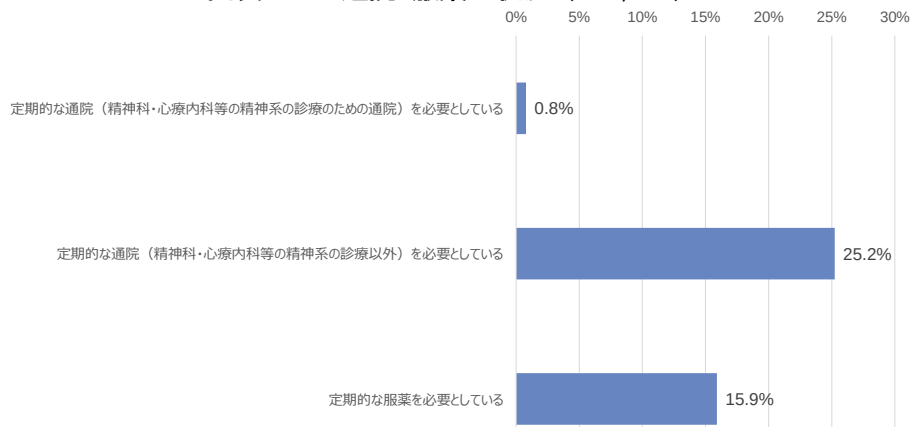
図表 139 施設内の暴力や他者とのトラブルの頻度



⑥通院・服薬、外部サービスの利用状況

- 定期的な通院を必要としている（精神科等以外）割合は合計で 25.2%、服薬を必要としている割合は 15.9%であった。

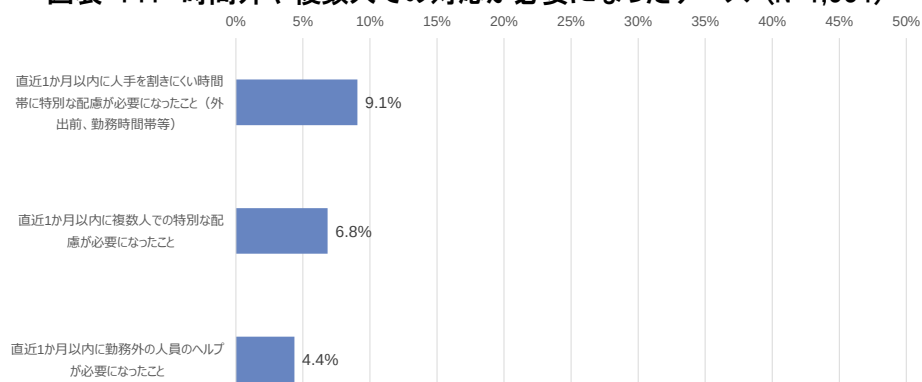
図表 140 通院・服薬の状況 (N=1,534)



⑦時間外や複数人での対応が必要になったケース

- それぞれ一定発生している状況であった。

図表 141 時間外や複数人での対応が必要になったケース (N=1,534)



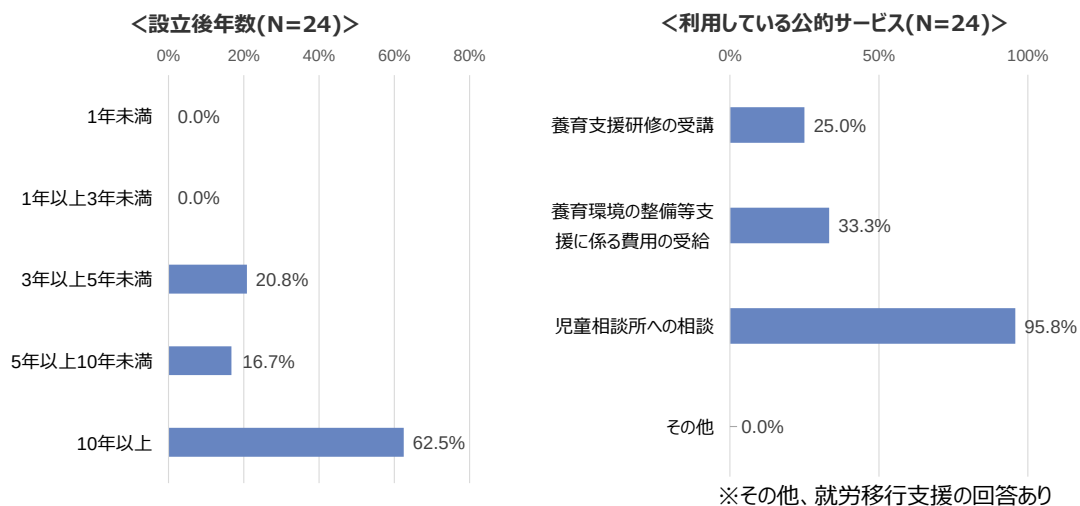
(5) 児童心理治療施設の結果

ア) 基礎情報

① 基礎情報

- 設立年数は、設立後 10 年以上の施設が 62.5% と最多であった。
- 利用している公的サービスは、「児童相談所への相談」が 95.8% と最多であった。

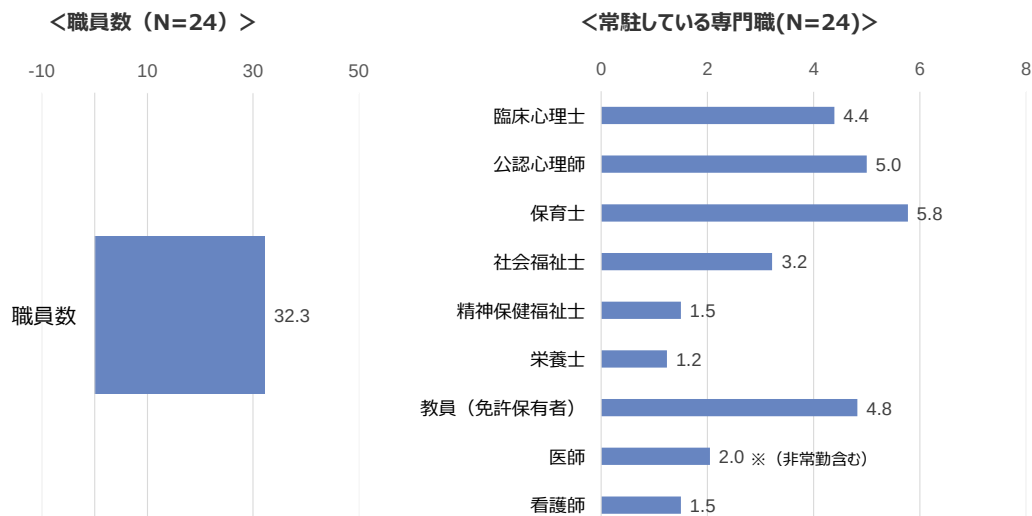
図表 142 施設の基本情報



② 職員の状況

- 職員数は全体では平均で 32.3 人であった。
- 常駐している専門職は保育士が 5.8 人と最多、次いで公認心理師が 5.0 人、教員（免許保有者）が 4.8 人、臨床心理士が 4.4 人であった。

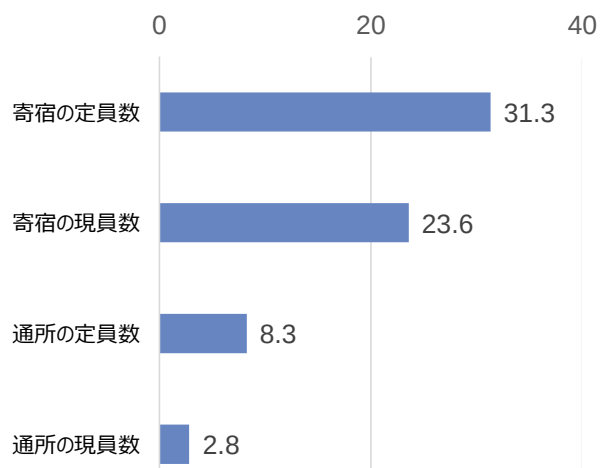
図表 143 職員数の状況



③施設の定員

- 寄宿は定員 31.3 人に対して現員が 23.6 人、通所は定員 8.3 人に対して現員が 2.8 人であった。

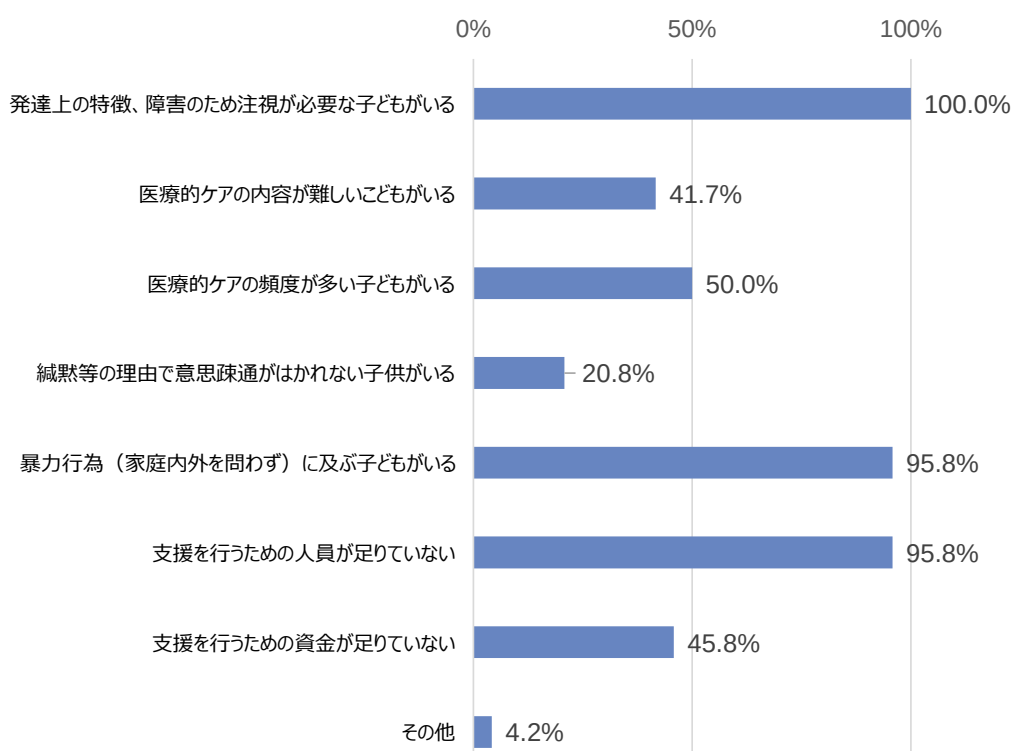
図表 144 施設の定員・現員の状況(N=24)



④現在子どもの支援を行う上で苦労していること

- 支援を行う上での苦労は「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」が 100%と最多、次いで「暴力行為に及ぶ子どもがいる」「支援を行うための人員が足りていない」がそれぞれ 95.8%であった。

図表 145 現在子どもの支援を行う上で苦労していること(N=24)

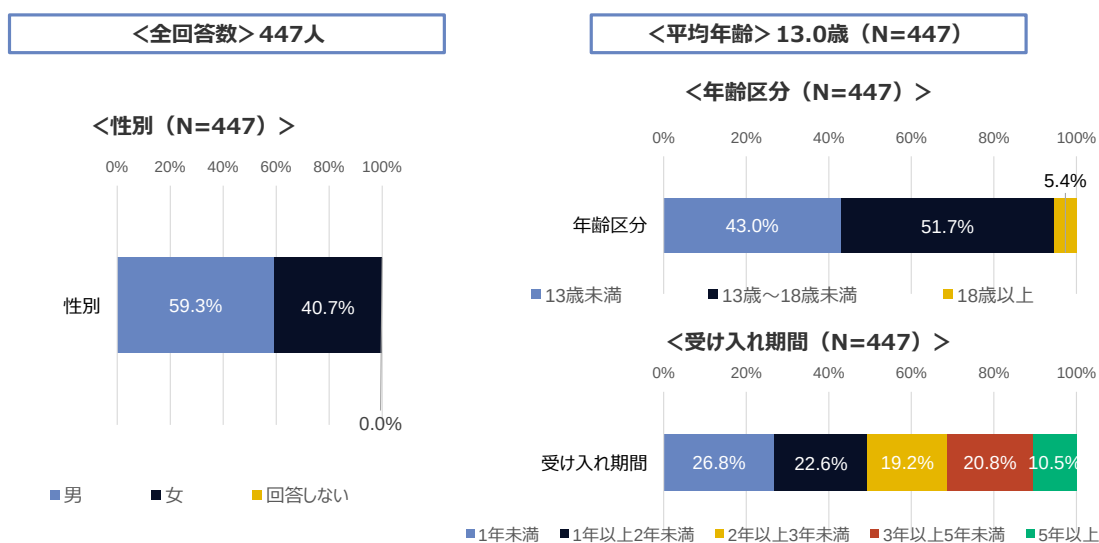


イ)入所児童の状況

①入所児童の基本情報

- 入所児童の個票について 447 人分の回答があり、平均年齢は 13.0 歳、13 歳～18 歳未満が 51.7%と最多であった。
- 性別は男子 59.3%、女子 40.7%、受け入れ期間は 1 年未満が 26.8%と最多であった。

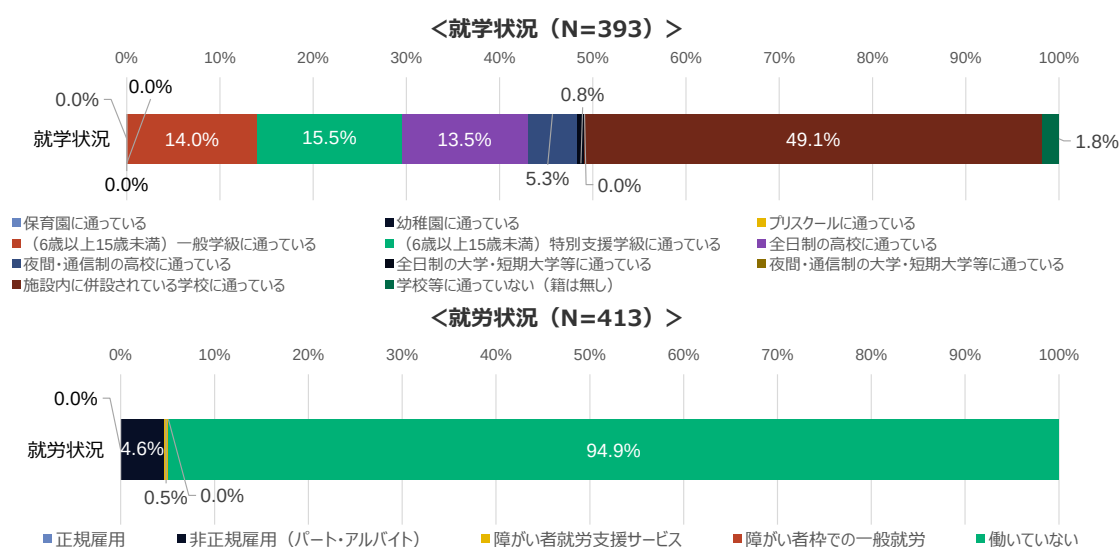
図表 146 入所児童の基本情報



②就学・就労状況

- 就学状況は施設内の併設学校が 49.1%と最多、次いで一般学級が 14.0%であった。
- 就労状況は「働いていない」が 94.9%と最多、次いで非正規雇用（パート・アルバイト等）が 4.6%であった。

図表 147 就学・就労状況



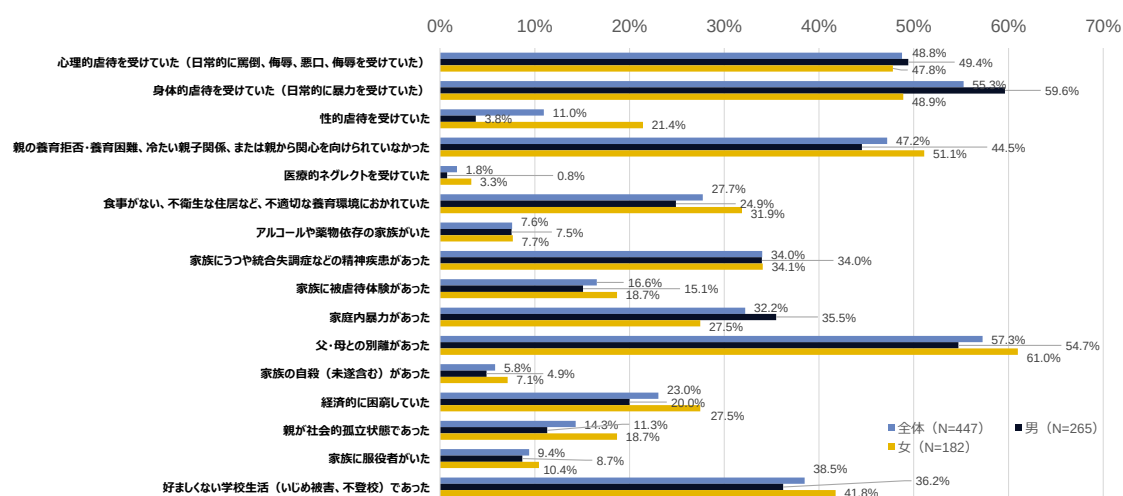
③社会的養育が必要となった背景

- 全体では「父・母との別離があった」が 57.3%と最多、次いで「身体的虐待を受けていた」が 55.3%、「心理的虐待を受けていた」が 48.8%、「親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった」が 47.2%であった。また、「食事がない、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた」「家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった」「家庭内暴力があった」「経済的に困窮していた」「好ましくない学校生活であった」もそれぞれ 20%以上が該当していた。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別では「身体的虐待を受けていた」は男子、「性的虐待」は女子の割合が 10 ポイント以上高く、性別による傾向の違いが見られた。

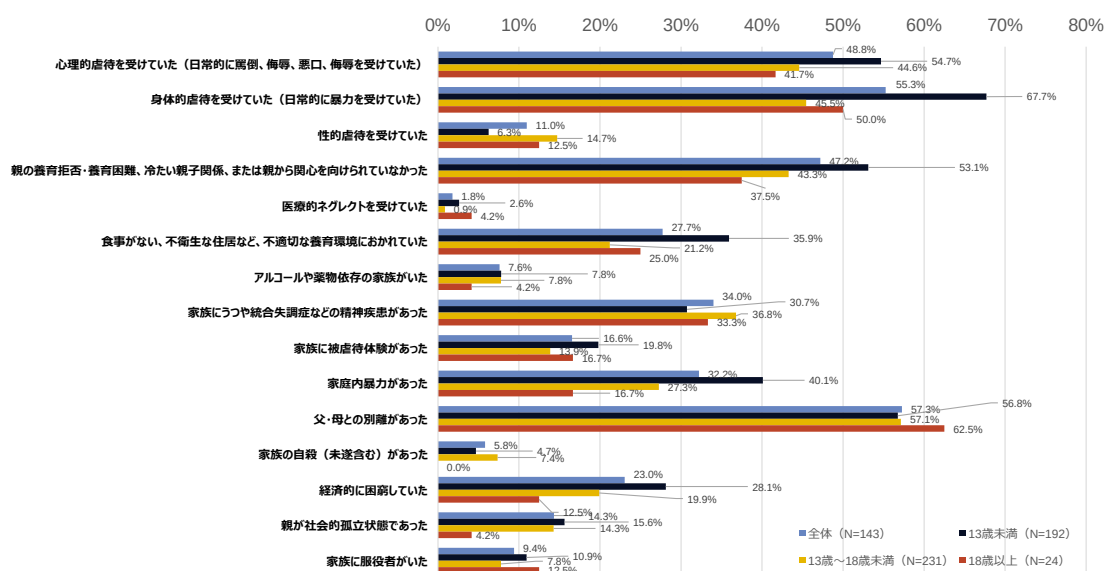
図表 148 社会的養育が必要となった背景【男女別】



<年齢区分別>

- 「心理的虐待を受けていた」「身体的虐待を受けていた」において、年齢が低い方が該当する割合が 10 ポイント以上高かった。

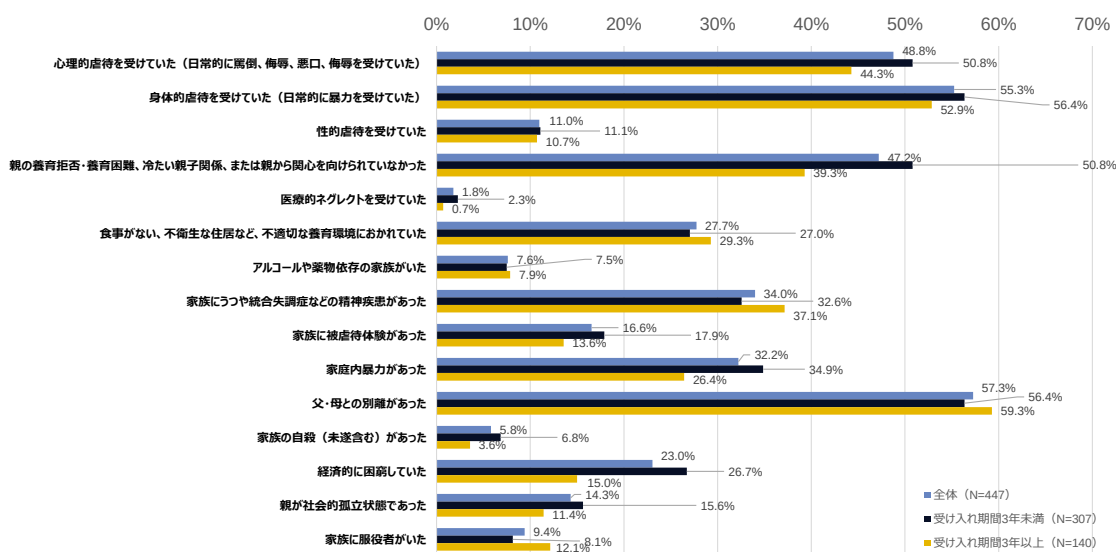
図表 149 社会的養育が必要となった背景【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 「親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった」「経済的に困窮していた」において、受け入れ期間が 3 年未満の方が 10 ポイント以上高かった。

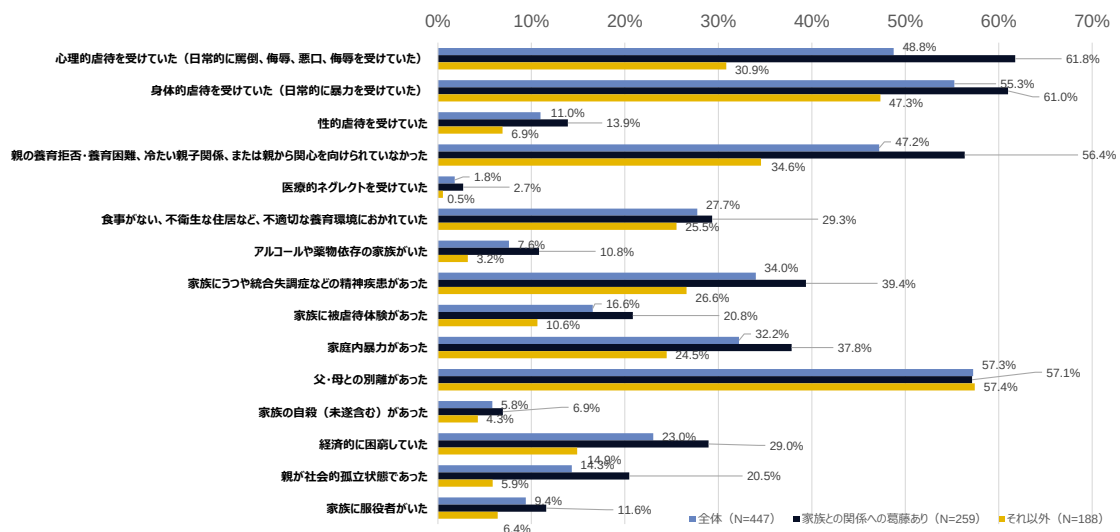
図表 150 社会的養育が必要となった背景【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 全般的に家族との関係に葛藤を抱えている方が該当する割合が高い傾向であり、特に「心理的虐待を受けていた」「身体的虐待を受けていた」「親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった」「家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった」「家庭内暴力があった」「経済的に困窮していた」において差が10ポイント以上であった。

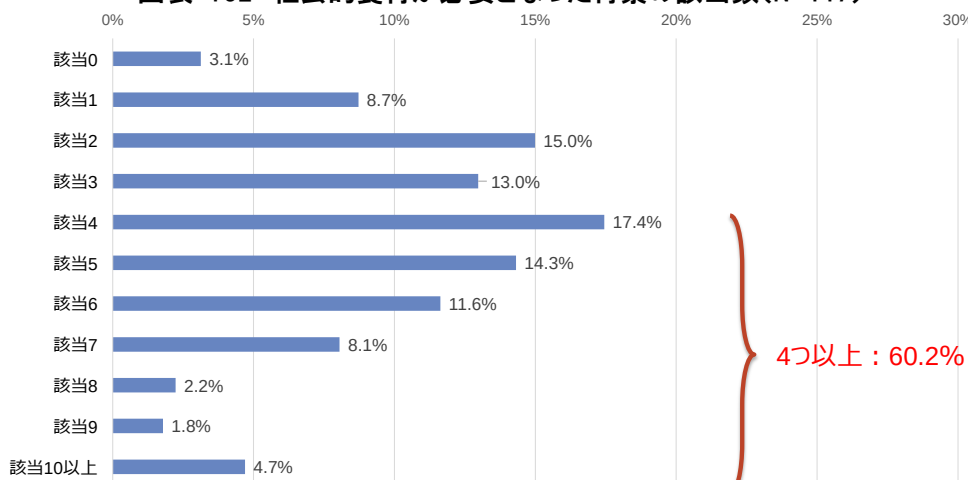
図表 151 社会的養育が必要となった背景【家族との関係への葛藤別】



<該当数の分布>

- 社会的養育を必要とした背景に該当する数は4つの割合が17.9%と最多であった。また、4つ以上該当する割合は60.2%であった。

図表 152 社会的養育が必要となった背景の該当数(N=447)



④養育を行う上で特別な配慮が必要な事項について

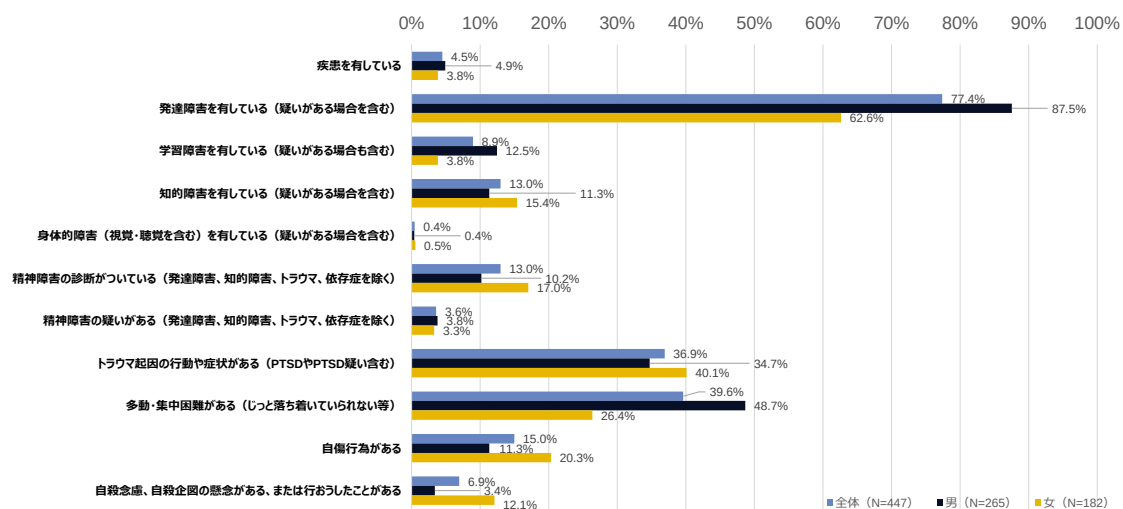
(a) 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮

- 全体では、「発達障害を有している」が 77.4%と最多、次いで「多動・集中困難がある」が 39.6%、「トラウマ起因の行動や症状がある」が 36.9%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別では「発達障害」「多動・集中困難」は男子の割合が 10 ポイント以上高く、性別による傾向の違いが見られた。

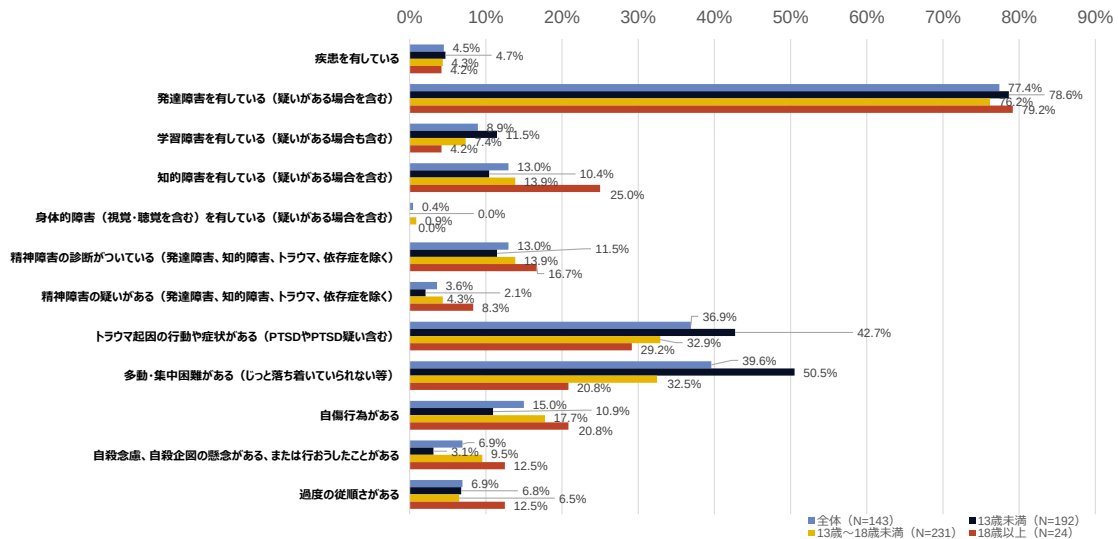
図表 153 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 「多動・集中困難」において、13歳未満年齢の方が他区分よりも10ポイント以上割合が高かった。

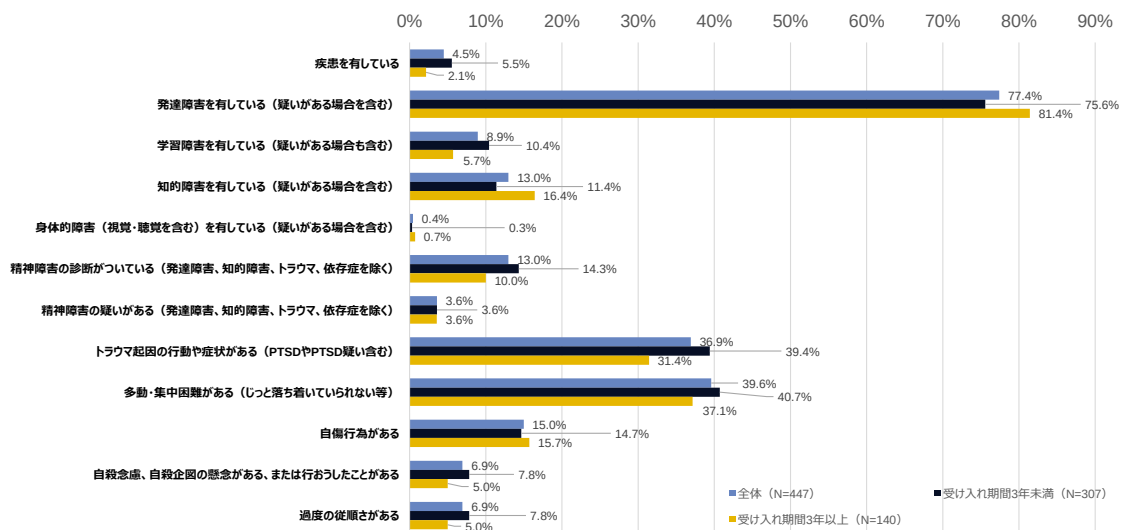
図表 154 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間による大きな傾向の違いは見られなかった。

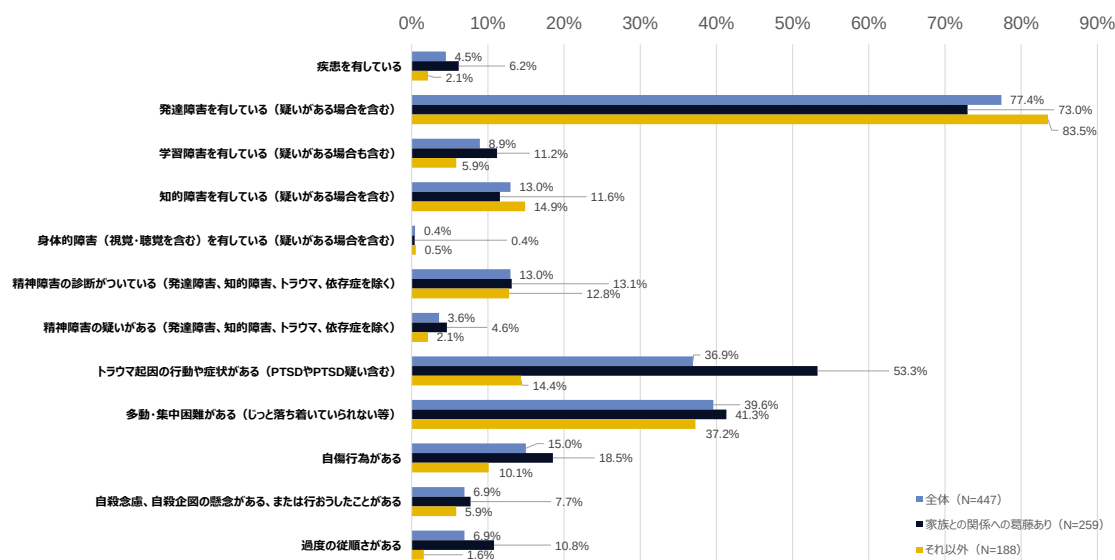
図表 155 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 「トラウマ起因の行動や症状がある」において、家族との関係に葛藤を抱えている方が、10 ポイント以上割合が高かった。

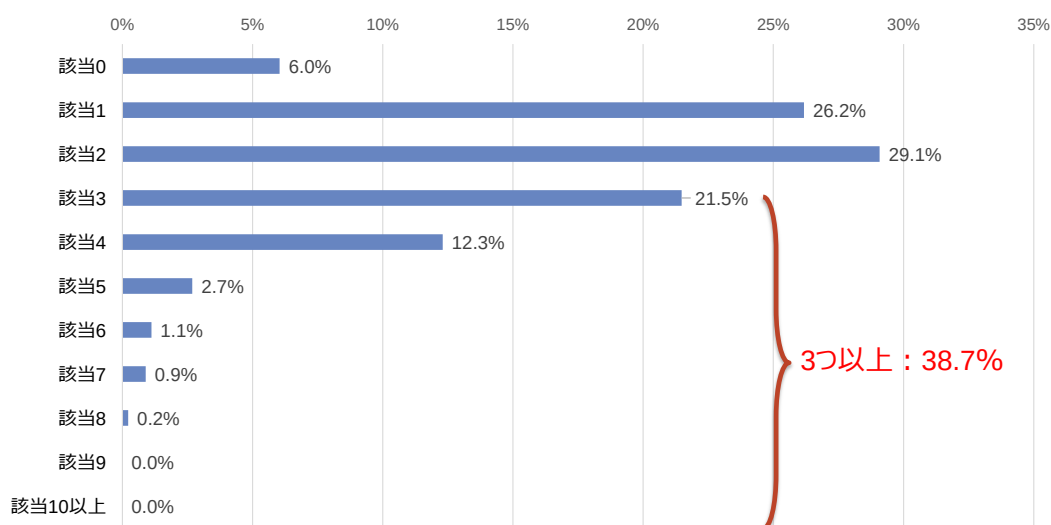
図表 156 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【家族との関係への葛藤別】



<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数【11 項目における該当数】>

- 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数は、2 つの割合が 29.1% と最多、3 つ以上該当する割合は 38.7% であった。

図表 157 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数【12 項目における該当数】(N=447)



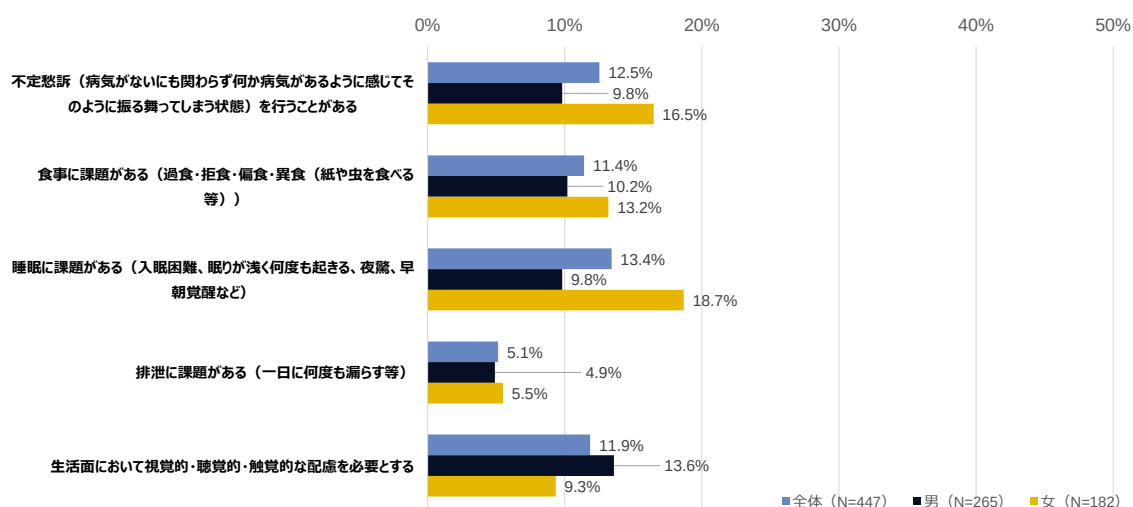
(b) 日常生活における課題等に関する特別な配慮

- 全体では「睡眠に課題がある」が13.4%と最多であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別での大きな傾向の違いは見られなかった。

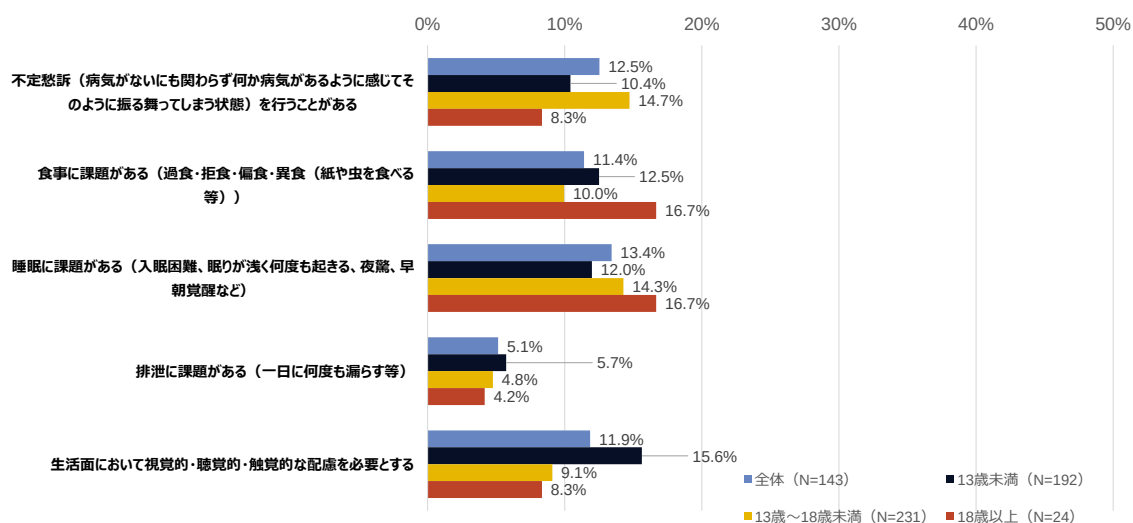
図表 158 日常生活における課題等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢区分別での大きな傾向の違いは見られなかった。

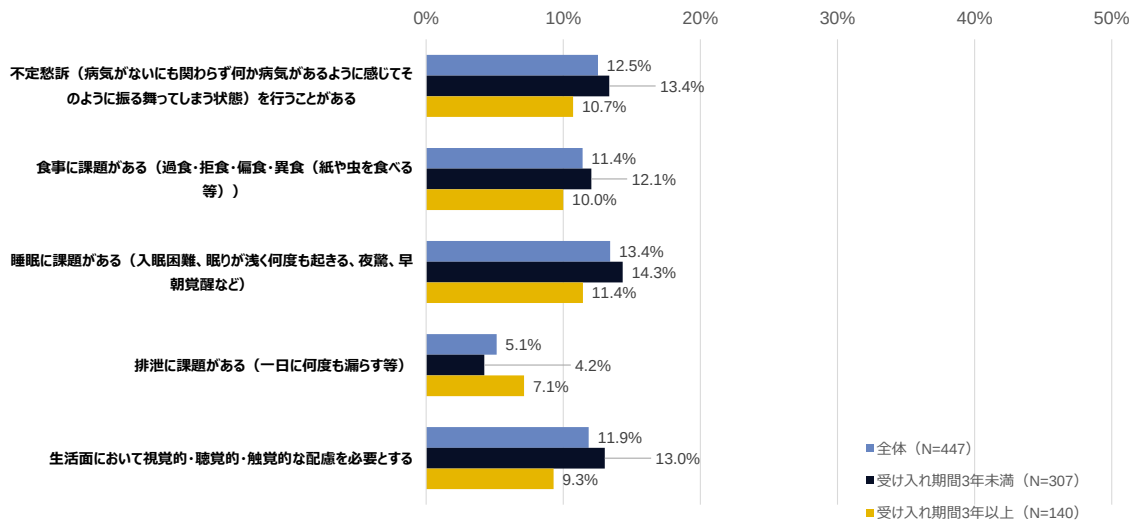
図表 159 日常生活における課題等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間による大きな傾向の違いは見られなかった。

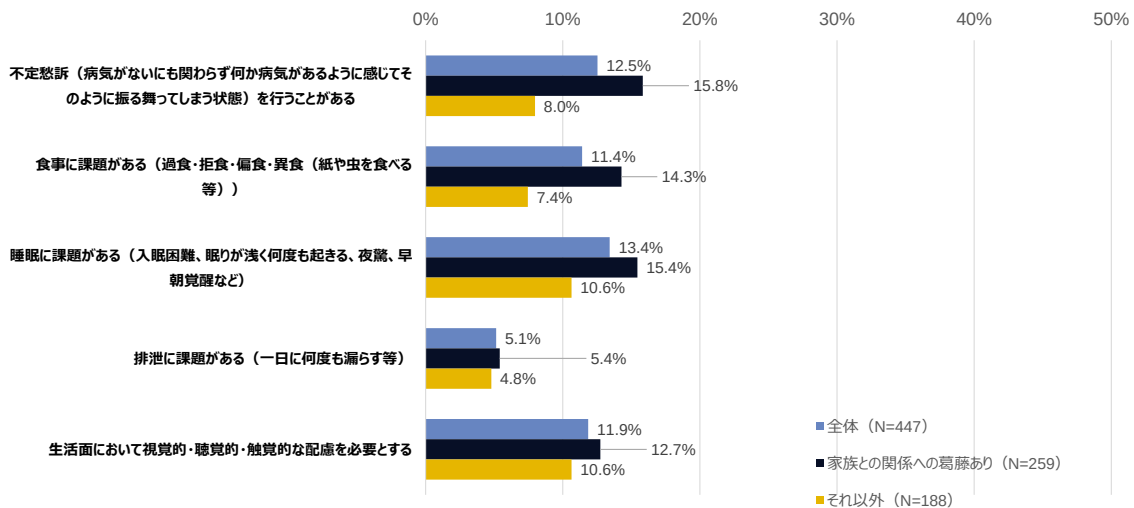
図表 160 日常生活における課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 家族との関係に葛藤を抱えている場合での割合の大きな傾向の違いは見られなかった。

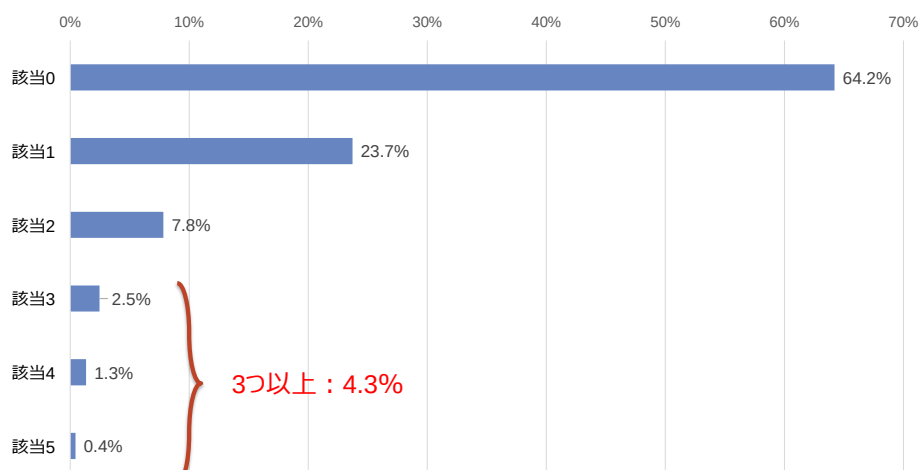
図表 161 日常生活における課題等に関する特別な配慮【家族との関係への葛藤別】



<日常生活における特別な配慮への該当数【8項目における該当数】>

学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数は、0の割合が64.2%と最多、3つ以上該当する割合は4.3%であった。

図表 162 日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数【5項目における該当数】
(N=447)



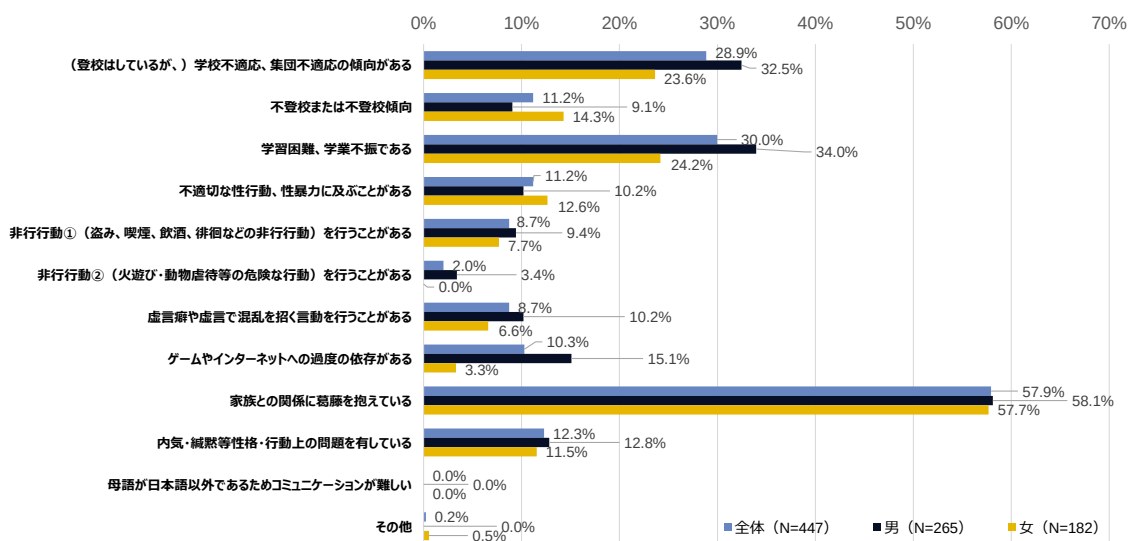
(c) 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮

- 全体では「家族との関係に葛藤を抱えている」が57.9%と最多、次いで「学習困難、学業不振である」が30.0%、「学校不適応、集団不適応」が28.9%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別での大きな傾向の違いは見られなかった。

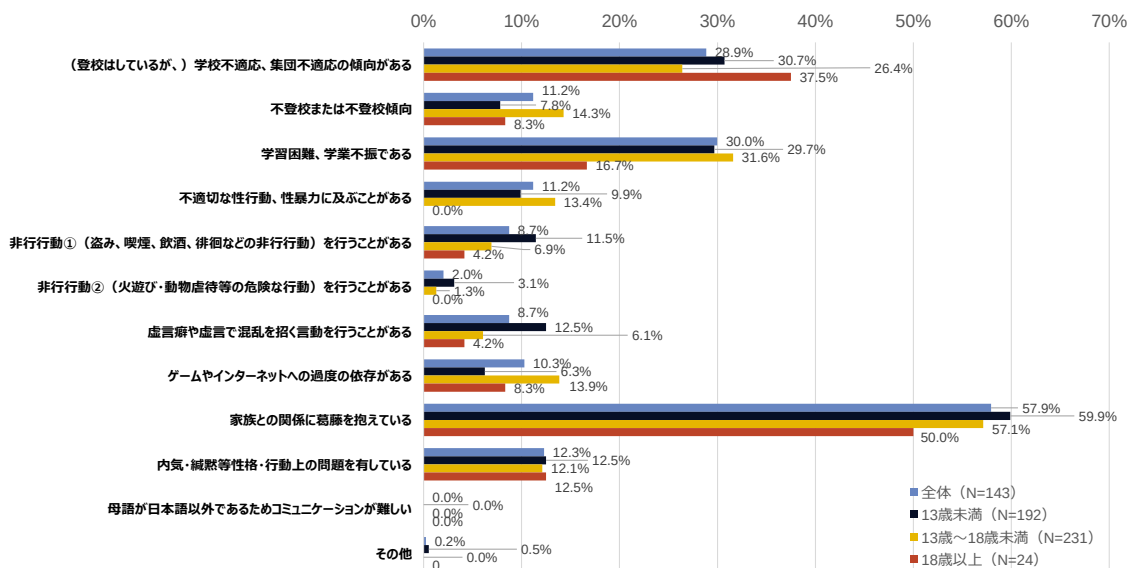
図表 163 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢による大きな傾向の違いは見られなかった。（18 歳以上は回答数が少ないため参考扱い）

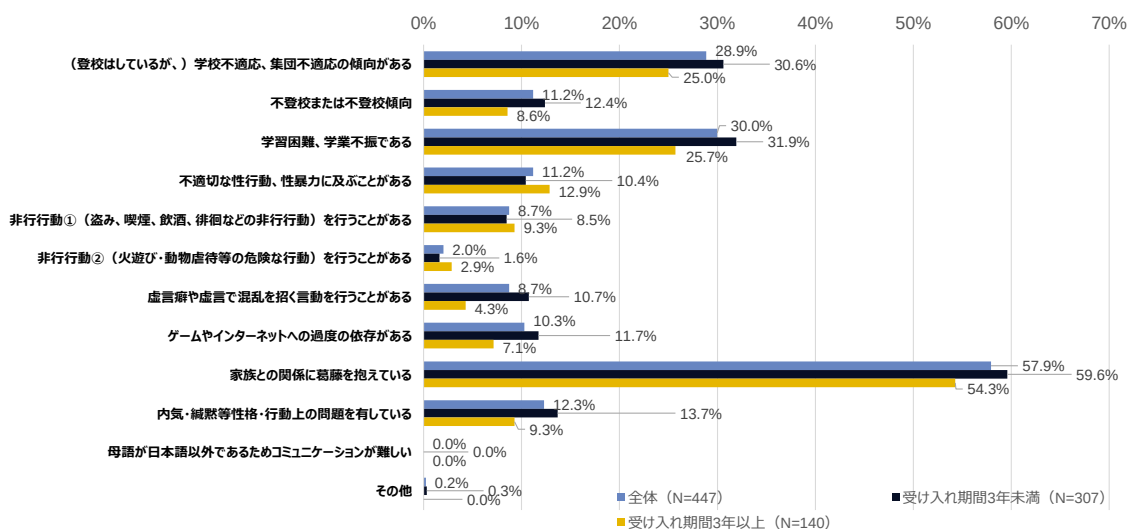
図表 164 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 「家族との関係に葛藤を抱えている」において、受け入れ期間が長い方が該当する割合が特に高かった。

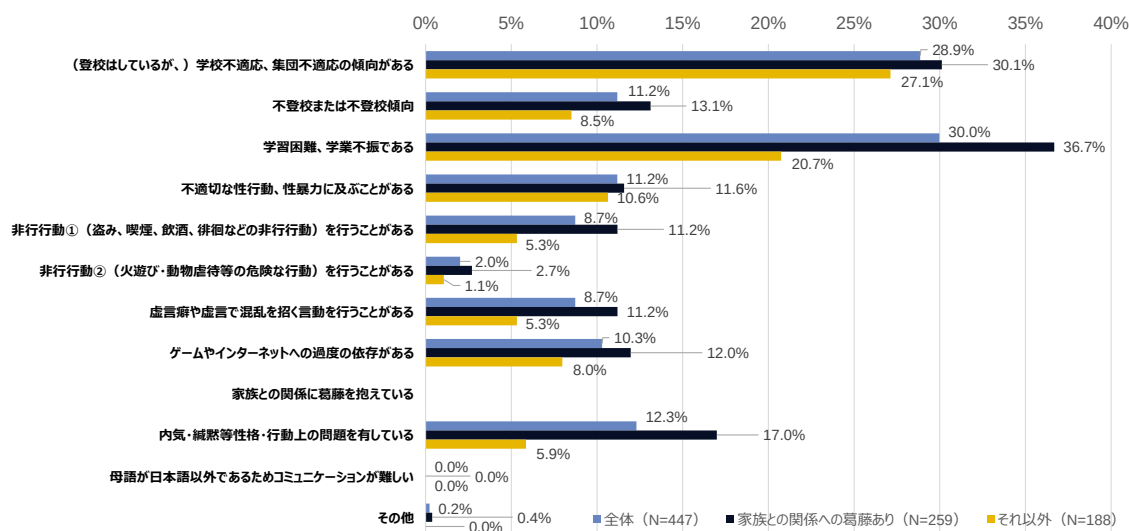
図表 165 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 家族との関係に葛藤を抱えている場合での割合の大きな傾向の違いは見られなかった。

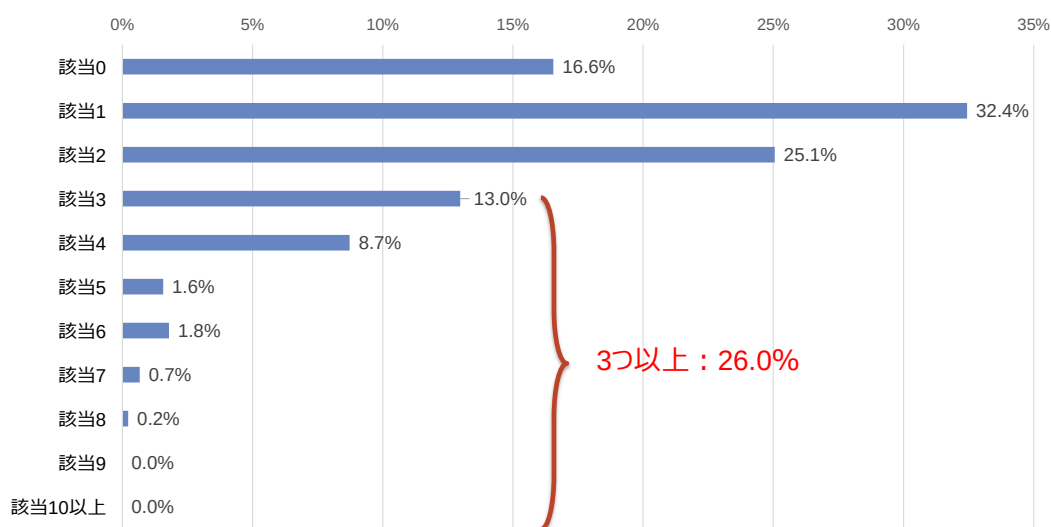
図表 166 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【家族との関係への葛藤別】



<学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数【12項目の該当数】>

- 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数は、1つの割合が32.4%と最多であった。一方、3つ以上該当する割合も26.0%であった。

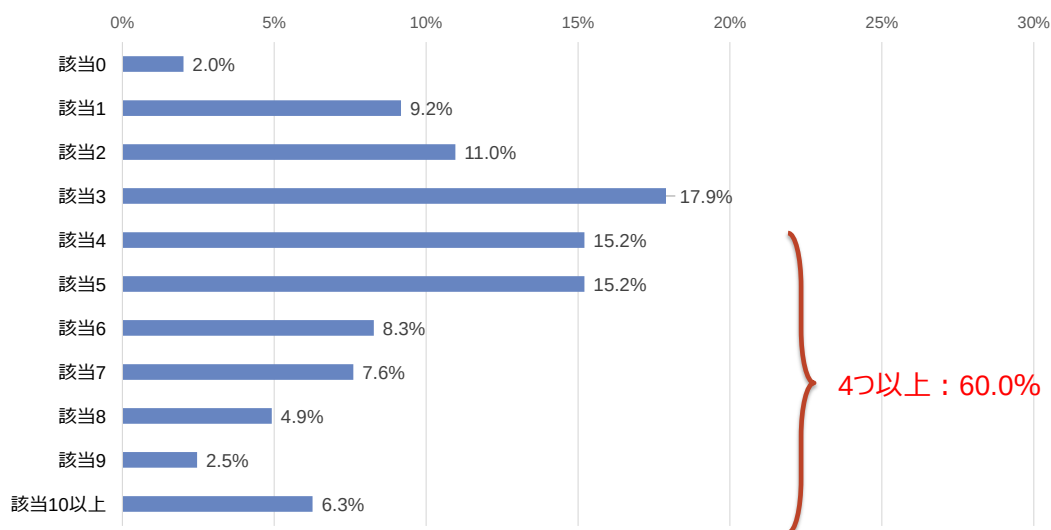
図表 167 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数【12項目における該当数】(N=447)



(d) 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数【全 31 項目における該当数】

- 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項は該当 3 つの割合が 17.9%と最多であり、4 つ以上該当する割合が 60.3%であった。

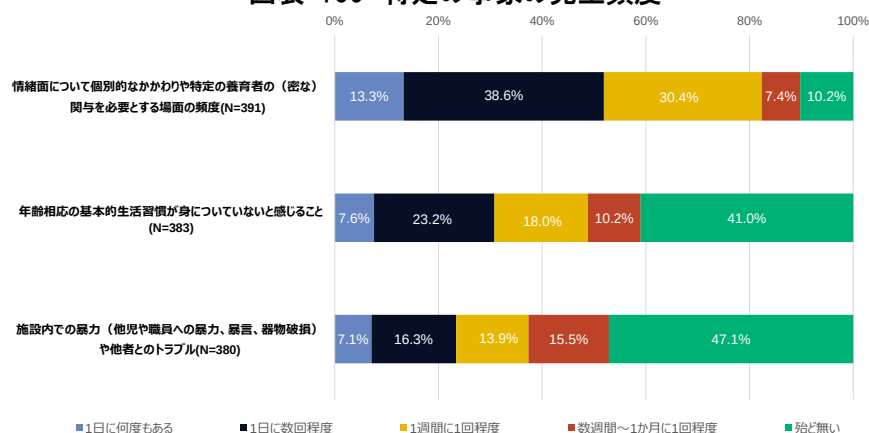
図表 168 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数【全 29 項目における該当数】
(N=447)



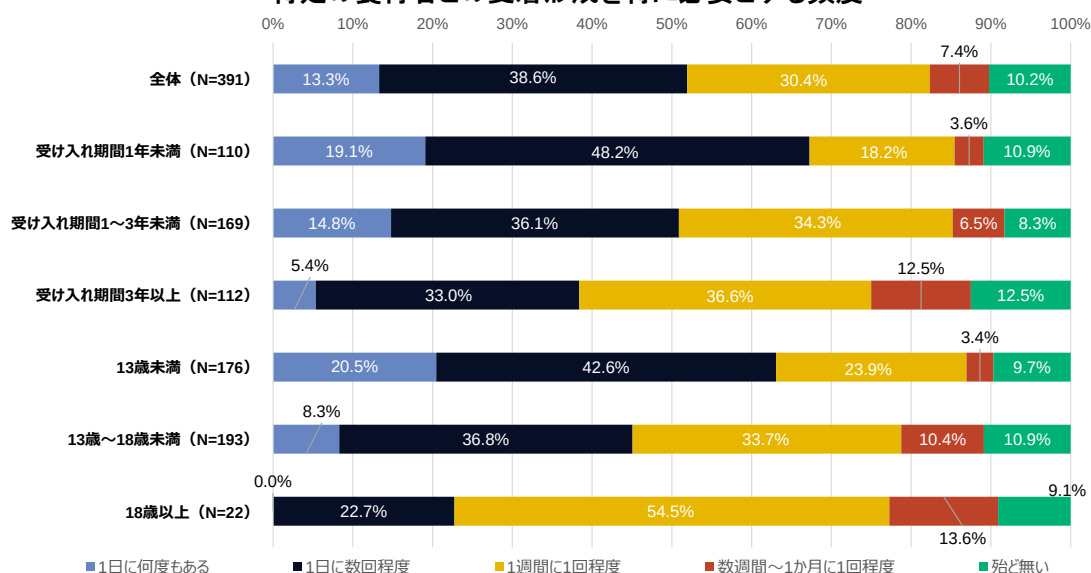
⑤ 特定の行動・事象の発生頻度

- 1 日に数回以上ある割合（「1 日に何度もある」と「1 日に数回程度」の合計）は特定の養育者の密な関与が 51.9%、年齢相応の基本的生活習慣が身についていないと感知することが 30.8%、施設内での暴力や他者とのトラブルが 23.4%であった。
- 特定の養育者の密な関与を必要とする頻度が 1 日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では 1 年未満が 53.3%、年齢別では 13 歳未満が 54.6%と最多であり、受け入れ期間・年齢による差が見られた。
- 年齢相応の基本的生活習慣が身についていないと感知する頻度が日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では 1 年未満が 38.0%、年齢別では 13 歳未満が 39.7%と最多であり、受け入れ期間・年齢による差が見られた。
- 施設内での暴力や他者とのトラブルが日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では 1 年未満が 36.7%、年齢別では 13 歳未満が 36.1%と最多であり、受け入れ期間・年齢による差が見られた。

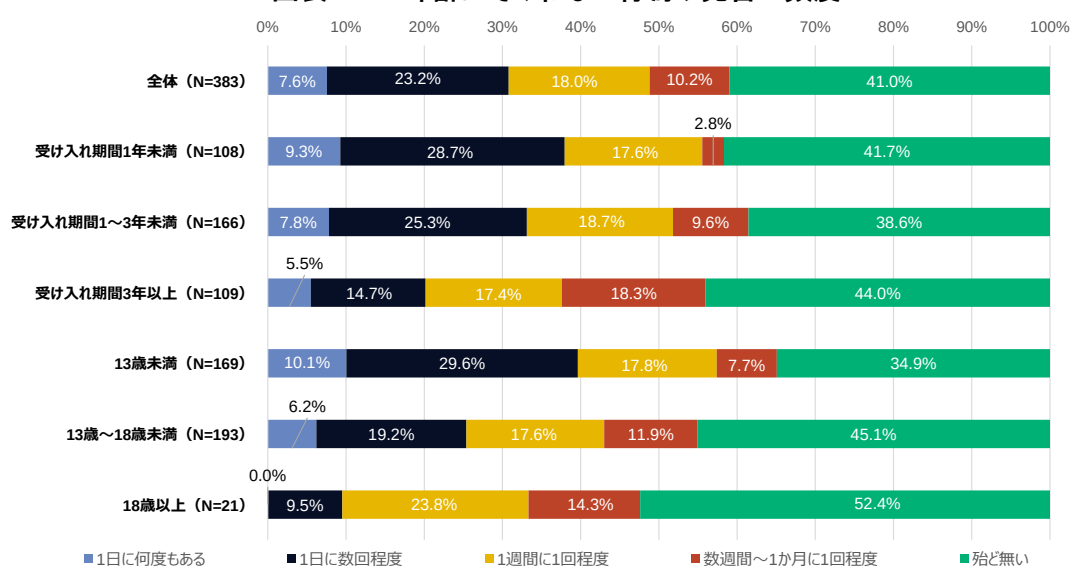
図表 169 特定の事象の発生頻度



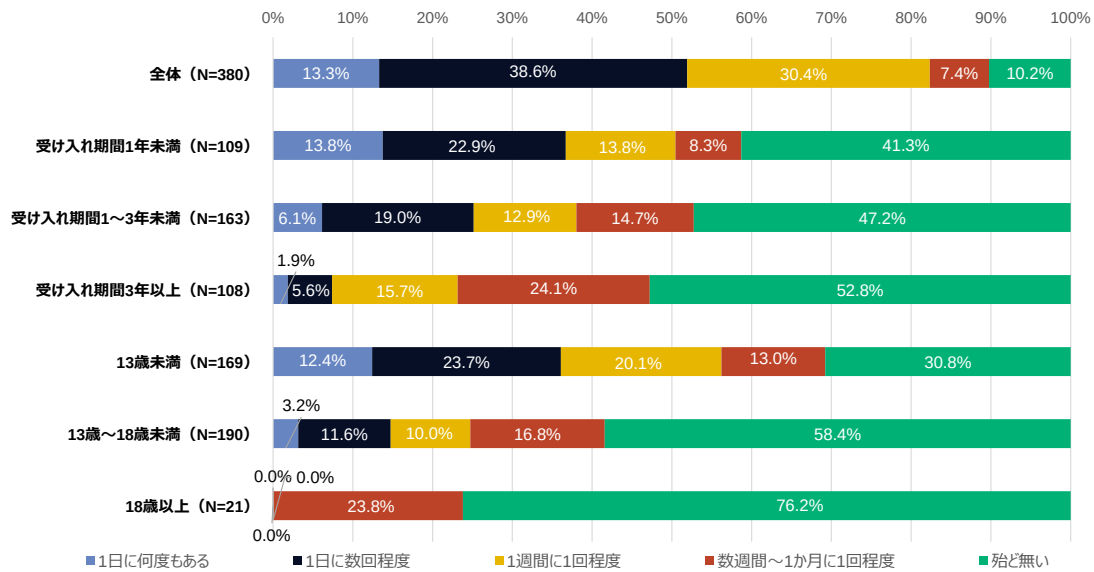
図表 170 愛着形成上の問題を有しており、情緒面について個別的なかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする頻度



図表 171 年齢にそぐわない行為や発言の頻度



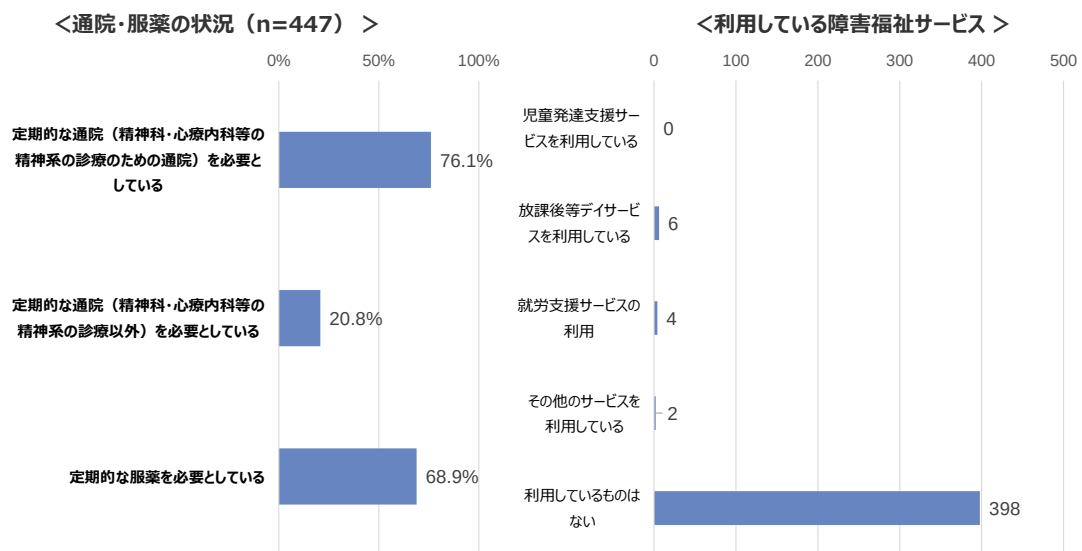
図表 172 施設内の暴力や他者とのトラブルの頻度



⑥通院・服薬、外部サービスの利用状況

- 定期的な通院（精神科・心療内科等）を必要としている割合は 76.1%、服薬を必要としている割合は 68.9%であった。
- 利用している障害福祉サービスは「利用しているものはない」が 398 人と最多であった。

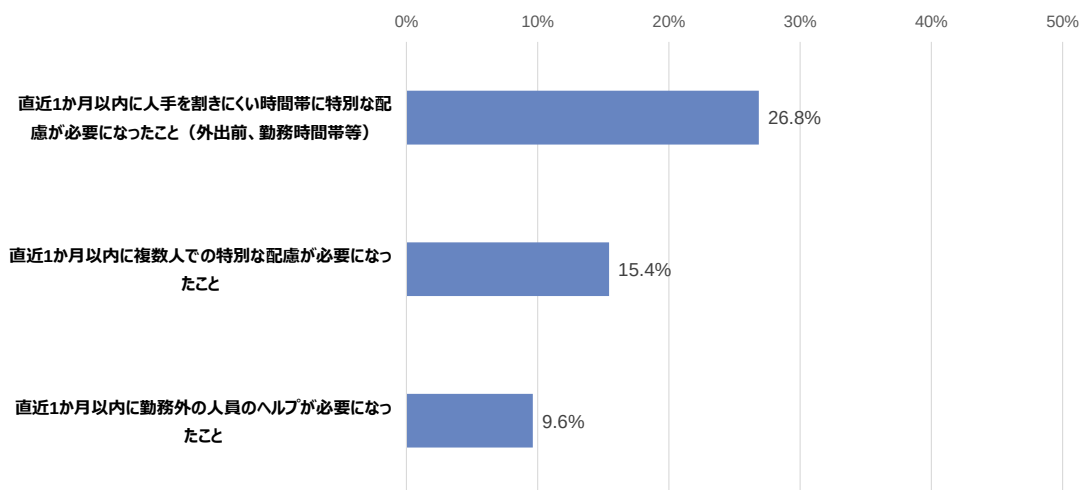
図表 173 通院・服薬、外部サービスの利用状況



⑦時間外や複数人での対応が必要になったケース

- それぞれ一定発生している状況であった。

図表 174 時間外や複数人での対応が必要になったケース(N=447)



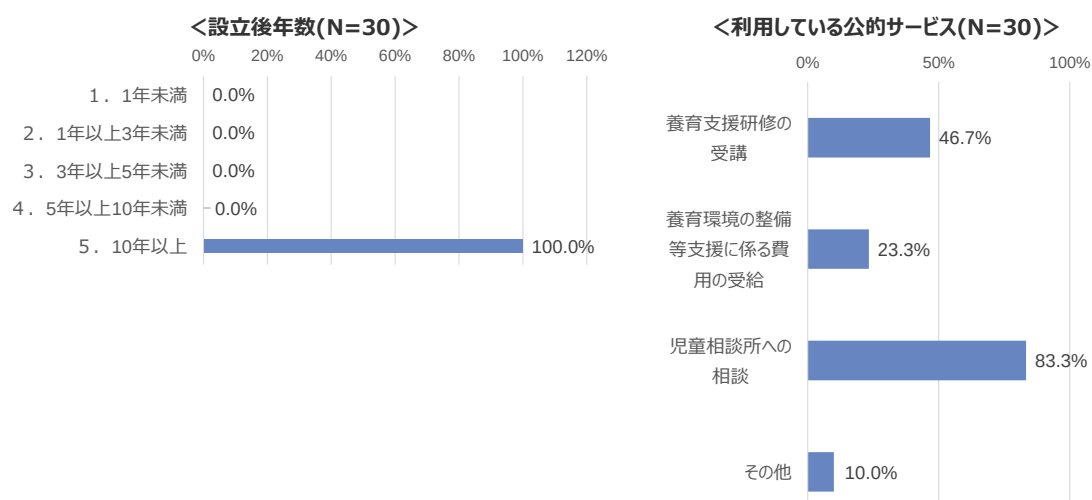
(6)児童自立支援施設の結果

ア)基礎情報

①基本情報

- 設立年数は、全施設が設立後 10 年以上であった。
- 利用している公的サービスは、「児童相談所への相談」が 83.3%と最多、次いで「養育支援研修の受講」が 46.7%であった。

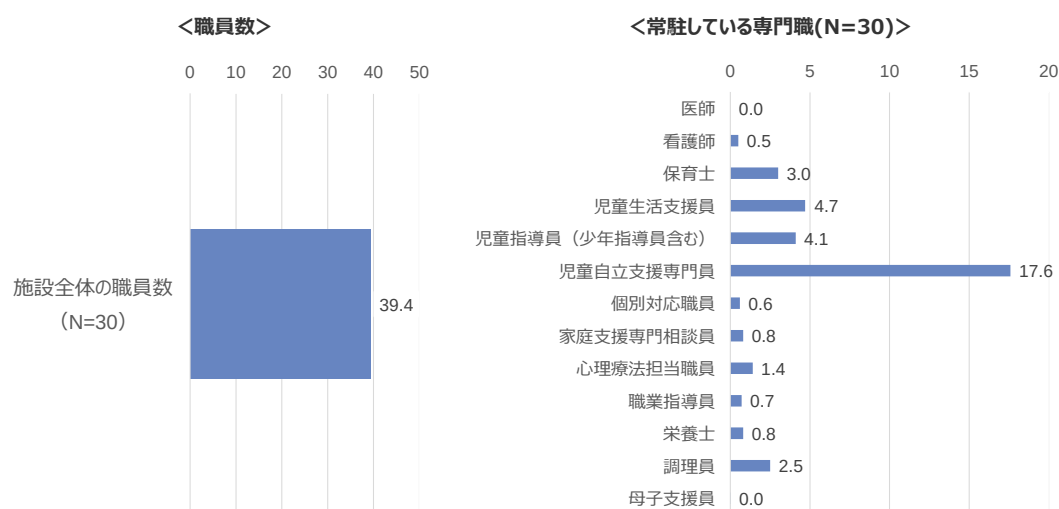
図表 175 施設の基本情報



②職員の状況

- 職員数は全体では平均で 39.4 人であった。
- 専門職は児童自立支援専門員が 17.6 人と最多、次いで児童生活指導員 4.7 人、児童指導員（少年指導員も含む）が 4.1 人、保育士 3.0 人だった。

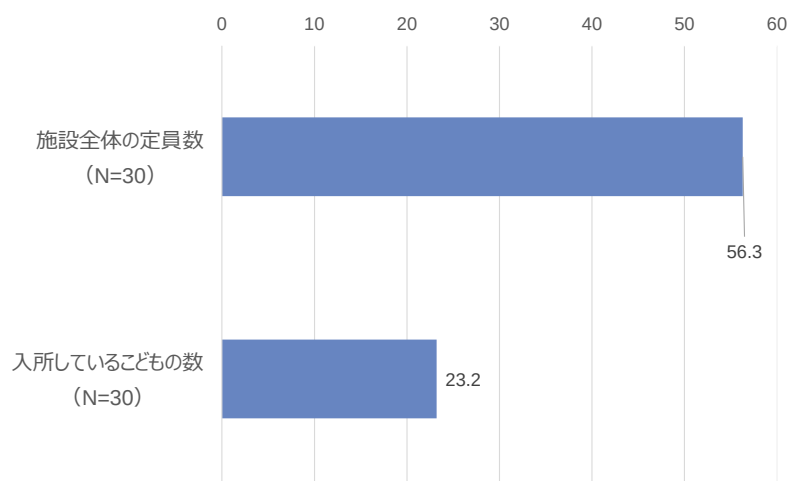
図表 176 施設の職員、専門職の状況



③入所児童の状況

- 定員 56.3 人に対して、入所している児童は 23.2 人であった。

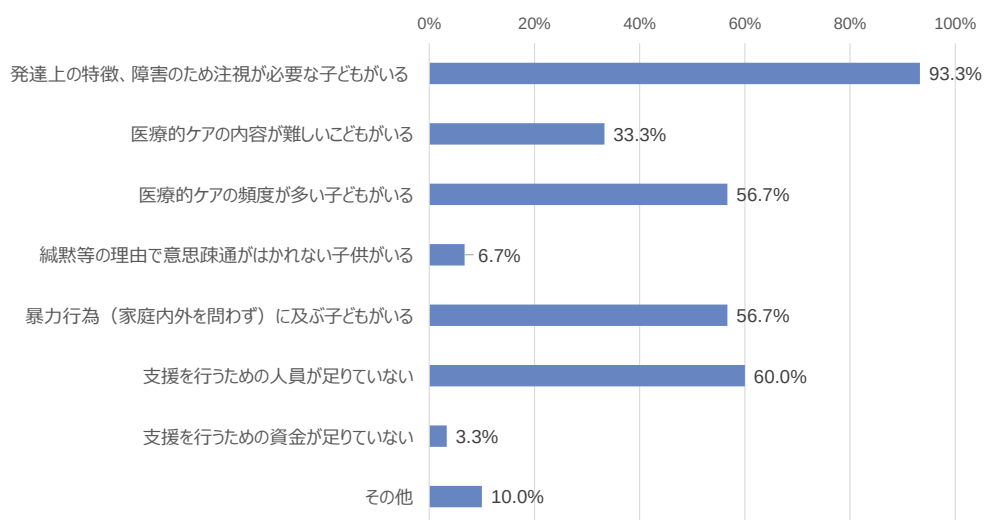
図表 177 施設の定員・入所児童の状況



④現在子どもの支援を行う上で苦勞していること

- 「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」が 93.3%と最多、次いで「支援を行うための人員が足りていない」が 60.0%であった。

図表 178 現在子どもの支援を行う上で苦勞していること (N=30)

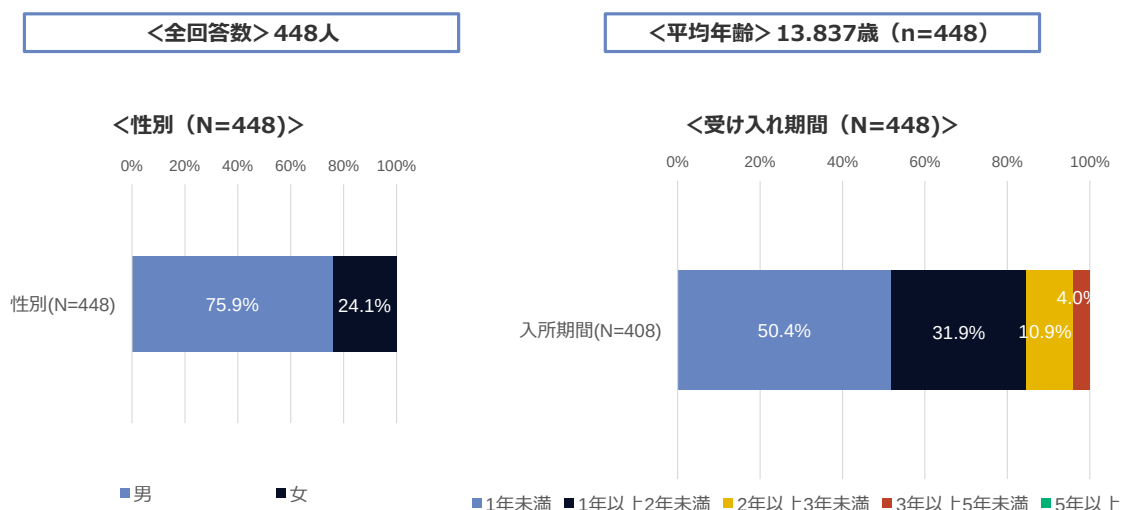


イ)入所児童の状況

①入所児童の基本情報

- 入所児童の個票について 448 人分の回答があり、平均年齢は 13.8 歳であった。
- 性別は男 75.9%、女 24.1%、受け入れ期間は 1 年未満が 50.4%と最多、次いで 1 年以上 3 年未満が 31.9%であった。

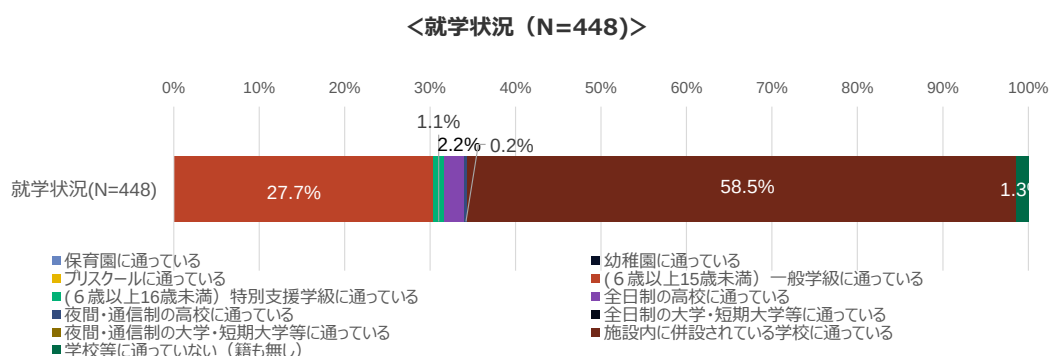
図表 179 入所児童の基本情報



②就学・就労状況

- 就学状況は「施設内に併設されている学校に通っている」が 58.5%と最多、次いで「(6 歳以上 15 歳未満)一般学級に通っている」が 27.7%であった。「特別支援学級に通っている」「全日制の高校に通っている」「学校等に通っていない (籍も無し)」はそれぞれ 1%程度だった。

図表 180 就労の状況



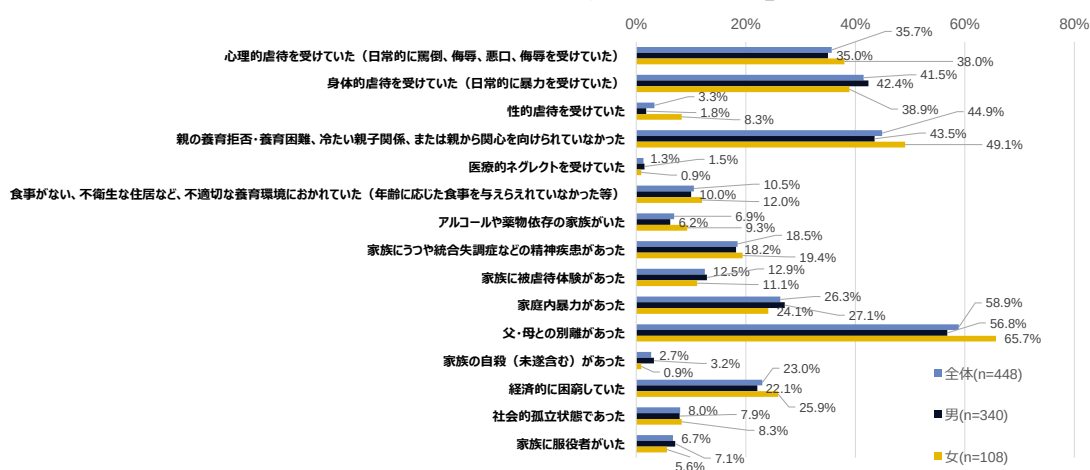
③社会的養育が必要となった背景

- 全体では「父・母の別離があった」が 58.9%と最多、次いで「親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった」が 44.9%、「身体的虐待を受けていた（日常的に暴力を受けていた）」は 41.5%だった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別による大きな傾向の違いは見られなかった。

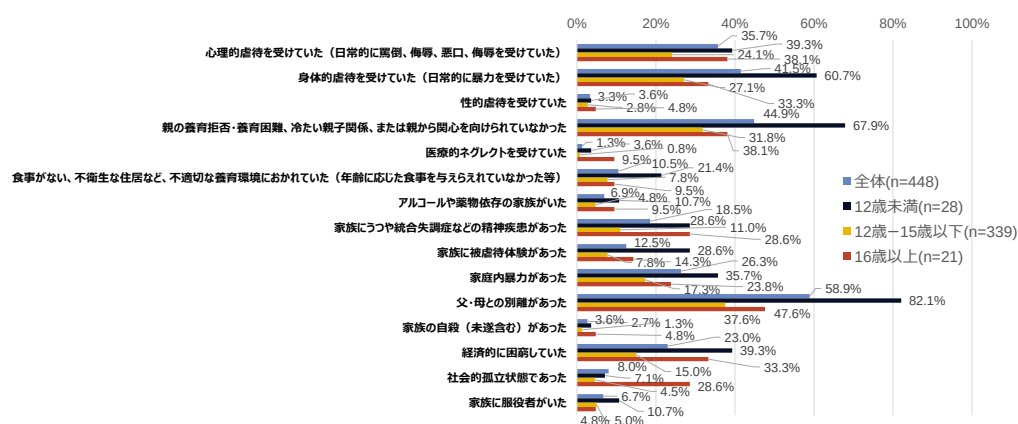
図表 181 社会的養育が必要となった背景【男女別】



<年齢区分別>

- 「身体的虐待を受けていた（日常的に暴力を受けていた）」「親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった」「父・母の別離があった」で12歳未満の方の割合が10ポイント以上高かった。

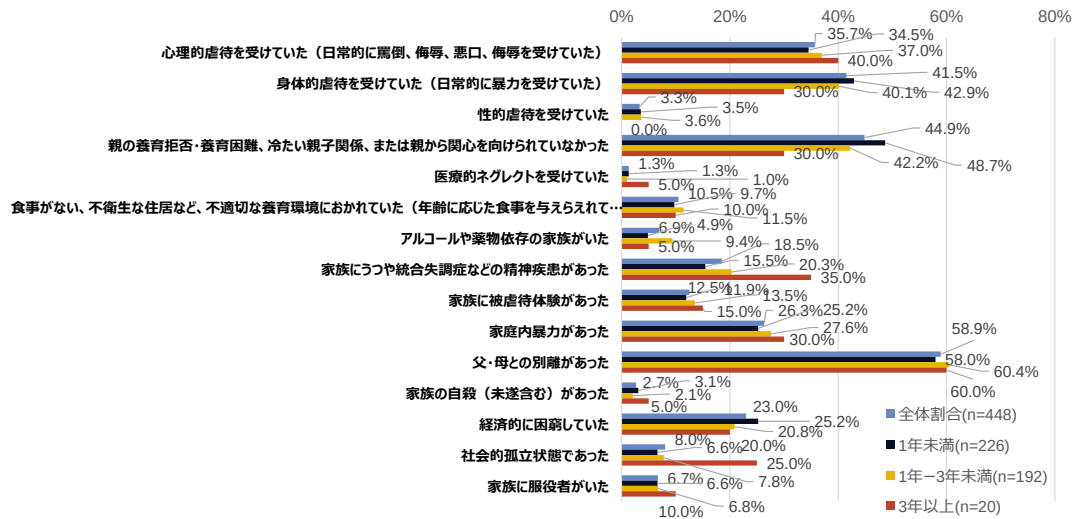
図表 182 社会的養育が必要となった背景【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間別で大きな傾向の違いは見られなかった。

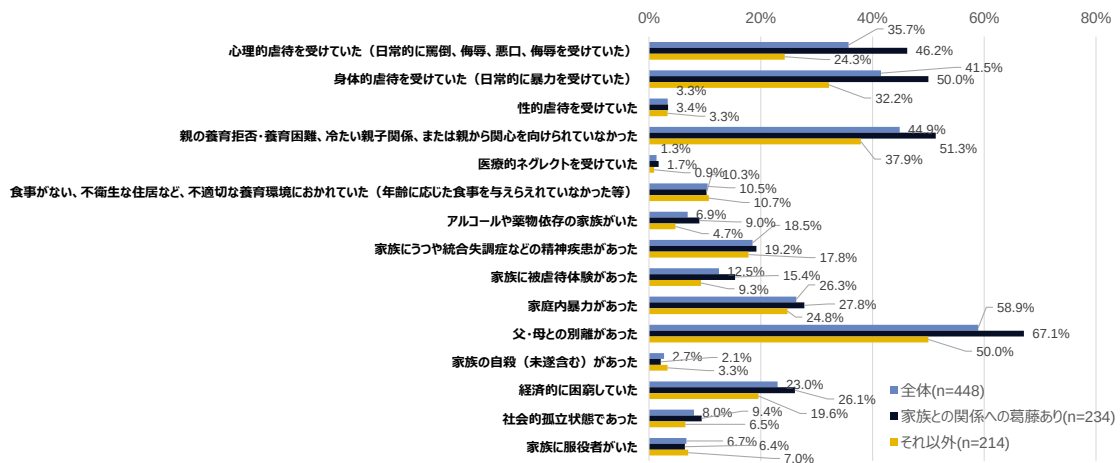
図表 183 社会的養育が必要となった背景【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 「心理的虐待を受けていた」「身体的虐待を受けていた」「親の養育拒否」「父・母との別離があった」において、家族との関係への葛藤がある方が 10 ポイント以上高かった。

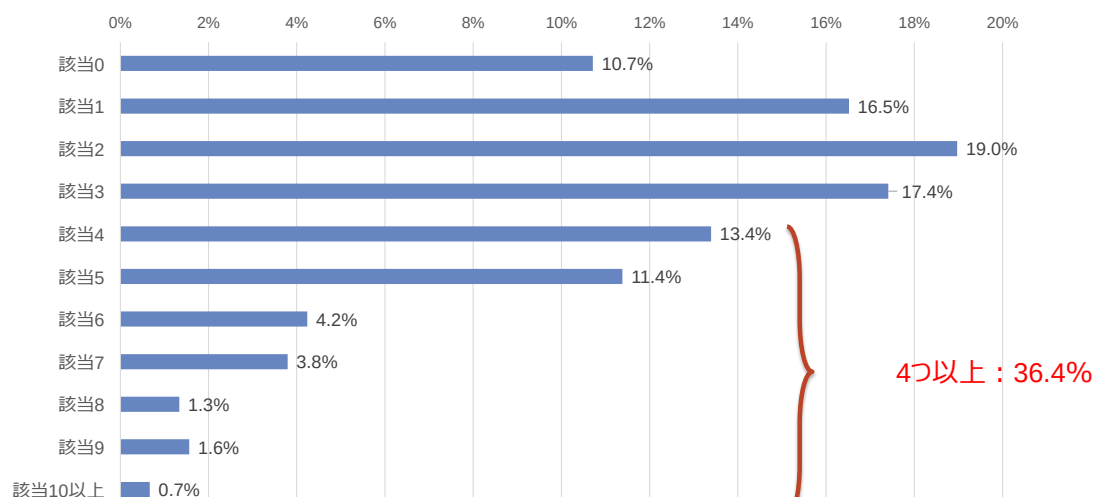
図表 184 社会的養育が必要となった背景【家族との関係への葛藤別】



<該当数の分布>

- 社会的養育を必要とした背景に該当する数は 2 つの割合が 19.0%と最多であった。また、4 つ以上該当する割合は 36.4%であった。

図表 185 社会的養育が必要となった背景の該当数 (N=448)



④養育を行う上で特別な配慮が必要な事項について

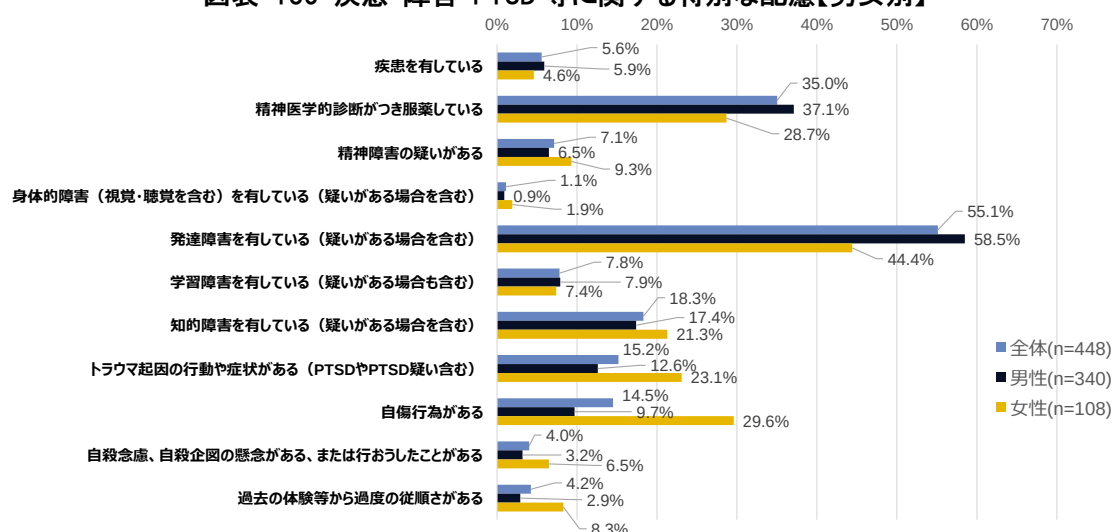
(a) 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮

- 全体では「発達障害を有している」が 55.1%と最多、次いで「精神医学的診断がつき服薬している」が 35.0%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 「自傷行為がある」では女子の割合が 10 ポイント以上高かった。

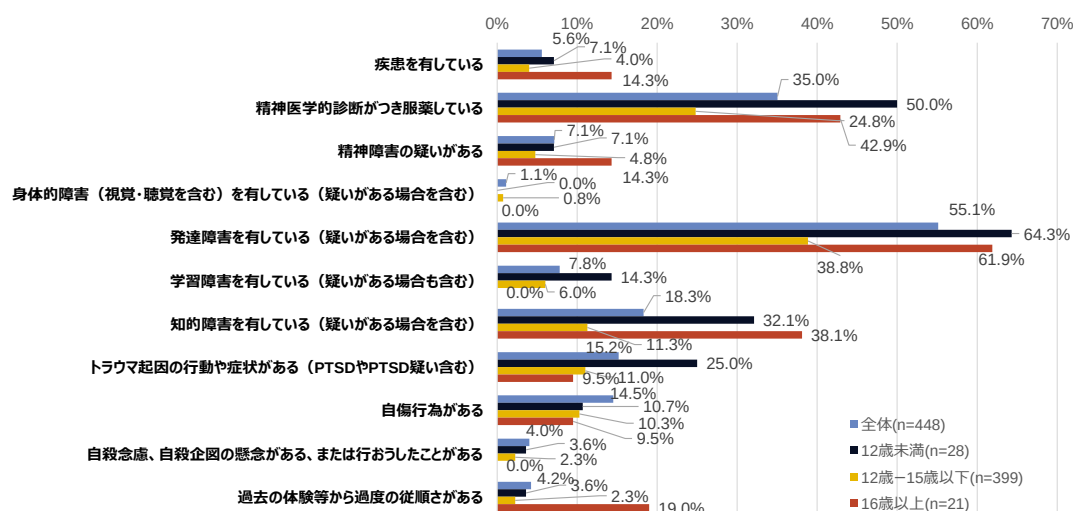
図表 186 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 「精神医学的診断がつき服薬している」「知的障害を有している」「トラウマ起因の行動や症状がある」で12歳未満、16歳以上の方の割合が10ポイント以上高かった。
- 「過去の体験等から過度の従順さがある」で16歳以上の方の割合が10ポイント以上高かった。

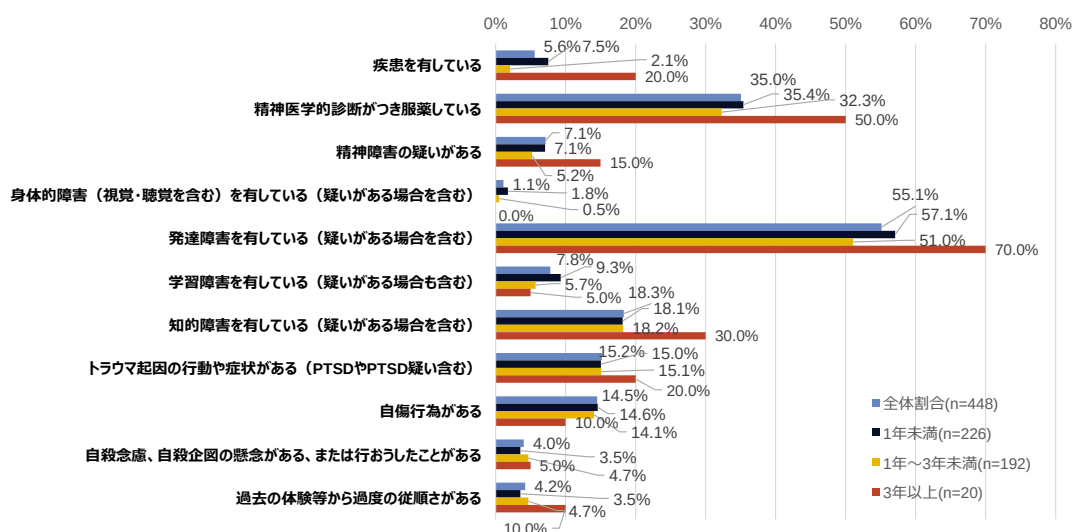
図表 187 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 「精神医学的診断がつき服薬している」、「発達障害を有している」と「知的障害を有している」は受け入れ期間3年以上の方の割合が10ポイント以上高かった。
-

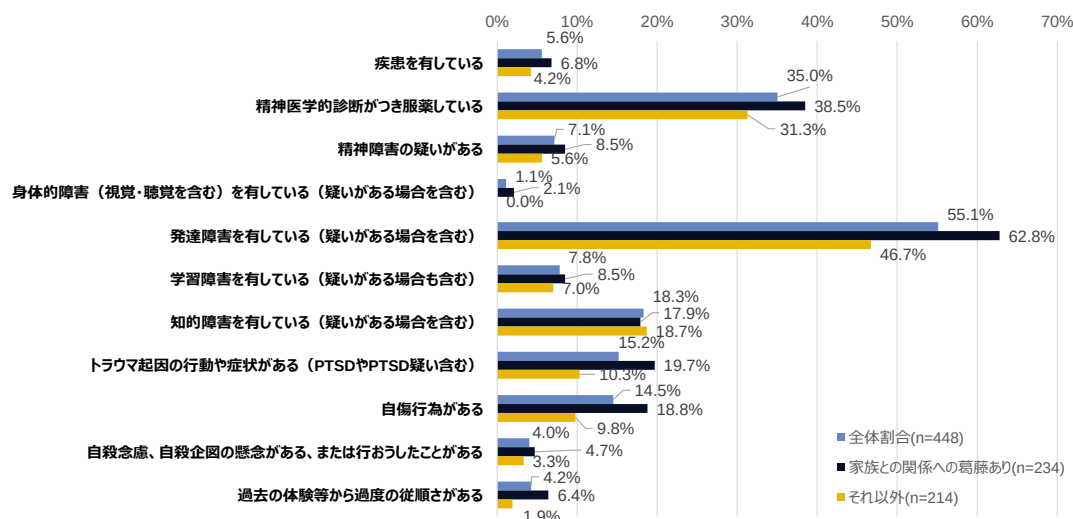
図表 188 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 家族との関係の葛藤別による大きな傾向の違いは見られなかった。

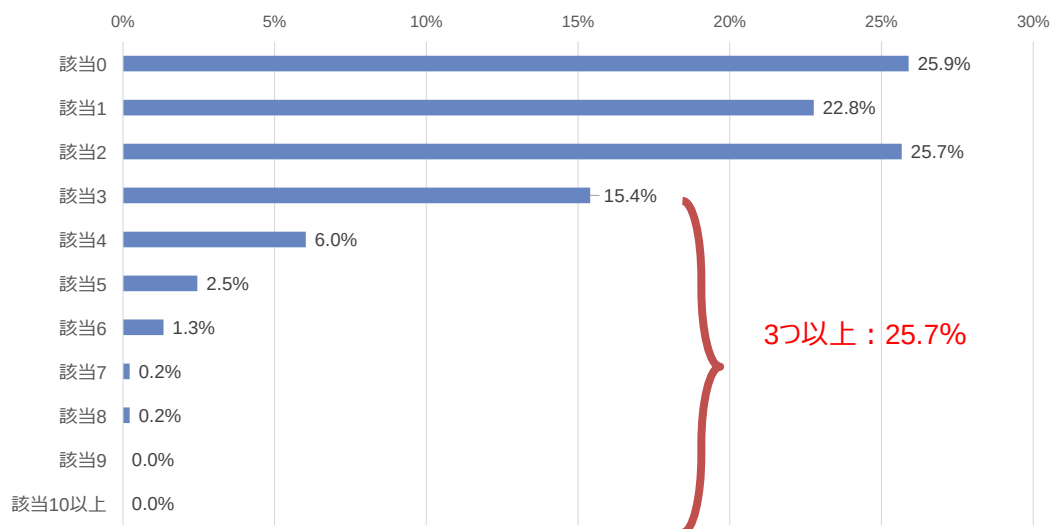
図表 189 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【家族との関係への葛藤別】



<疾患障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数【11 項目における該当数】>

- 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数は、0 の割合が 25.9%と最多、次いで 1 つが 25.7%であった。一方、3 つ以上該当する割合は 25.7%であった。

図表 190 疾患障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数（N=448）



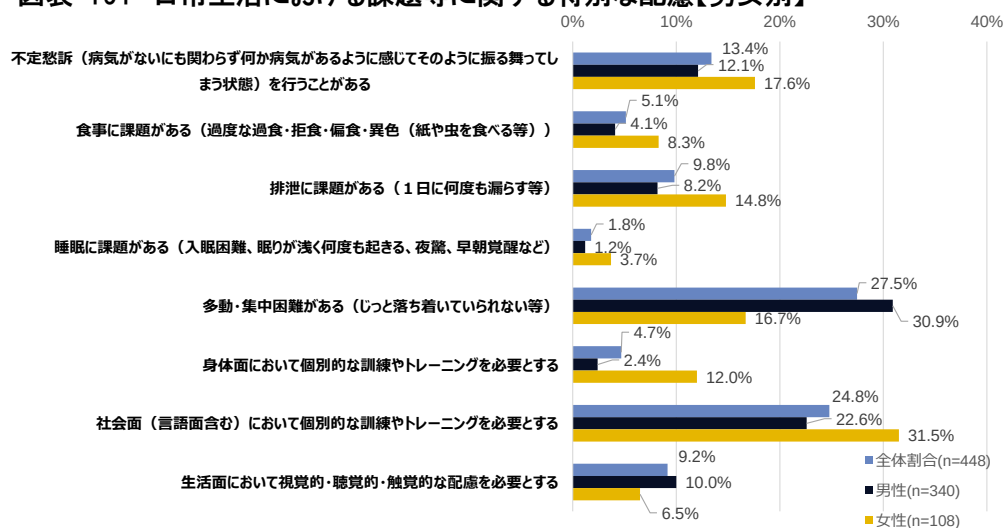
(b) 日常生活における課題等に関する特別な配慮

- 全体では「多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等）」が 27.5%で最多、次いで「社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする」が 24.8%だった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別では、「多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等）」で男子の方の割合が 10 ポイント以上高かった。

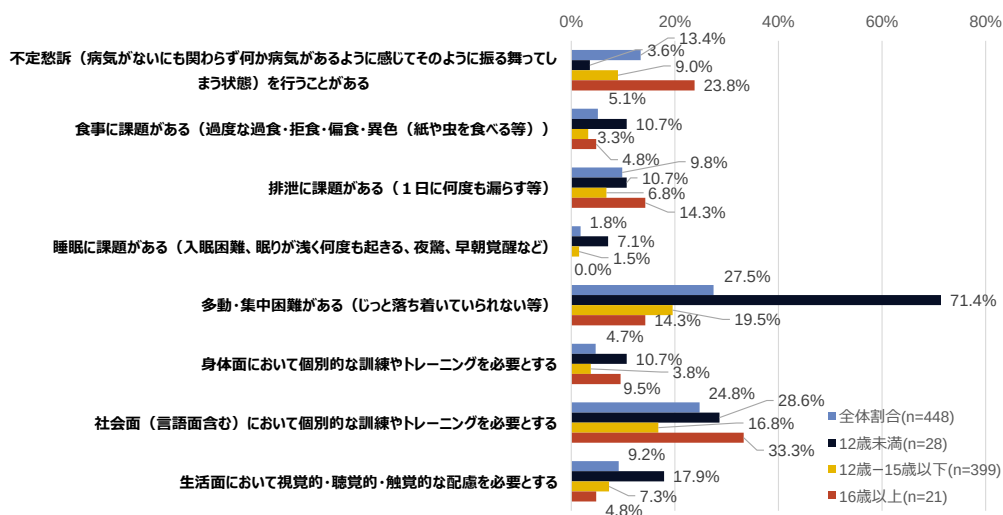
図表 191 日常生活における課題等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 「多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等）」は12歳未満の方の割合が10ポイント以上高かった。

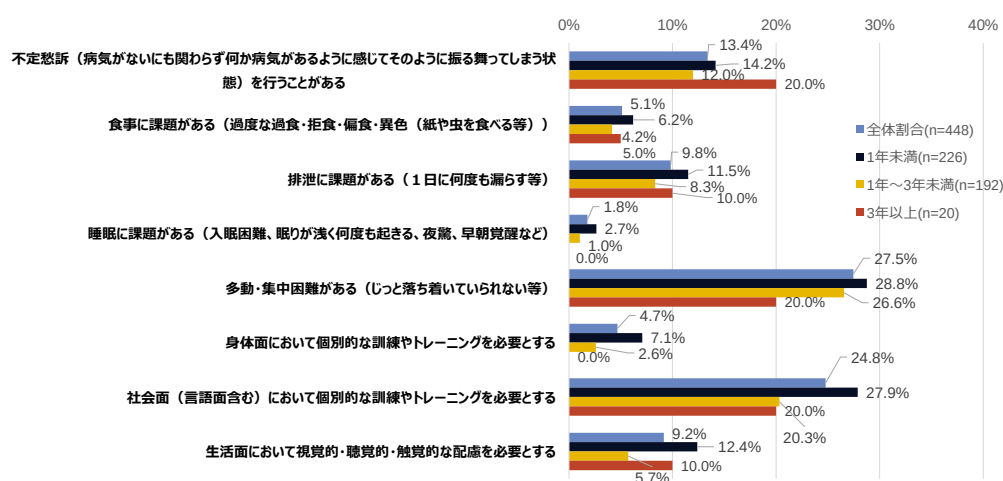
図表 192 日常生活における課題等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間別での大きな傾向の違いは見られなかった。

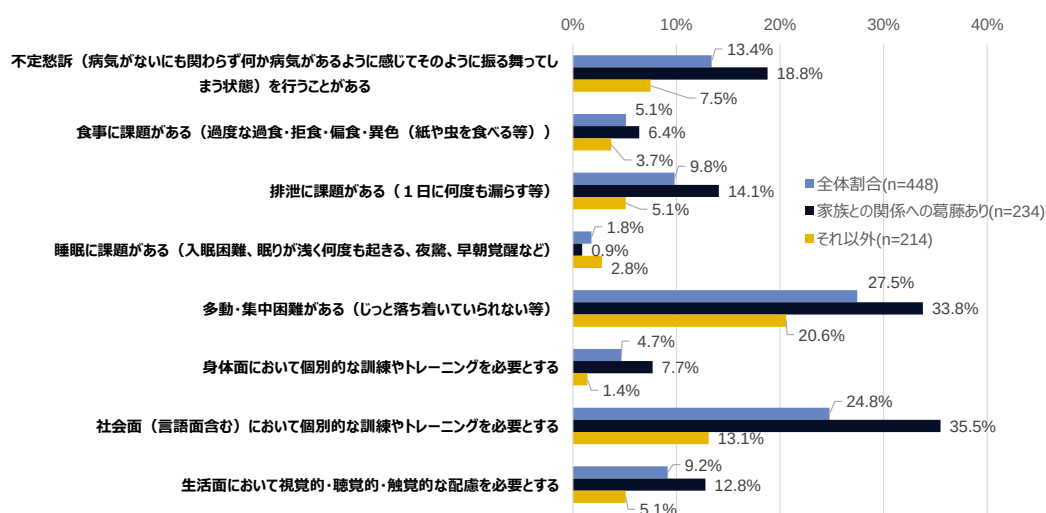
図表 193 日常生活における課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 「社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする」で家族との関係への葛藤がある方の割合が 10 ポイント以上高かった。

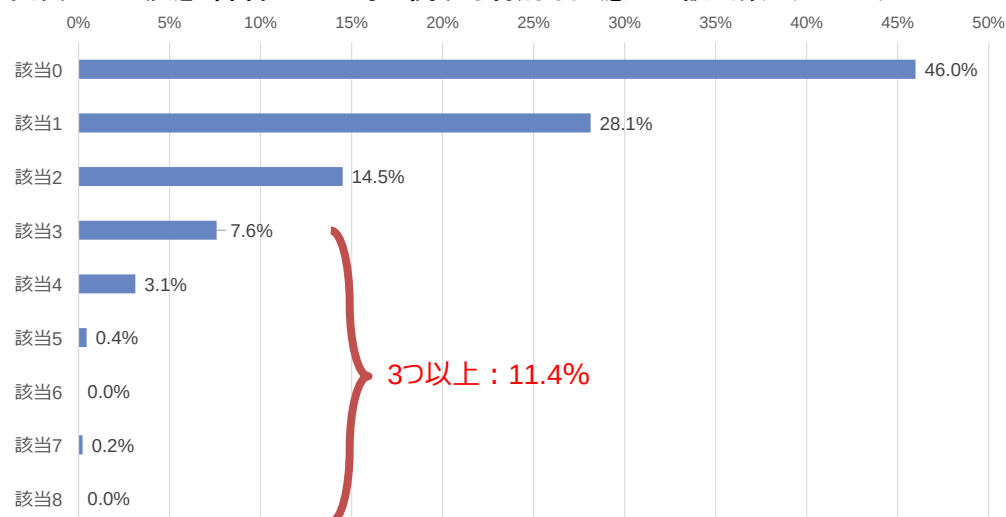
図表 194 日常生活における課題等に関する特別な配慮【家族との関係への葛藤別】



<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数【8 項目における該当数】>

- 日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数は、0 の割合が 46.0%と最多、次いで 1 つが 28.1%であった。3 つ以上該当する割合は 11.4%だった。

図表 195 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数（N=448）



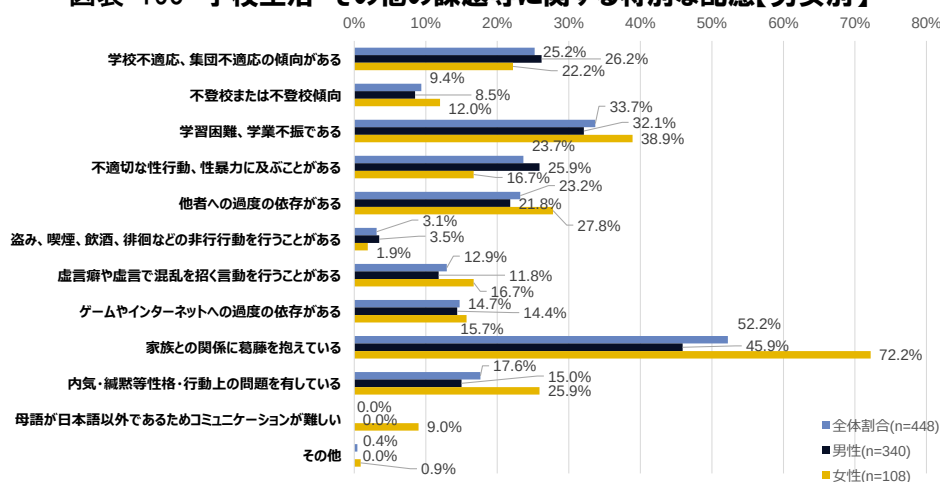
(c) 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮

- 全体では「家族との関係に葛藤を抱えている」が 52.2%と最多、次いで「学習困難、学業不振である」が 33.7%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 「家族との関係に葛藤を抱えている」で女子の方の割合が 10 ポイント以上高かった。

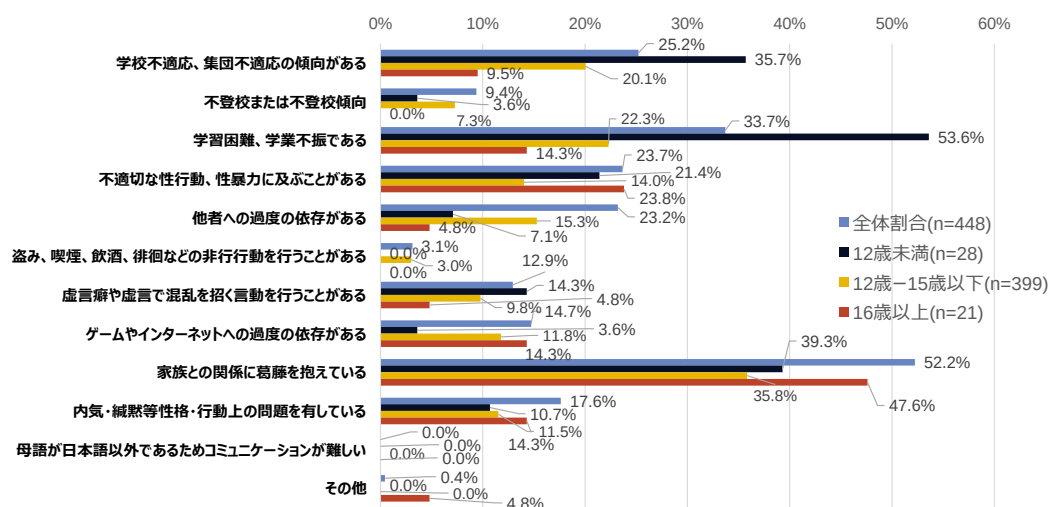
図表 196 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 「学習困難、学業不振である」で 12 歳未満の方の割合が 10 ポイント以上高かった。12 歳～15 歳以下の場合は「家族との関係に葛藤を抱えている」で 16 歳以上の割合は 12 歳未満、12 歳～15 歳以下よりも 10 ポイント以上高かった。

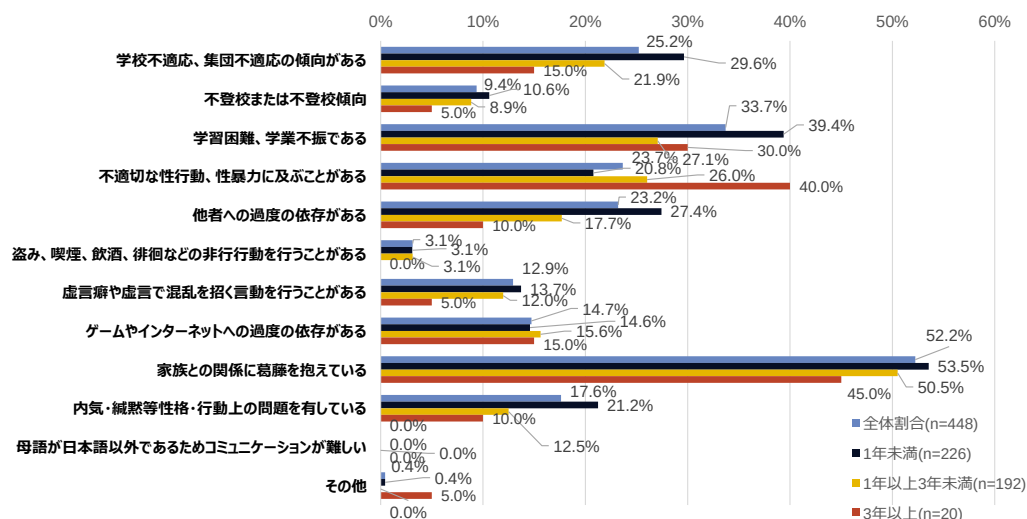
図表 197 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 「不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある」は3年以上の方の割合が10ポイント以上高かった。

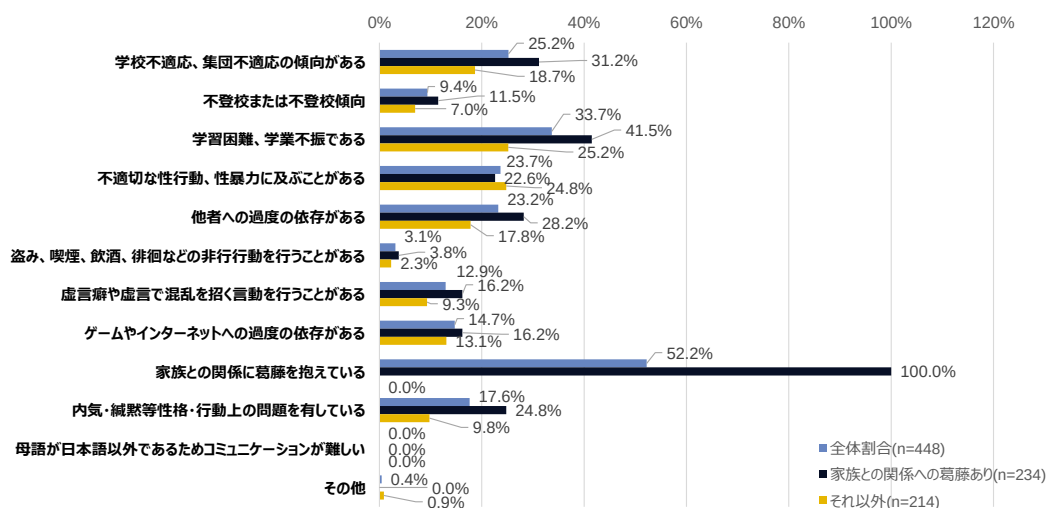
図表 198 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 家族との関係への葛藤別では大きな傾向の違いは見られなかった。

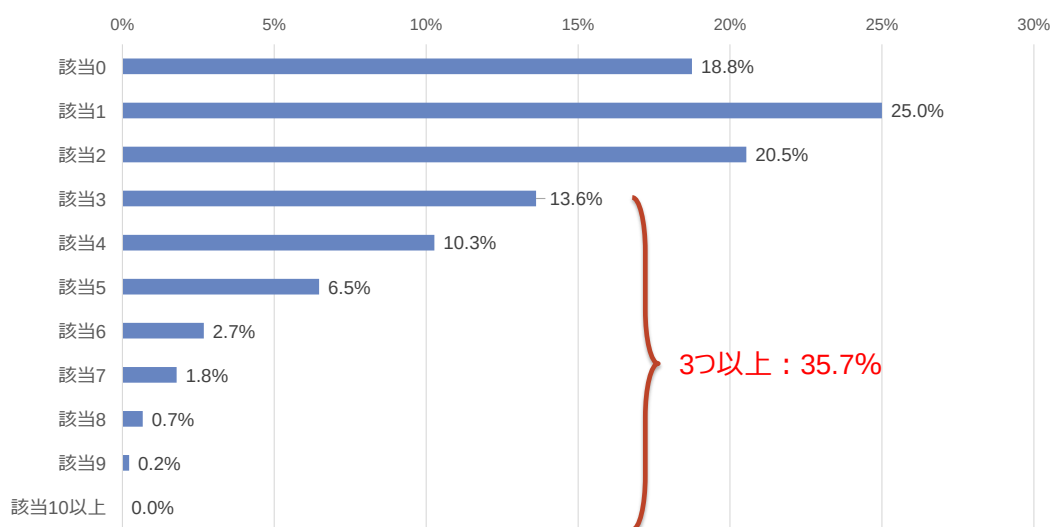
図表 199 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【家族との関係への葛藤別】



<学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数【12 項目の該当数】>

- 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数は、1 の割合が 25% と最多、次いで 2 つが 20.5%であった。一方、3 つ以上該当する割合も 35.7%であった。

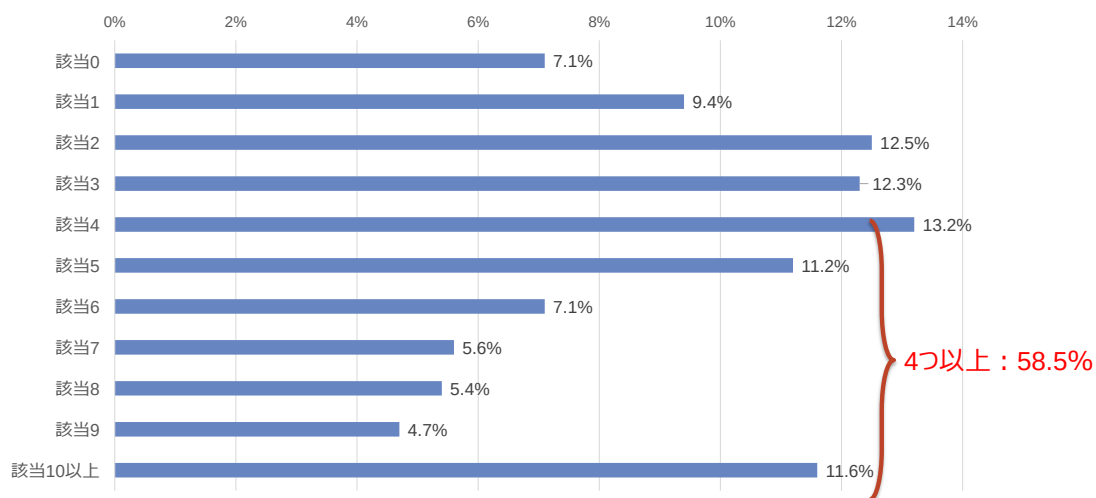
図表 200 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数(N=448)



(d) 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数【全 31 項目における該当数】

- 特別な配慮が必要な事項の該当数は 4 つの割合が 13.2%と最多であった。4 つ以上該当する割合は 58.5%であった。

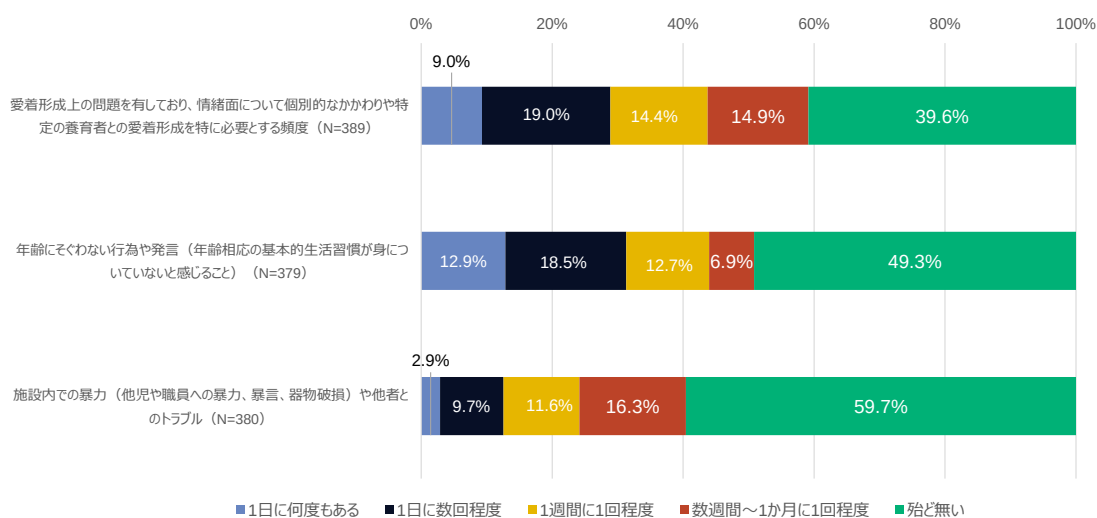
図表 201 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数(N=448)



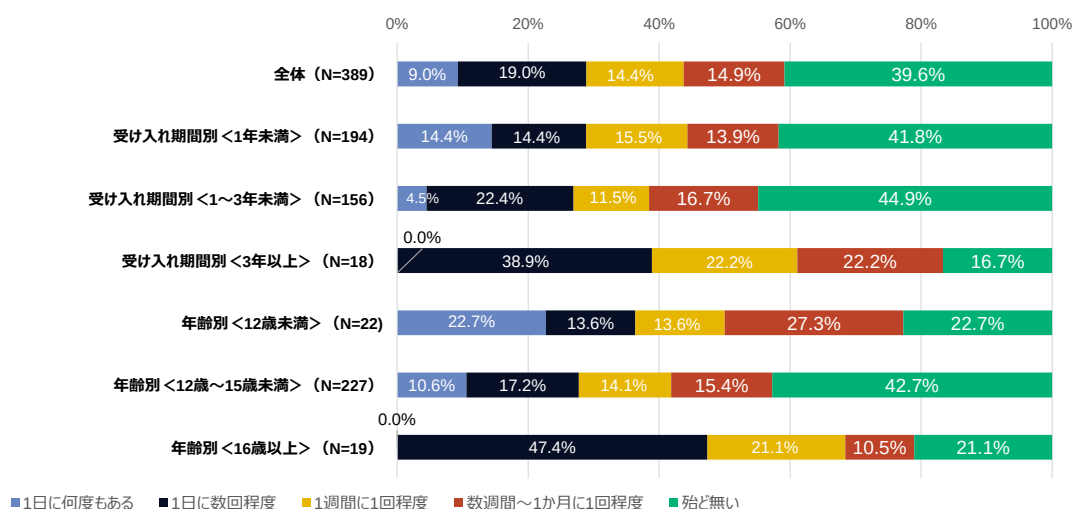
⑤特定の行動・事象の発生頻度

- 1日に数回以上ある割合（「1日に何度もある」と「1日に数回程度」の合計）は愛着形成が28%、年齢にそぐわない行為や発言が30.4%、施設内での暴力や他者とのトラブルが12.6%であった。
- 愛着形成上の問題を有しており、情緒面について個別的なかかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする頻度が1日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では3年以上が38.9%、年齢別では16歳以上が47.4%と最多であり、受け入れ期間・年齢による差が見られた。
- 年齢にそぐわない行為や発言の頻度が1日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では3年以上が38.9%、年齢別では16歳以上が55.6%と最多であり、受け入れ期間・年齢による差が見られた。
- 施設内での暴力や他者とのトラブルの頻度が1日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では1年未満が17.8%、年齢別では12歳未満が30.4%と最多であり、受け入れ期間・年齢による差が見られた。

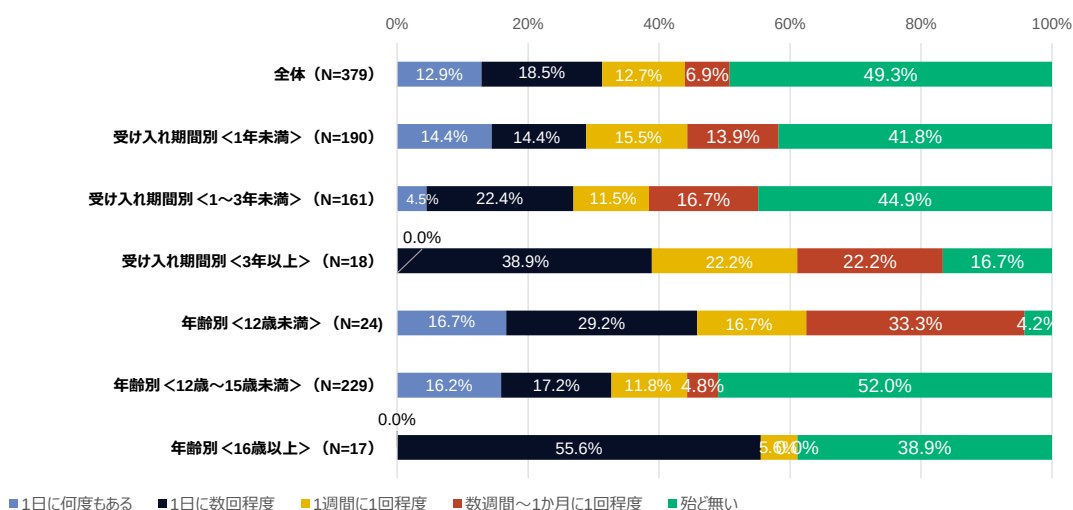
図表 202 特定の行動・事象の発生頻度



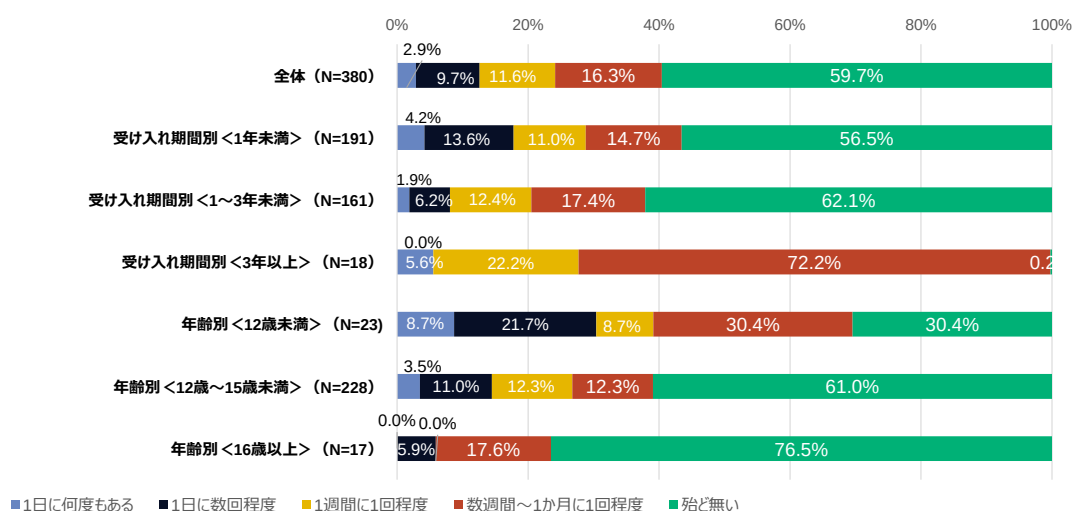
図表 203 愛着形成上の問題を有しており、情緒面について個別的なかかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする頻度



図表 204 年齢にそぐわない行為や発言の頻度



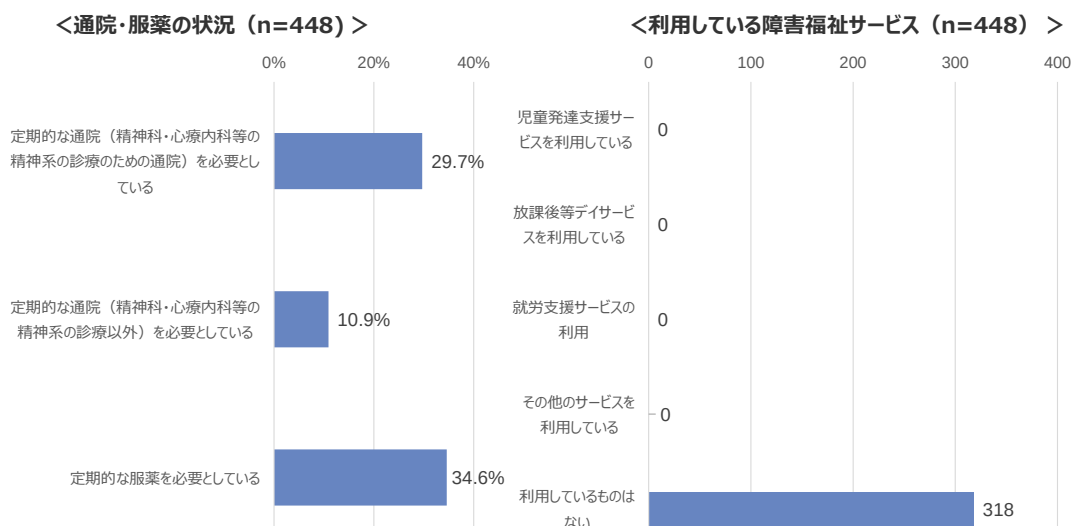
図表 205 施設内での暴力や他者とのトラブルの頻度



⑥通院・服薬、外部サービスの利用状況

- 定期的な通院を必要としている割合は合計で 40.6%、服薬を必要としている割合は 34.6%であった。
- 利用している障害福祉サービスは特にないが 318 人と最多であった。

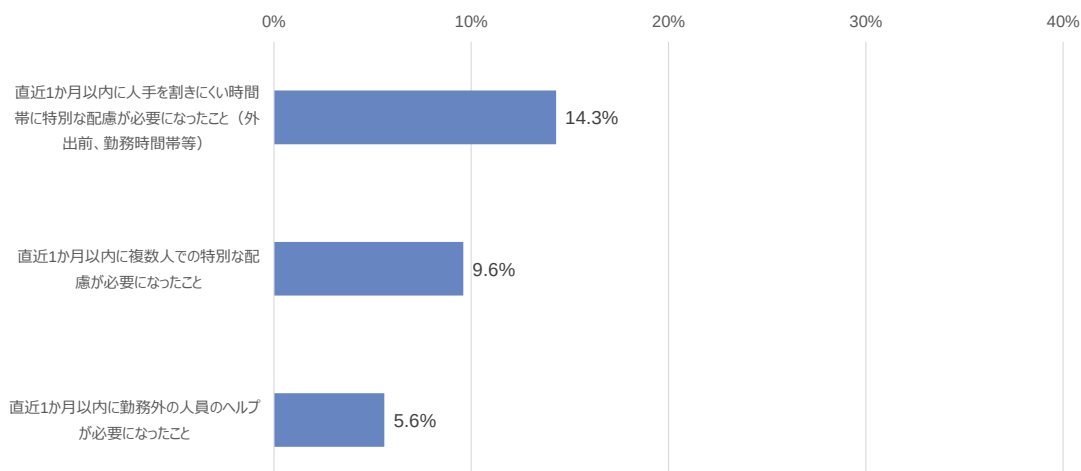
図表 206 通院・服薬、外部サービスの利用状況



⑦時間外や複数人での対応が必要になったケース

- 直近 1 か月以内に人手を割きにくい時間帯に特別な配慮が必要になったこと（外出前、勤務時間帯等）」が約 14%と最多、「直近 1 か月以内に複数人での特別な配慮が必要になったこと」「直近 1 か月以内に勤務外の人員のヘルプが必要になったこと」はそれぞれ 10%未満で発生していた。

図表 207 時間外や複数人での対応が必要になったケース (N=448)



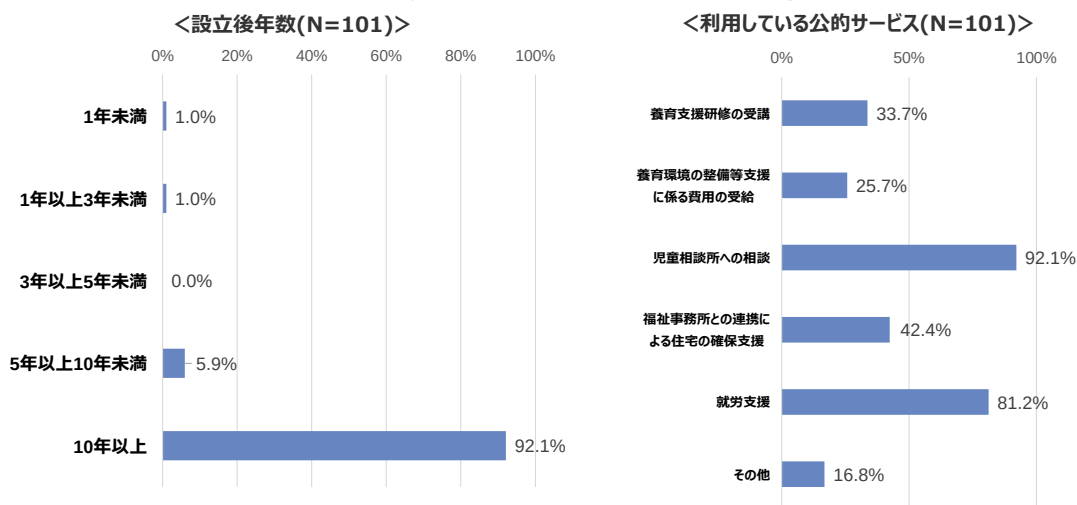
(7)母子生活支援施設の結果

ア)基礎情報

①基本情報

- 設立年数は、設立後 10 年以上の施設が 92.1%と最多であった。
- 利用している公的サービスは、「児童相談所への相談」が 92.1%と最多、次いで「就労支援」が 81.2%であった。

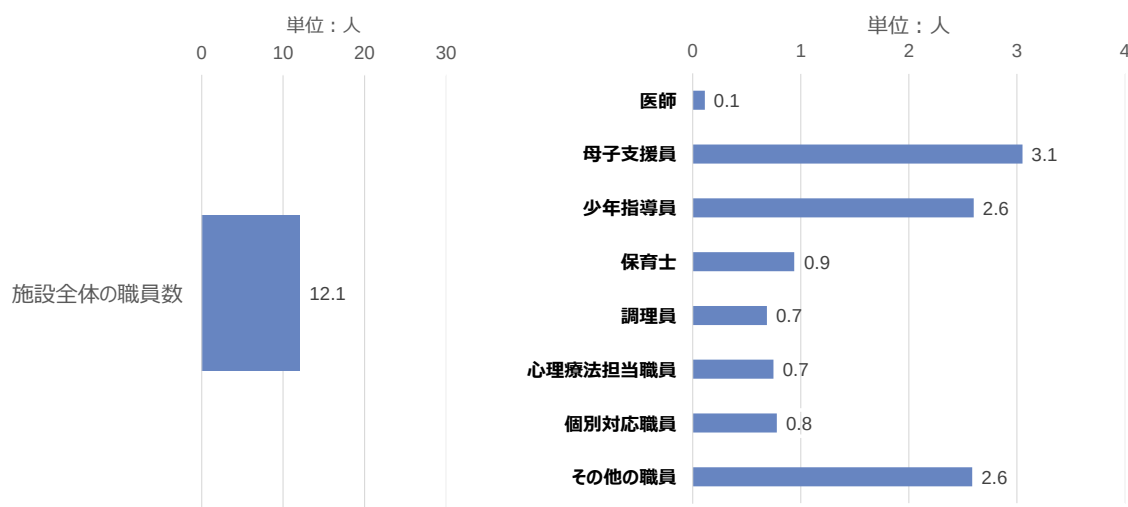
図表 208 施設の設立後年数(左図)および利用している外部サービス(右図)



②職員の状況

- 職員数は全体では平均で 12.1 人であった。
- 専門職はその他を除くと、母子支援員が 3.1 人と最多、次いで少年指導員が 2.6 人であった。

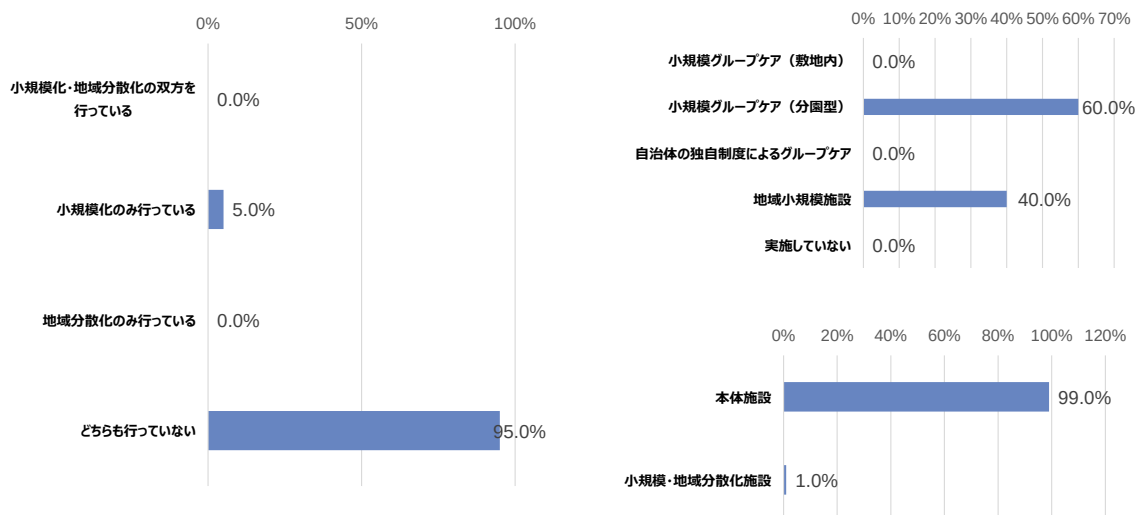
図表 209 母子生活支援施設の職員数(左図)および職種(右図)



③小規模化・地域分散化の状況

- 母子生活支援施設では小規模化の取組を行っている施設は 5.0%であった。実施形態は小規模グループケア(分園円型)が 60.0%、地域小規模施設が 40.0%であった。
- なお、回答した施設は本体施設が 99.0%、小規模化施設が 1.0%であった。

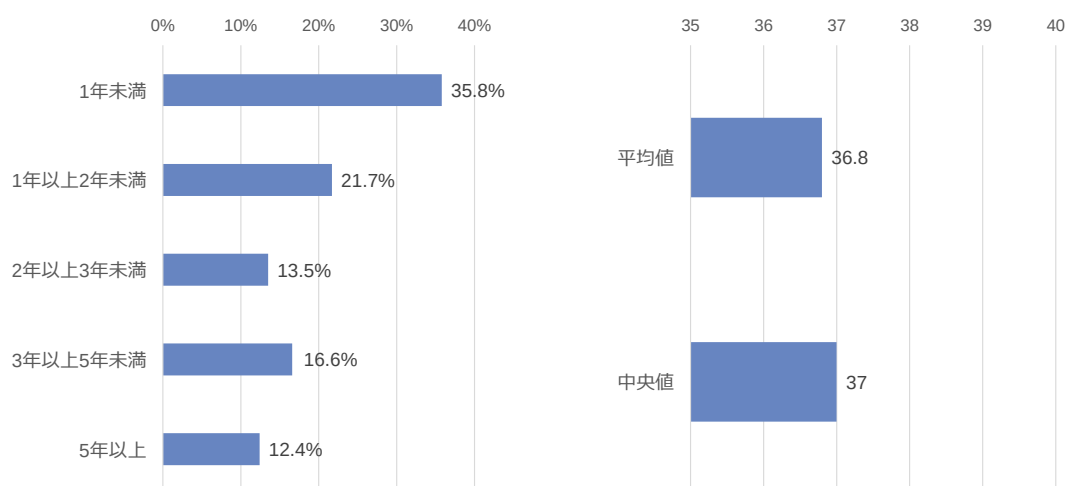
図表 210 小規模化・地域分散化の状況



④入所者(母)の状況

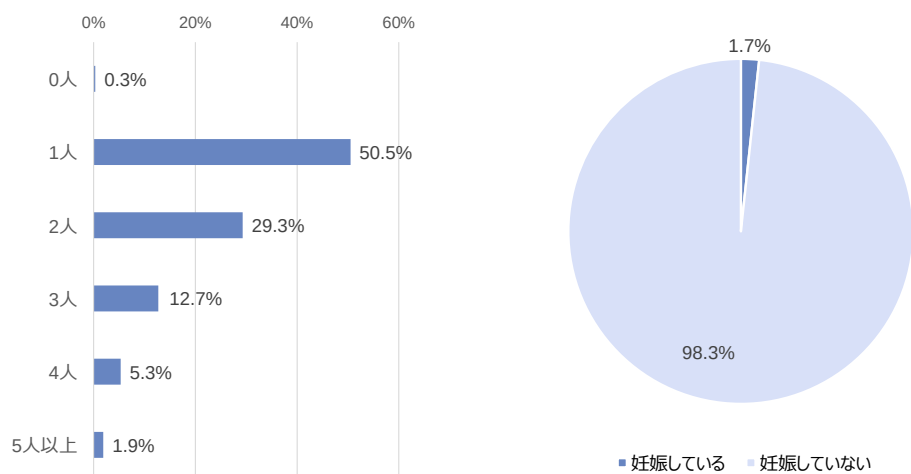
- 母の入所期間は1年未満が 35.8%と最多、次いで1年以上2年未満が 21.7%、3年以上5年未満が 16.6%であった。

図表 211 母の入所期間



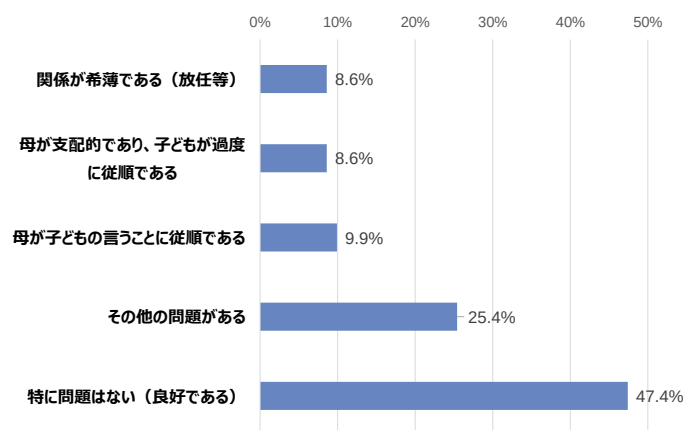
- 子どもの数は1人が50.5%と最多、次いで2人が29.3%であった。また、現在妊娠している割合は1.7%であった。

図表 212 母の子どもの数および妊娠の有無



- 母子の関係については、「特に問題はない」が47.4%と最多であった。次いで多いのが、「その他の問題がある」（25.4%）であった。

図表 213 母子の関係



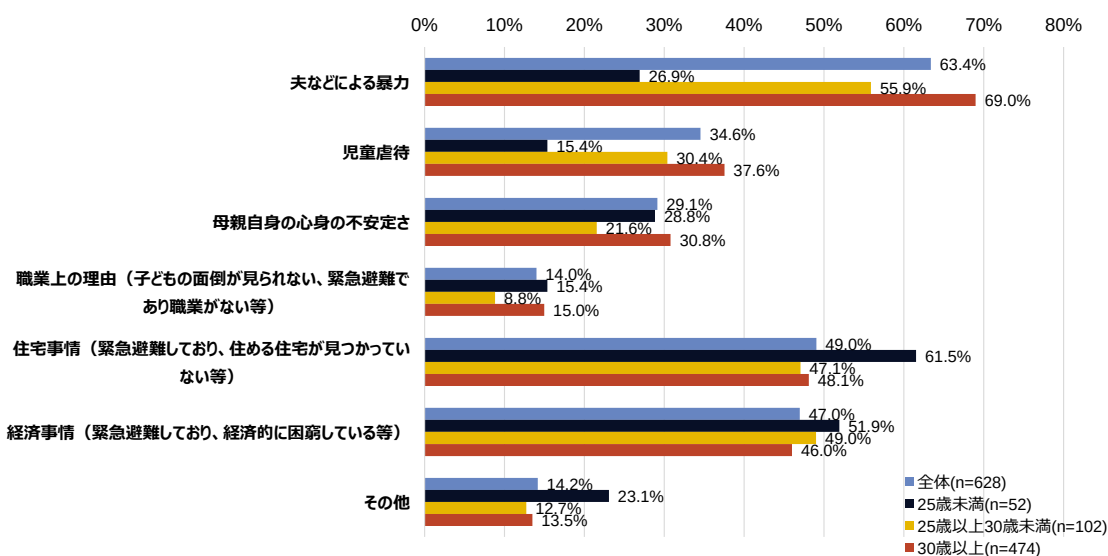
⑤母の入所背景

- 全体では、「夫などによる暴力」が 63.4%と最多、次いで「住宅事情」が 49.0%、「経済事情」が 47.0%であった。
- なお、年齢区分別、入所背景別のクロス集計の結果は以下の通りである。

<年齢区分別>

- 「住宅事情」については、25 歳以上が全体の傾向よりも 10 ポイント以上高い結果であった。

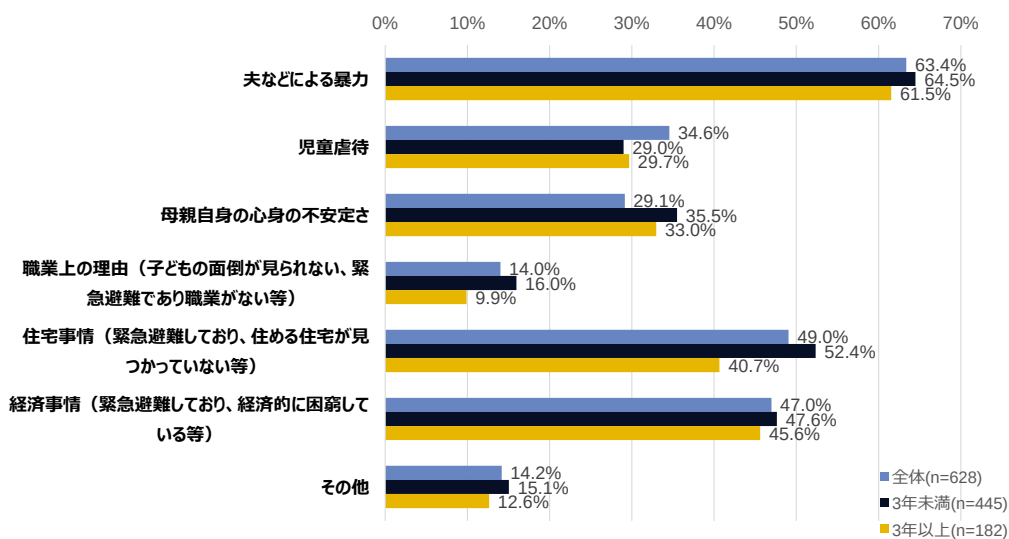
図表 214 母の入所背景【年齢区分別】



<入所期間別>

- 入所期間別に大きな差は見られなかった。

図表 215 母の入所背景【入所期間別】



⑥母の支援を行う上で特別な配慮が必要な事項について

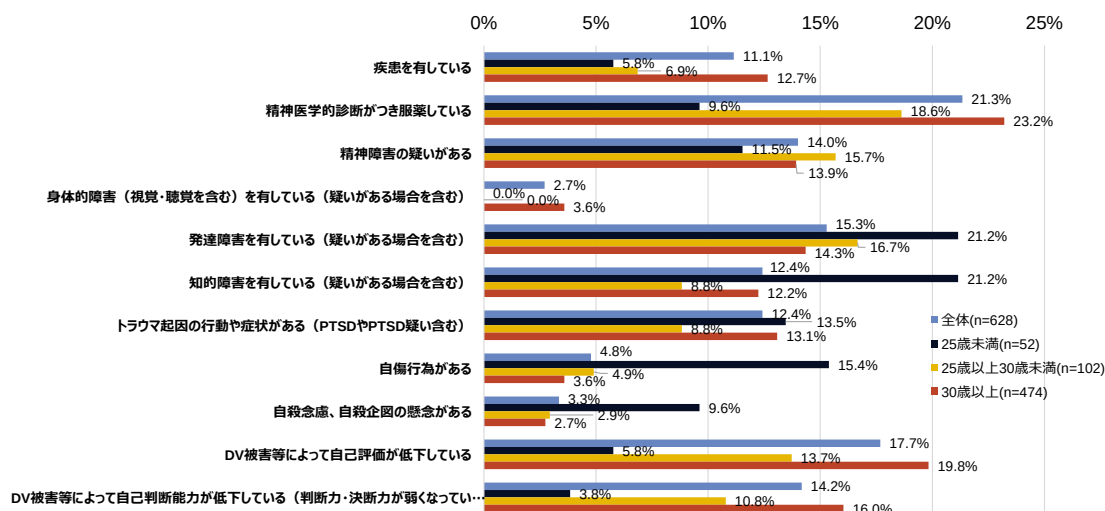
(a) 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮

- 全体では「精神医学的診断がつき服薬している」が 21.3%と最多、次いで「DV被害等によって自己評価が低下している」が 17.7%であった。
- なお、年齢区分・受け入れ期間の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<年齢区分別>

- 25歳未満の母については発達障害、知的障害、自傷行為等が全体の割合よりも 10ポイント以上高い傾向があった。

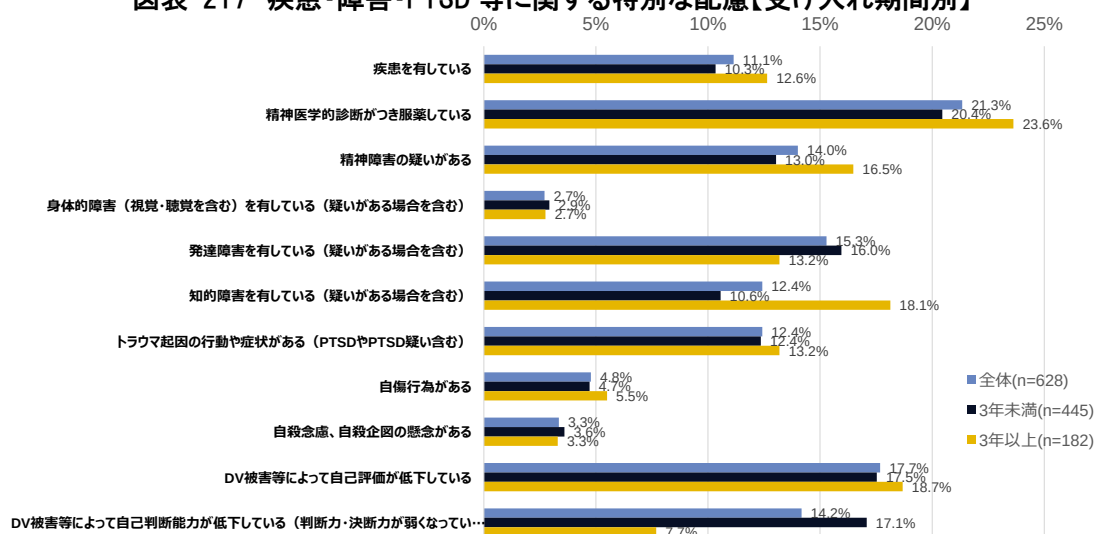
図表 216 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【年齢別】



<受け入れ期間別>

- 受け入れ期間別に大きな差は見受けられなかった。

図表 217 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



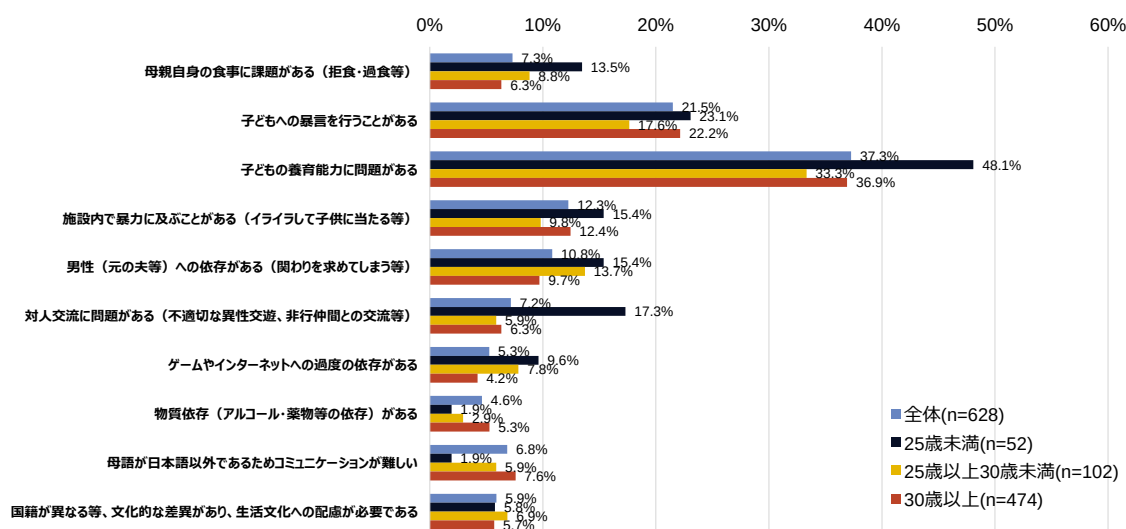
(b) 日常生活における課題等に関する特別な配慮

- 全体では、「子どもの養育能力に問題がある」が 37.3%と最多、次いで「子どもへの暴言を行うことがある」が 21.5%であった。

<年齢区分別>

- 「子どもの養育能力に問題がある」「対人交流に問題がある」においては、25歳未満の母親は全体の傾向よりも 10 ポイント以上高い傾向にあった。

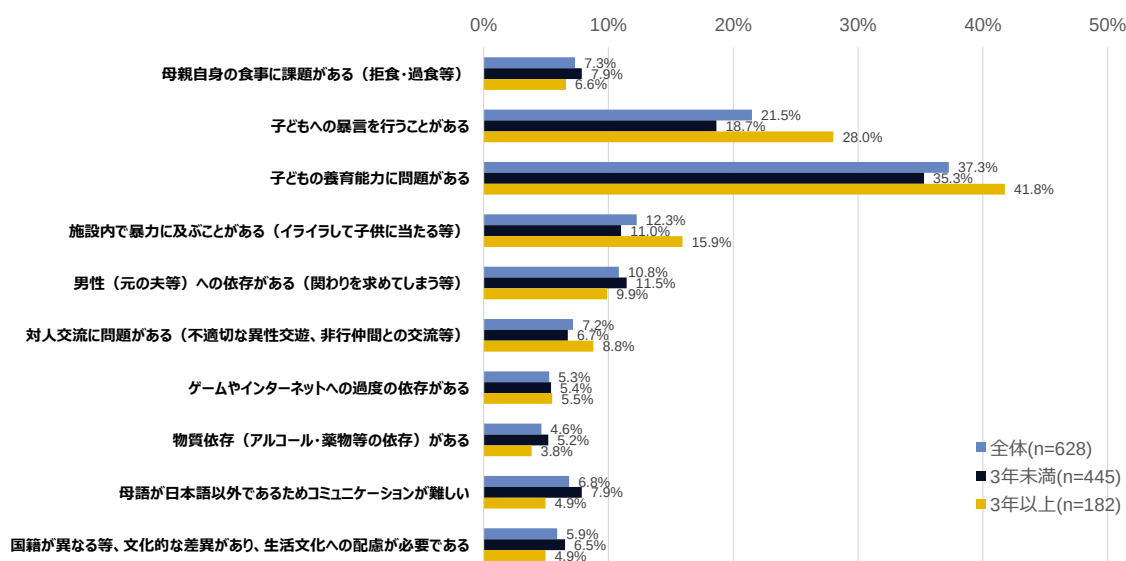
図表 218 日常生活における課題等に関する特別な配慮【年齢別】



<入所期間別>

- 入所期間別に大きな差は見られなかった。

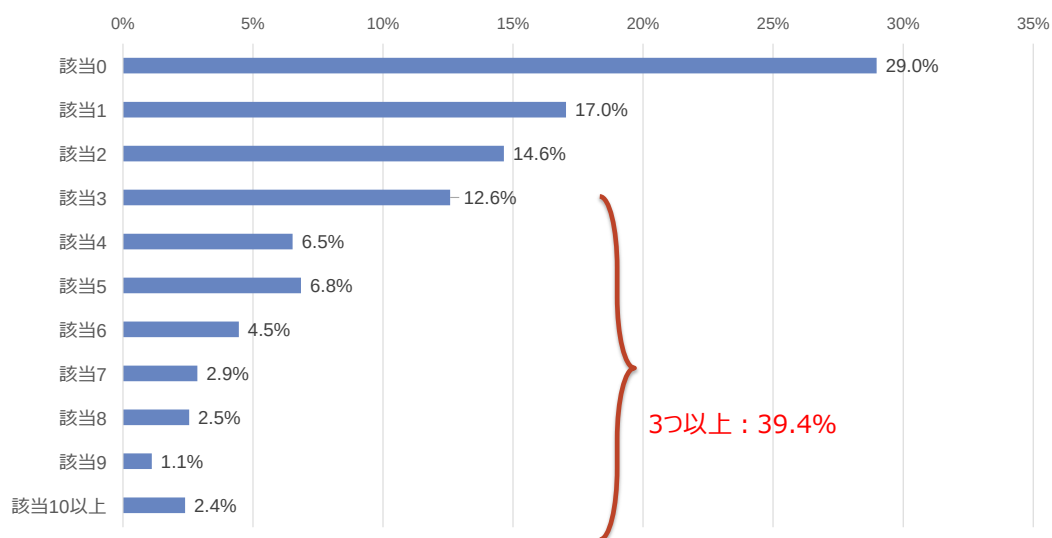
図表 219 日常生活における課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



(c) 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数【全 31 項目における該当数】

- 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数は 0 が 29.0%と最多であったが、3 つ以上の特別な配慮が必要な母も全体の 39.4%であった。

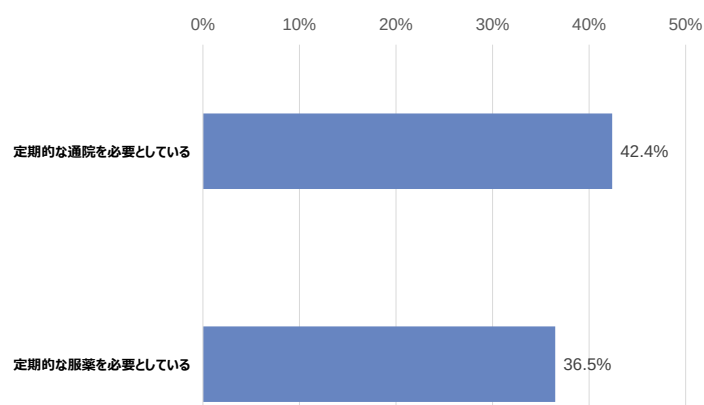
図表 220 必要とする特別な配慮の該当数



⑤通院・服薬の利用

- 定期的な通院を必要としている割合は 42.4%、服薬を必要としている割合は 36.5%であった。

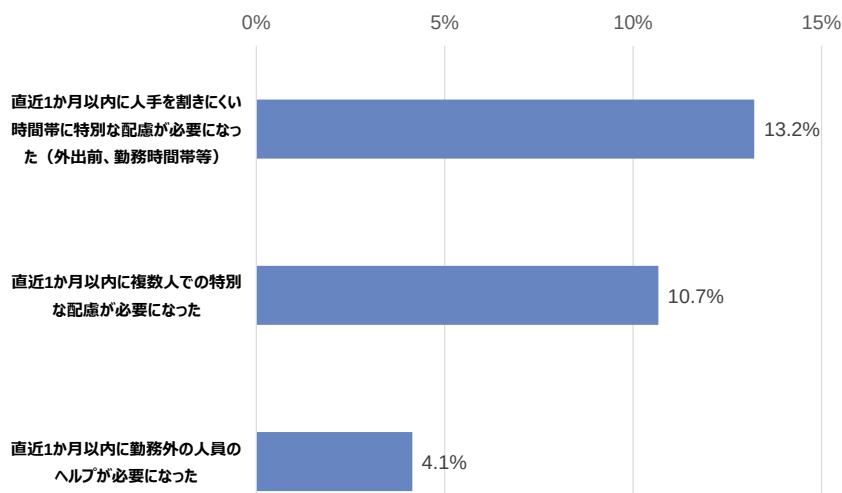
図表 221 通院・服薬の状況



⑥時間外や複数人での対応が必要になったケース

- それぞれ 10%程度で生じていることがわかった。

図表 222 時間外や複数人での対応が必要になったケースの状況

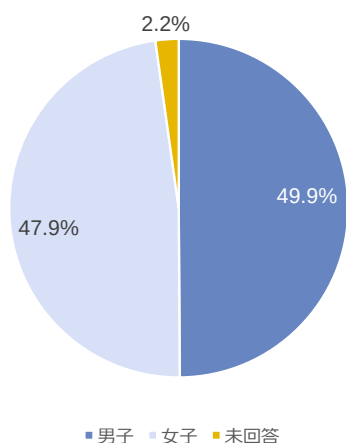


イ)入所児童の状況

①入所児童の基本情報

- 入所している母の子について 1,042 人分の回答があり、平均年齢は 7.7 歳であった。

図表 223 入所児童の性別・年齢

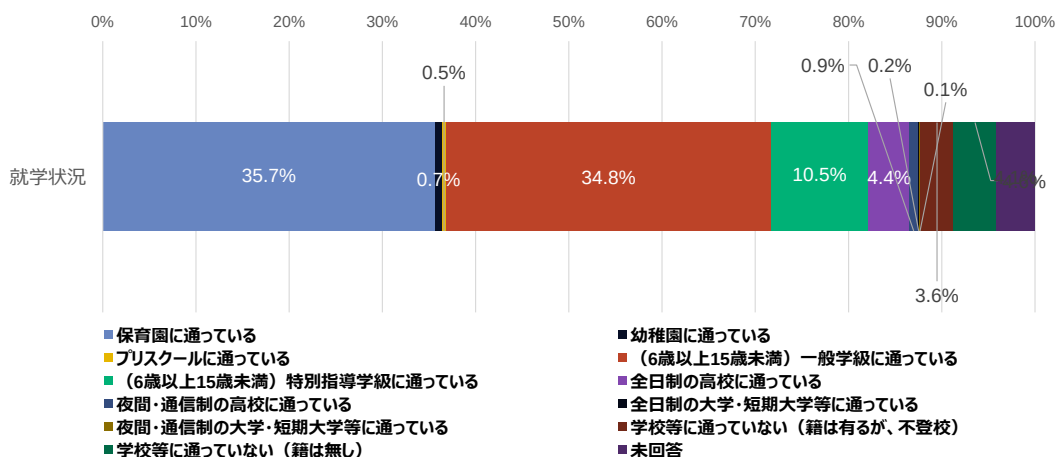


	値
平均（単位：歳）	7.7
中央値（単位：歳）	7

②就学状況

- 保育園が 35.7%と最多、次いで一般学級が 34.8%であった。

図表 224 就学状況



③養育を行う上で特別な配慮が必要な事項について

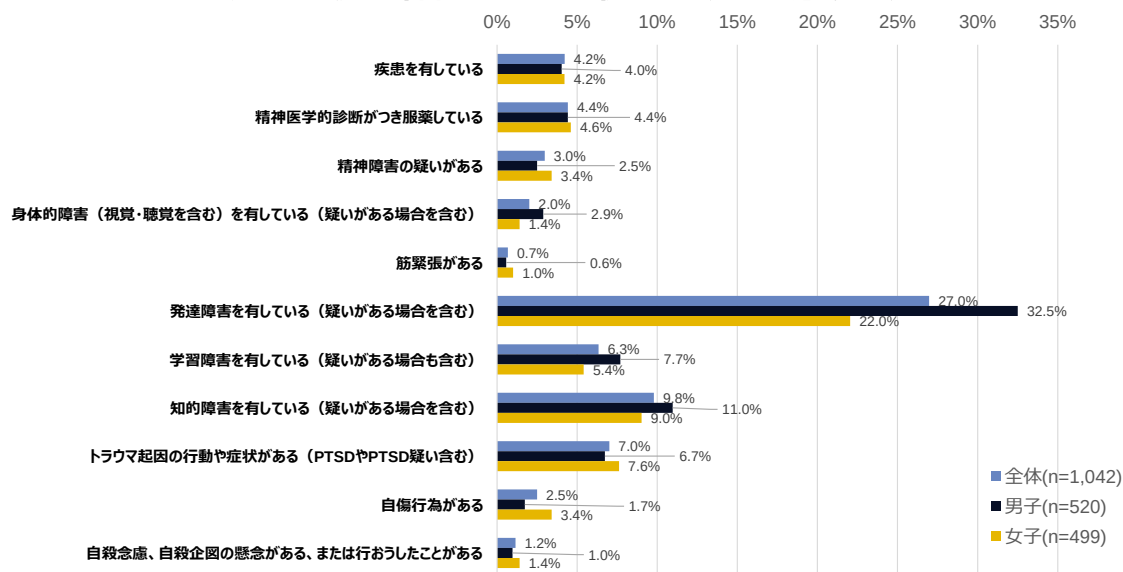
(a) 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮

- 全体では、「発達障害の疑いがある」が 27.0%と最多、次いで「知的障害を有している」が 9.8%であった。
- なお、性別・年齢区分によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 「発達障害を有している」において男子 32.5%、女子 22.0%と 10 ポイント以上の差があることを除いて男女別の傾向の違いは見られなかった。

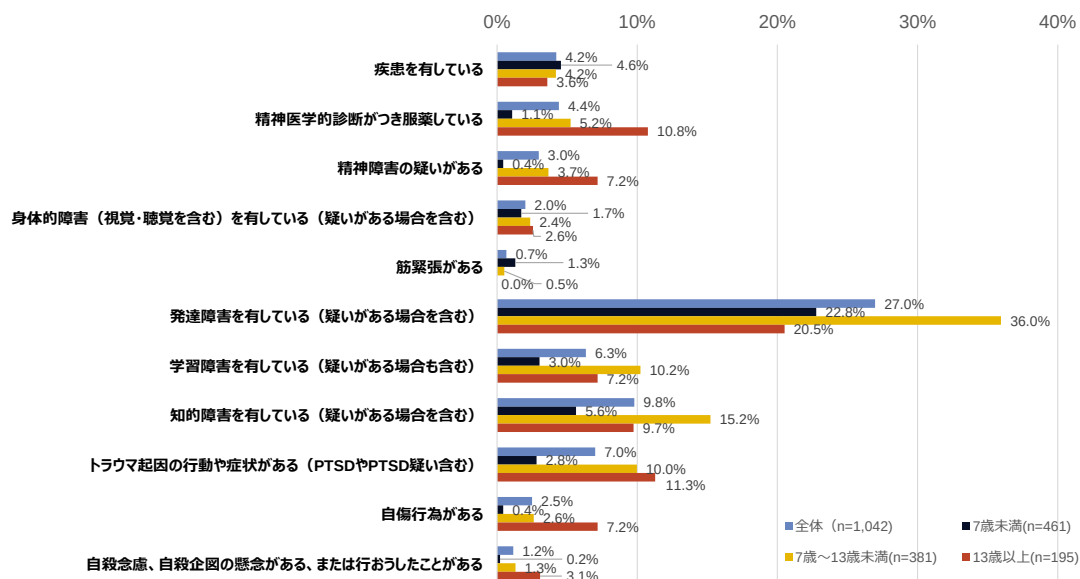
図表 225 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 発達障害において、7歳～13歳未満の子どもが全体の傾向よりも10ポイント以上高かった。

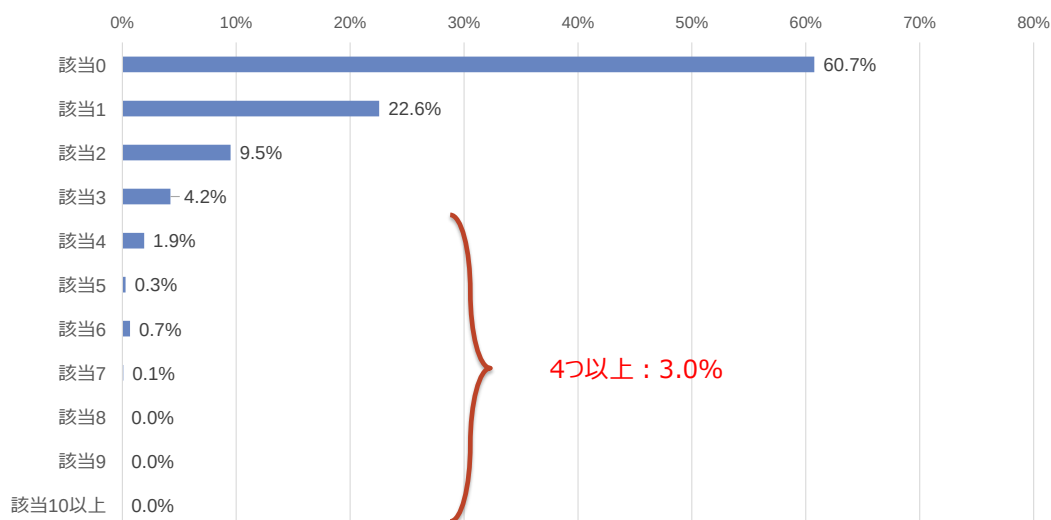
図表 226 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【年齢別】



<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数【11項目における該当数】>

- 疾患・障害・PTSD 等に関して必要とする特別な配慮の該当数は0が60.7%と最多であった。また、4つ以上の割合は3.0%であった。

図表 227 疾患・障害・PTSD 等に関して必要とする特別な配慮の該当数



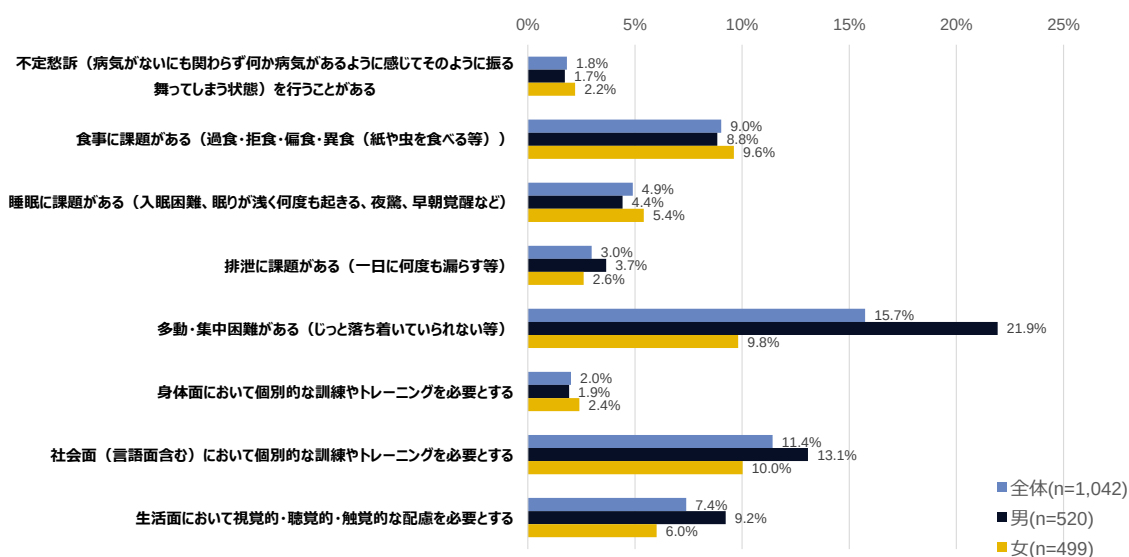
(b) 日常生活における課題等に関する特別な配慮

- 全体では「多動・集中困難がある」が 15.7%と最多、次いで「食事に課題がある」が 11.4%であった。

<男女別>

- 「多動・集中困難がある」において男子 21.9%、女子 9.8%と 10 ポイント以上の差があることを除いて男女別の傾向の違いは見られなかった。

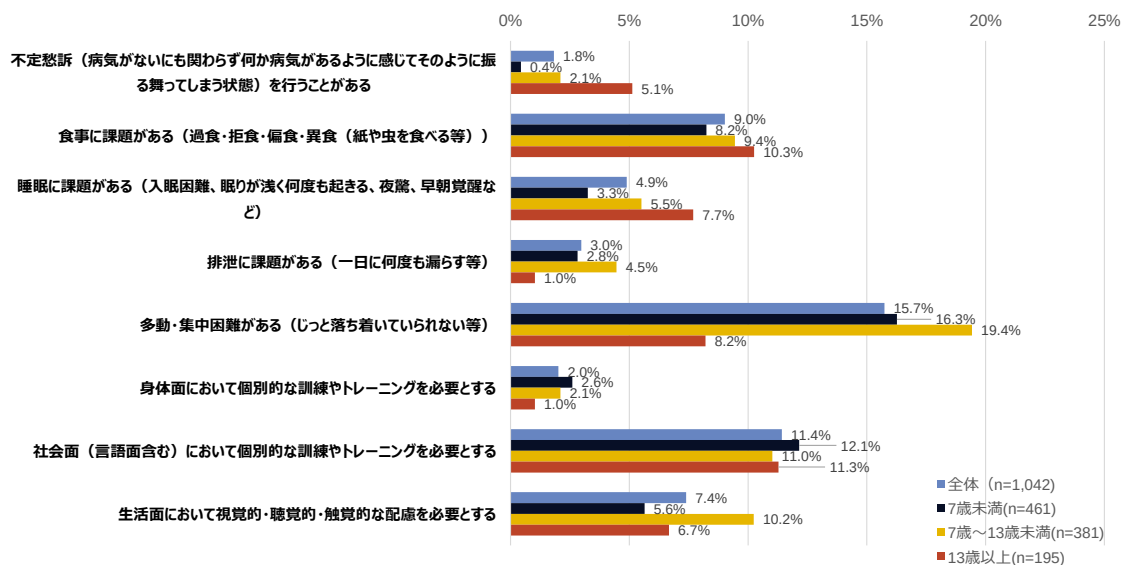
図表 228 日常生活における特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢による大きな傾向の違いは見られなかった。

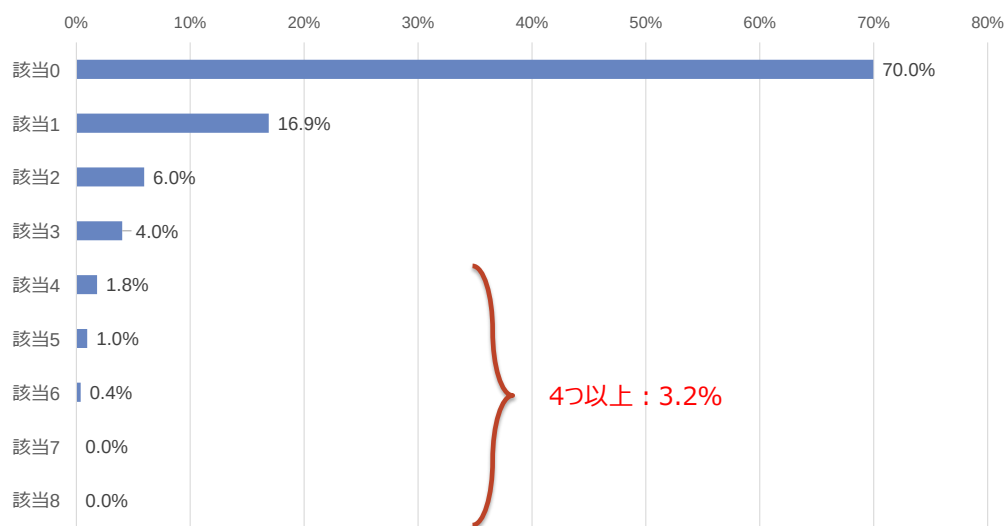
図表 229 日常生活における特別な配慮【年齢区分別】



<日常生活等に関する特別な配慮への該当数【8項目における該当数】>

- 日常生活に関する特別な配慮は、70.0%の子どもにおいては不要であった。

図表 230 日常生活に関して必要とする特別な配慮の該当数



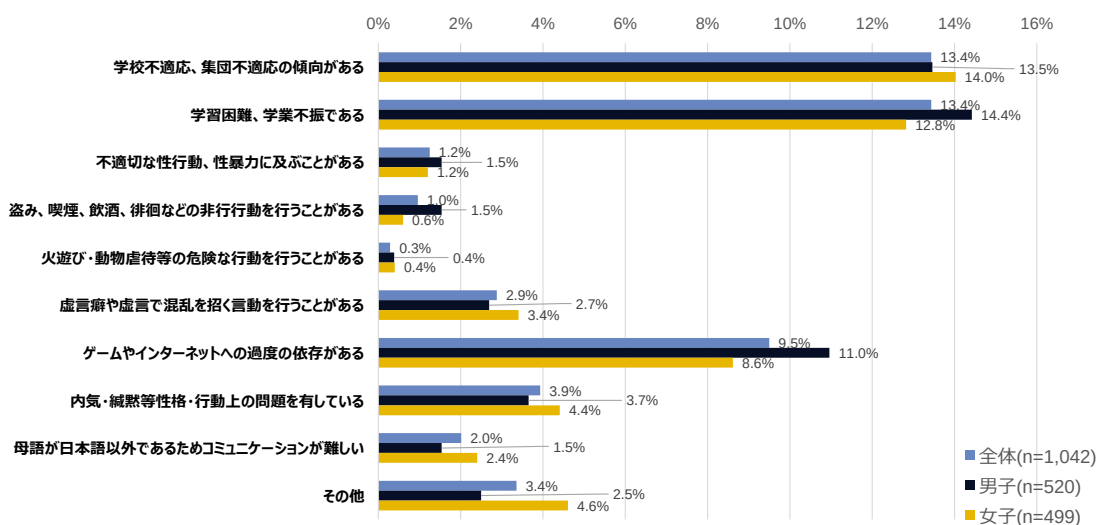
(c) 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮

- 全体では「学校不適応、集団不適応の傾向がある」と「学習困難、学業不振である」が13.4%と最多であった。
- なお、性別・年齢区分の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 男女別での大きな傾向の違いは見られなかった。

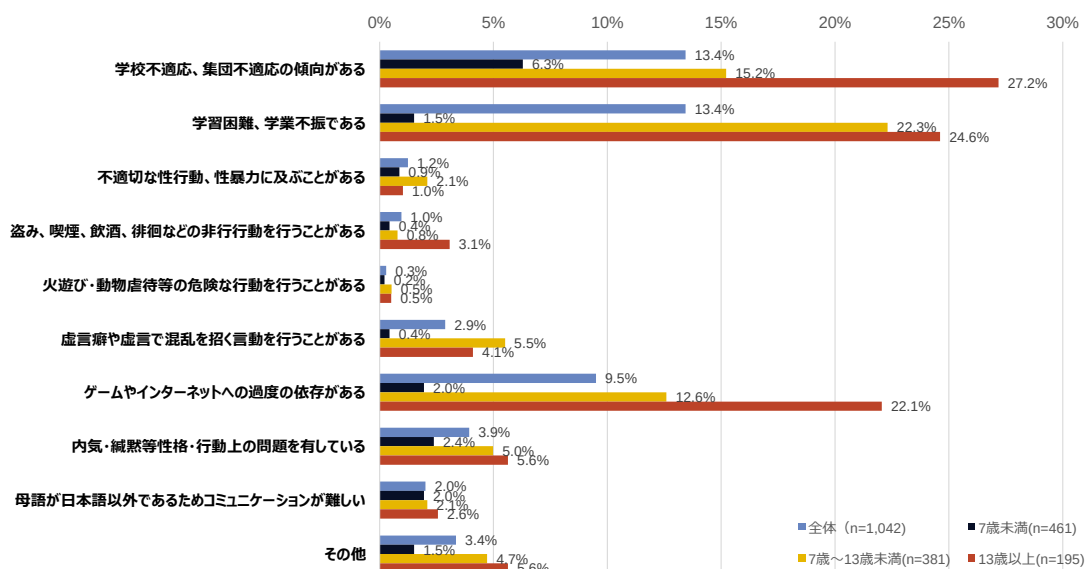
図表 231 学校生活・その他における特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢が高くなるにつれて学校・学習における課題や、ゲーム・インターネットへの過度の依存に該当する割合が高くなる傾向であった。

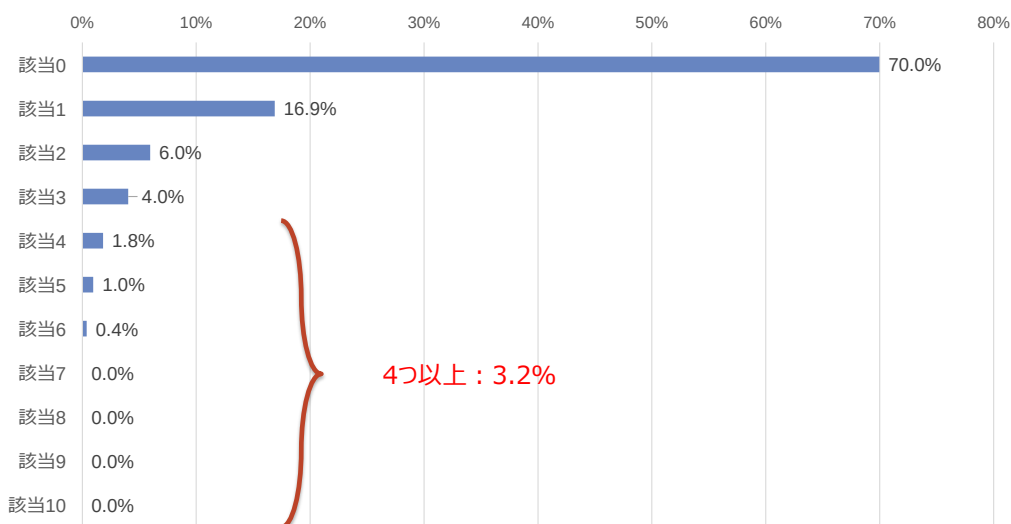
図表 232 学校生活・その他における特別な配慮【年齢区分別】



<学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数【10項目の該当数】>

- 学校生活・その他の課題における特別な配慮は、69.8%の子どもにおいて不要であった。

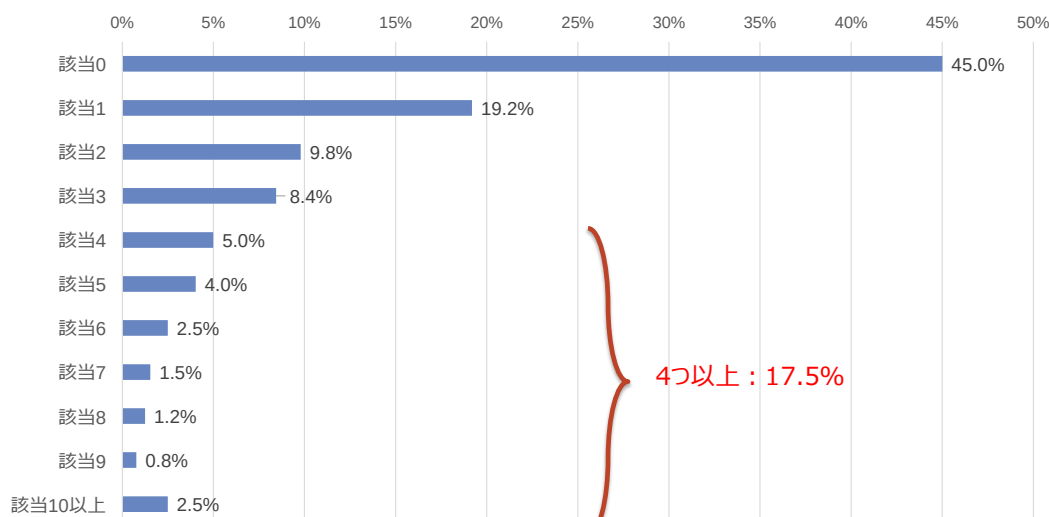
図表 233 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数(1,042)



(d) 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数【全 29 目における該当数】

- 母子生活支援施設で生活する子どもに関しては、45.0%は特別な配慮が不要であった。一方で、4 つ以上の特別な配慮が必要な子どもは 17.5%存在していた。

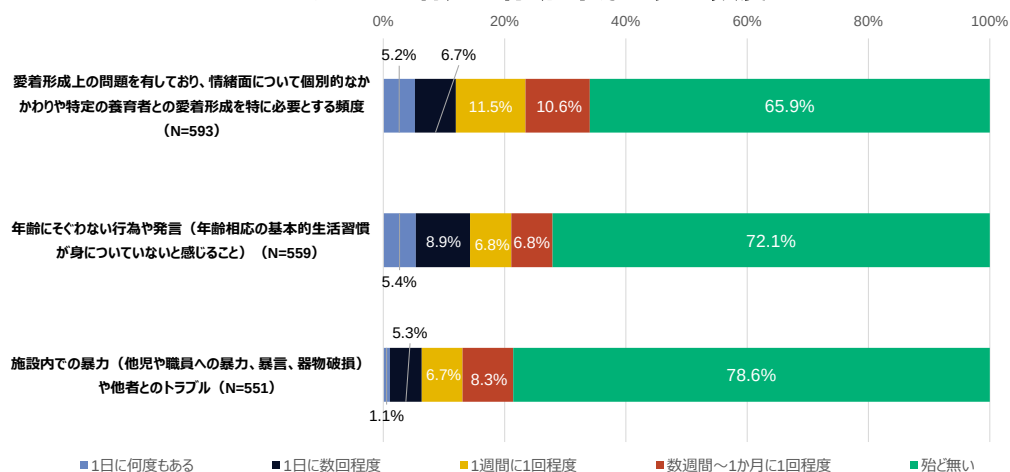
図表 234 必要とする特別な配慮の該当数(n=1,042)



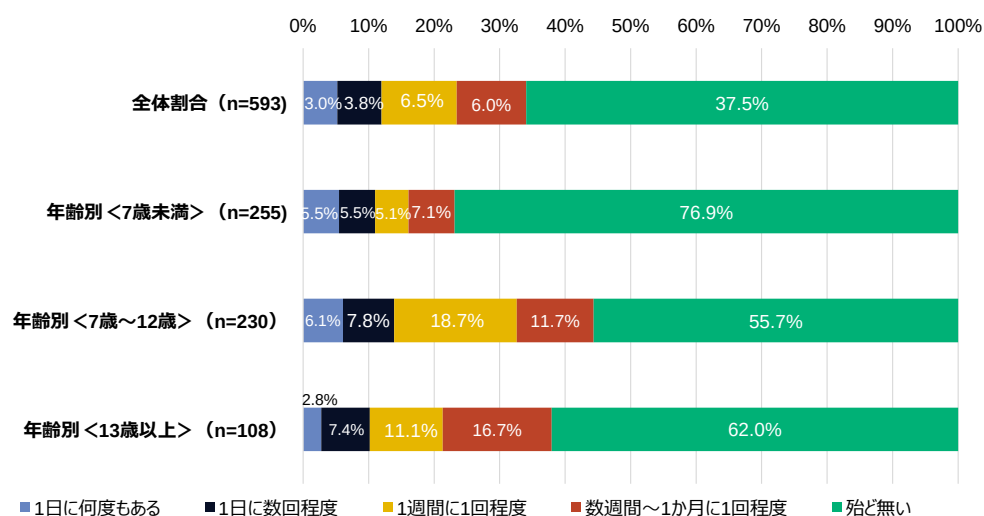
⑤特定の行動・事象の発生頻度

- 1日に数回以上ある割合（「1日に何度もある」と「1日に数回程度」の合計）は愛着形成が11.9%、年齢にそぐわない行為や発言が14.3%、施設内での暴力や他者とのトラブルが6.4%であった。
- 愛着形成に関する対応の発生頻度は、年齢別では大きな差がなかった。
- 年齢にそぐわない行為や発言の頻度では7歳～12歳、13歳以上の子どもは約19%と最多で、7歳未満よりも10ポイント以上高かった。
- 施設内の暴力や他者とのトラブルの頻度では、7歳以上13歳未満の子どもにおいて、他の年齢層よりも10ポイント以上高かった。

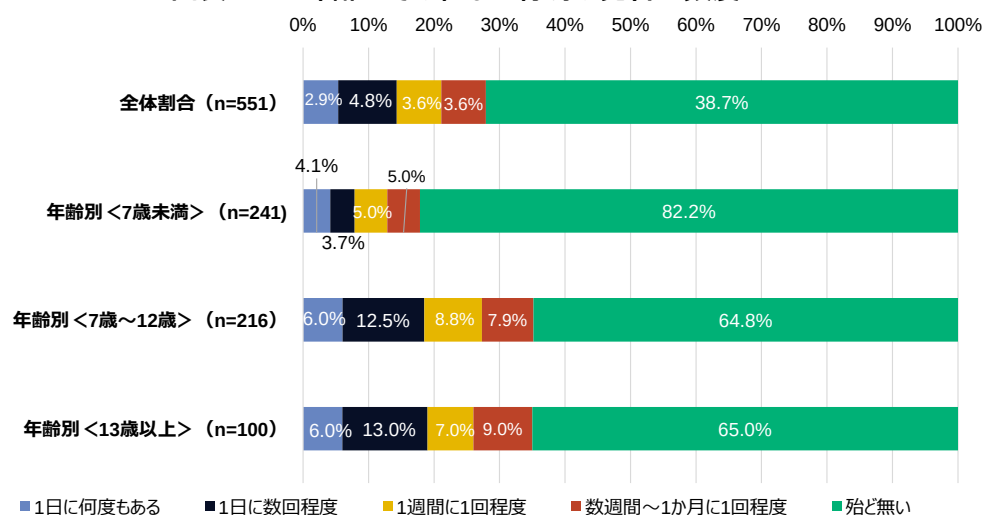
図表 235 特定の行動・事象の発生頻度



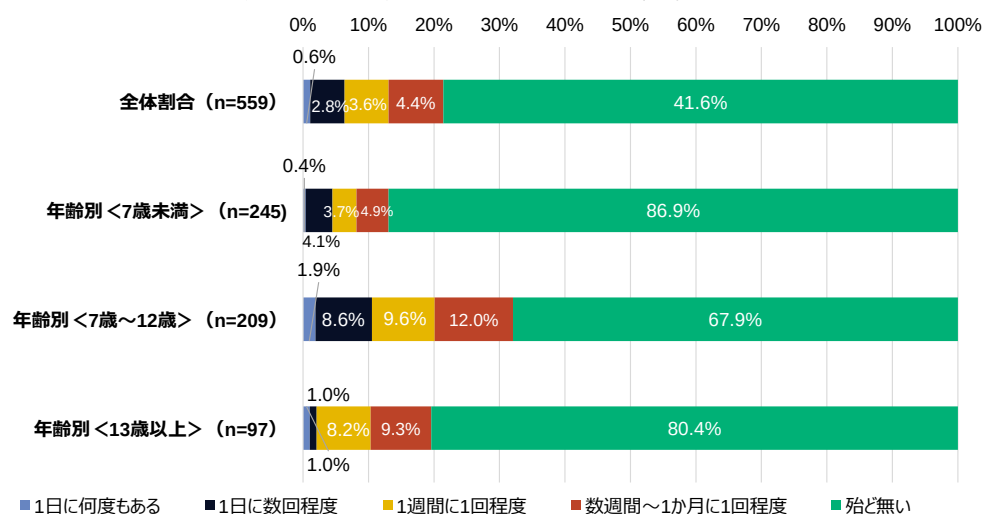
図表 236 愛着形成上の問題を有しており、情緒面について個別的なかかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする頻度



図表 237 年齢にそぐわない行為や発言の頻度

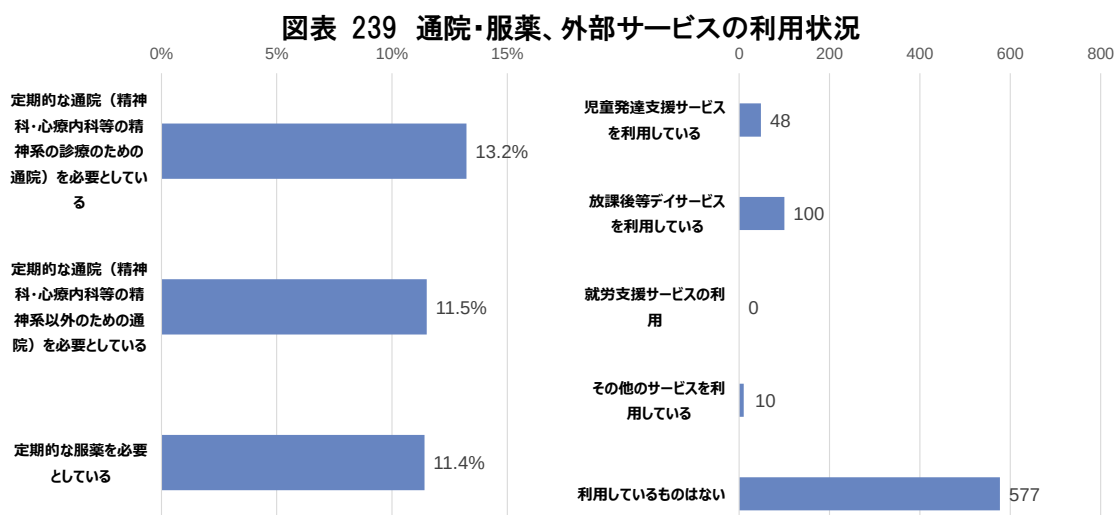


図表 238 施設内で暴力行為を行う頻度



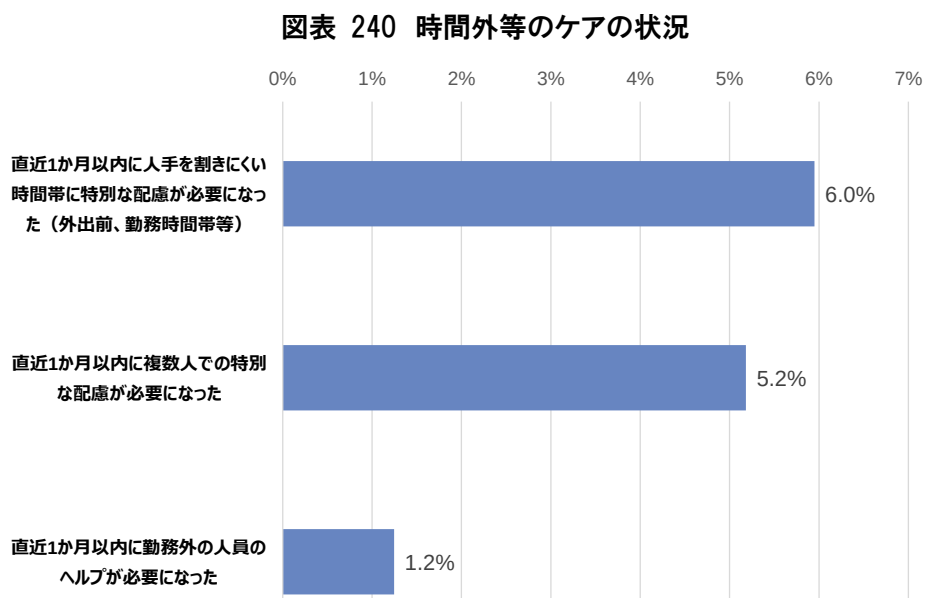
⑥通院・服薬、外部サービスの利用状況

- 定期的な通院を必要としている割合は合計で 24.7%、服薬を必要としている割合は 11.4%であった。
- 利用している障害福祉サービスは特にないが 577 件と最多であった。



⑦時間外や複数人での対応が必要になったケース

- 時間外等のケアについては、発生する頻度は多くないが一定の割合で発生している。



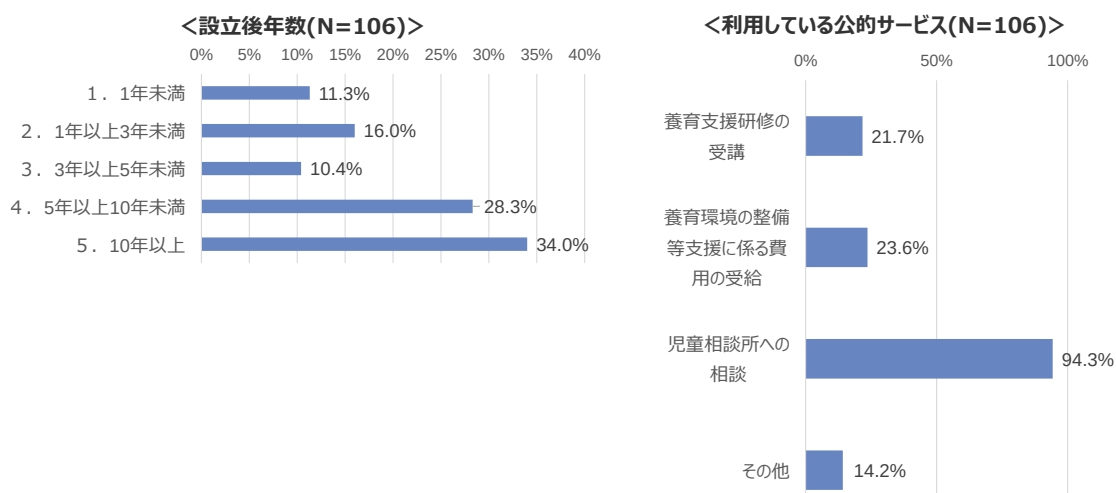
(8) 自立援助ホームの結果

ア) 基礎情報

① 基礎情報

- 設立年数は、10 年以上が 34.0%で最多、次いで 5 年以上 10 年未満が 28.3%であった。
- 利用している公的サービスは、「児童相談所への相談」が 94.3%と最多、次いで「養育環境の整備等支援に係る費用の受給」が 23.6%であった。

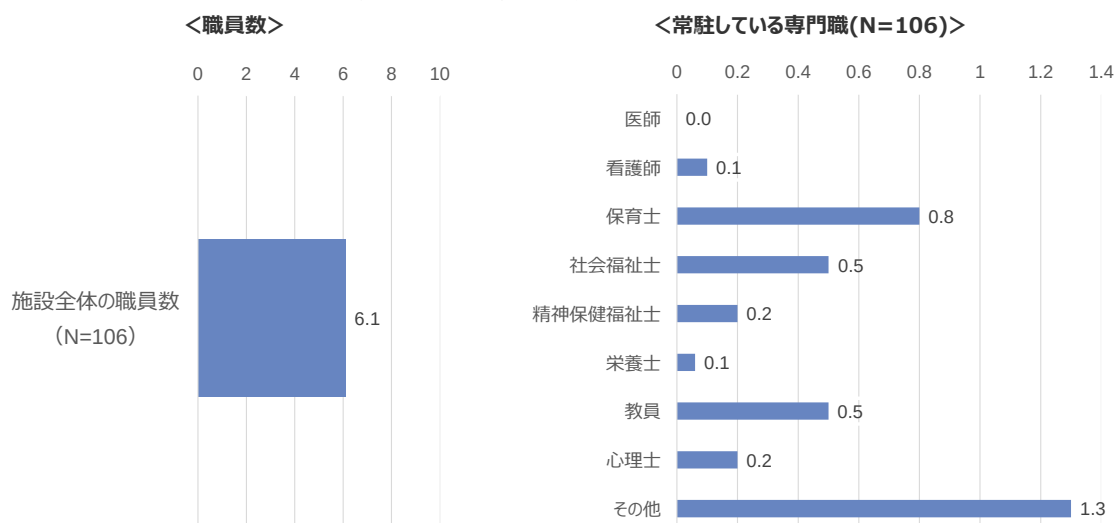
図表 241 施設の基本情報



② 職員の状況

- 職員数は全体では平均で 6.1 人であった。
- 専門職はその他が 1.3 人と最多、他保育士が 0.8 人、社会福祉士が 0.5 人だった。

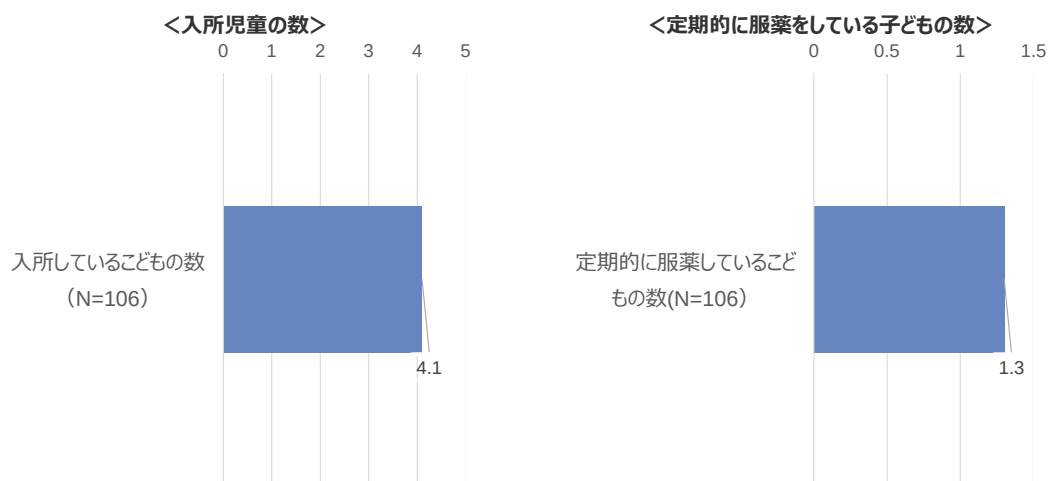
図表 242 施設の職員、専門職の状況



③入所児童の状況

- 入所している子どもの平均人数は 4.1 人だった。また定期的に服薬している子どもの平均人数は 1.3 人だった。

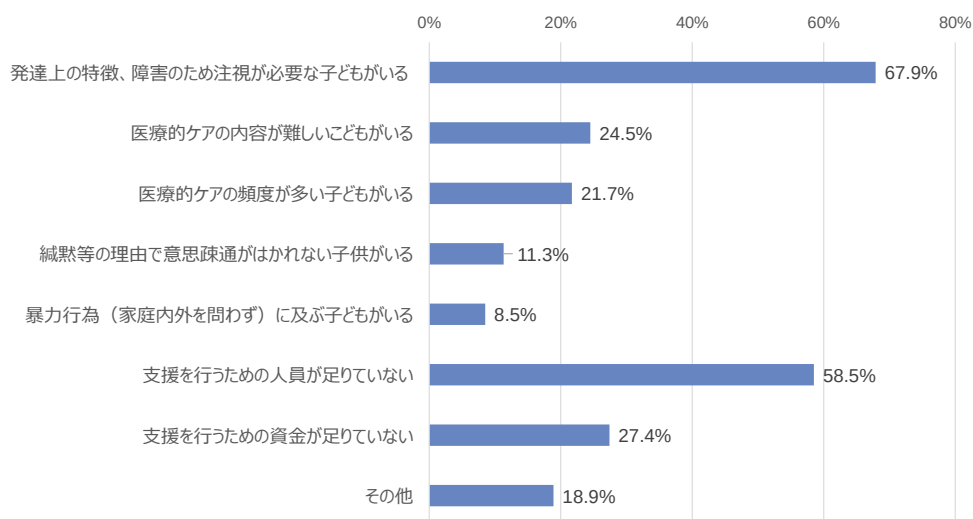
図表 243 施設の定員・入所児童の状況



④現在子どもの支援を行う上で苦労していること

- 発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」が 67.9%と最多、次いで「支援を行うための人員が足りていない」が 58.5%であった。

図表 244 現在子どもの支援を行う上で苦労していること(N=106)

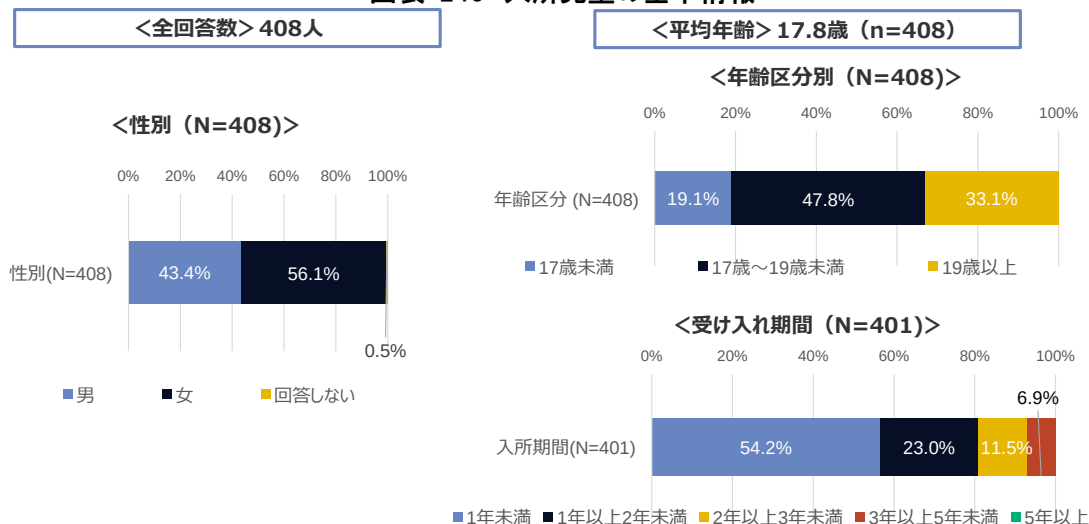


イ)入所児童の状況

①入所児童の基本情報

- 入所児童の個票について 408 人分の回答があり、平均年齢は 17.8 歳であった。
- 年齢区分別では 17 歳～19 歳未満が 47.8%と最も多い割合だった。
- 性別は男 43.4%、女 56.1%、受け入れ期間は 1 年未満が 54.2%最多、次いで 1 年以上 2 年未満が 23.0%であった。

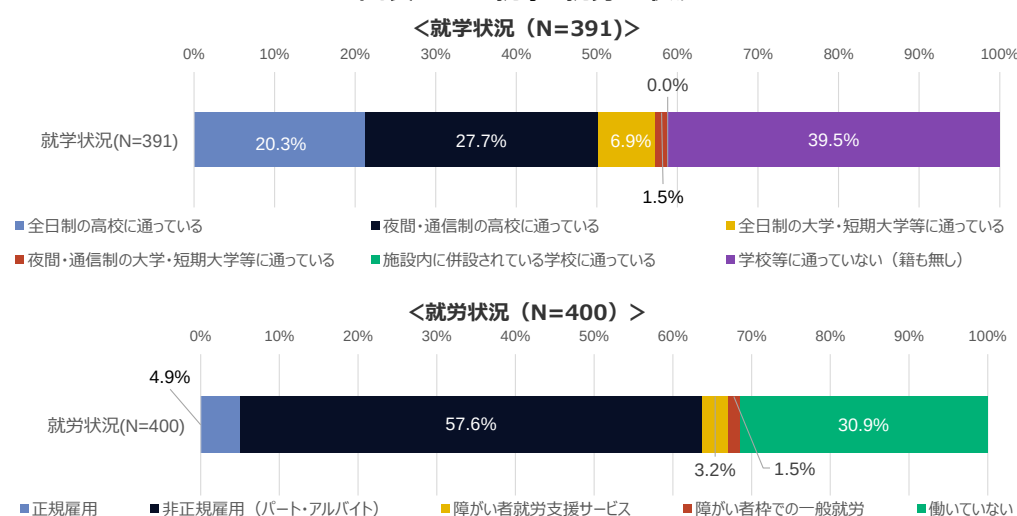
図表 245 入所児童の基本情報



②就学・就労状況

- 就学状況は「学校等に通っていない（籍もなし）」が 39.5%と最多、次いで「夜間・通信制の高校に通っている」が 27.7%、「全日制の高校に通っている」が 20.3%であった。なお、「全日制の大学・短期大学等に通っている」6.9%もあった。
- 就労状況は「非正規雇用（パート・アルバイト）」が 57.6%と最多、次いで「働いていない」が 30.9%であった。

図表 246 就学・就労の状況



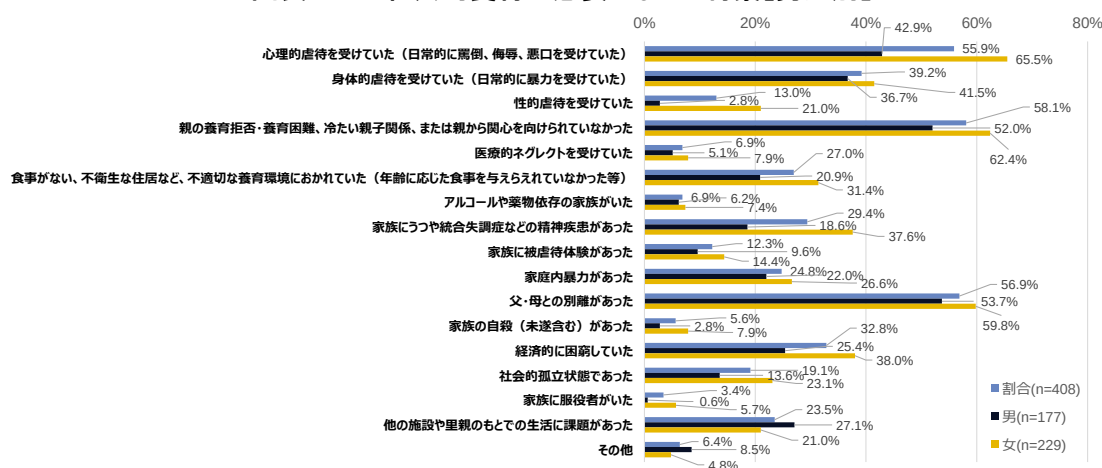
③社会的養育が必要となった背景

- 全体では「親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった」が 58.1%と最多、次いで「父・母との別離があった」が 56.9%、「心理的虐待を受けていた」は 55.9%だった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 「心理的虐待を受けていた（日常的に罵倒、侮辱、悪口を受けていた）」「経済的に困窮していた」で女性の方の割合が 10 ポイント以上高かった。

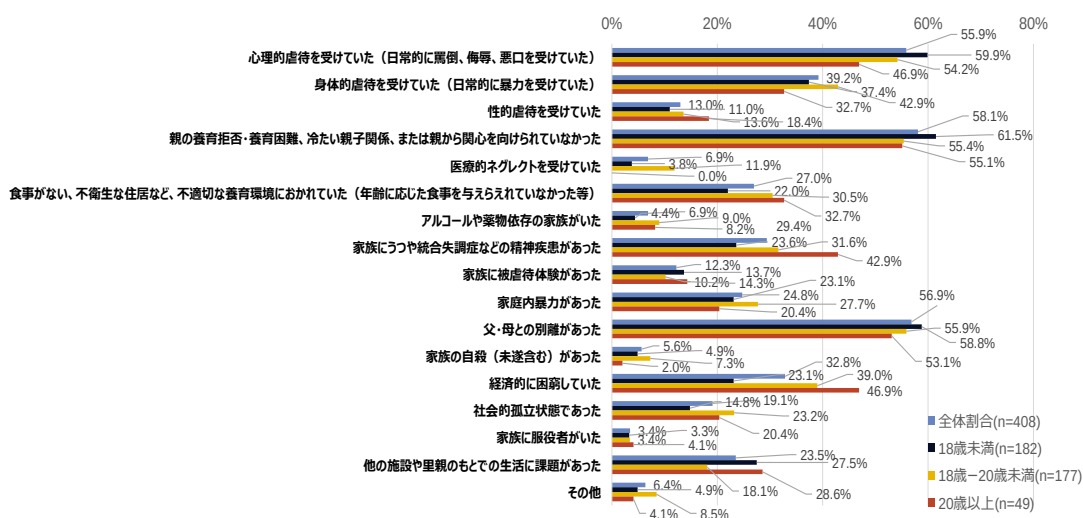
図表 247 社会的養育が必要となった背景【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢区分別では大きな傾向の違いは見られなかった。
-

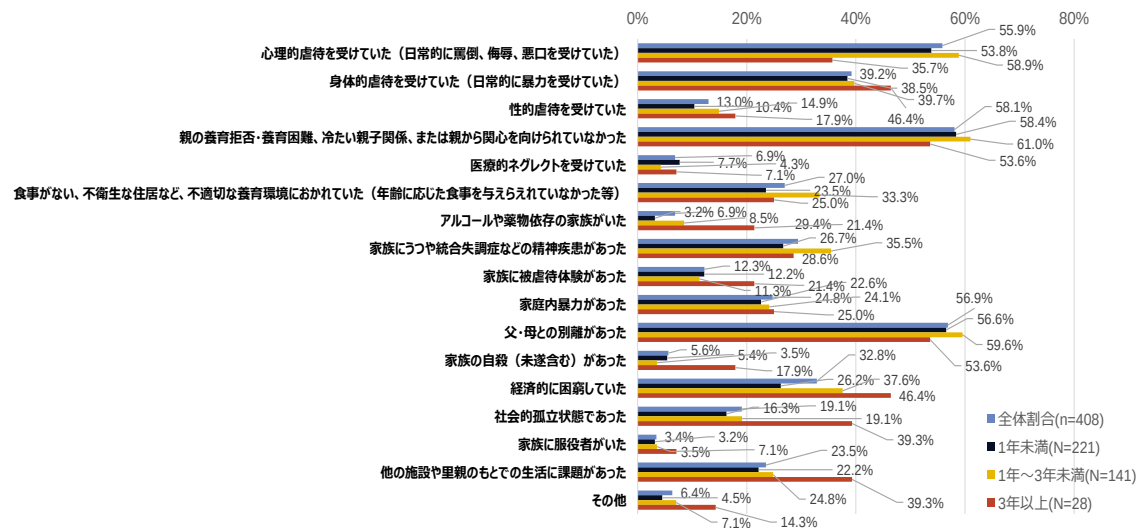
図表 248 社会的養育が必要となった背景【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 「経済的に困窮していた」「社会的孤立状態であった」で受け入れ期間 3 年以上の方は割合が 1 年未満よりも 10 ポイント以上高かった。

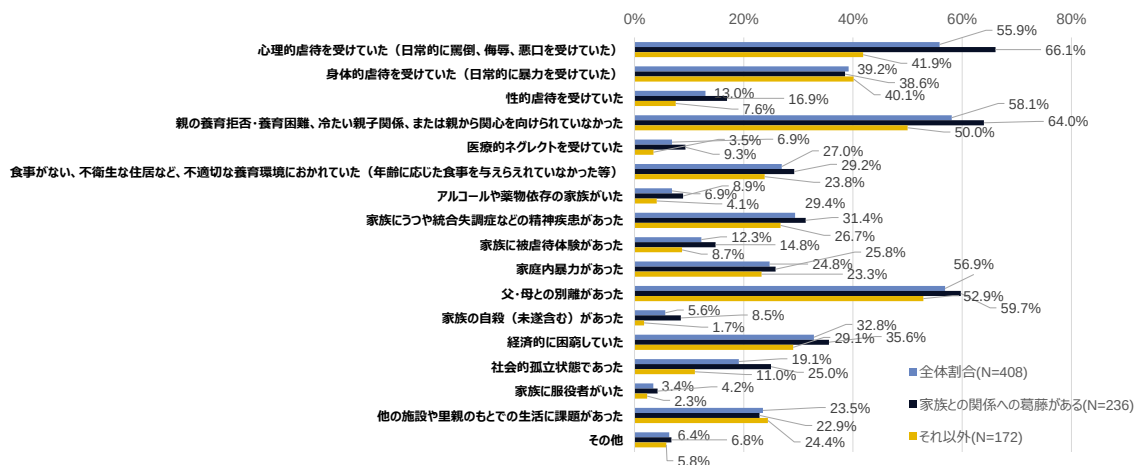
図表 249 社会的養育が必要となった背景【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 「心理的虐待を受けていた」「親の養育拒否」において家族との関係への葛藤がある方が 10 ポイント以上高かった。

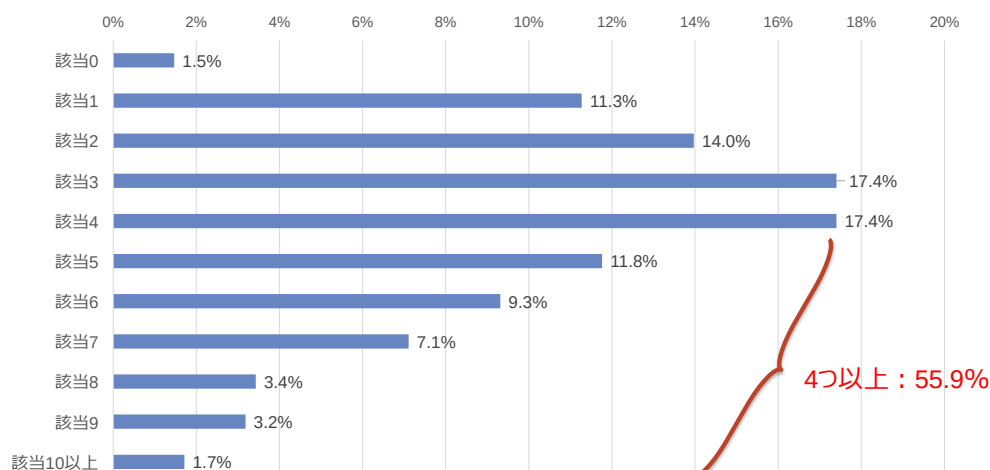
図表 250 社会的養育が必要となった背景【家族との関係への葛藤別】



<該当数の分布>

- 社会的養育を必要とした背景に該当する数が 3 つ・4 つの割合がそれぞれ 17.4%と最多であった。また、4 つ以上該当する割合は 55.9%であった。

図表 251 社会的養育が必要となった背景の該当数(N=408)



④養育を行う上で特別な配慮が必要な事項について

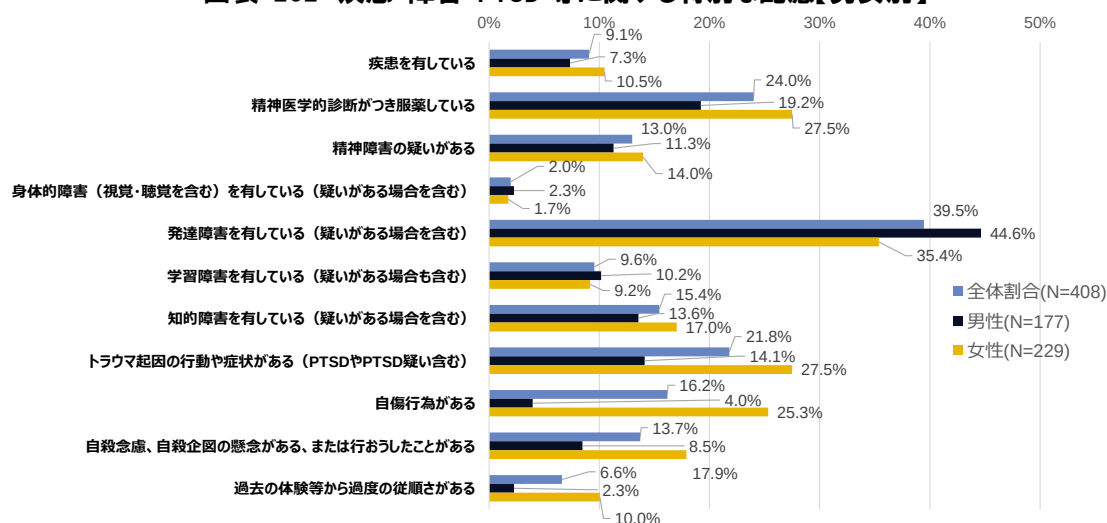
(a) 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮

- 全体では「発達障害を有している」が 39.5%と最多、次いで「知的障害を有している」が 24.0%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 「トラウマ起因の行動や症状がある (PTSD や PTSD 疑い含む)」「自傷行為がある」は女性の方の割合が 10 ポイント以上高かった。

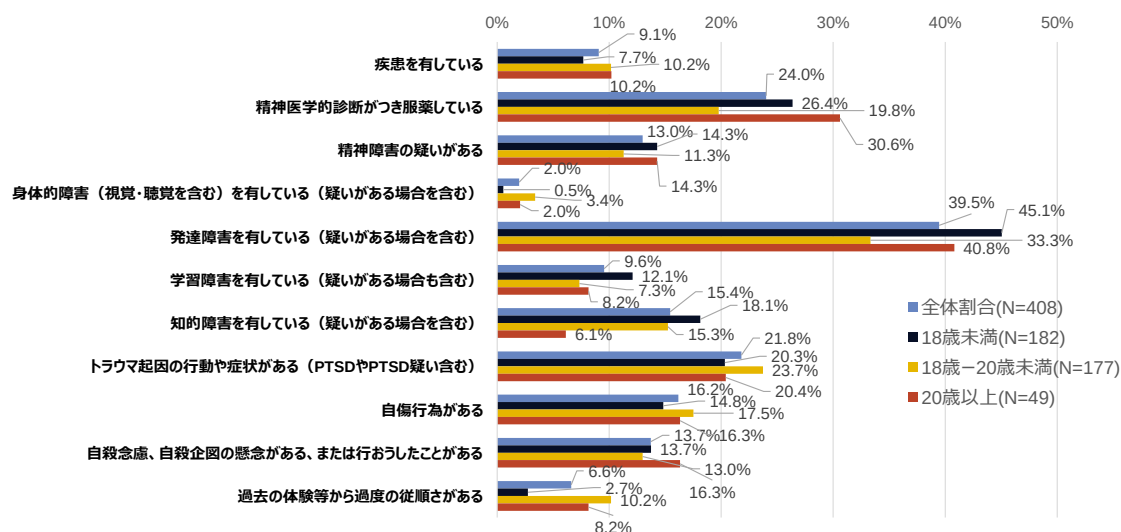
図表 252 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢区分別では大きな傾向の違いは見られなかった。

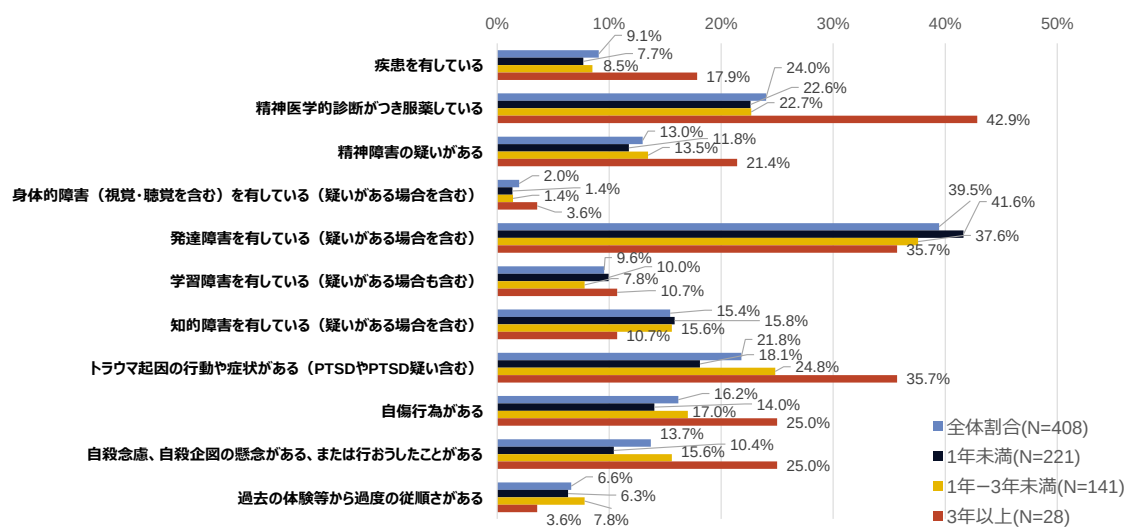
図表 253 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 「精神医学的診断がつき服薬している」「トラウマ金（の行動や症状がある（PTSDや PTSD 疑い含む）」は受け入れ期間 3 年以上の方の割合が 10 ポイント以上高かった。

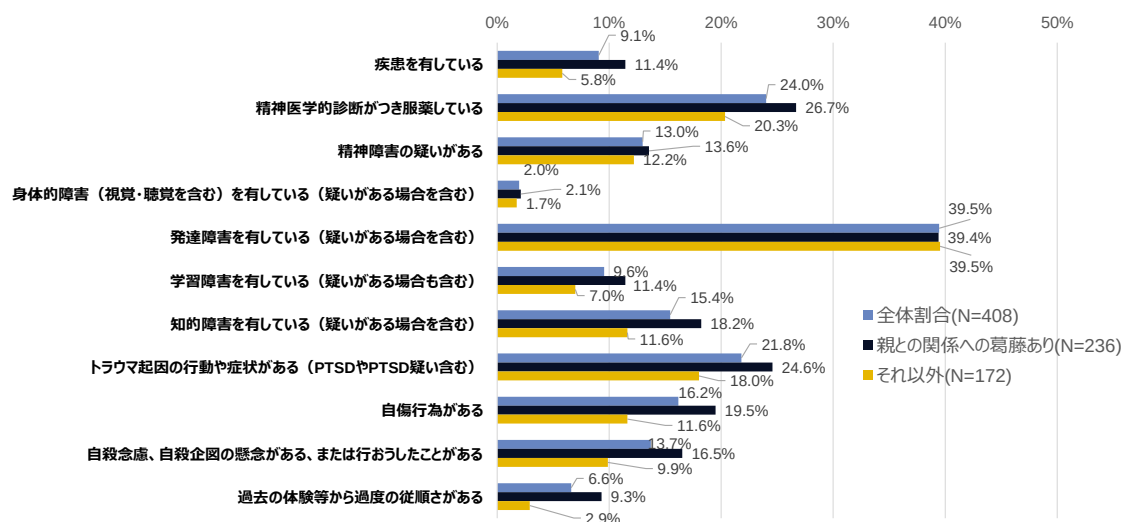
図表 254 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 家族との関係への葛藤別では大きな傾向の違いは見られなかった。

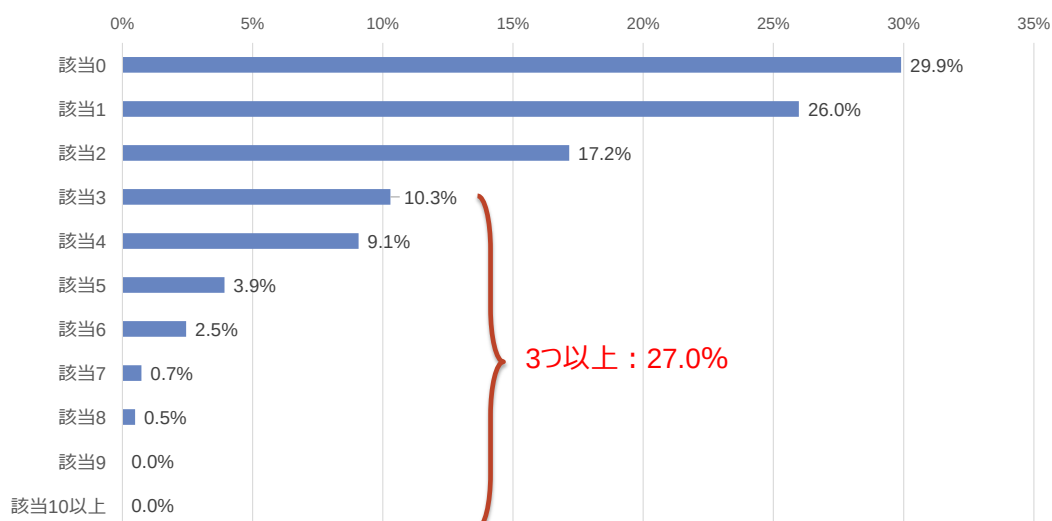
図表 255 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮【家族との関係への葛藤別】



<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数【11 項目における該当数】>

- 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数は、0 の割合が 29.9%と最多、次いで 1 つが 26.0%であった。一方、3 つ以上該当する割合も 27%であった。

図表 256 疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮への該当数(N=448)



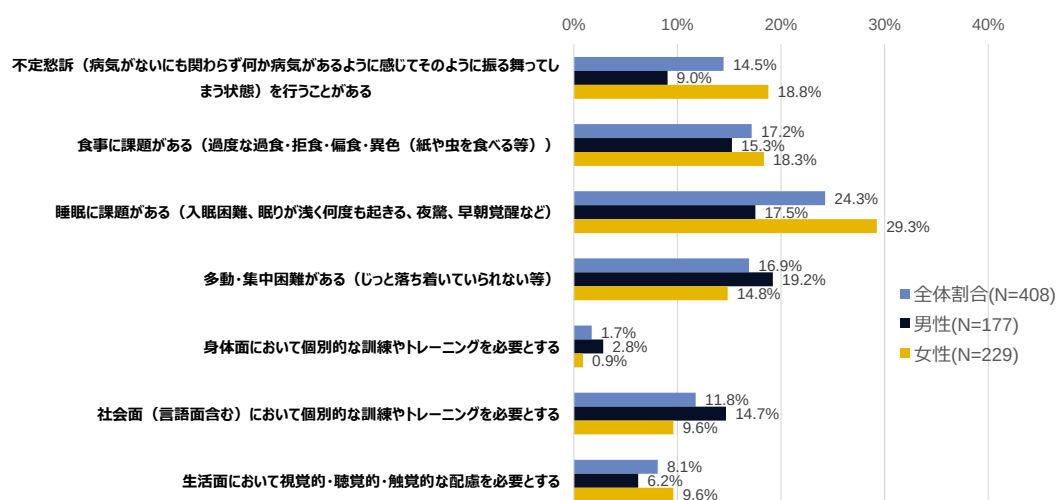
(b) 日常生活における課題等に関する特別な配慮

- 全体割合では「睡眠も課題がある（入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）」が24.3%で最多、次いで「食事に課題がある（過度な過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）」が17.2%であった。

<男女別>

- 男女別では大きな傾向の違いは見られなかった。

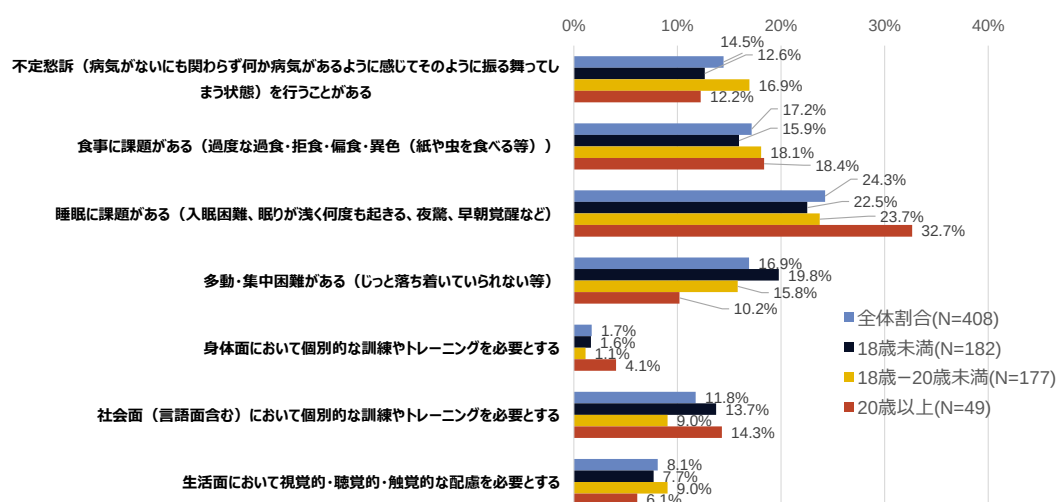
図表 257 日常生活における課題等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 年齢区分別では大きな傾向の違いは見られなかった。

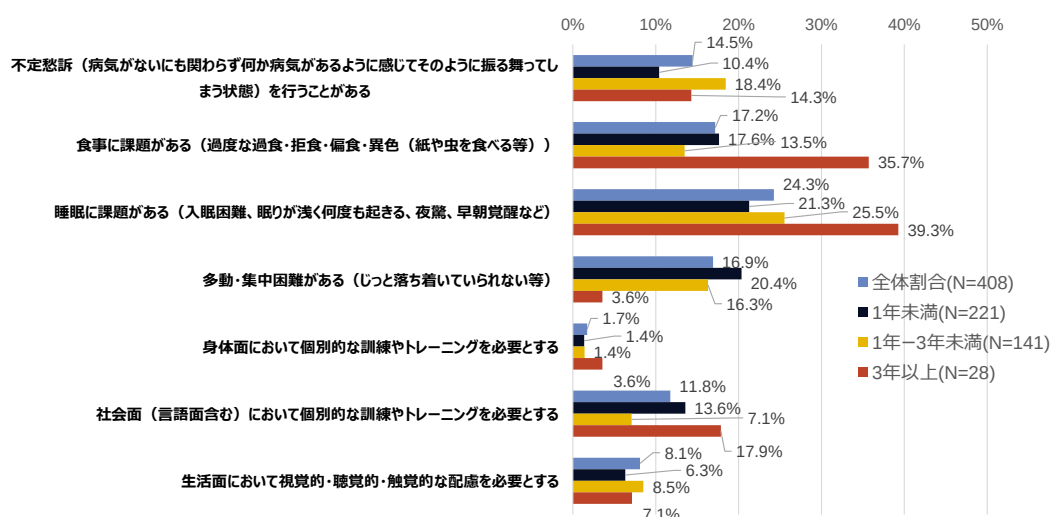
図表 258 日常生活における課題等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 「食事に課題がある（過度な過食・拒食・偏食・異色）」「睡眠も課題がある（入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）」は受け入れ期間 3 年以上の割合が 10 ポイント以上高かった。

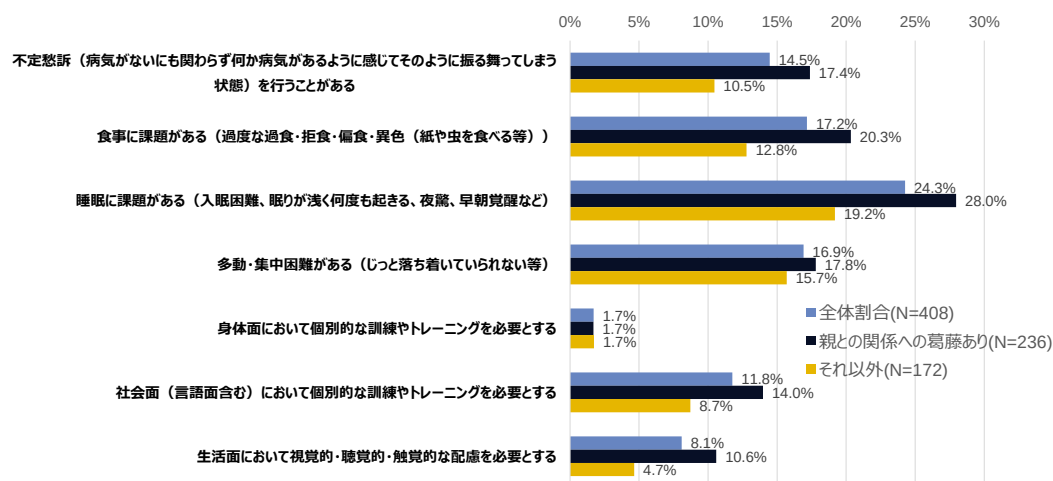
図表 259 日常生活における課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 家族との関係への葛藤別では大きな傾向の違いは見られなかった。

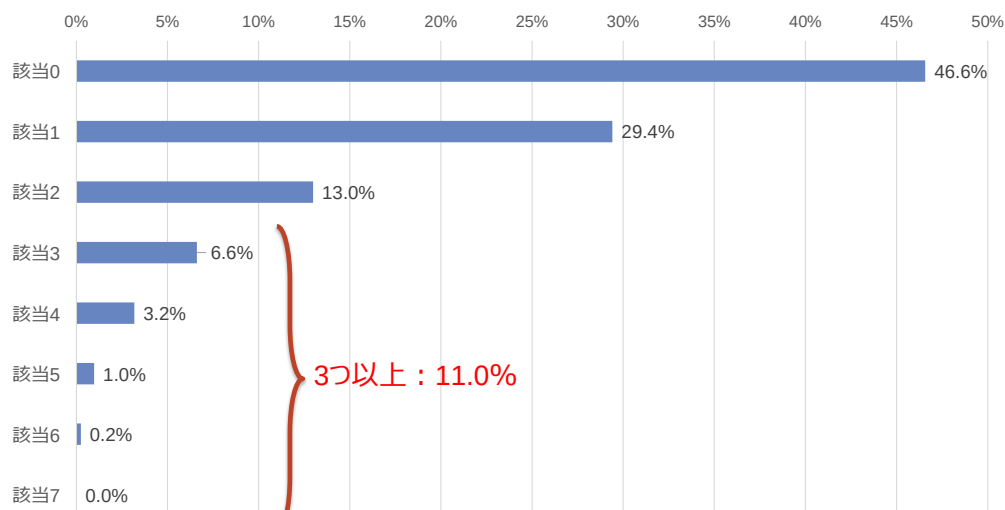
図表 260 日常生活における課題等に関する特別な配慮【家族との関係への葛藤別】



<日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数【7項目における該当数】>

- 日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数は 0 の割合が 46.6%と最多、次いで 1 つが 29.4%であった。また 3 つ以上該当する割合は 11%だった。

図表 261 日常生活における課題等に関する特別な配慮への該当数(N=408)



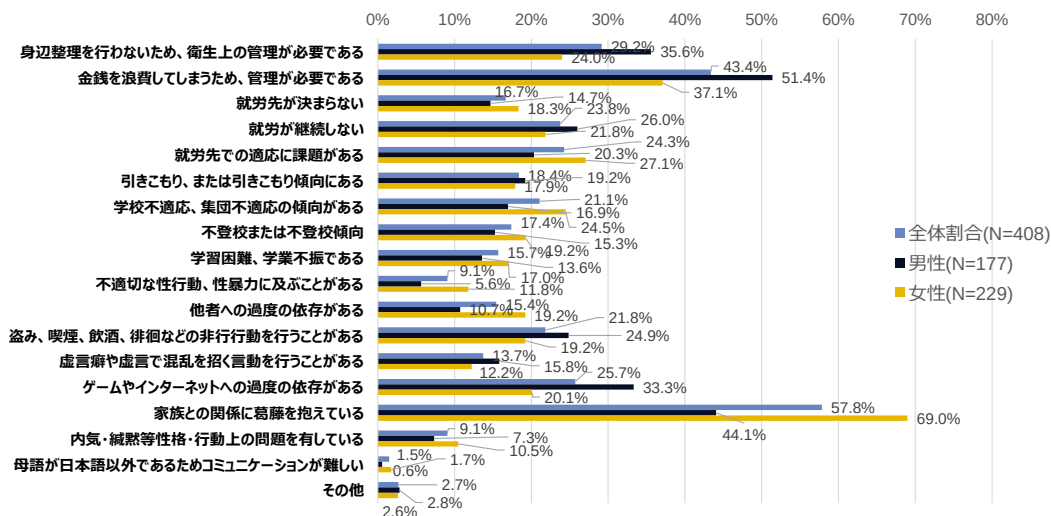
(c) 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮

- 「家族との関係に葛藤を抱えている」が 57.8%と最多、次いで「金銭を浪費してしまうため、管理が必要である」が 43.4%であった。
- なお、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤の状況別によるクロス集計結果は以下の通りであった。

<男女別>

- 「家族との関係に葛藤を抱えている」は女性の方の割合が 10 ポイント以上高かった。

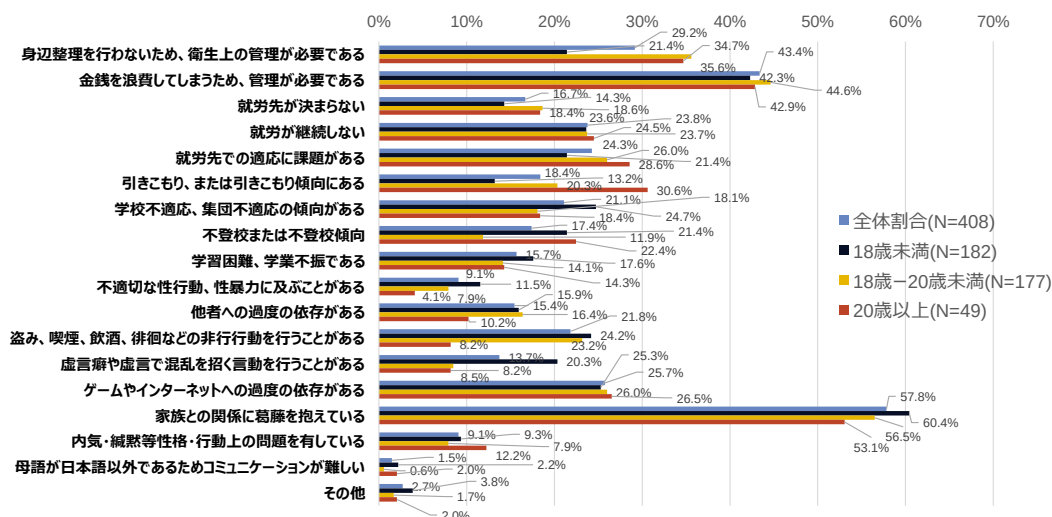
図表 262 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【男女別】



<年齢区分別>

- 「引きこもり、または引きこもり傾向にある」「不登校または不登校傾向」は20歳以上の割合が10ポイント以上高かった。

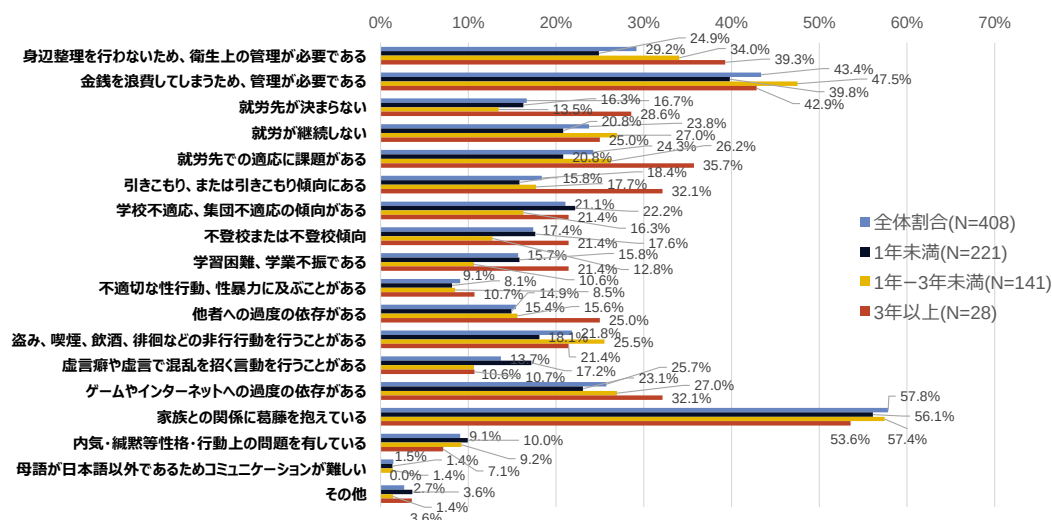
図表 263 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【年齢区分別】



<受け入れ期間別>

- 「就労先での適応に課題がある」「引きこもり、または引きこもり傾向がある」は受け入れ期間3年以上の方の割合が10ポイント以上高かった。

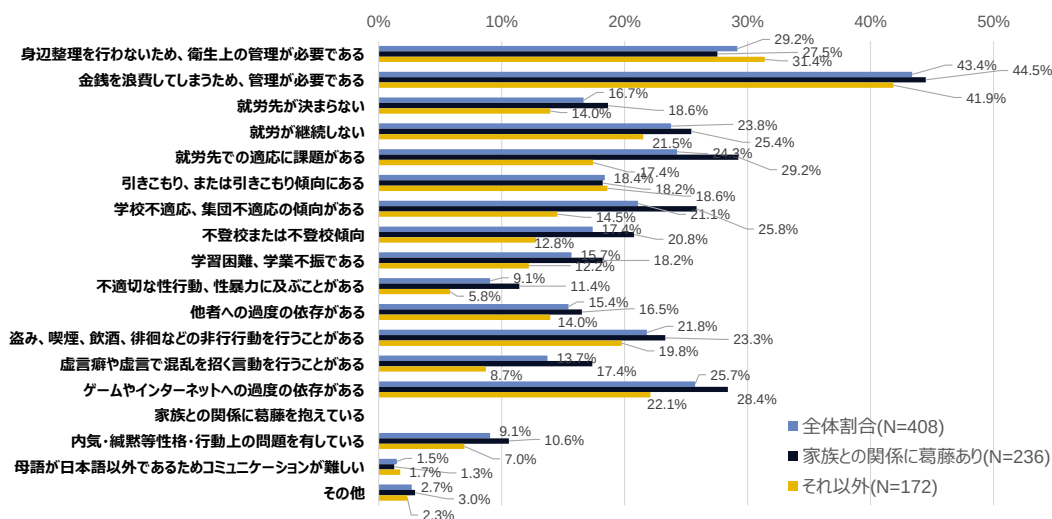
図表 264 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【受け入れ期間別】



<家族との関係への葛藤別>

- 家族との関係に葛藤別では大きな傾向の違いは見られなかった。

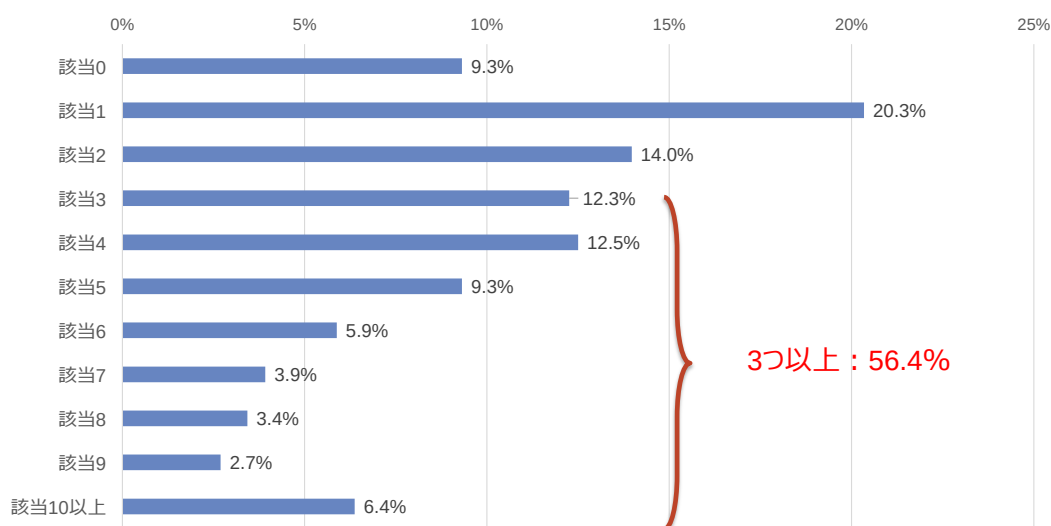
図表 265 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮【家族との関係への葛藤別】



<学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数【12項目の該当数】>

- 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数は、1の割合が20.3%と最多、次いで2つが14.0%であった。一方、3つ以上該当する割合も56.4%であった。

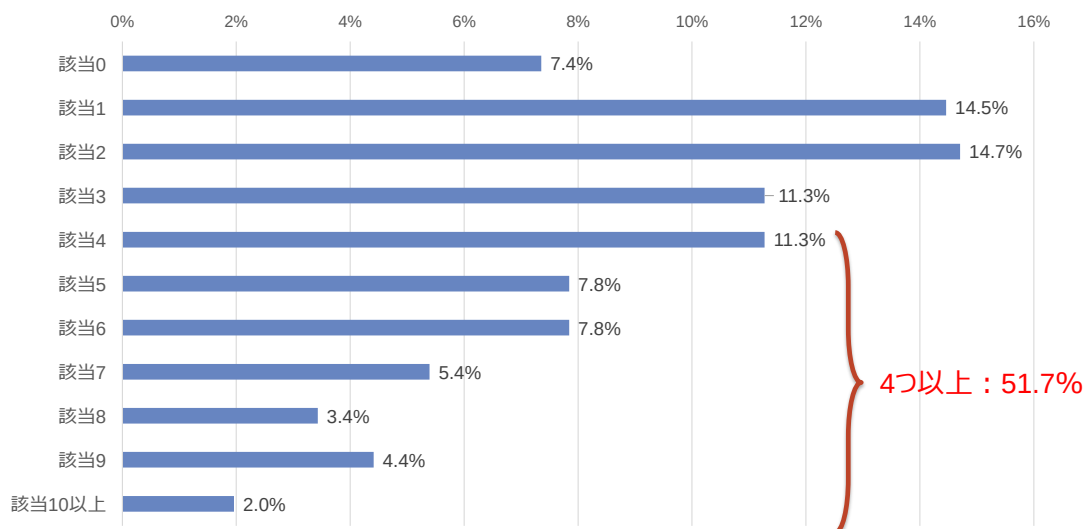
図表 266 学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮への該当数(N=408)



(d) 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項の該当数【全 31 項目における該当数】

- 養育を行う上で特別な配慮が必要な事項は 2 つの割合が 14.7%と最多、次いで 1 つが 14.5%であった。一方、4 つ以上該当する割合は 51.7%であった。

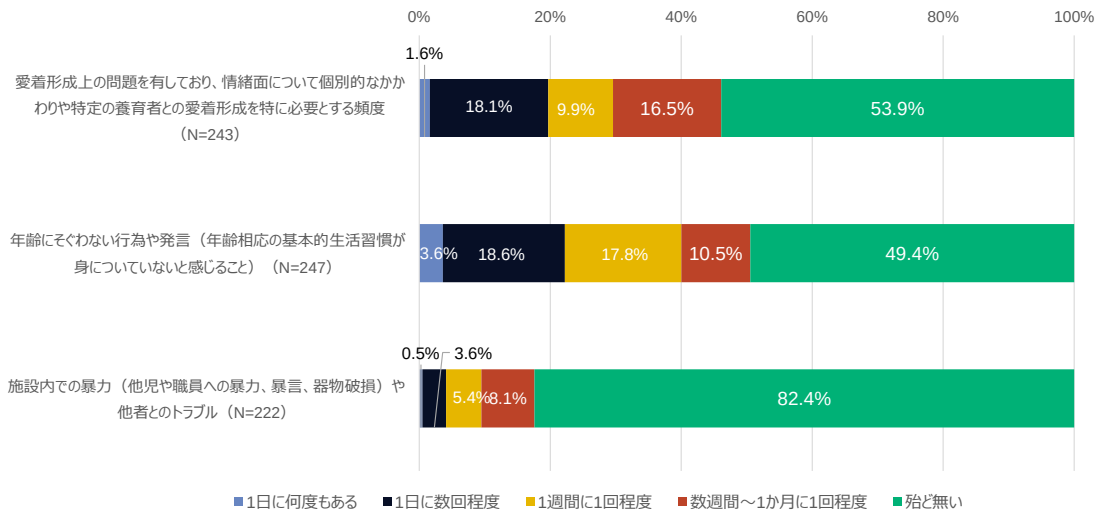
図表 267 養育を行う上で特別が必要な事項の該当数(N=408)



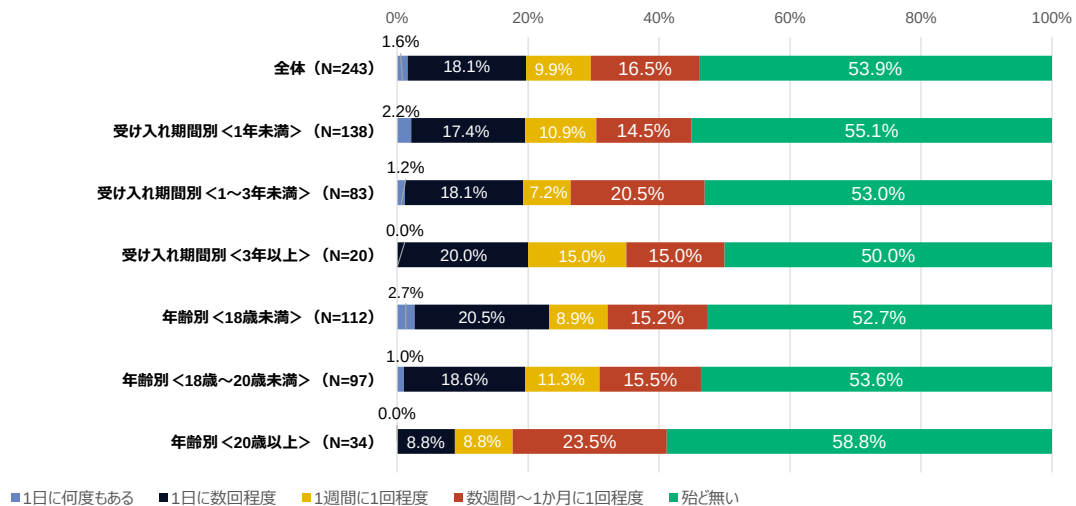
⑤特定の行動・事象の発生頻度

- 1日に数回以上ある割合（「1日に何度もある」と「1日に数回程度」の合計）は愛着形成が 19.7%、年齢にそぐわない行為や発言が 22.2%、施設内での暴力や他者とのトラブルが 4.1%であった。
- 愛着形成上の問題を有しており、情緒面について個別的なかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする頻度た 1日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では各期間ともに約 20%、年齢別では 18歳未満が 23.2%と最多であり、受け入れ期間・年齢による差が見られた。
- 年齢にそぐわない行為や発言が 1日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では 1年未満が約 24.6%、年齢別では 18歳未満が 27.9%と最多だった。
- 施設内の暴力や他者とのトラブルが 1日に複数回以上ある割合は、受け入れ期間別では 1年未満が約 6.6%、年齢別では 18歳未満が 7.6%と最多だった。

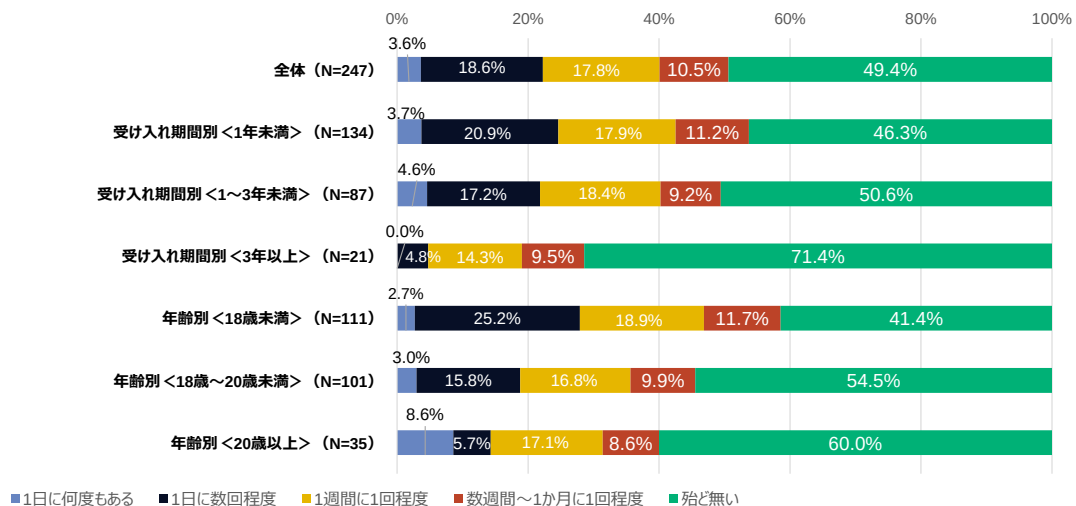
図表 268 特定の行動・事象の発生頻度



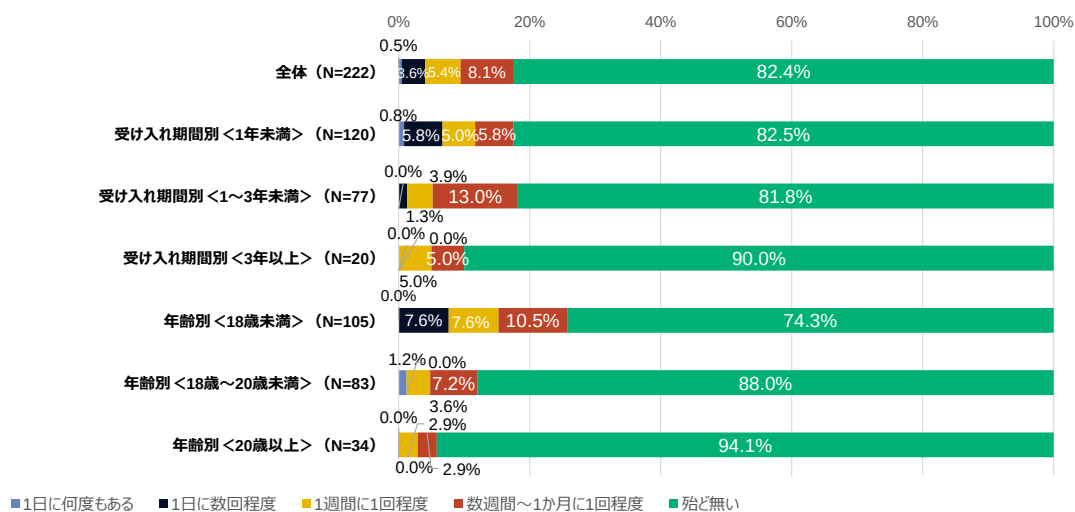
図表 269 愛着形成上の問題を有しており、情緒面について個別的なかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする頻度



図表 270 年齢にそぐわない行為や発言の頻度



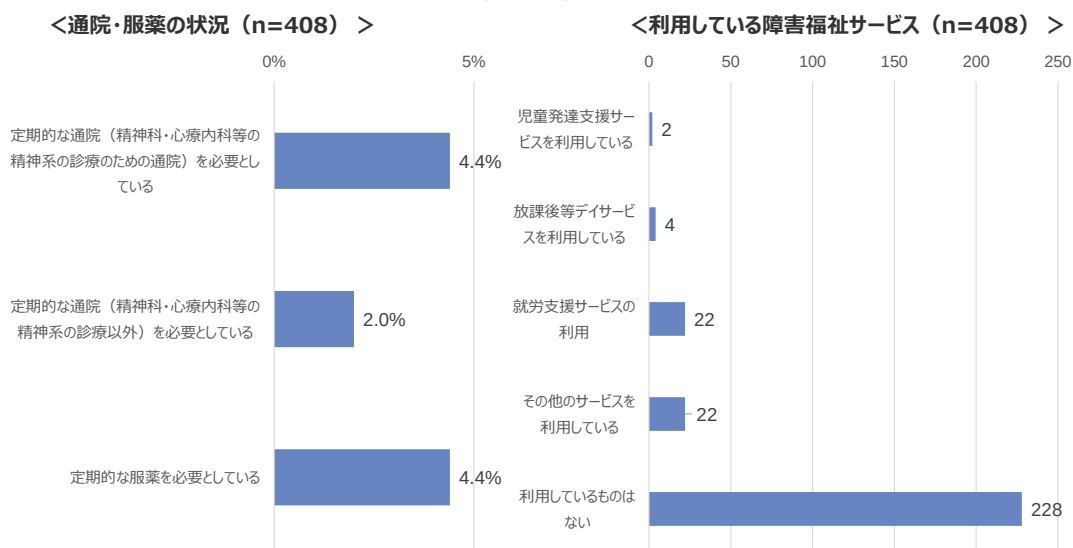
図表 271 施設内での暴力や他者とのトラブルの頻度



⑥通院・服薬、外部サービスの利用状況

- 定期的な通院を必要としている割合は合計で 6.4%、服薬を必要としている割合は 4.4%であった。
- 利用している障害福祉サービスは特にないが 228 人と最多であった。

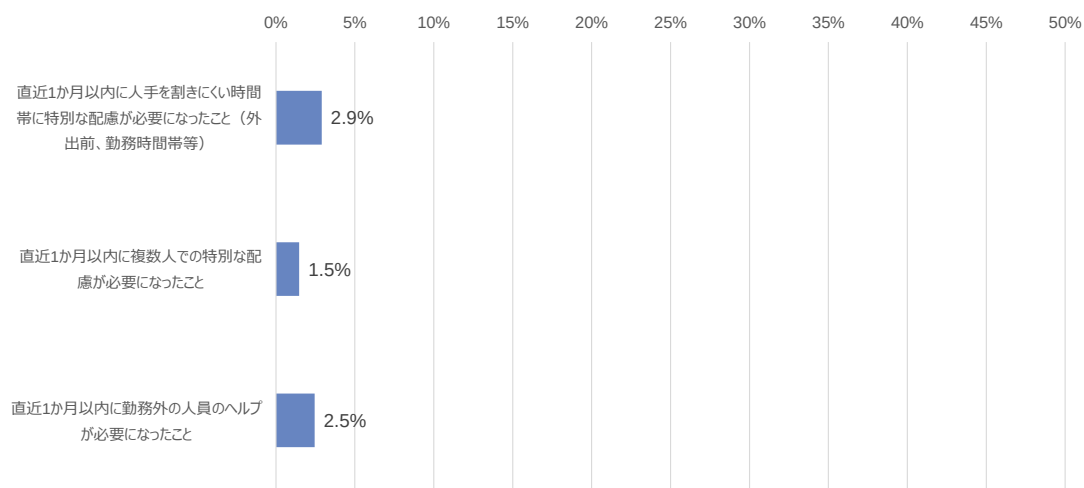
図表 272 通院・服薬、外部サービスの利用状況



⑦時間外や複数人での対応が必要になったケース

- それぞれほとんど発生していない状況であった。

図表 273 時間外や複数人での対応が必要になったケース(N=408)



2. ヒアリング調査結果

(1)里親

委託時の子どもの年齢が高くなる傾向にあり、またケアニーズの重い子どもが増えている傾向にあった。そのため、里親自身にもトラウマに起因する問題行動への対応や、障害に関するケアなど、高い専門性が求められるケースが増えている。委託している子どものケアだけでなく、里親自身にもケアが必要となっていると考えられる。

図表 274 里親におけるヒアリング結果

ヒアリング項目	ヒアリング結果の傾向
委託児童の状況	✓ 施設養育のような高い専門性が求められるケースが増えている。例えば、児童心理治療施設から措置変更された子どものケースにおいては、里親のもとでルール・決め事がなくなったことで症状が再発してしまうようなケースがあった。 ✓ 委託される子どもの年齢が高くなっている傾向がある。小学生の割合が高いが、中には中学生を委託するケースもある。
支援の中で工夫されていること	✓ 学校の先生には支援の状況や子どもの特性を共有し、生活を行う中で一連の支援を行えるように工夫をとっていた。また、学校の保護者間では里子であることを公表し、理解してもらうよう努めているケースもあった。
社会的養育を必要とした背景	✓ 被虐待体験に対する保護として里親委託となるケースが多い。その他の背景としては、母子・父子家庭で親が入院するために養育者が必要となるケース、親が自死したケース等背景は様々である。
特別な配慮が必要となる事項	✓ 愛着形成上の問題が生じている。複数の子どもを養育していると、母親の取り合いで喧嘩になってしまうこともある。 ✓ 虐待の影響で自己肯定感が低い子どもがおり、コミュニケーション上の配慮が必要なケースがあった。
ニーズの変化	✓ トラウマ起因のニーズだと考えていたものが、ケアを行ううちに実は違う問題に起因していた、等里親起因でニーズの変化に気づいているようであった。学校で問題を起こすことが多いのは、トラウマに依るものではないか、と考えていたが、日常の養育を行う上で言語の習得に難があることに気づき、新たなケアニーズに気づいた、というケースがあった。
トラウマについて具体的に生じるニーズ	✓ 虐待体験から、大人から怒られないようにするために嘘をついてしまう。自分の都合の良いように話してしまい、社会適応が難しくなるケースがあった。これらのケースでは周りの子どもたちを

ヒアリング項目	ヒアリング結果の傾向
	巻き込んで周囲に悪影響を及ぼしてしまうこともある。
職員負担に関する事	✓ 里親にも心理的な負担が生じていることから、里親の心理的なケアが必要になるケースがある。子どもと最初に出会ったときは、可愛さを感じるが、成長するにつれて、あるいはトラブルをかかえるにつれて、可愛さを感じない時期が訪れる。その時に里親自身の自己嫌悪感が強まる傾向がある。
外部との連携等	✓ 基本的には児童相談所と相談して、支援方針を検討する等、児童相談所との連携が多い。

(2)ファミリーホーム

里親と同様に、委託時の子どもの年齢が高くなる傾向にあり、またケアニーズの重い子どもが増えている傾向にあった。また、一時保護の対応を求められることもあり、負担が増している傾向にあった。

図表 275 ファミリーホームにおけるヒアリング結果

ヒアリング項目	ヒアリング結果の傾向
委託児童の状況	✓ ファミリーホームにおいても施設養育のような高い専門性が必要となるケースが増えている。例えば、児童自立支援施設から措置変更された子どもを複数養育しているケースにおいては、家庭で暴れる、等の傾向があり、委託期間も長くなる傾向にあった。
支援の中で工夫されていること	✓ 家庭養育であることの特徴を活かし、スキンシップを取るようになっている事例があげられた。養育者が実親の様に対応することが重要である。児童相談所と連携して、ファミリーホームとして対応できることを整理し、児童相談所との連携に注力するケースも見受けられた。
社会的養育を必要とした背景	✓ 虐待・ネグレクトを経験してファミリーホームに措置された子どもたちが多かった。
特別な配慮が必要となる事項	✓ 学校不適合、集団不適合のケースが見受けられた。自宅では喋るが、学校では緘黙になってしまう、人に気持ちを伝えられない、というケースがあった。 ✓ 委託当時は盗癖等の非行行動も見受けられるが、委託期間が長くなるにつれて特別な配慮が不要になることもあった。
ニーズの変化	✓ 学習・発達・知的障害に関するケアニーズは重みの変化はあるものの、継続的にケアすることが必要であり、ニーズは基本的には

ヒアリング項目	ヒアリング結果の傾向
	変化しない。一方で、癇癢や非行行為に関するケアニーズは時間と共に落ち着いている傾向がある。子どもと過ごす時間が増えるにつれて和らぐケアニーズもある。
トラウマについて具体的に生じるニーズ	✓ 虐待に起因して愛着のケアニーズは生じている。母との関りを求めるケースは多い。 ✓ 緘黙や自分の気持ちを正しく伝えることができず、癇癢につながるケースも見受けられる。
職員負担に関すること	✓ 子どもの数が多い分、多様な問題に直面し負担がかかっている。独り立ちした児童の支援が必要になるケースも存在する。 ✓ 特に負担が大きくなるのは、一時保護の子どもを受け入れるときである。情報が乏しく、かつ従来生活している子どもたちに影響がでないか、細心の注意を払う必要がある。
外部との連携等	✓ 児童相談所との連携が重要である。物理的に児童相談所との距離が近い場合、緊急時にすぐにケアワーカーが訪問してくれてくれることがある等利点は多い。施設とは異なり、ファミリーホームでは子どもの矯正はできない。ファミリーホームとしての役割はここまでであり、できないことはチーム（児童相談所等）に委託する、という姿勢が見受けられた。 ✓ 法人型のファミリーホームである場合、法人内のその他の施設から支援を得るケースがあった。

(3)児童養護施設

高齢児の入所（背景としては虐待等が中心）が増加しており、そのような中で支援の工夫として小規模化・地域分散化することで個々のニーズに合わせたケアがされていた。

具体的なニーズとしては、入所直後はトラウマ起因の課題や、繋がりにくさ（関係構築のしにくさ）の課題が大きいものの、関係性が構築されてコミュニケーションが取れるようになってくるにつれて、新たなニーズが表出されて、愛着形成上の課題（例えば職員への独占欲求や特定の職員への要求の集中等）に繋がるケースが多いことが挙げられた。また、関係構築のために子どもの興味・関心・食へのこだわり等を聞き出し理解して時には一緒に実施することもケアニーズの一つと考えられる。

そのような中、組織化して個々の職員へのケアやマネジメントをすることで職員負担・ケアの質向上が図られていた。

図表 276 児童養護施設におけるヒアリング結果

ヒアリング項目	ヒアリング結果の傾向
入所児童の状況	✓ 全体的に高齢児の受け入れが多くなっている傾向であった。個別の背景としては、虐待や非行等を理由に入所する児童が多く、虐待等の背景として親の疾患・障害・経済的事情が要因となっている傾向であった。
支援の中で工夫されていること	✓ 小規模化・地域分散化をして、より個別的なケアをすることや、個別ホームでの主体性を持たせることで、個々のニーズに合わせたケアがされていた。
社会的養育を必要とした背景	✓ 虐待等により入所した児童は、先ず愛着形成上の課題が大きく、その他に発達障害への対応や、医療ニーズへの対応等が挙げられた。
特別な配慮が必要となる事項	✓ 高齢児の入所が増加することにより、入所時にある程度の価値観が既に形成されており、本人との関係を築いていく必要があるという課題が挙げられた。そのための方策として、先ずは入所児童の背景・経験・価値観を肯定しつつ、関係構築やケアをするような工夫がされていた。
ニーズの変化	✓ 入所直後はトラウマや愛着形成上の課題があるが、徐々に安心して愛着も形成されてくると新たなニーズが表出され、例えば職員の独占欲求や特定の職員への要求の集中等に繋がるケースが多いことが挙げられた。
トラウマについて具体的に生じるニーズ	✓ 眠りが浅い、夜泣き、物音に敏感になるという特徴も出ているようであった。
職員負担に関すること	✓ 特定の職員に入所児童からの要求が集中して職員の負担となるケースや、日々のケアでも職員の能力が求められている状況であった。それに対して、組織化をして、各ホームで直接入所児童のケアを担当している職員へのケアや相談・報告体制を整備するような工夫がされていた。
外部との連携等	✓ 児相、児童自立支援施設等、外部の社会資源も活用しながらケアを実施している状況であった。

(4)乳児院

新生児医療の発達により、医療的なニーズを抱え、それが保護者のキャパシティを超えてしまう場合に結果的に不適切な養育環境となり、乳児院に入所するケースが一定数あり、医療との連携のもとで丁寧な支援が求められていた。そのような中で母子面会や産前産後

母子支援との連携も含めて母子の支援をしていることが確認された。

具体的なニーズとしては、医療的ニーズについての課題が大きいことに加え、入所当初は虐待やトラウマの影響があるが、それが薄まっていくにつれて、愛着形成の課題や特定の職員への独占欲求等に繋がるケースが多いことが挙げられた。

図表 277 乳児院におけるヒアリング結果

ヒアリング項目	ヒアリング結果の傾向
入所児童の状況	✓ 全般的な特徴として医療的ニーズを抱えており医療機関との連携が必要な子どもが多いことが挙げられた。また、親の精神疾患により養育困難となっているケースも近年で増えつつあるようであった。
支援の中で工夫されていること	✓ 母子面会は積極的に受けることで、子どもと親双方の支援をしているような事例が挙げられた。
社会的養育を必要とした背景	✓ 医療的ニーズを抱えた子どもにおいて、虐待や、虐待による愛着形成上の課題を抱えているケース等が挙げられた。
特別な配慮が必要となる事項	✓ 子どもへの虐待への影響として自傷・他害となって影響が表出されるケースや、若年母子であり産前産後母子支援と組み合わせた支援をしているケース等が挙げられた。 ✓ 不適切な養育環境に置かれた子どもに先天的に発達に課題があるのか、養育環境によるものなのか（重複している部分もある）や、日々の養育での支援または発達に焦点をあてたケアがより求められるのか、等についてのアセスメントが極めて重要。
ニーズの変化	✓ 入所当初は、虐待やトラウマの影響があるが、影響が薄まった段階で、愛着形成の課題や特定の職員との関わり等でより高次の欲求が表出されていき対応に時間がかかるようになる。また、成長するにつれて子どもの障害が顕著になることが挙げられた。
トラウマについて具体的に生じるニーズ	✓ 子どもへの虐待への影響として自傷・他害となって影響が表出される。
職員負担に関すること	✓ ケアの負担に加えて、退所時の葛藤もあるため、職員のケアに心理職員を入れてケアを実施している。
外部との連携等	✓ 療育関係の施設と病院と多く連携している。特に嘱託医は 24 時間連携をとっている。

(5)児童心理治療施設

子どものケアだけでなく治療をしていることが最大の特徴であり、発達障害やトラウマ等への専門的な治療を実施するとともに、子どものニーズの変化に合わせたケアが行われていた。

図表 278 児童心理治療施設におけるヒアリング結果

ヒアリング項目	ヒアリング結果の傾向
入所児童の状況	✓ 近年では 100%に近い割合で発達障害の課題を有しており、家族関係とのコミュニケーションや学校関連の課題を複合して抱えているケースも挙げられた（ヒアリング施設においては、診療所を一度受診してから入所するというフローであった）。
支援の中で工夫されていること	✓ 医療の枠組みの中で支援をしていることが最大の特徴であり、個々のケースについて治療プランを考えて実行し、必要あれば修正するサイクルが実施されていた。 ✓ ヒアリング施設においては、子どもの担当制を敷いており男女の生活指導員、心理士（本人・親）の 4 人 1 チーム制とし、基本的にはチームで責任をもって対応して、医師等が必要に応じて助言する体制が構築されていた。
社会的養育を必要とした背景	✓ 大きな要因として経済的な困窮があり、それが家族の無理な就労に繋がることが多い。 ✓ 上記の経済的な事情に加えて、発達面での課題が加わっている傾向であった（親・子ども双方）。
特別な配慮が必要となる事項	✓ 発達障害があるために、刺激過多になるのが好ましくない中で、なるべく刺激を与えないような配慮や、視覚的な支援、スケジュールや本人がやることを明確化する等、発達障害に合わせた生活構造が作られていた。 ✓ また、発達障害があると個別的な支援でないと難しいとの考えから、居室が全て個室化されていた。 ✓ 退所・家庭復帰時の課題として、福祉制度の情報提供をして家族の経済状況に対する支援も行われていた。
ニーズの変化	✓ 導入期（半年～1 年間）、展開期（それぞれの間の期間）、終結期（半年～1 年間）の 3 段階に分かれていた。導入期では子どもの施設生活への不安を解消する段階、展開期は施設に慣れてくる中で子どもの緊張が解けて本来の問題が表出し、治療のトライアンドエラーを繰り返すことで徐々に終結期として退所・家庭復帰に向かうという流れであった。

ヒアリング項目	ヒアリング結果の傾向
トラウマについて具体的に生じるニーズ	✓ ト라우マ症状としての過覚醒や回避行動等の特性を持っている子どもが多い。治療の順番としては先ず安心・安全な生活環境を提供するのが第一段階、子どもの不安をケアをすることができるようになるのが第二段階で、最後の第三段階で自身のトラウマに向き合っていくことになり、第一段階・第二段階で終結することが多いが、それを提供することが難しい。
職員負担に関すること	✓ 特定の子どもに手がかかるときは負荷が集中するため、職員の負担が大きくなっていた。
外部との連携等	✓ 施設内の分校・分級の教員との密な連携が必要であること、緊急時に入院できる病院との連携が重要であることが挙げられた。また、高校生以降になると生活の多くが施設外になるので、施設外の学校・アルバイト先・就労先との連携もされていた。

(6)児童自立支援施設

全般的に周囲との関係構築に課題のある児童が多いことや、性加害の多さも課題として挙げられた。また、性別による差異もあり、女子の方が自身の状況をより理解している傾向にあり、その分職員への要求も大きくなるという傾向であった。

そのような中で、問題行動が起きた際に一律に罰するのではなく、共に考えていくことで安心感を醸成するとともに、一定の枠のある生活の中で、基本的な生活習慣の改善を図られていた。

更に、自己肯定を上げる支援もなされており、併設の学校との連携により、各自の能力に見合った支援が行われていた。

図表 279 児童自立支援施設におけるヒアリング結果

ヒアリング項目	ヒアリング結果の傾向
入所児童の状況	✓ 地域で何らかの問題を起こした子どもたちが入所する。虐待体験に起因するもの、精神疾患に起因するもの等背景は様々である。傾向としては概して自信を持ってない子どもが増えている。
支援の中で工夫されていること	✓ 大勢の子どもが一斉に入所し、既存の集団に影響を与えないよう、入所時期を調整する仕組みが取られていた。 ✓ 小さな成功体験を繰り返し、自己肯定感を高められるような工夫を行っていた。例えば、学業においては、子どもたち個々人が躓いた箇所まで遡り、基礎から理解してもらうよう、丁寧な教育を実施していた。
社会的養育を必	✓ 被虐待体験がある子どもが多い。子どもそれぞれが虐待を経験

ヒアリング項目	ヒアリング結果の傾向
要とした背景	し、地域での問題行動に繋がり、児童自立支援施設に入所するケースが多い。複数の逆境体験を経験していても、認定されているのは1つだけであることも多い。
特別な配慮が必要となる事項	✓ コミュニケーションに問題があり、謝ることができず子どもたち同士で問題になるケースがある。 ✓ 地域で性問題行動を起こした子どもについては、入所後も随所に再発を懸念する発言があるため、男女双方への性教育が必要である。
ニーズの変化	✓ 集団に馴染めないことを男女関係なく気にしている。そのため、入所当初は自分が馴染めそうな集団を探す傾向がある。集団に慣れ始めると我がでてきて、トラブルが増える傾向がある。
トラウマについて具体的に生じるニーズ	✓ 虐待体験から、自信を持ってない入所児童が多い。不定愁訴を行うことや、はじめて取り組むことに関しては、表情が硬くなり、落ち着きを失ってしまうことがある。大人に囲まされると、怒られると警戒し、パニックになってしまう入所児童もいる。
職員負担に関すること	✓ ニーズを見抜くこと、そのニーズに対応することの双方に負担が生じる。子どもたちの本当のニーズに気づくことが難しく、職員同士で連携してニーズを把握することが重要である。子どもたちは、自分のニーズに対応する職員には信頼を寄せるが、そもそもニーズを見抜くことが難しい。またはニーズが分かったとしても対応ができない職員には信頼を寄せない。
外部との連携等	✓ 医療機関や必要に応じて市町村の学校等とも連携しながら、入所児童の支援を行っている。特に近隣に医療機関からの支援が受けられる体制が整っていることで、

(7)母子生活支援施設

入所背景としてはDV被害が多いが、DV被害による母自身の自己評価の低下や、自身の子への暴力・養育困難に繋がる等、世代間連鎖しているケース等が見られた。また、子どもが施設に慣れてくる過程で様々な問題や要求が表出されることで母への負担と子どもの要求ともギャップが生まれることへのケアも重要視されていた。

そのような中で、医療機関や学校等、外部と連携しながら母子双方の支援が行われていた。

図表 280 母子生活支援施設におけるヒアリング結果

ヒアリング項目	ヒアリング結果の傾向
母子の状況	✓ 母が入所に至る背景・要因としては DV 被害等によるものが多く、心身のケアだけでなく、離婚・親権等の手続き面での支援も合わせて行われている。 ✓ また、併せて母自身または子どもが精神疾患や発達／知的障害を持つケースも多く、複合的なケアが必要な状況であった。
支援の中で工夫されていること	✓ 医療機関や必要に応じて学校等とも連携しながら、母子双方の支援が行われていた。
社会的養育を必要とした背景	✓ DV に加えて、母自身が養育において多重な困難を抱え込んでいる場合も多く、特に母自身の家族との関係に問題があるケースも挙げられた。 ✓ また、母の DV 被害が、自身の子への暴力・養育困難に繋がる等、世代間連鎖しているケースも挙げられた。
特別な配慮が必要となる事項	✓ DV によって母自身の自己肯定感が低下することにより、子どもにも影響が及び子ども自身も不安定な状態になったり、面前で DV を体験することによるトラウマや自己評価の低下等に繋がる傾向があった。
ニーズの変化	✓ 子どもが施設生活に慣れてくるにつれて、様々な問題や子どもからの要求が表出される。例えば、心理的虐待等、施設入所前の問題の再現であり、暴力を振るっていた父と同じような行為を再現するケースもあった。そうした子どもを母自身では受けとめていくことは困難である一方、子ども自身は母に受けとめて欲しい部分もあることから、このギャップへのケアが重要とされていた。必要に応じて、距離を図ることが求められる場合もあり、一時保護等の利用もされていた。
トラウマについて具体的に生じるニーズ	✓ 母に関しては言葉では表出されないものの、疾患・障害が顕在化したり、子どもにおいては面前での DV 体験等によりトラウマ・PTSDを発症し、施設入所前の問題の再現（暴力・暴言の真似、体験を語る、リストカットの真似等）として発出されるような傾向であった。
職員負担に関すること	✓ 支援内容が多岐に渡ることによって一人の職員だけで全て解決することができないため、専門職との連携が重要との意見であった。また、職員自身が指導や母子との関係性に悩みを抱えることも多く、外部の臨床心理士によるケア等も行われていた。
外部との連携等	✓ 医療機関や必要に応じて学校等とも連携しながら、母子双方の支援が行われていた。

(8)自立援助ホーム

家庭に加えて、他の施設等から入所しており、多様な背景を抱える子どもへの支援が行われていた。特に、発達等の障害を有していることや、自身への自信がないことから就労が困難なケースも多く、自立のための就労支援だけでなく、養育における回復・治療機能も求められてきている状況であった。

図表 281 自立援助ホームにおけるヒアリング結果

ヒアリング項目	ヒアリング結果の傾向
入所児童の状況	✓ 働かざるを得ないなど様々なバックグラウンドを持っている子どもが増えてきている。入所経路は、家庭から直接入所するケースに加えて、児童心理治療施設、児童自立支援施設、母子生活支援施設等から入所しているケースがあった。(18 歳を超えたが自立が難しい子どもであり、児童自立支援施設から来た子どもは 18 歳未満であっても施設不適応(性加害や暴力など施設内の自立支援のノウハウがない)となって入所している)。 ✓ また、本人自身の課題に加え、家族との関係に課題を抱えているケース(例えば実母とそのパートナーから金銭を要求される等)も挙げられた。
支援の中で工夫されていること	✓ 心理資格を有しているため入所時のアセスメントをきちんと行っている(施設によっては心理検査を実施せず、実施したとしても自立援助ホームに専門職がおらず見方がわからないというケースもある)。 ✓ OB に夜間支援員として入ってもらっている(心の共感があり、課題クリアの有効な 1 つの方法と考えられていた)。
社会的養育を必要とした背景	✓ 複数の要因に該当する子どもが多い(アンケート項目であれば殆どすべてに該当する)。親も同様の傾向があり、うまく伝わらないことがある。
特別な配慮が必要となる事項	✓ 以前は子どもにエネルギーがあることが多かったため、先ず土木関係で就労して、関係が悪くなるとほかの職場に行くという例が多かったが、現在はエネルギーがなくそもそも就労に向かわないこともある。 ✓ 背景としては、発達障害や他の障害等があり働くことへの見通しが立っていないことや、自信がなく働けないこと等が挙げられた。
ニーズの変化	✓ ライフステージ・年齢ごとに課題が変化しており、施設に慣れた後に就労の課題が表出されていた。

ヒアリング項目	ヒアリング結果の傾向
トラウマについて具体的に生じるニーズ	✓ 身体的ニーズを抱える子どももいるので、医療機関の連携も行っていることや、発達障害とトラウマを重複して抱えている子どもが多いため、法人内の児童精神科医と連携しているケースが挙げられた。
職員負担に関すること	✓ 特定の職員へ依存するケースが挙げられた。
外部との連携等	✓ 保護観察所、児童相談所、要保護児童対策地域協議会、障害者福祉サービス系と行政機関、学校だとスクールソーシャルワーカー、医療機関との連携がされていた。

第5章 分析・考察

1. 各調査結果のまとめ

(1) 里親

ア) 里親の状況について

受け入れている子どもの人数は「1名」が74.1%を占めているのに対し、2名以上で養育を行っている里親が86.4%であった。そうしたなかであって、現在子どもの支援を行う上で苦勞していることは「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」が32.1%と最多であった。精神系の通院を必要としている子どもの割合は16.0%、精神系以外の通院を必要としている子どもの割合は25.1%であった。また、服薬を必要としている子どもの割合は23.2%であった。里親においても、発達や障害等によって引き起こされるケアニーズへの対応が課題となっていることが伺える。

<関連する調査結果>

- 受け入れている子どもの人数は「1名」が74.1%を占めているのに対し、2名以上で養育を行っている里親が86.4%であった。
- 現在子どもの支援を行う上で苦勞していることは「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」が32.1%と最多であった。それ以外の観点を掲げている里親の数は各々10%未満であった。
- 精神系の通院を必要としている子どもの割合は16.0%、精神系以外の通院を必要としている子どもの割合は25.1%であった。また、服薬を必要としている子どもの割合は23.2%であった。

イ) 委託児童の状況について

① 社会的養育が必要となった背景

親の無関心、父母の別離、経済的困窮が上位の背景であり、里親に委託されている子どもは、主に家庭環境の問題から社会的養育が必要となっていた。また、社会的養育が必要となった背景について複数の要因を有しており、それに関連してケアニーズが多様化しているものと考えられる。

② 特別な配慮が必要な事項

発達障害を抱える子どもへの配慮割合が高く、学業に関連して苦勞があると考えている里親が多いものと考えられる。また、複数の特別な配慮が必要である子どもの数が多く、ケアに係る養育者の負担が増している可能性がある(41.4%は複数の特別な配慮が必要であった。18.7%の子どもに関しては、4つ以上の特別な配慮が必要であった)。

<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮>

- 「発達障害を有している」が 28.6%と最多、次いで「学習障害を有している」が 10.7%であった。発達障害に関する特別な配慮は男子の方が女子よりも 10 ポイント以上高い傾向にあった。
- 発達障害および学習障害については、7 歳以上 13 歳未満の子どもにおいて該当する割合が高い傾向にあった。発達障害は 7 歳未満の子どもより、7 歳以上 13 歳未満の子どもの方が 15 ポイント以上、該当する割合が高かった。学習障害についても 7 歳未満の子どもより、7 歳以上 13 歳未満の子どもの方が 10 ポイント以上高い傾向にあった。

<日常生活における課題等に関する特別な配慮>

- 「多動・集中困難がある」が 14.4%、「食事に課題がある」が 10.8%であった。男女別、委託期間別等で大きな差は見られなかった。

<学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮>

- 「家族との面会が十分でない」が 15.6%と最多、次いで「学習困難、学業不振」が 11.0%であった。男女別、委託期間別等で大きな差は見られなかった。

<特定の行動・事象の発生頻度（愛着形成や暴力等）>

- 1 日に数回以上ある割合（「1 日に何度もある」と「1 日に数回程度」の合計）は愛着形成が 23.2%、年齢にそぐわない行為や発言が 22.3%、家庭内での暴力や他者とのトラブルが 7.9%であった。

(2)ファミリーホーム

ア)ファミリーホームの状況について

委託されている子どものケアの他、一時保護の対応も求められており、複数の問題を抱える子どものケアも相まって、ファミリーホームの養育者の負担が高くなっていると考えられる。

<関連する調査結果>

- 養育にかかる負担として、「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」を掲げるのは、全体の 85.4%であった。また、回答があったファミリーホームの子ども 515 名のうち、定期的に通院しているのは 43.3%、服薬しているのは 26.3%であった。
- 一次保護の子どもが委託されている割合は全体の 16.3%であった。
- 養育に係る負担が大きいと答えたファミリーホームは全体の 78.0%であった。

イ)委託児童の状況について

①社会的養育が必要となった背景

「親の無関心」、「父母の別離」が上位の背景であり、里親に委託されている子どもは、主に家庭環境の問題から社会的養育が必要となっていた。また、社会的養育が必要となった背景について複数の要因を有しており、それに関連してケアニーズが多様化しているものと考えられる（4つ以上該当する割合が15.5%）。

②特別な配慮が必要な事項

発達上や家族との面会頻度を中心に、複数の特別な配慮を必要とする子どもが多く、ファミリーホームにおける養育においても専門性が求められ、かつ複数のニーズを抱えることもへのケアが必要となっていた（4つ以上該当する割合が41.7%）。

<疾患・障害・PTSD等に関する特別な配慮>

- 「発達障害を有している」が41.7%と最多、次いで「知的障害を有している」が20.8%であった。性別、年齢区分等で大きな差は見られなかった。

<日常生活における課題等に関する特別な配慮>

- 「多動・集中困難がある」において22.7%が最も多く、次いで「食事に課題がある」が14.4%であった。性別、年齢区分等で大きな差は見られなかった。

<学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮>

- 「家族との面会頻度が十分でない」が35.7%と最多、次いで「学習困難、学業不振である」が21.7%であった。性別、年齢区分等で大きな差は見られなかった。

<特定の行動・事象の発生頻度（愛着形成や暴力等）>

- 1日に数回以上ある割合（「1日に何度もある」と「1日に数回程度」の合計）は愛着形成が22.7%、年齢にそぐわない行為や発言が31.0%、施設内での暴力や他者とのトラブルが14.6%であった。
- 委託期間が3年未満の子どもにおいては、愛着形成上の問題を有しており、個別적인関りを必要とする頻度が高いことがある。

(3)児童養護施設

ア)施設全体の状況について

①小規模化・地域分散化の状況

小規模化・地域分散化は進められているものの、今後の実施意向がない施設も一定数存在し、その理由としては人員の確保が難しいこと、利用可能な施設の確保が難しいこ

とであった。

＜関連する調査結果＞

- 小規模化・地域分散化の双方を行っている施設が 59.7%と最多、次いで小規模化のみを行っている施設が 24.6%であった。実施形態は小規模グループケア（敷地内）が 73.1%と最多、地域小規模児童養護施設が 63.3%であった。
- 小規模化の実施意向は「実施の意向があり、実現の見込みがある」施設は 14.4%、「実施の意向があるが、実現の見込みはまだない」施設は 8.6%であった（実施済みの施設が 73.4%と最多）。地域分散化の実施意向は「実施の意向があり、実現の見込みがある」施設は 17.1%、「実施の意向があるが、実現の見込みはまだない」施設は 17.6%であった（実施済みの施設が 51.8%と最多）。
- 一方、実施の意向がない施設は小規模化が 2.9%、地域分散化が 10.8%であり、その理由は「人員の確保が難しい」が 66.7%と最多、次いで「利用可能な施設の確保が難しい」が 41.3%であった。

②入所児童の状況

子どもの支援を行う上で「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」ことや「支援を行うための人員が足りていない」が施設として苦勞している状況であるとともに、定期的に通院・服薬している子どもが一定割合いることが確認された。

＜関連する調査結果＞

- 定員 44.7 人に対して、入所している児童は 31.1 人であった。そのうち、定期的に通院している子ども、投薬している子どもが 10.3 人、8.0 人であり、入所児童の 33.1%、25.7%を占めていた。
- 現在子どもの支援を行う上で苦勞していることは「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」が 91.8%と最多、次いで「支援を行うための人員が足りていない」が 63.5%であった。

イ)入所児童の状況について

①社会的養育が必要となった背景

心理的、身体的虐待や親の養育拒否など、複数の要因を抱えた子どもが入所し、それが現在特別な配慮が必要な事項に繋がっていることが推察される（4 つ以上の項目が該当する割合は入所背景 35.7%、特別な配慮が必要な事項 27.3%）。

また、家族との関係に葛藤を抱えている場合において、特にそれぞれの項目に該当する割合が高い傾向であった。（クロス集計の結果からの考察であり、必ずしも相関や直接の因果関係があるものではないことに留意）

②特別な配慮が必要な事項

特別な配慮が必要な事項についても、4つ以上の項目が該当する割合が27.3%と、4人に1人以上の割合で複合したケアニーズを抱えていることが確認された。それぞれの区分ごとの傾向は以下の通り。

<疾患・障害・PTSD等に関する特別な配慮>

トラウマ起因の行動や症状については受け入れ期間が短い方が多いが、受け入れ期間が長くなると発達障害や知的障害の割合が高く、年齢や受け入れ期間によって課題が変化していくことが考えられる。

<日常生活における課題等に関する特別な配慮>

- 具体的なニーズとして、「多動・集中困難がある」は男女・年齢による差異があった。
- また、「不定愁訴」においては、年齢・受け入れ期間・家族との関係への葛藤による差異があり、年齢を重ねたり、受け入れ期間が経過することで、不定愁訴が課題として表出されていることが考えられる。（クロス集計の結果からの考察であり、必ずしも相関や直接の因果関係があるものではないことに留意）

<学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮>

- 「家族との関係に葛藤を抱えている」において、年齢・受け入れ期間による差異あり、年齢を重ねたり、受け入れ期間が経過することで、家族との関係への葛藤が表れてくる可能性がある。その結果として、更に不定愁訴やその他の課題として表出している可能性がある。（クロス集計の結果からの考察であり、必ずしも相関や直接の因果関係があるものではないことに留意）

<特定の行動・事象の発生頻度（愛着形成や暴力等）>

- 1日に数回以上ある割合は愛着形成が27.5%（受け入れ期間が3年未満の場合は32.2%）、年齢にそぐわない行為や発言が19.3%、施設内での暴力や他者とのトラブルが11.6%であった。

(4)乳児院

ア)施設全体の状況について

①小規模化・地域分散化の状況

小規模化は進められているものの、今後の実施意向がない施設もわずかながら存在し、理由として人員の確保が難しいこと、利用可能な施設の確保が難しいことが挙げられた。

＜関連する調査結果＞

- 小規模化を行っている施設が 70.5%、行っていない施設は 29.5%であった。実施形態は小規模グループケア（敷地内）が 97.0%と最多、小規模グループケア（分園型）が 7.5%であった。なお、回答した施設は本体施設が 86.6%、小規模・地域分散化施設が 23.9%であった。
- 小規模化の実施意向は「実施の意向があり、実現の見込みがある」施設は 19.8%、「実施の意向があるが、実現の見込みはまだない」施設は 15.1%であった（実施済みの施設が 57.0%と最多）。
- 一方、小規模化実施の意向がない施設は 5.8%、その理由は「人員の確保が難しい」が 55.6%と最多、次いで「利用可能な施設の確保が難しい」が 44.4%であった。

②入所児童の状況

子どもの支援を行う上で「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」ことや「支援を行うための人員が足りていない」が施設として苦勞している状況であるとともに、定期的に通院・服薬している子どもが一定割合いることが確認された。

＜関連する調査結果＞

- 定員 27.5 人に対して、入所している児童は 20.9 人であった。そのうち、定期的に通院している子ども、投薬している子どもが 6.8 人、4.9 人であり、入所児の 32.5%、23.4%を占めていた。
- 「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」が 90.5%と最多、次いで「支援を行うための人員が足りていない」が 60.0%であった。

イ)入所児童の状況について

①社会的養育が必要となった背景

親の養育困難、家族の精神疾患、経済的困窮で 30%以上が該当しており、こどもへの特別な配慮が不可欠になっていることが推測される。

特に 3 歳以上の場合や受け入れ期間が 3 年以上の場合に特別な配慮が必要となる割合が高く、入所児の発達の段階で特別な配慮が必要な事項が新たに発出されてくることが推察される（4 つ以上の項目が該当する割合は入所背景 20.3%、特別な配慮が必要な事項 19.0%）。（クロス集計の結果からの考察であり、必ずしも相関や直接の因果関係があるものではないことに留意）

②特別な配慮が必要な事項

出生時から医療的ニーズが高いこども（疾患を有する、低体重児等）の割合が多く、

それに伴い継続的な医療機関との連携をしている施設が一定数みられた。発達課題と愛着形成に関わる特定事象は 30%以上発生しており、家族との関係の葛藤との関連も推測される。(クロス集計の結果からの考察であり、必ずしも相関や直接の因果関係があるものではないことに留意)

また、一時保護が全体の 12.2%を占めるなかで、一時保護においても特別な配慮が必要な事項に該当する割合が高い傾向にあり、一時保護においても複数のニーズを抱える子どもへの対応が必要である実態が確認された。

<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮>

- 「出生時から医療機関との連携が継続している」は 17.2%と最多、次いで「低体重児(超低出生体重児・極小低体重児含む)」が 16.0%、「疾患を有している」は 15.4%であった。
- 全体を通じて男児が割合が高い傾向、低体重児の割合は女児がわずかに高かった。全般的に 3 歳以上の場合や受け入れ期間が 3 年以上の場合に該当する割合が高く、一時保護の場合においても該当する割合が高かった。

<日常生活における課題等に関する特別な配慮>

- 「家族との面会頻度が十分でない」が 40.5%と最多、次いで「食事に課題がある」が 11.9%であった。年齢・受け入れ期間別では、全般的に 3 歳以上の場合や受け入れ期間が 3 年以上の場合に該当する割合が高かった。

<特定の行動・事象の発生頻度(愛着形成や暴力等)>

- 1 日に数回以上ある割合は愛着形成が 42.1%、年齢にそぐわない行為や発言が 11.0%、施設内での暴力や他者とのトラブルが 10.7%であった。

(5)児童心理治療施設

ア)施設全体の状況について

子どもの支援を行う上で「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」「暴力行為に及ぶ子どもがいる」に施設として特に苦勞しており、更に「暴力行為に及ぶ子どもがいる」「支援を行うための人員が足りていない」として苦勞している状況であることも確認された。

<関連する調査結果>

- 寄宿は定員 31.3 人に対して現員が 23.6 人、通所は定員 8.3 人に対して現員が 2.8 人であった。
- 現在子どもの支援を行う上で苦勞していることは「発達上の特徴、障害のため注視

が必要な子どもがいる」が 100%と最多、次いで「暴力行為に及ぶ子どもがいる」「支援を行うための人員が足りていない」がそれぞれ 95.8%であった。

イ)入所児童の状況について

①社会的養育が必要となった背景

7 項目で 30%以上が該当しており、複数の要因を抱えた子どもが入所し、それが現在特別な配慮が必要な事項に繋がっていることが推察される(4 つ以上の項目が該当する割合は入所背景・理由が 60.2%、特別な配慮が必要な事項が 60.0%)。

男女別に社会的養育が必要となった背景・理由が異なり、男子は身体的な虐待、女子は性的虐待の課題が要因となっていること、また、家族との関係に葛藤を抱えている場合において、「心理的虐待を受けていた」等の割合が 10 ポイント以上高かった。(クロス集計の結果からの考察であり、必ずしも相関や直接の因果関係があるものではないことに留意)

②特別な配慮が必要な事項

<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮>

- 発達障害、多動・集中困難、トラウマ起因の行動や症状について該当する割合が他項目と比較して高く、トラウマ起因の行動や症状については家族との関係に葛藤を抱えている場合に該当する割合が 10 ポイント以上高かった。

<日常生活における課題等に関する特別な配慮>

- 全体では「睡眠に課題がある」が 21.0%と最多であり、性別・年齢区分・受け入れ期間・家族との関係への葛藤別での大きな傾向の違いは見られなかった。

<学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮>

- 全体では「家族との関係に葛藤を抱えている」が 57.9%と最多、次いで「学習困難、学業不振である」が 30.0%、「学校不適応、集団不適応」が 28.9%であった。
- 「家族との関係に葛藤を抱えている」においては受け入れ期間が長い方が該当する割合が 10 ポイント以上高く、受け入れ期間が経過することで、家族との関係への葛藤が表れてくる可能性がある。(クロス集計の結果からの考察であり、必ずしも相関や直接の因果関係があるものではないことに留意)

<特定の行動・事象の発生頻度(愛着形成や暴力等)>

- 1 日に数回以上ある割合は特定の養育者の密な関与が 51.9%、年齢相応の基本的生活習慣が身につけていないと感じることが 30.8%、施設内での暴力や他者とのトラブルが 23.4%であった。

(6)児童自立支援施設

ア)施設全体の状況(小規模化・地域分散化等)について

子どもの支援を行う上で「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」ことや「支援を行うための人員が足りていない」において施設として苦勞している状況であるとともに、定期的に通院・服薬している子どもが多いことが確認された。

<関連する調査結果>

- 定員 56.3 人に対して、入所している児童は 23.2 人であった。
- 現在子どもの支援を行う上で苦勞していることは「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」が 93.3%と最多、次いで「支援を行うための人員が足りていない」が 60.0%であった。
- 定期的な通院を必要としている割合は合計で 40.6%、服薬を必要としている割合は 34.6%であった。

イ)入所児童の状況について

①社会的養育が必要となった背景

両親の別離、ネグレクトや虐待が最多の入所背景であった。また 4 つ以上の背景をもち入所する子どもが 36.4%であり、複合的な要因を抱えることでケアニーズも多様化していることが推測される。

12 歳未満の子どもや、受け入れ期間 3 年以上、家族との関係への葛藤がある場合に各項目の該当割合が高い傾向が見られた。低年齢時期に両親の別離やネグレクトを体験した子どもは、受け入れ長期化に伴い葛藤を抱えやすくなる可能性が推察される。

(クロス集計の結果からの考察であり、必ずしも相関や直接の因果関係があるものではないことに留意)

②特別な配慮が必要な事項

発達障害を有するこどもの割合が多く、日常生活における課題や配慮も発達障害が要因となる項目の割合が高かった。また愛着形成に関わる行動事象は 25%程度発生していた。

<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮>

- 全体で「発達障害を有している」「精神医学的診断がつき服薬している」割合が高く、男子、受け入れ期間 3 年以上、12 歳未満の方が高い傾向が見られた。「自傷行為がある」は女子、12 歳～15 歳未満の割合が高い傾向が見られた。

<日常生活における課題等に関する特別な配慮>

- 男子は「多動・集中困難がある」割合が高く、女性は「社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする」割合が高かった。16歳以上、受け入れ期間3年以上は不定愁訴を訴える割合が高く、高年齢・受け入れ長期化で不定愁訴の訴えが強まる傾向が見られた。

<学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮>

- 女子の「家族との関係への葛藤がある」の割合が高く、「家族との関係への葛藤がある」方は「学習困難、学業不振である」、「学校不適應、集団不適應の傾向がある」「他者への過度の依存がある」の割合が高い傾向が見られた。

<特定の行動・事象の発生頻度（愛着形成や暴力等）>

- 16歳以上、受け入れ期間3年以上の場合において、1日に数回以上愛着形成の問題で個別的関わりを必要とする割合が他区分よりも高かった。

(7)母子生活支援施設

ア)入所している母の状況について

DV被害により入所し、DV被害等による自己評価の低下や、特に年齢が高く受け入れ期間の短い母において自己判断能力が低下している割合が高い傾向であった。一方、受け入れ期間が長くなると疾患・障害の課題が表れている傾向でみられた。

また、受け入れ期間が3年以上の母において、子どもへの暴言や子どもの養育能力に問題がある割合が高くなっており、これらの理由から受け入れ期間が長期化してくる可能性があることも推察される。（クロス集計の結果からの考察であり、必ずしも相関や直接の因果関係があるものではないことに留意）

<関連する調査結果>

- 入所背景は、夫などによる暴力が57.4%と最多、次いで住宅事情が47.4%、経済事情が44.6%であった。
- 特別な配慮が必要な事項として、全体では「精神医学的診断がつき服薬している」が21.3%、「DV被害等によって自己評価が低下している」が17.7%であった。特に、25歳未満の場合は発達障害、知的障害、自傷行為等の割合が他区分よりも高く、30歳以上の場合は精神疾患、DVによる自己評価の低下等の割合が他区分よりも高かった。

イ)母子の状況について

母だけでなく、子どもにおいても何らかの課題を有していたり、特別な配慮が必要な

場合があり、母子共に何らかの障害を有している（疑い含む）ケースもあると想定され、母子双方のケアが複雑化していると推察される。

<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮>

- （母）「精神医学的診断がつき服薬している」が 21.3%と最多、次いで「DV 被害等によって自己評価が低下している」が 17.7%であった。特に 25 歳未満の母については発達障害、知的障害、自傷行為等が全体の割合よりも 10 ポイント以上高い傾向があった。
- （子）「発達障害を有している」が 31.4%と最多、次いで「知的障害を有している」が 12.9%であった。

<日常生活における課題等に関する特別な配慮>

- （母）「子どもの養育能力に問題がある」が 37.3%と最多、次いで「子どもへの暴言を行うことがある」が 21.5%であった。特に「子どもの養育能力に問題がある」「対人交流に問題がある」においては、25 歳未満の母親は全体の傾向よりも 10 ポイント以上高い傾向にあった。
- （子）「多動・集中困難がある」が 17.3%と最多、次いで「食事に課題がある」が 9.3%であった。

<特定の行動・事象の発生頻度（愛着形成や暴力等）>

- （子）1 日に数回以上ある割合（「1 日に何度もある」と「1 日に数回程度」の合計）は愛着形成が 11.9%、年齢にそぐわない行為や発言が 14.3%、施設内での暴力や他者とのトラブルが 6.4%であった。暴力行為に関しては、7 歳以上 13 歳未満の子どもにおいて、他の年齢層よりも 10 ポイント以上発生頻度が高い。

(8)自立援助ホーム

ア)施設全体の状況について

子どもの支援を行う上で「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」ことや「支援を行うための人員が足りていない」が施設として苦勞している状況であるとともに、定期的に服薬している子どもが一定割合いることが確認された。

<関連する調査結果>

- 入所している児童は平均 4.1 人だった。また定期的に服薬しているこどもの平均人数は 1.3 人だった。
- 現在子どもの支援を行う上で苦勞していることは「発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる」が 67.9%と最多、次いで「支援を行うための人員が足り

ていない」が 58.5%であった。

イ)入所児童の状況について

①社会的養育が必要となった背景

家庭環境に関わる要因により入所するケースが 60%程度該当していた。その他、虐待、家族の精神障害を要因とする割合も各 30%以上が該当し、複雑な背景をもつ子どもが多いことが、特別な配慮が必要な事項に繋がっていることが推察される。

男女別では、女子は虐待やネグレクトを受けた割合が高く、男子は他施設や里親での生活課題があった割合が高い傾向がみられた。年齢が成人になるにつれ、女子は心理的ケアニーズ、男子は生活習慣のケアニーズが高くなる可能性が推察される。(クロス集計の結果からの考察であり、必ずしも相関や直接の因果関係があるものではないことに留意)

②特別な配慮が必要な事項

<疾患・障害・PTSD 等に関する特別な配慮>

- 発達・知的障害を抱える子どもへの配慮割合が高く、性別では男性が高かった。18 歳～20 歳未満、女性はトラウマ起因の行動や自傷行為の割合が高い傾向があった。受け入れ期間 3 年以上の方は特に精神医学的診断がつき服薬している」割合が高かった。

<日常生活における課題等に関する特別な配慮>

- 全体で「睡眠も課題がある」の割合が高く、特に受け入れ期間 3 年以上、20 歳以上で高い割合の傾向が見られた。受け入れ期間 3 年以上の子どもは「食事に課題がある」の割合が高い傾向がみられた。

<学校生活・その他の課題等に関する特別な配慮>

- 受け入れ期間 3 年以上、20 歳以上は「就労先での適応に課題がある」割合が高かった。また女子は「家族との関係に葛藤を抱えている」が高割合で、男子は「金銭を浪費してしまうため、管理が必要である」が高い割合の傾向がみられた。

<特定の行動・事象の発生頻度（愛着形成や暴力等）>

- 1 日に数回以上ある割合（「1 日に何度もある」と「1 日に数回程度」の合計）は愛着形成が 19.7%、年齢にそぐわない行為や発言が 22.2%、施設内での暴力や他者とのトラブルが 4.1%であった。年齢別では、18 歳未満は特に愛着形成に関わるニーズが高い傾向がみられた。

2. 事業全体のまとめ

(1) 社会的養育を必要とした背景・理由について

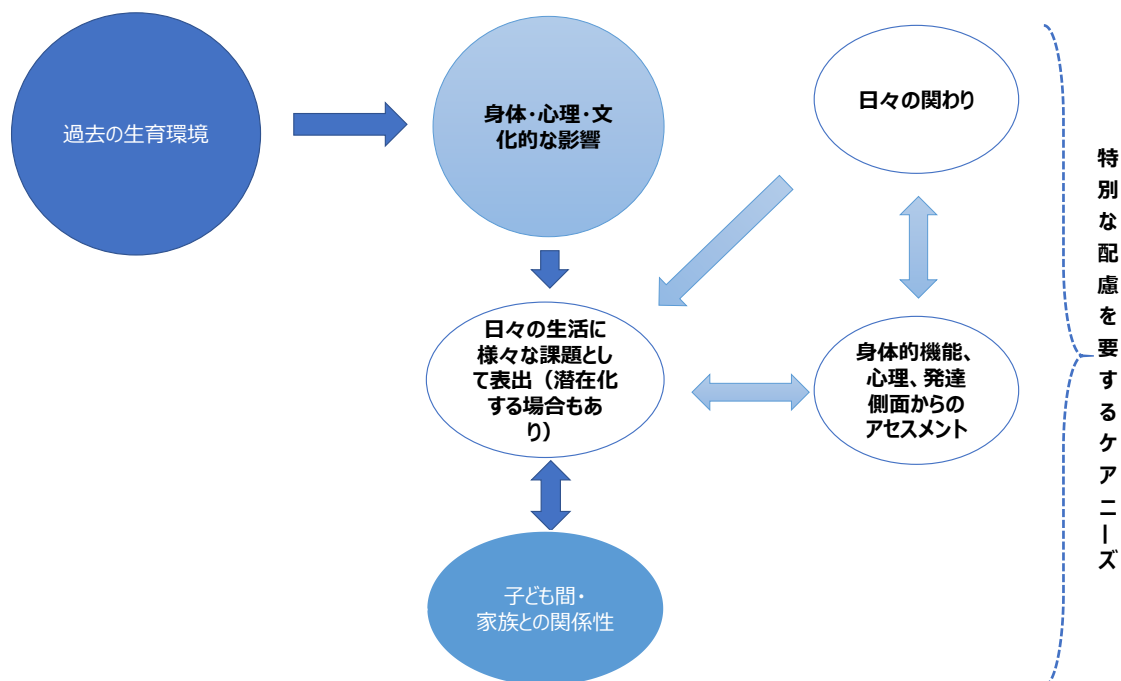
子どもにおいては虐待、非行等を要因として入所しているケースが多く、さらに、それらは結果としての事象であり、虐待や非行の発生する要因として親側の疾患・障害や経済的な困窮状態といった複数の困難が重複していることがアンケート調査並びヒアリング調査から確認された。特に、4つ以上の要因が重複しているケースが14.6%～60.2%と、社会的養護にある子どもたちが、逆境的な状況におかれていることが改めて確認された。

なお、母子生活支援施設に入所する母においては、DV被害による入所の割合が高いこと、それに加えて母自身が養育において多重な困難を抱え込んでいる場合も多く、特に母自身の家族との関係に問題がある場合があることも確認された。

(2) 特別な配慮を要するケアニーズについて

特にヒアリング調査を通じて、特別な配慮を要するケアニーズとは、子どもの生活レベルの課題として生じるが、養育者・支援者がその課題がこういった性質であるのか（身体的機能面、発達特性、これまでの養育環境等）をアセスメントすることでニーズとして浮かび上がり、そのニーズに対して対応した結果、さらにニーズが明確にされていくものであることが確認された。つまり、ケアニーズとは、子ども自体のみで存在するのではなく、養育者・支援者と子どもの「関わり」のなかで生まれ、深まるものであると考える。

図表 282 特別な配慮を要するケアニーズのイメージ



(3)特別な配慮を要するケアニーズの複合性について

本調査研究において、特別な配慮を要するケアニーズとして、発達障害やトラウマ起因の行動、家族との関係への葛藤や面会頻度が十分でないこと、愛着形成のための密な関与等が主に挙げられた。これらは、単独で発生するのではなく、虐待等を由来としてトラウマ起因の行動や PTSD に伴う多様な課題が発生していた。

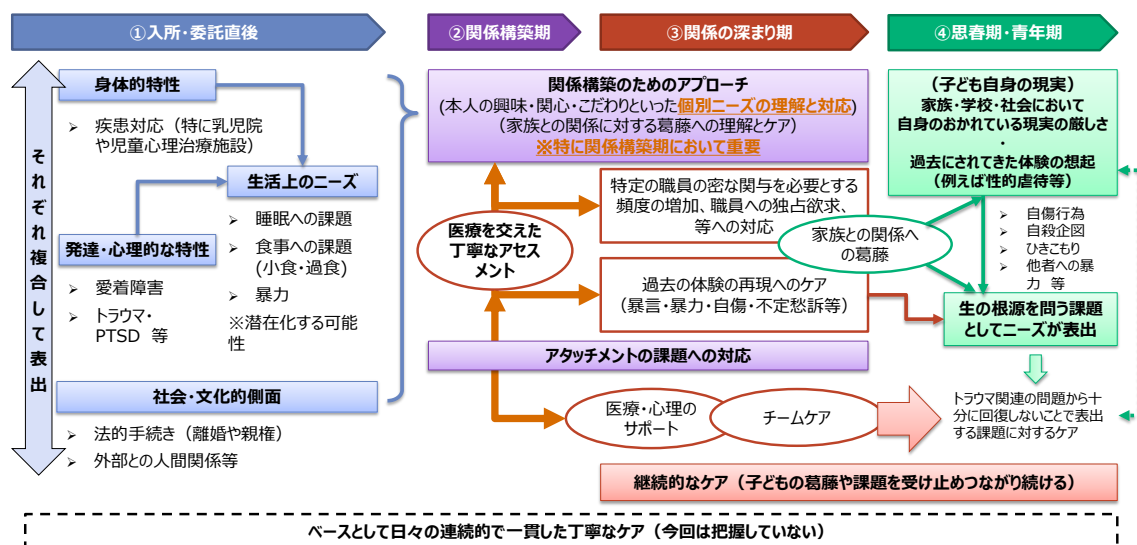
例えば、児童養護施設においては、1日に数回以上愛着形成上の問題を出す子どもが 28.9%であった。愛着形成とも関連性があると推察される発達障害を抱えた子どもは 26.1%、トラウマ起因の行動や症状が 9.5%、自傷・自殺念慮等の合計も 9.0%であった。さらに、施設内での暴力や他者とのトラブルにおいても 1日に数回以上ある割合が 11.5%という結果であった。これらの子どもが該当するかどうかは不確かであるが、上述したとおり、4つ以上の養育を行ううえでの特別な配慮が必要な事項に該当する子どもが 27.3%であった。里親・ファミリーホーム・他の施設等も含めて、複合的な課題を抱えた特別な配慮を要するケアニーズを抱えた子どもの実態が確認された。

特に、今回のアンケート調査では、特別な配慮が 4つ以上複合している場合が 17.6%～60.0%となっていた。単独で発生する割合の高さだけではなく、それが複合的に発生することがより養育者・支援者の理解と対応に困難を生じさせていると考える。

(4)時間・関係性により変化する特別な配慮を要するケアニーズ

本調査を通じて、本調査の中で定義したケアニーズは、①入所・委託直後、②関係構築期、③関係の深まり期、④思春期・青年期と大きく 4 段階に分かれ、以下のように時間・関係性に応じて主たるケアが変化していた。(※全体的な傾向であり、全てのケースが当てはまるものではないことに留意。)

図表 283 時間・関係性に応じて変化するケアニーズの展開過程



入所・委託直後は、子どもの生活レベルに生じているニーズ、多くの場合、それがなぜ引き起こされているのか、それはどういった類のニーズなのかは、理解し難い状況にあると考えられる。よって、それが虐待的な養育環境からくる心理的ニーズなのか、その子ども自身の身体機能的特性であるのかを丁寧にアセスメントすることが必要である。そのうえで、個別ニーズを粘り強く探索し、提供し続けるいとなみが展開されていた。高齢児になれば、ある程度の年齢ゆえに構築されたこだわりあるコミュニケーションスタイル等に対し、つながりの困難さを感じつつも、可能な限りそのスタイルに合わせて興味・関心を共有するといった個別的なケアが行われていた。これらも、特別な配慮を要するケアニーズと考える。

関係構築期には、時折生じる日々の出来事のなかで、不安や不信は喚起され、逆戻りしたかのような状態像を示す場合もある。また、抱えている課題の根深さゆえに、過剰に表出される場合もある。ここにおいても、変わらず個別の課題に安心と信頼を提供しようとする養育者・支援者の対応によって、関係はより深まっていく。

すると、関係の深まりのなかで、特定の養育者・支援者に密な関りを求め、独占しようとする、それが敵わなければ癇癪を起こしたり、幼児であれば泣き続けるといったアタッチメントの課題が表出される。そこには家族との関係性も関連しており、家族との関係性において葛藤を深く抱える子どもほど、関わってもらえない怒りを養育者・支援者に投影すると考えられる。

他方で、過去のトラウマ等によって抱え込まれた課題の再現が表出される場合もある。食事場面で虐待を受けてきた子どもが食事場面で激しく暴れる、他児を威嚇して言うことを聞かせる。この表出の仕方は個別であり、時には、職員などは頼りにならない、存在していることに意味がないとさえ訴えたり、養育者・支援者の関係性を分断するような行為に及ぶ場合もある。ここに、医療・心理のサポートを得ながら、チームで関わる必要がある。

関係の深まり期にある子どもが思春期・青年期にあった場合には、家族との関係が深まっていないなかで誰をあてにして生きていけばよいのかという現実や、学校や社会における現実の厳しさへの直面し、時には「自分に生きている意味はあるのか」といった葛藤等、「生の根源に関わる課題」を表出する場合がある。更に、いまだ十分に解決されていないトラウマ症状（過去の虐待体験の記憶の想起等）が重なることで、子ども自身が追い込まれ、その結果として自傷行為や他害行為に及ぶ場合がある。

このような場合には医療・心理のサポートは必然であるが、施設等でいえば、トラウマインフォームドケアを徹底するなど、施設等全体で受け止めていくことや、里親・ファミリーホームであればフォスティング機関や児童相談所とともに受けとめていくことが必要とされている。これらもまた、重要な特別な配慮を要するケアニーズであり、子どもを受けとめ、つながり続けるいとなみのなかで子どもは少しずつ回復に向かっていくということも確認された。

(5)多機関連携にともなうケアニーズ

今回、特に乳児院においては、医療的ケアが必要な子どもが一定数存在すること、発達特性に課題がある子ども、なかには服薬が必要な子どもも一定数存在することがわかった。具体的には、出生時から医療との連携が継続している割合が約 18%と 5 人に一人の割合に近いという結果となり、必然的に 25%の子どもが定期的な通院を必要としていた。

また、里親・ファミリーホーム・施設等においても精神科等の通院を必要とするケアニーズへの対応が行われており、単独ではなく他機関と連携して丁寧にアセスメントをし、通院、服薬等にともなう対応に時間を多く割かれている現状も確認された。

(6)本事業を踏まえた今後の課題

本事業において、里親・ファミリーホーム・施設のあり方を今後検討していくための実態として、社会的養育を必要とした背景や、現在特別な配慮が必要な事項についての実態を把握することができた。特に、特定の施設だけではなく、里親・ファミリーホームも含めて社会全体として複数のニーズや背景を抱えた子ども（母）への支援が行われていることが確認された。

一方、本来の意味でのケアニーズを正確に捉えるためには、日常生活を営むためのケアの状況や、子ども間によって生じるケアニーズ、それに付随する養育者・支援者の体制・運営状況等について把握していく必要があると考える。また、今後の施設運営や支援の更なる充実を見据えると、例えば計画的な採用や ICT 活用等が考えられることから、これらの状況等についても把握が必要と考える。

また、本事業で把握した子ども（母）に対する特別な配慮の実態を踏まえ、各協議会として支援が必要な内容や、国の制度として対応すべき事項等についても、更なる実態の把握を踏まえて今後検討していく必要がある。

第6章 成果の公表方法

弊社ホームページに本報告書を掲載する。

参考資料

調査票一式

児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化における 本体施設のバックアップ体制に関する調査研究事業 『里親に関するアンケート調査』		
【ご回答いただくにあたって】 ・このアンケートは、すべて現時点の状況でご回答ください。		
Q		【全ての方へのご質問】基本情報についてお伺いします。
		基本情報
1		お住いの都道府県を教えてください。
2		お住いの市町村を教えてください
3		里親種別を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 養育里親 2. 専門里親 3. 養子縁組里親 5. 親族里親
4		里親登録の期間を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上
5		里子を受け入れてきた期間（累積）を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上
6		ご回答者様の年齢を教えてください。 歳
7		ご回答者様の職業を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. 会社役員 5. 自由業 6. 専業主婦・主夫 7. 学生 8. アルバイト・パート 9. その他
8		ご回答者様以外に養育者がいますか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ
9		ご同居人様の年齢を教えてください。 歳
10		ご同居人様の職業を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. 会社役員 5. 自由業 6. 専業主婦・主夫 7. 学生 8. アルバイト・パート 9. その他
11		現在受け入れている子どもはいますか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ
		【全ての方へのご質問】養育の実態についてお伺いします。
12		ご自身の子ども（18歳未満）の人数を教えてください。 人
13		ご自身の子ども（18歳未満）の年齢を教えてください。 歳
14		現在受け入れている子どもの数を教えてください。 人
15		定期的に通院している子どもの数をご記入ください。 人
16		定期的に服薬している子どもの数をご記入ください。 人

17		公的サービスで利用しているものがあればすべて教えてください。※以下の該当する選択肢の数字に丸を付けてください。						
		1. 保育園の利用 2. 幼稚園の利用 3. 里親支援研修の受講 4. 里親訪問支援事業（相談支援,自立支援相談を含む）の活用 5. 里親訪問支援事業（育児支援）の活用 6. 里親訪問支援事業（家事支援）の活用 7. 里親間の交流を行うイベントへの参加（里親サロン等） 8. 里子と交流を行うイベントへの参加（里子キャンプ等）		9. 養育環境の整備等、支援に係る費用の受給 10. 児童相談所への相談 11. 保健センターへの相談 12. 療養センターへの相談 13. レスパイトケアの利用 14. 学童クラブの活用 15. ファミリー・サポート・センターへの相談 16. その他				
18		上記の他、公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。（自由記述）						
19		現在子どもの支援を行う上で苦労していることがあればすべて教えてください。※以下の該当する選択肢の数字に丸を付けてください。						
		1. 発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる 2. 医療的ケアの内容が難しい子どもがいる 3. 医療的ケアの頻度が多い子どもがいる 4. 緘黙等の理由で意思疎通がはかれない子どもがいる		5. 暴力行為に及ぶ子どもがいる（家庭内外を問わず） 6. 支援を行うための資金が不足している 7. 実親との適切なコミュニケーションの取り方がわからない 8. その他				
20		現在子どもの支援を行う上で苦労していることがあれば教えてください。（自由記述）						
21		過去5年間に受け入れていた子どもはいますか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ						
22		受け入れていた子どもの委託が解除となった理由をすべて教えてください。※以下の該当する選択肢の数字に丸を付けてください。						
		1. 実父・実母の受け入れが可能となった 2. 障害を有しており、養育が困難だと判断した。 3. 非行行為があり、養育が困難だと判断した。		4. 内気、緘黙等、性格・行動上養育が困難だと判断した。 5. 家庭内で暴力に及ぶことがあり、養育が困難だと判断した。 6. その他				
		【全ての方へのご質問】お子さんに関することについてお伺いします。						
		* 受け入れたお子さんそれぞれについて教えてください。			1人目	2人目	3人目	4人目
23-26		子どもの性別を教えてください。						
27-30		子どもの年齢を教えてください。			歳	歳	歳	歳
31-34		子どものを受け入れ期間（累積）を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上						

35-38		子どもの就学状況を教えてください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください					
		1. 保育園に通っている	9. 夜間・通信制の学校に通っている				
		2. 幼稚園に通っている	10. 学校に通っていない（籍は有り）				
		3. プリスクールに通っている	11. 学校に通っていない（籍は無し）				
		4. どこにも通っていない	12. 全日制の大学・短期大学等に通っている				
		5. 一般学級に通っている	13. 夜間・通信制の大学・短期大学等に通っている				
		6. 特別指導学級に通っている	14. 学校に通っていない（籍は有り）				
		7. 学校に通っていない（籍は有り）	15. 学校に通っていない（籍は無し）				
		8. 全日制の学校に通っている	16. その他				
39-42		子どもの就労状況を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. フルタイムで働いている 2. アルバイト・パートタイムで働いている 3. 働いていない					
43		子どもについて、社会的養育が必要となった背景として、あてはまるものをすべて選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください					
		1人目					
		1. 心理的虐待を受けていた（日常的に罵倒、侮辱、悪口、侮辱を受けていた）		9. 家族に非虐待体験があった			
		2. 身体的虐待を受けていた（日常的に暴力を受けていた）		10. 家庭内暴力があった			
		3. 性的虐待を受けていた		11. 父・母との別離があった			
		4. 親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった		12. 家族の自殺（未遂含む）があった			
		5. 医療的ネグレクトを受けていた		13. 経済的に困窮していた			
		6. 食事が無い、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた（年齢に応じた食事を与えられていなかった等）		14. 社会的孤立状態であった			
		7. アルコールや薬物依存の家族がいた		15. 家族に服役者がいた			
		8. 家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった					
44		子どもについて、社会的養育が必要となった背景として、あてはまるものをすべて選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください					
		2人目					
		1. 心理的虐待を受けていた（日常的に罵倒、侮辱、悪口、侮辱を受けていた）		9. 家族に非虐待体験があった			
		2. 身体的虐待を受けていた（日常的に暴力を受けていた）		10. 家庭内暴力があった			
		3. 性的虐待を受けていた		11. 父・母との別離があった			
		4. 親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった		12. 家族の自殺（未遂含む）があった			
		5. 医療的ネグレクトを受けていた		13. 経済的に困窮していた			
		6. 食事が無い、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた（年齢に応じた食事を与えられていなかった等）		14. 社会的孤立状態であった			
		7. アルコールや薬物依存の家族がいた		15. 家族に服役者がいた			
		8. 家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった					
45		子どもについて、社会的養育が必要となった背景として、あてはまるものをすべて選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください					
		3人目					
		1. 心理的虐待を受けていた（日常的に罵倒、侮辱、悪口、侮辱を受けていた）		9. 家族に非虐待体験があった			
		2. 身体的虐待を受けていた（日常的に暴力を受けていた）		10. 家庭内暴力があった			
		3. 性的虐待を受けていた		11. 父・母との別離があった			
		4. 親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった		12. 家族の自殺（未遂含む）があった			
		5. 医療的ネグレクトを受けていた		13. 経済的に困窮していた			
		6. 食事が無い、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた（年齢に応じた食事を与えられていなかった等）		14. 社会的孤立状態であった			
		7. アルコールや薬物依存の家族がいた		15. 家族に服役者がいた			
		8. 家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった					

46		子どもについて、社会的養育が必要となった背景として、あてはまるものをすべて選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください	
		4人目	
		1．心理的虐待を受けていた（日常的に罵倒、侮辱、悪口、侮辱を受けていた）	9．家族に非虐待体験があった
		2．身体的虐待を受けていた（日常的に暴力を受けていた）	10．家庭内暴力があった
		3．性的虐待を受けていた	11．父・母との別離があった
		4．親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった	12．家族の自殺（未遂含む）があった
		5．医療的ネグレクトを受けていた	13．経済的に困窮していた
		6．食事がなく、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた（年齢に応じた食事を与えられていなかった等）	14．社会的孤立状態であった
		7．アルコールや薬物依存の家族がいた	15．家族に服役者がいた
8．家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった			
47		子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください	
		1人目	
		1．疾患（※1）を有している □	17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6
		2．精神医学的診断がつき服薬している □	18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7
		3．精神障害の疑いがある □	19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8
		4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む）	20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9
		5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む）	21．不登校または不登校傾向
		6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む）	22．学習困難、学業不振である
		7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む）	23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある
		8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2	24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある
		9．自傷行為がある※3 □	25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10
		10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうとしたことがある※4 □	26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある
		11．過去の体験等から過度の従順さがある □	27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある
		12．不定愁訴を行うことがある （病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態）	28．家族との面会頻度が十分でない
		13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） □	29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している
		14．睡眠に課題がある （入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5	30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい
		15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） □	31．その他
		16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） □	

48	子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください 2人目 1．疾患（※1）を有している ☐ 2．精神医学的診断がつき服薬している ☐ 3．精神障害の疑いがある ☐ 4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む） 5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む） 6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む） 7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む） 8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2 9．自傷行為がある※3 ☐ 10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうしたことがある※4 ☐ 11．過去の体験等から過度の従順さがある ☐ 12．不定愁訴を行うことがある （病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態） 13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） ☐ 14．睡眠に課題がある （入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5 15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） ☐ 16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） ☐ 17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6 18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7 19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8 20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9 21．不登校または不登校傾向 22．学習困難、学業不振である 23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある 24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある 25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10 26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある 27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある 28．家族との面会頻度が十分でない 29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している 30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい 31．その他
	子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください 3人目 1．疾患（※1）を有している ☐ 2．精神医学的診断がつき服薬している ☐ 3．精神障害の疑いがある ☐ 4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む） 5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む） 6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む） 7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む） 8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2 9．自傷行為がある※3 ☐ 10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうしたことがある※4 ☐ 11．過去の体験等から過度の従順さがある ☐ 12．不定愁訴を行うことがある （病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態） 13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） ☐ 14．睡眠に課題がある （入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5 15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） ☐ 16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） ☐ 17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6 18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7 19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8 20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9 21．不登校または不登校傾向 22．学習困難、学業不振である 23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある 24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある 25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10 26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある 27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある 28．家族との面会頻度が十分でない 29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している 30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい 31．その他
49	子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください 3人目 1．疾患（※1）を有している ☐ 2．精神医学的診断がつき服薬している ☐ 3．精神障害の疑いがある ☐ 4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む） 5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む） 6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む） 7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む） 8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2 9．自傷行為がある※3 ☐ 10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうしたことがある※4 ☐ 11．過去の体験等から過度の従順さがある ☐ 12．不定愁訴を行うことがある （病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態） 13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） ☐ 14．睡眠に課題がある （入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5 15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） ☐ 16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） ☐ 17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6 18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7 19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8 20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9 21．不登校または不登校傾向 22．学習困難、学業不振である 23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある 24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある 25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10 26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある 27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある 28．家族との面会頻度が十分でない 29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している 30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい 31．その他

50	子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください	
	4人目	
	1．疾患（※1）を有している □	17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6
	2．精神医学的診断がつき服薬している □	18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7
	3．精神障害の疑いがある □	19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8
	4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む）	20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9
	5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む）	21．不登校または不登校傾向
	6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む）	22．学習困難、学業不振である
	7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む）	23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある
	8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2	24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある
9．自傷行為がある※3 □	25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10	
10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうとしたことがある※4 □	26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある	
11．過去の体験等から過度の従順さがある □	27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある	
12．不定愁訴を行うことがある （病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態）	28．家族との面会頻度が十分でない	
13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） □	29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している	
14．睡眠に課題がある （入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5	30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい	
15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） □	31．その他	
16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） □		

51		子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。※対象が3歳未満の場合に、以下の該当する選択肢すべてに丸を記入してください				
		1．低出生体重児（超低出生体重児・極小低出生体重児含む）	2．出生時から医療機関との連携が継続している※ 1 4	3．身体機能・身体的発達に遅れや不全がある（過緊張や脱緊張含む）	4．早期療育のために連携している機関がある※ 1 5	5．食事（※ 1 6）や排せつ（一日に何度も漏らす等）などの基本的な生活習慣に課題がある
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
52		以下の行動等が発生する頻度を教えてください。 愛着形成上の問題を有しており、情緒面について個別的なかかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする頻度※ 1 1				
		1．1日に何度もある	2．1日に数回程度	3．1週間に1回程度	4．数週間～1カ月に1回程度	5．殆ど無い
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
53		以下の行動等が発生する頻度を教えてください。 年齢にそぐわない行為や発言（年齢相応の基本的生活習慣が身についていないと感じること）※ 1 2				
		1．1日に何度もある	2．1日に数回程度	3．1週間に1回程度	4．数週間～1カ月に1回程度	5．殆ど無い
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
54		以下の行動等が発生する頻度を教えてください。 施設内での暴力（他児や職員への暴力、暴言、器物破損）や他者とのトラブル※ 1 3				
		1．1日に何度もある	2．1日に数回程度	3．1週間に1回程度	4．数週間～1カ月に1回程度	5．殆ど無い
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
55		定期的な通院（精神科・心療内科等の精神系の診療のための通院）を必要としていますか。				
		はい	いいえ			
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					

56		定期的な通院（精神科・心療内科等の精神系の診療以外のための通院）を必要としていますか。				
		はい	いいえ			
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
57		定期的な服薬を必要としていますか。				
		はい	いいえ			
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
58-61		利用している障害福祉サービスがあれば、教えてください。				
		1．児童発達支援サービスを利用している	2．放課後等デイサービスを利用している	3．就労支援サービスの利用	4．その他のサービスを利用している	5．利用しているものはない
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
62		直近1か月以内に人手を割きにくい時間帯に特別な配慮が必要になったことはありますか。（外出前、勤務時間帯等）				
		はい	いいえ			
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
63		直近1か月以内に複数人での特別な配慮が必要になったことはありますか。				
		はい	いいえ			
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					

64		これまでに選択肢で提示したような課題に気づいていても、忙しさ等を理由に十分に対応できない等の不全感を覚えることはありますか。		
		はい	いいえ	
	1人目			
	2人目			
	3人目			
	4人目			
	5人目			
		【全ての方へのご質問】 Q4. その他についてお伺いします。		
65		回答者情報		
		より正確に実態を把握するため、個別にヒアリングをお願いする可能性がございます。ヒアリングをお受けすることは可能ですでしょうか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ		
66		回答者様のお名前を教えてください。 ※文字を入力してください		
67		電話番号をご記入ください。 ※数字を入力してください		
68		メールアドレスをご記入ください。 ※メールアドレスを入力してください		
設問は以上となります。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。				

児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化における 本体施設のバックアップ体制に関する調査研究事業 『ファミリーホームに関するアンケート調査』		
【ご回答いただくにあたって】 このアンケートは、現時点の状況でご回答ください。		
Q		基本情報についてお伺いします。
1		基本情報
		貴ファミリーホームのお名前を教えてください。
2		ファミリーホームが所在している都道府県を教えてください。
3		ファミリーホームが所在している市町村を教えてください
4		ファミリーホーム設立後の年数を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上
5		ファミリーホームの設置主体を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 自営型 2. 法人型
6		ファミリーホームの人数構成を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1名の養育者＋2名以上の補助者 2. 夫婦である2名の養育者＋1名以上の補助者
Q		支援体制
		【1名の養育者＋2名以上の補助者】を選んだ方へお伺いします。
7		(専従者について)年齢を教えてください。 歳
8		(専従者について)保有している里親資格を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 養育里親 2. 専門里親
9		(専従者について)里親の経験年数を教えてください。 年
Q		【夫婦である2名の養育者＋1名以上の補助者】を選んだ方へお伺いします。
10		(夫についての質問)職業を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. 会社役員 5. 自由業 6. 専業主婦・主夫 7. 学生（修士、博士に専従である場合を含む） 8. アルバイト・パート 9. 専従 10. その他
11		(夫についての質問)年齢を教えてください。 歳
12		(夫についての質問)保有している里親資格を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 養育里親 2. 専門里親
13		(夫についての質問)里親の経験年数を教えてください。 年
14		(妻についての質問)職業を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. 会社役員 5. 自由業 6. 専業主婦・主夫 7. 学生（修士、博士に専従である場合を含む） 8. アルバイト・パート 9. 専従 10. その他
15		(妻についての質問)年齢を教えてください。 歳
16		(妻についての質問)保有している里親資格を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 養育里親 2. 専門里親
17		(妻についての質問)里親の経験年数を教えてください。 年
Q		【全ての方へのご質問】
18		在籍している補助者の人数を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上
19		補助者はどのような役割を担ってくれていますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべてを選んでください
		1. 食事、睡眠、教育等日常的な養育の補助
		2. 発熱等有事の際の対応 施設等との連絡窓口
		3. 養育の方法に関する情報収集
		4. 養育の制度等に関する情報収集
		5. その他

Q		養育の実態についてお伺いします。	
20		ご自身の子ども（18歳未満）の人数を教えてください。	人
21		ご自身の子ども（18歳未満）の年齢を教えてください。	歳
22		現在受け入れている子どもの数を教えてください。（一時保護を除く）	人
23		一時保護として受け入れている子どもの数を教えてください。	人
24		定期的に通院している子どもの数をご記入ください。	人
25		定期的に服薬している子どもの数をご記入ください。	人
26		公的サービスで利用しているものがあればすべて教えてください。※以下の該当する選択肢の数字に丸を付けてください。	
		1. 保育園の利用 2. 幼稚園の利用 3. 里親支援研修の受講 4. 里親訪問支援事業（相談支援,自立支援相談を含む）の活用 5. 里親訪問支援事業（育児支援）の活用 6. 里親訪問支援事業（家事支援）の活用	7. 里親間の交流を行うイベントへの参加（里親サロン等） 8. 里子と交流を行うイベントへの参加（里子キャンプ等） 9. 養育環境の整備等、支援に係る費用の受給 10. 児童相談所の活用 11. 障害児相談の活用 12. その他
27		上記の他、公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。（自由記述）	
28		現在子どもの支援を行う上で苦労していることがあれば教えてください。※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください	
		1. 発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる 2. 医療的ケアの内容が難しい子どもがいる 3. 医療的ケアの頻度が多い子どもがいる	4. 緘黙等の理由で意思疎通がはかれない子どもがいる 5. 暴力行為に及ぶ子どもがいる（家庭内外を問わず） 6. その他
29		現在子どもの支援を行う上で苦労していることがあれば教えてください。（自由記述）	
Q		業務の負担感についてお伺いします。	
30		業務の負担感は大きいと感じますか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. 全くそう思わない	
31		(1. とてもそう思う 2. ややそう思う)とお答えした方へ、要因として考えるものをすべて選んでください。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください	
		1. 子どもの数が多い 2. 子どもの問題行動への対応 3. 子どもとの関係性の構築 4. 業務内容の難しさ 5. ルーティーンワーク	6. 保護者への対応 7. 地域の関係機関との連携 8. 自身の知識・スキルに対する不足感 9. 業務の身体的負担が大きい 10. その他
32		その他の内容を教えてください。（自由記述）	

Q		子どもに関することについてお伺いします。						
		* 受け入れている子どもそれぞれについて教えてください。 (○人目がいない場合は、空欄としてください)	1人目	2人目	3人目	4人目	5人目	6人目
33		子どもの性別を教えてください。						
34		子どもの年齢を教えてください。	歳	歳	歳	歳	歳	歳
35		子どもの受け入れ期間（累積）を教えてください。 1. 1年未満 2. 1年以上2年未満 3. 2年以上3年未満 4. 3年以上5年未満 5. 5年以上						
36		子どもの就学状況を教えてください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください						
		1. 保育園に通っている	9. 夜間・通信制の学校に通っている					
		2. 幼稚園に通っている	10. 学校に通っていない（籍は有り）					
		3. プリスクールに通っている	11. 学校に通っていない（籍は無し）					
		4. どこにも通っていない	12. 全日制の大学・短期大学等に通っている					
		5. 一般学級に通っている	13. 夜間・通信制の大学・短期大学等に通っている					
		6. 特別指導学級に通っている	14. 学校に通っていない（籍は有り）					
		7. 学校に通っていない（籍は有り）	15. 学校に通っていない（籍は無し）					
8. 全日制の学校に通っている	16. その他							
37		子どもの就労状況を教えてください。 1. 正規雇用 2. 非正規雇用（パート・アルバイト） 3. 障がい者就労支援サービス 4. 障がい者枠での一般就労 5. 働いていない						
		子どもについて、社会的養育が必要となった背景として、あてはまるものをすべて選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください						
		1人目						
		1. 心理的虐待を受けていた（日常的に罵倒、侮辱、悪口、侮辱を受けていた）	9. 家族に被虐待体験があった					
		2. 身体的虐待を受けていた（日常的に暴力を受けていた）	10. 家庭内暴力があった					
		3. 性的虐待を受けていた	11. 父・母との別離があった					
		4. 親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった	12. 家族の自殺（未遂含む）があった					
		5. 医療的ネグレクトを受けていた	13. 経済的に困窮していた					
		6. 食事が無い、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた（年齢に応じた食事を与えられていなかった等）	14. 社会的孤立状態であった					
	7. アルコールや薬物依存の家族がいた	15. 家族に服役者がいた						
	8. 家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった							
		子どもについて、社会的養育が必要となった背景として、あてはまるものをすべて選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください						
		2人目						
		1. 心理的虐待を受けていた（日常的に罵倒、侮辱、悪口、侮辱を受けていた）	9. 家族に被虐待体験があった					
		2. 身体的虐待を受けていた（日常的に暴力を受けていた）	10. 家庭内暴力があった					
		3. 性的虐待を受けていた	11. 父・母との別離があった					
		4. 親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった	12. 家族の自殺（未遂含む）があった					
5. 医療的ネグレクトを受けていた		13. 経済的に困窮していた						
6. 食事が無い、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた（年齢に応じた食事を与えられていなかった等）		14. 社会的孤立状態であった						
7. アルコールや薬物依存の家族がいた	15. 家族に服役者がいた							
8. 家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった								

38	子どもについて、社会的養育が必要となった背景として、あてはまるものをすべて選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください
	3人目
	1．心理的虐待を受けていた（日常的に罵倒、侮辱、悪口、侮辱を受けていた）
	9．家族に被虐待体験があった
	2．身体的虐待を受けていた（日常的に暴力を受けていた）
	1 0．家庭内暴力があった
	3．性的虐待を受けていた
	1 1．父・母との別離があった
	4．親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった
	1 2．家族の自殺（未遂含む）があった
	5．医療的ネグレクトを受けていた
	1 3．経済的に困窮していた
	6．食事がない、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた（年齢に応じた食事を与えられていなかった等）
	1 4．社会的孤立状態であった
	7．アルコールや薬物依存の家族がいた
	1 5．家族に服役者がいた
	8．家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった
	子どもについて、社会的養育が必要となった背景として、あてはまるものをすべて選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください
	4人目
	1．心理的虐待を受けていた（日常的に罵倒、侮辱、悪口、侮辱を受けていた）
	9．家族に被虐待体験があった
	2．身体的虐待を受けていた（日常的に暴力を受けていた）
	1 0．家庭内暴力があった
	3．性的虐待を受けていた
1 1．父・母との別離があった	
4．親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった	
1 2．家族の自殺（未遂含む）があった	
5．医療的ネグレクトを受けていた	
1 3．経済的に困窮していた	
6．食事がない、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた（年齢に応じた食事を与えられていなかった等）	
1 4．社会的孤立状態であった	
7．アルコールや薬物依存の家族がいた	
1 5．家族に服役者がいた	
8．家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった	
子どもについて、社会的養育が必要となった背景として、あてはまるものをすべて選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください	
5人目	
1．心理的虐待を受けていた（日常的に罵倒、侮辱、悪口、侮辱を受けていた）	
9．家族に被虐待体験があった	
2．身体的虐待を受けていた（日常的に暴力を受けていた）	
1 0．家庭内暴力があった	
3．性的虐待を受けていた	
1 1．父・母との別離があった	
4．親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった	
1 2．家族の自殺（未遂含む）があった	
5．医療的ネグレクトを受けていた	
1 3．経済的に困窮していた	
6．食事がない、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた（年齢に応じた食事を与えられていなかった等）	
1 4．社会的孤立状態であった	
7．アルコールや薬物依存の家族がいた	
1 5．家族に服役者がいた	
8．家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった	
子どもについて、社会的養育が必要となった背景として、あてはまるものをすべて選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください	
6人目	
1．心理的虐待を受けていた（日常的に罵倒、侮辱、悪口、侮辱を受けていた）	
9．家族に被虐待体験があった	
2．身体的虐待を受けていた（日常的に暴力を受けていた）	
1 0．家庭内暴力があった	
3．性的虐待を受けていた	
1 1．父・母との別離があった	
4．親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった	
1 2．家族の自殺（未遂含む）があった	
5．医療的ネグレクトを受けていた	
1 3．経済的に困窮していた	
6．食事がない、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた（年齢に応じた食事を与えられていなかった等）	
1 4．社会的孤立状態であった	
7．アルコールや薬物依存の家族がいた	
1 5．家族に服役者がいた	
8．家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった	

	子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください 1人目 1．疾患（※1）を有している 2．精神医学的診断がつき服薬している 3．精神障害の疑いがある 4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む） 5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む） 6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む） 7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む） 8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2 9．自傷行為がある※3 10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうしたことがある※4 11．過去の体験等から過度の従順さがある 12．不定愁訴を行うことがある（病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態） 13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） 14．睡眠に課題がある（入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5 15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） 16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） 17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6 18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7 19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8 20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9 21．不登校または不登校傾向 22．学習困難、学業不振である 23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある 24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある 25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10 26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある 27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある 28．家族との面会頻度が十分でない 29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している 30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい 31．その他 <tr><td></td><td> 子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください 2人目 1．疾患（※1）を有している 2．精神医学的診断がつき服薬している 3．精神障害の疑いがある 4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む） 5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む） 6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む） 7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む） 8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2 9．自傷行為がある※3 10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうしたことがある※4 11．過去の体験等から過度の従順さがある 12．不定愁訴を行うことがある（病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態） 13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） 14．睡眠に課題がある（入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5 15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） 16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） 17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6 18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7 19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8 20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9 21．不登校または不登校傾向 22．学習困難、学業不振である 23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある 24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある 25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10 26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある 27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある 28．家族との面会頻度が十分でない 29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している 30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい 31．その他 </td></tr>		子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください 2人目 1．疾患（※1）を有している 2．精神医学的診断がつき服薬している 3．精神障害の疑いがある 4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む） 5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む） 6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む） 7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む） 8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2 9．自傷行為がある※3 10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうしたことがある※4 11．過去の体験等から過度の従順さがある 12．不定愁訴を行うことがある（病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態） 13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） 14．睡眠に課題がある（入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5 15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） 16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） 17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6 18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7 19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8 20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9 21．不登校または不登校傾向 22．学習困難、学業不振である 23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある 24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある 25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10 26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある 27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある 28．家族との面会頻度が十分でない 29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している 30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい 31．その他
	子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください 2人目 1．疾患（※1）を有している 2．精神医学的診断がつき服薬している 3．精神障害の疑いがある 4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む） 5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む） 6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む） 7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む） 8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2 9．自傷行為がある※3 10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうしたことがある※4 11．過去の体験等から過度の従順さがある 12．不定愁訴を行うことがある（病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態） 13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） 14．睡眠に課題がある（入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5 15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） 16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） 17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6 18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7 19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8 20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9 21．不登校または不登校傾向 22．学習困難、学業不振である 23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある 24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある 25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10 26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある 27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある 28．家族との面会頻度が十分でない 29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している 30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい 31．その他		

	子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください	
	3人目	
39	1．疾患（※1）を有している ☐ 2．精神医学的診断がつき服薬している ☐ 3．精神障害の疑いがある ☐ 4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む） 5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む） 6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む） ☐ 7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む） ☐ 8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2 9．自傷行為がある※3 ☐ 10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうしたことがある※4 ☐ 11．過去の体験等から過度の従順さがある ☐ 12．不定愁訴を行うことがある （病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態） 13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） 14．睡眠に課題がある （入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5 15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） ☐ 16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） ☐ 17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6 18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7 19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8 20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9 21．不登校または不登校傾向 22．学習困難、学業不振である 23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある 24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある 25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10 26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある 27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある 28．家族との面会頻度が十分でない 29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している 30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい 31．その他	
	子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください	
4人目		
1．疾患（※1）を有している ☐ 2．精神医学的診断がつき服薬している ☐ 3．精神障害の疑いがある ☐ 4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む） 5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む） 6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む） ☐ 7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む） ☐ 8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2 9．自傷行為がある※3 ☐ 10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうしたことがある※4 ☐ 11．過去の体験等から過度の従順さがある ☐ 12．不定愁訴を行うことがある （病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態） 13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） 14．睡眠に課題がある （入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5 15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） ☐ 16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） ☐ 17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6 18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7 19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8 20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9 21．不登校または不登校傾向 22．学習困難、学業不振である 23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある 24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある 25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10 26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある 27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある 28．家族との面会頻度が十分でない 29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している 30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい 31．その他		

	子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください 5人目 1．疾患（※1）を有している 2．精神医学的診断がつき服薬している 3．精神障害の疑いがある 4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む） 5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む） 6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む） 7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む） 8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2 9．自傷行為がある※3 10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうしたことがある※4 11．過去の体験等から過度の従順さがある 12．不定愁訴を行うことがある（病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態） 13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） 14．睡眠に課題がある（入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5 15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） 16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） 17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6 18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7 19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8 20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9 21．不登校または不登校傾向 22．学習困難、学業不振である 23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある 24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある 25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10 26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある 27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある 28．家族との面会頻度が十分でない 29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している 30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい 31．その他 <tr><td></td><td> 子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください 6人目 1．疾患（※1）を有している 2．精神医学的診断がつき服薬している 3．精神障害の疑いがある 4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む） 5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む） 6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む） 7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む） 8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2 9．自傷行為がある※3 10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうしたことがある※4 11．過去の体験等から過度の従順さがある 12．不定愁訴を行うことがある（病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態） 13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） 14．睡眠に課題がある（入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5 15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） 16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） 17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6 18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7 19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8 20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9 21．不登校または不登校傾向 22．学習困難、学業不振である 23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある 24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある 25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10 26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある 27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある 28．家族との面会頻度が十分でない 29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している 30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい 31．その他 <tr><td>40</td><td> その他の内容を教えてください。（自由記述） </td></tr></td></tr>		子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください 6人目 1．疾患（※1）を有している 2．精神医学的診断がつき服薬している 3．精神障害の疑いがある 4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む） 5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む） 6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む） 7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む） 8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2 9．自傷行為がある※3 10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうしたことがある※4 11．過去の体験等から過度の従順さがある 12．不定愁訴を行うことがある（病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態） 13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） 14．睡眠に課題がある（入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5 15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） 16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） 17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6 18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7 19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8 20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9 21．不登校または不登校傾向 22．学習困難、学業不振である 23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある 24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある 25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10 26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある 27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある 28．家族との面会頻度が十分でない 29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している 30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい 31．その他 <tr><td>40</td><td> その他の内容を教えてください。（自由記述） </td></tr>	40	その他の内容を教えてください。（自由記述）
	子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください 6人目 1．疾患（※1）を有している 2．精神医学的診断がつき服薬している 3．精神障害の疑いがある 4．身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む） 5．発達障害を有している（疑いがある場合を含む） 6．学習障害を有している（疑いがある場合も含む） 7．知的障害を有している（疑いがある場合を含む） 8．トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）※2 9．自傷行為がある※3 10．自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうしたことがある※4 11．過去の体験等から過度の従順さがある 12．不定愁訴を行うことがある（病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態） 13．食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等）） 14．睡眠に課題がある（入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）※5 15．排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等） 16．多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等） 17．身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※6 18．社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする※7 19．生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8 20．学校不適応、集団不適応の傾向がある※9 21．不登校または不登校傾向 22．学習困難、学業不振である 23．不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある 24．盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある 25．火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある※10 26．虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある 27．ゲームやインターネットへの過度の依存がある 28．家族との面会頻度が十分でない 29．内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している 30．母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい 31．その他 <tr><td>40</td><td> その他の内容を教えてください。（自由記述） </td></tr>	40	その他の内容を教えてください。（自由記述）		
40	その他の内容を教えてください。（自由記述）				

41		※この設問は子どもが3歳未満の場合のみ回答ください。 子どもについて、特別な配慮が必要になることがありますか。※以下の該当する選択肢すべてに丸を記入してください				
		1．低出生体重児（超低出生体重児・極小低出生体重児含む）	2．出生時から医療機関との連携が継続している※ 1 4	3．身体機能・身体的発達に遅れや不全がある（過緊張や脱緊張含む）	4．早期療育のために連携している機関がある※ 1 5	5．食事（※ 1 6）や排せつ（一日に何度も漏らす等）などの基本的な生活習慣に課題がある
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
	5人目					
	6人目					
42		以下の行動等が発生する頻度を教えてください。 愛着形成上の問題を有しており、情緒面について個別的なかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする頻度※ 1 1				
		1．1日に何度もある	2．1日に数回程度	3．1週間に1回程度	4．数週間～1カ月に1回程度	5．殆ど無い
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
	5人目					
	6人目					
43		以下の行動等が発生する頻度を教えてください。 年齢にそぐわない行為や発言（年齢相応の基本的生活習慣が身についていないと感じること）※1 2				
		1．1日に何度もある	2．1日に数回程度	3．1週間に1回程度	4．数週間～1カ月に1回程度	5．殆ど無い
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
	5人目					
	6人目					
44		以下の行動等が発生する頻度を教えてください。 施設内での暴力（他児や職員への暴力、暴言、器物破損）や他者とのトラブル※1 3				
		1．1日に何度もある	2．1日に数回程度	3．1週間に1回程度	4．数週間～1カ月に1回程度	5．殆ど無い
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
	5人目					
	6人目					

45		定期的な通院（精神科・心療内科等の精神系の診療のための通院）を必要としていますか。				
		はい	いいえ			
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
	5人目					
	6人目					
46		定期的な通院（精神科・心療内科等の精神系の診療以外のための通院）を必要としていますか。				
		はい	いいえ			
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
	5人目					
	6人目					
47		定期的な服薬を必要としていますか。				
		はい	いいえ			
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
	5人目					
	6人目					
48		利用している障害福祉サービスがあれば、教えてください。				
		1．児童発達支援サービスを利用している	2．放課後等デイサービスを利用している	3．就労支援サービスの利用	4．その他のサービスを利用している	5．利用しているものはない
	1人目					
	2人目					
	3人目					
	4人目					
	5人目					
	6人目					

49		直近1か月以内に人手を割きにくい時間帯に特別な配慮が必要になったことはありますか。（外出前、勤務時間帯等）		
		はい	いいえ	
	1人目			
	2人目			
	3人目			
	4人目			
	5人目			
	6人目			
50		直近1か月以内に複数人での特別な配慮が必要になったことはありますか。		
		はい	いいえ	
	1人目			
	2人目			
	3人目			
	4人目			
	5人目			
	6人目			
51		これまでに選択肢で提示したような課題に気づいていても、忙しさ等を理由に十分に対応できない等の不全感を覚えることはありますか。		
		はい	いいえ	
	1人目			
	2人目			
	3人目			
	4人目			
	5人目			
	6人目			
	Q	その他についてお伺いします。		
52		より正確に実態を把握するため、個別にヒアリングをお願いする可能性がございます。 ヒアリングをお受けすることは可能でしょうか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1．はい 2．いいえ		
53		回答者様のお名前を教えてください。 ※文字を入力してください		
54		電話番号をご記入ください。 ※数字を入力してください		
55		メールアドレスをご記入ください。 ※メールアドレスを入力してください		
設問は以上となります。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。				

「里親・ファミリーホーム・施設のあり方の検討に関する調査研究事業」

「児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化における本体施設のバックアップ体制に関する調査研究事業」

『児童養護施設に関するアンケート調査』（施設一般に関するアンケート）

【ご回答いただくにあたって】

このアンケートは、現時点の状況でご回答ください。

基本情報についてお伺いします。

1	貴施設のお名前を教えてください。			
2	貴施設の種類を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 児童養護施設児童 2. 心理治療施設 3. 児童自立支援施設 4. 自立援助ホーム			
3	施設が所在している都道府県を教えてください。			
4	施設が所在している市町村名を教えてください。			
5	貴施設では小規模化・地域分散化を行っていますか ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください			
	1. 小規模化・地域分散化の双方を行っている		3. 地域分散化のみ行っている	
	2. 小規模化のみ行っている		4. どちらも行っていない	
6	(小規模化・地域分散化を行っている場合) 以下に挙げるとの施設を含んでいますか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください。			
	1. 小規模グループケア（敷地内）		3. 自治体の独自制度によるグループケア	
	2. 小規模グループケア（分園型）		4. 地域小規模児童養護施設	
7	貴施設は、「本体施設」「小規模・地域分散施設」のいずれに該当しますか。 1. 本体施設 2. 小規模・地域分散施設			
8	貴施設の設立後年数を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上			
9	貴施設の従業員数を教えてください。			人
10	貴施設に常駐している専門職の人数を記入してください (複数の役割がある場合は重複してカウントしてください)			
	医師	看護師	保育士	児童生活支援員
	人	人	人	人
	児童指導員（少年指導員含む）	児童自立支援専門員	個別対応職員	家庭支援専門相談員
	人	人	人	人
	心理療法担当職員	職業指導員	栄養士	調理員
	人	人	人	人
	母子支援員			
	人	人	人	人
11	【本体施設のみ】小規模化の今後の実施意向を教えてください。（1）小規模化			
	1. 既に実施している		3. 実施の意向があるが、実現の見込みはまだない	
	2. 実施の意向があり、実現の見込みがある		4. 実施の意向がない	
12	【本体施設のみ】小規模化の今後の実施意向を教えてください。（2）地域分散化			
	1. 既に実施している		3. 実施の意向があるが、実現の見込みはまだない	
	2. 実施の意向があり、実現の見込みがある		4. 実施の意向がない	
13	【上記で見込みはまだない・意向がないを選択した方】小規模化の実施予定がない理由を教えてください。			
	1. 小規模化・地域分散化を実施しない方針である		3. 人員の確保が難しい	
	2. 利用可能な施設の確保が難しい		4. 経済的な理由	
14	【本体施設のみ】小規模化の目的を教えてください。			

【すべての施設（本体施設、小規模・地域分散化施設）】の方にお伺いします。							
32	【すべての施設】入所している子どもの数をご記入ください。					人	
33	【すべての施設】定期的に通院している子どもの数をご記入ください。					人	
34	【すべての施設】定期的に投薬を受けている子どもの数をご記入ください。					人	
35	【すべての施設】妊娠検査・性病検査を受けた子どもの数をご記入ください。					人	
36	公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。 1. 養育支援研修の受講 2. 養育環境の整備等支援に係る費用の受給 3. 児童相談所への相談 4. その他						
37	【すべての施設】上記の他、公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。						
38	現在子どもの支援を行う上で苦勞していることがあればすべて教えてください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください						
	1. 発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる 4. 緘黙等の理由で意思疎通がはかれない子どもがいる 7. 支援を行うための資金が足りていない 2. 医療的ケアの内容が難しい子どもがいる 5. 暴力行為に及ぶ子どもがいる（家庭内外を問わず） 8. その他 3. 医療的ケアの頻度が多い子どもがいる 6. 支援を行うための人員が足りていない						
39	現在子どもの支援を行う上で苦勞していることがあれば教えてください。（自由記述）						
【本体施設】を選択された方にお伺いします。							
40	【本体施設】小規模・地域分散化施設に対するバックアップとして実施していることを全て選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください						
	1. 経験年数の長い職員によるSV 6. 経験年数の長い職員の小規模施設への配置 11. 本体施設の管理職による巡回等を通した定期的な状況確認や評価 2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用 7. 地域の関係者との関係構築の支援 12. 身近な相談相手の確保（チューター・メンター等） 3. オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション 8. 職員への研修の実施 13. 入所児の病院受診児等のマンパワーのフォロー 4. 連絡・情報共有等におけるICTの活用 9. 外部の研修への参加機会の確保 14. 調理師の配置 5. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート 10. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等） 15. その他						
41	【4. ICT活用を選択された方へ】取り組みの詳細をすべて選択してください。						
	1. 子どもの情報の記録できるシステムの活用 3. 保護者との連絡における活用（SNS等） 5. その他 2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用 4. 子どもの入退室の管理における活用						
42	以下のバックアップの取組を行う頻度を教えてください。						
		経験年数の長い職員 によるSV	会議等オフラインの手 段（対面）による職 員間の情報共有やコ ミュニケーション	オンライン会議等の手 段による職員間の情 報共有やコミュニケー ション	管理職・職員間の定 期的な状況の共有 （面談等）	本体施設の管理職に よる、巡回等を通した 定期的な状況確認や 評価	身近な相談相手の確 保（チューター・メン ター等）
	週3回以上						
	週1回以上						
	月2回以上						
	月1回以上						
	月1回より少ない						
	実施していない						

43	バックアップの各取り組みの目的や狙いについて当てはまるものを全て選択してください。							
		経験年数の長い職員 によるSV	会議等オフラインの手 段（対面）による職 員間の情報共有やコ ミュニケーション	オンライン会議等の手 段による職員間の情 報共有やコミュニケー ション	ICTの活用による記 録の電子化・情報共 有	本体施設からの職員 の応援の派遣・サポー ト	経験年数の長い職員 の小規模施設への配 置	
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー							
	職員の経験・スキル不足の補完							
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止							
	職員のマンパワーのフォロー							
	離職防止							
	職員を孤立させないためのメンタルサポート							
	その他							
		地域の関係者との関 係構築の支援	職員への研修の実施	外部の研修への参加 機会の確保	管理職・職員間の定 期的な状況の共有 （面談等）	本体施設の管理職に よる、巡回等を通した 定期的な状況確認や	身近な相談相手の確 保（チューター・メン ター等）	
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー							
	職員の経験・スキル不足の補完							
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止							
	職員のマンパワーのフォロー							
	離職防止							
	職員を孤立させないためのメンタルサポート							
	その他							
		調理師の配置	その他					
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー							
	職員の経験・スキル不足の補完							
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止							
	職員のマンパワーのフォロー							
	離職防止							
	職員を孤立させないためのメンタルサポート							
	その他							
44	バックアップの各取り組みについて、目的や狙い通りの効果を得られていると思いますか。							
		とてもそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない		
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー							
	職員の経験・スキル不足の補完							
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止							
	職員のマンパワーのフォロー							
	離職防止							
	職員を孤立させないためのメンタルサポート							
	その他							
45	バックアップにおいて特に効果的・重要と考える取り組みを1つ選択してください。							
	1. 経験年数の長い職員によるSV		6. 経験年数の長い職員の小規模施設への配置		11. 本体施設の管理職による、巡回等を通した定期的な状況確認や評価			
	2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用		7. 地域の関係者との関係構築の支援		12. 身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）			
	3. オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション		8. 職員への研修の実施		13. その他			
	4. ICTの活用による記録の電子化・情報共有		9. 外部の研修への参加機会の確保					
	5. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート		10. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）					
46	上記（Q45）で選択した取り組みについて、効果的と考える理由や具体的に工夫している点を教えてください。							
47	バックアップの取り組みを十分に行っていると感じますか。							
	1. とてもそう思う		3. どちらとも言えない			5. 全くそう思わない		
	2. ややそう思う		4. あまりそう思わない					
48	バックアップの取り組みを十分に行えていないと感じる理由をすべて教えてください。							
	1. 本体施設職員のマンパワーが不足している		3. 小規模施設の課題やニーズを把握できていない			5. その他		
	2. 本体職員のスキルやノウハウが不足している		4. 地理的な距離により難しい					

49	バックアップを行う上で課題・難しいと感じていることをすべて選択してください。		
	1. 本体施設職員のマンパワーが不足している	3. 小規模施設の課題やニーズを把握できていない	5. その他
	2. 本体職員のスキルやノウハウが不足している	4. 地理的な距離により難しい	
50	上記（Q49）について詳細を教えてください。		
【小規模施設・地域分散施設】を選択された方にお伺いします。			
51	貴施設の職員の業務の負担感は大きいと感じますか。		
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない	
52	貴施設の職員は業務上で困難な事象に直面することが多いと感じますか。		
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない	
53	上記（Q52）の要因として考えるものをすべて選んでください。		
	1. 勤務時間の長さ	5. 担当する子どもの数	9. 業務に対する責任が重いと感じる
	2. 宿直回数の多さ	6. 担当する子どものケアの負担感が大きい	10. 大規模施設との仕事の進め方の違い
	3. 地域の関係者との関係構築の支援	7. 自身の知識・スキルに対する不足感	11. 他の職員とのコミュニケーションの機会が少ない
	4. 勤務体系が不規則であること	8. 他の職員に相談できる機会が少ない	12. その他
54	施設内での職員のフォローを目的とした取り組みについて当てはまるものを全て選んでください。		
	1. 会議等オフラインの手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	4. 研修の実施	7. 業務外のコミュニケーションによるフォロー
	2. ICTの活用による記録の電子化・情報共有	5. 外部の研修への参加機会の確保	8. その他
	3. 通勤時間の長さ	6. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	
55	本体施設から受けているバックアップの内容について当てはまるものを全て選んでください。		
	1. 経験年数の長い職員によるSV	5. 地域の関係者との関係構築の支援	9. 本体施設の管理職による、巡回等を通した定期的な状況確認や評価
	2. 会議等オフラインの手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	6. 職員への研修の実施	10. その他
	3. ICTの活用による記録の電子化・情報共有	7. 外部の研修への参加機会の確保	
	4. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート	8. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	
56	本体施設から十分なバックアップを得られていると感じますか。		
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない	
57	本体施設からの支援に期待することは何ですか。		
	ご回答者様についてお伺いします。		
58	より正確に実態を把握するため、個別にヒアリングをお願いする可能性がございます。ヒアリングをお受けすることは可能でしょうか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ		
59	回答者様のお名前を教えてください。 ※文字を入力してください		
60	電話番号をご記入ください。 ※数字を入力してください		
61	メールアドレスをご記入ください。 ※メールアドレスを入力してください		
	設問は以上となります。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。		

【個人票】現在受け入れている子どもについて、それぞれ以下の設問にご回答ください。

- ・本回答シートは入所している子どものうち、生年月日の末尾が3,6,9の子ども（生年月日が2015年3月29日等）全員について回答をお願いいたします。
- ・入所時期や年齢等によってケアの段階が異なることが想定されますが、特に指定のない限り現時点の状況についてご記入ください。
- ・基幹的職員等、子ども及び職員の状況を全体的に把握し、その運営管理を担っている職員様にて回答をお願いいたします。
- ・一時保護の方は、個人票の対象外のため、ご記入いただく必要はございません。
- ・回答はプルダウンからの選択方式ですが、コピー＆ペーストも可能です。
- ・設問内に「※」がある場合は、別シート「設問の該当例」を参考に該当有無を確認してください。
- ・施設内で複数のユニットがある場合は、ユニットごとに1シートで回答してください。シートや行が不足する場合には、恐れ入りますが、シートまたは行をコピーして入力をお願いいたします。

[illegible]

★設問の該当例

※ 1	以下のような疾患を有する場合（医師から診断されている場合）は○をしてください。 心臓疾患、発達協調性運動障害、口唇口蓋裂、喘息性気管支炎、循環器系疾患、内臓疾患（心臓疾患を除く）、両下肢不完全及び機能障害、ダウン症、てんかん、何等かの脳機能障がい、新生児呼吸逼迫症候群、原因不明の発育課題	
※ 2	(例)	侵入症状がある（トラウマとなった出来事に関する不快で苦痛な記憶が突然蘇ってきたり、悪夢を見る、悪夢を反復する、恐怖体験を遊びなどで反復する、母のリストカットする様子を再現する等） 回避症状がある（出来事に関して思い出したり考えたりすることを極力避けようしたり、思い出させる人物、事物、状況や会話を回避する、間隔の麻痺や遮断がある等） 認知と気分の陰性の変化がある（否定的な認知、興味や関心の喪失、周囲との疎隔感や孤立感を感じ、陽性の感情（幸福、愛情など）がもてない等） 覚醒度と反応性の著しい変化がある（いつもイライラしているなどトラウマ体験が原因と思われる症状や行動がある、無謀または自己破壊的行動、過剰な警戒心、ちょっとした刺激にもひどくビクッとするような驚愕反応、集中困難、睡眠障害がみられる、大きな音や暗闇を過度に怖がる等）
※ 3	(例)	リストカット 抜毛 ヘッドバッティング 自分の腕を噛む けがをするまで壁を叩くなど自分の身体を気付つける行動 等
※ 4	(例)	死にたいと何度も言う 実際に死のうとした 等
※ 5	(例)	早朝覚醒 中々眠りににつけない 眠りが浅い 夜中に目が覚める 夜泣きがある 夜中に突然起きて大声で騒ぐ、暴れる（夜驚） 夜尿 等

※ 6	(例)	施設内で個別対応職員や担当養育者、心理担当職員等による個別的なトレーニングを行っている
		医療機関等の理学療法士、作業療法士等によるトレーニングを定期的に行っている
		その他
※ 7	(例)	施設内で個別対応職員や担当養育者、心理療法担当職員等による個別的なトレーニングを行っている
		医療機関等の言語聴覚士等によるトレーニングを定期的に行っている等
		不安の改善のための個別、少人数からの段階的トレーニングを行っている
		その他
※ 8	(例)	言葉だけでは指示が通りづらい子どもについて、視覚的、聴覚的、触覚的な工夫を行い、生活援助を行っている
		雑音の多い場所では指示が通りづらかったり、お友達とトラブルになる子どもについて、静かな環境を設定したり一人になる時間を設けている
		物音や体に触れることに対して特別配慮している
		その他
※ 9	(例)	授業中の徘徊
		教師の指示が入らない
		集団活動ができない
		友人とのトラブルなど学校生活に関する問題を抱えている 等
※ 10	(例)	火遊び等の危険な遊びを行う
		動物の虐待を行う（動物を蹴る、魚を水から出す等）
		虫や昆虫の足を捕まえて殺す、足を引きちぎる 等
※ 11	(例)	家族の行方がわからない
		面会頻度が十分でない
		親の問題が解決せず、家庭復帰につながらない
		そもそも自分が施設にいる理由が了解できていない
		親への強い思いを抱いたままである 等
※ 12	(例)	子どもと担当職員が1対1で過ごす時間を、日々の中で意識して設けている
		担当養育者と2人きりで過ごす時間を1日設けることで、子どもが担当養育者にゆったりと甘えられる時間を意識して作っている
		養育者とのかわりを求めない
		養育者にしがみつきなかなか離れない
		養育者を怖がり萎縮するなど養育者との関係性に問題がある 等

※ 1 3	(例)	歯磨きをしない、片付けができない、座って食事を食べられない、トイレでお尻を拭かない等
		突然笑いだしたり、次の瞬間急に怒り出す
		他児や養育者の嫌がることをわざとする
		他児が嫌がっているのを見て笑っている
		その他
※ 1 4	(例)	他児を蹴ったり後から押し倒し殴ったりする
		暴言（「うるさい」「死ね」等の発言をする）
		すぐに反発する
		すぐに他人を挑発する
		相手が嫌がっていることに気付けない
		会話の途中で突然TVやDVDの中のセリフをまくしたてる
		他入の領域にすぐに踏み入れる
		反射的に物を壊す 等
※ 1 5	(例)	生まれつきの疾患を有しており、定期的な受診が必要
		疾患は完治しているが、継続的なフォローを要する
		複数科を受診している
		継続して飲まなければならない薬がある
		発達フォローが必要
		複数回の手術が必要
		嘱託医だけではなく、大学病院、総合病院等の複数の医療機関受診が必要
		その他
※ 1 6	(例)	生まれつき障害を有しており、定期的な受診や訓練が必要
		装具を必要とするため、定期的な受診と訓練が必要
		診断はついていないが、実年齢に比べて発達が遅れている項目があるため、定期的な受診と訓練が必要
		診断はついていないが、生活に支障をきたす症状（身体がぐにやぐにゃしている、座位が取りづらい、言語理解が大幅に遅れている、発語がなかなか出ない等）が見られるため、定期的な受診して助言をいただいている
		発達支援センターや視覚支援学校等、地域の支援機関と連携している
		その他

※ 1 7	(例)	ミルクを飲むことを嫌がる
		スポイトで授乳している
		普通の乳首では飲むことが出来ない
		ミルクを飲むのに時間がかかる
		とろみのあるミルクを飲んでいる
		アレルギー対応のミルクを飲んでいる
		離乳食が遅れている
		離乳食の段階がなかなか進まない
		噛む力が弱い
		飲み込む力が弱い
		とろみをつけないと飲み込めない
		繊維のある食材が苦手
		口に入れてもすぐ出してしまう
		食材の大きさや形に配慮が必要
		味や食感に特別な工夫が必要
		同じ色の食材のみ好んで食べる
		同じ食材や料理のみ好んで食べる 等

「里親・ファミリーホーム・施設のあり方の検討に関する調査研究事業」
「児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化における本体施設のバックアップ体制に関する調査研究事業」
『乳児院に関するアンケート調査』（施設一般に関するアンケート）

【ご回答いただくにあたって】
このアンケートは、現時点の状況でご回答ください。

基本情報についてお伺いします。

1	貴施設のお名前を教えてください。			
2	施設が所在している都道府県を教えてください。			
3	施設が所在している市町村名を教えてください。			
4	貴施設では小規模化を行っていますか ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ			
5	(小規模化を行っている場合) 以下に挙げるどの施設を含んでいますか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください。			
	1. 小規模グループケア（敷地内）		3. 自治体の独自制度によるグループケア	5. 実施していない
	2. 小規模グループケア（分園型）		4. 地域小規模児童養護施設	
6	貴施設は、「本体施設」「小規模施設」のいずれに該当しますか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 本体施設 2. 小規模施設			
7	貴施設の設立後年数を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上			
8	貴施設の従業員数を教えてください。			人
9	貴施設に常駐している専門職の人数を記入してください (複数の役割がある場合は重複してカウントしてください)			
	医師	看護師	保育士	児童生活支援員
	人	人	人	人
	児童指導員	児童自立支援専門員	個別対応職員	家庭支援専門相談員
	人	人	人	人
	心理療法担当職員	職業指導員	栄養士	調理員
	人	人	人	人
	母子支援員			
人	人	人	人	
10	小規模化の今後の実施意向を教えてください。(1) 小規模化			
	1. 既に実施している		3. 実施の意向があるが、実現の見込みはまだない	5. その他
	2. 実施の意向があり、実現の見込みがある		4. 実施の意向がない	
11	【上記で見込みがない・意向がないとお答えした方へ】小規模化の実施予定がない理由を教えてください。			
	1. 小規模化を実施しない方針である		3. 人員の確保が難しい	5. 地域住民の理解が得られない
	2. 利用可能な施設の確保が難しい		4. 経済的な理由	6. その他
12	小規模化の目的を教えてください。			

【本体施設】を選択された方にお伺いします。					
13	【本体施設のみ】施設全体の定員数を教えてください。			人	
14	【本体施設のみ】貴施設で実施しているを教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 一時保護委託 2. ショートステイ 3. トワイライトステイ 4. その他				
15	【本体施設のみ】貴施設の養育単位数を教えてください。			単位	
16	【本体施設のみ】小規模化に対する加算を利用していますか。 1. はい 2. いいえ				
17	【本体施設のみ】(利用していない場合) 加算を使用していない理由を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 可算要件を満たしていない 2. 手続きが煩雑である 3. その他				
18	【本体施設のみ】どの職員を小規模施設に配置するかについて、配置の考え方を教えてください。				
【小規模施設】を選択された方にお伺いします。					
19	【小規模施設】貴施設のお名前を教えてください。				
20	【小規模施設】貴施設の設置年を教えてください。				
21	【小規模施設】貴施設の定員数を教えてください。				
	1. 4人 3. 6人 5. 8人				
	2. 5人 4. 7人 6. 9人以上				
22	【小規模施設】貴施設（小規模施設内）の従業員数を教えてください。			人	
23	【小規模施設】貴施設（小規模施設内）に常駐している専門職の人数を記入してください				
	医師		看護師	保育士	児童生活支援員
	人		人	人	人
	児童指導員		児童自立支援専門員	個別対応職員	家庭支援専門相談員
	人		人	人	人
	心理療法担当職員		職業指導員	母子支援員	
	人		人	人	人
24	【小規模施設】貴施設における勤務形態についてすべて教えてください。 1. 通勤が含まれる 2. 住み込みが含まれる 3. 断続勤務が含まれる 4. 交代制が含まれる				
25	【小規模施設】本体施設の職員で貴施設の支援を兼務している職員は何人いますか。			人	
26	【小規模施設】貴施設（小規模施設内）の職員の平均勤続年数を教えてください。			年	
27	【小規模施設】兼務でない本体施設の職員から支援を受けることはありますか。 1. はい 2. いいえ				
28	【小規模施設】兼務でない本体施設の職員による支援はどの程度の頻度で行われますか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください				
	1. 毎日		5. 週1回以上	9. 半年に1回以上	
	2. 週5回以上		6. 月2回以上	10. 1年に1回以上	
	3. 週3回以上		7. 月1回以上	11. 1年に1回未満	
	4. 週2回以上		8. 3か月に1回以上		
29	【小規模施設】本体施設との距離はどれぐらいですか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください				
	1. 同じ敷地内（500m以内）		4. 敷地外（1km以上3km以内）	7. 敷地外（10km以上）	
	2. 同じ敷地内（500m以上）		5. 敷地外（3km以上5km以内）		
	3. 敷地外（1km以内）		6. 敷地外（5km以上10km以内）		

【すべての施設（本体施設、小規模施設）】の方にお伺いします。							
30	【すべての施設】入所している子どもの数をご記入ください。					人	
31	【すべての施設】定期的に通院している子どもの数をご記入ください。					人	
32	【すべての施設】定期的に投薬を受けている子どもの数をご記入ください。					人	
33	公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。 1. 養育支援研修の受講 2. 養育環境の整備等支援に係る費用の受給 3. 児童相談所への相談 4. その他						
34	【すべての施設】上記の他、公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。						
現在子どもの支援を行う上で苦労していることがあればすべて教えてください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください							
35	1. 発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる		4. 緘黙等の理由で意思疎通がはかれない子どもがいる		7. 支援を行うための資金が足りていない		
	2. 医療的ケアの内容が難しい子どもがいる		5. 暴力行為に及ぶ子どもがいる（家庭内外を問わず）		8. その他		
	3. 医療的ケアの頻度が多い子どもがいる		6. 支援を行うための人員が足りていない				
36	現在子どもの支援を行う上で苦労していることがあれば教えてください。（自由記述）						
【本体施設】を選択された方にお伺いします。							
37	【本体施設】小規模施設に対するバックアップとして実施していることをすべて選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください						
	1. 経験年数の長い職員によるSV		6. 経験年数の長い職員の小規模施設への配置		11. 本体施設の管理職による巡回等を通した定期的な状況確認や評価		
	2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用		7. 地域の関係者との関係構築の支援		12. 身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）		
	3. オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション		8. 職員への研修の実施		13. 入所児の病院受診児等のマンパワーのフォロー		
	4. 連絡・情報共有等におけるICTの活用		9. 外部の研修への参加機会の確保		14. 調理師の配置		
	5. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート		10. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）		15. その他		
38	【4. ICT活用を選択された方へ】取り組みの詳細をすべて選択してください。						
	1. 子どもの情報の記録できるシステムの活用		3. 保護者との連絡における活用（SNS等）		5. その他		
	2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用		4. 子どもの入退室の管理における活用				
39	以下のバックアップの取組を行う頻度を教えてください。						
		経験年数の長い職員によるSV	会議等オフラインの手段（対面）による職員間の情報共有やコミュニケーション	オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	本体施設の管理職による巡回等を通した定期的な状況確認や評価	身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）
	週3回以上						
	週1回以上						
	月2回以上						
	月1回以上						
	月1回より少ない						
	実施していない						

40	バックアップの各取組の目的や狙いについて当てはまるものをすべて選択してください。						
		経験年数の長い職員によるSV	会議等オフラインの手段（対面）による職員間の情報共有やコミュニケーション	オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	ICTの活用による記録の電子化・情報共有	本体施設からの職員の応援の派遣・サポート	経験年数の長い職員の小規模施設への配置
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー						
	職員の経験・スキル不足の補完						
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止						
	職員のマンパワーのフォロー						
	職員を孤立させないためのメンタルサポート						
	離職防止						
	その他						
		地域の関係者との関係構築の支援	職員への研修の実施	外部の研修への参加機会の確保	管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価	身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー						
	職員の経験・スキル不足の補完						
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止						
	職員のマンパワーのフォロー						
	職員を孤立させないためのメンタルサポート						
	離職防止						
	その他						
		調理師の配置	その他				
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー						
	職員の経験・スキル不足の補完						
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止						
	職員のマンパワーのフォロー						
	職員を孤立させないためのメンタルサポート						
	離職防止						
	その他						
41	バックアップの各取組について、目的や狙い通りの効果を得られていると思いますか。						
		とてもそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない	
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー						
	職員の経験・スキル不足の補完						
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止						
	職員のマンパワーのフォロー						
	職員を孤立させないためのメンタルサポート						
	離職防止						
	その他						
42	バックアップにおいて特に効果的・重要と考える取組を1つ選択してください。						
	1. 経験年数の長い職員によるSV		6. 経験年数の長い職員の小規模施設への配置		11. 本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価		
	2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用		7. 地域の関係者との関係構築の支援		12. 身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）		
	3. オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション		8. 職員への研修の実施		13. その他		
	4. ICTの活用による記録の電子化・情報共有		9. 外部の研修への参加機会の確保				
	5. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート		10. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）				
43	上記（Q42）で選択した取組について、効果的と考える理由や具体的に工夫している点を教えてください。						
44	バックアップの取組を十分に行えていると感じますか。						
	1. とてもそう思う		3. どちらとも言えない		5. 全くそう思わない		
	2. ややそう思う		4. あまりそう思わない				
45	バックアップの取組を十分に行えていないと感じる理由をすべて教えてください。						
	1. 本体施設職員のマンパワーが不足している		3. 小規模施設の課題やニーズを把握できていない		5. その他		
	2. 本体職員のスキルやノウハウが不足している		4. 地理的な距離により難しい				

46	バックアップを行う上で課題・難しいと感じていることをすべて選択してください。		
	1. 本体施設職員のマンパワーが不足している	3. 小規模施設の課題やニーズを把握できていない	5. その他
	2. 本体職員のスキルやノウハウが不足している	4. 地理的な距離により難しい	
47	上記（Q46）について詳細を教えてください。		
【小規模施設】を選択された方にお伺いします。			
48	貴施設の職員の業務の負担感は大きいと感じますか。		
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない	
49	貴施設の職員は業務上で困難な事象に直面することが多いと感じますか。		
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない	
50	上記（Q49）の要因として考えるものをすべて選んでください。		
	1. 勤務時間の長さ	5. 担当する子どもの数	9. 業務に対する責任が重いと感じる
	2. 宿直回数の多さ	6. 担当する子どものケアの負担感が大きい	10. 大規模施設との仕事の進め方の違い
	3. 地域の関係者との関係構築の支援	7. 自身の知識・スキルに対する不足感	11. 他の職員とのコミュニケーションの機会が少ない
	4. 勤務体系が不規則であること	8. 他の職員に相談できる機会が少ない	12. その他
51	施設内での職員のフォローを目的とした取組みについて当てはまるものをすべて選んでください。		
	1. 会議等オフラインの手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	4. 研修の実施	7. 業務外のコミュニケーションによるフォロー
	2. ICTの活用による記録の電子化・情報共有	5. 外部の研修への参加機会の確保	8. その他
	3. 通勤時間の長さ	6. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	
52	本体施設から受けているバックアップの内容について当てはまるものをすべて選んでください。		
	1. 経験年数の長い職員によるSV	5. 地域の関係者との関係構築の支援	9. 本体施設の管理職による巡回等を通した定期的な状況確認や評価
	2. 会議等オフラインの手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	6. 職員への研修の実施	10. その他
	3. ICTの活用による記録の電子化・情報共有	7. 外部の研修への参加機会の確保	
	4. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート	8. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	
53	本体施設から十分なバックアップを得られていると感じますか。		
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない	
54	本体施設からの支援に期待することは何ですか。		
ご回答者様についてお伺いします。			
55	より正確に実態を把握するため、個別にヒアリングをお願いする可能性がございます。ヒアリングをお受けすることは可能でしょうか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ		
56	回答者様のお名前を教えてください。 ※文字を入力してください		
57	電話番号をご記入ください。 ※数字を入力してください		
58	メールアドレスをご記入ください。 ※メールアドレスを入力してください		
	設問は以上となります。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。		

児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化における 本体施設のバックアップ体制に関する調査研究事業 『児童心理治療施設に関するアンケート調査』					
【ご回答いただくにあたって】 このアンケートは、現時点の状況でご回答ください。					
基本情報についてお伺いします。					
1	貴施設のお名前を教えてください。				
2	貴施設の種類の教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 児童養護施設児童 2. 児童心理治療施設 3. 児童自立支援施設 4. 自立援助ホーム				
3	貴施設が所在している都道府県を教えてください。				
4	施設が所在している市町村名を教えてください。				
5	貴施設の設立後年数を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上				
6	貴施設全体の従業員数を教えてください。				人
7	貴施設に常駐している有資格者の人数を記入してください (複数の役割がある場合は重複してカウントしてください)				人
	臨床心理士	公認心理師	保育士	社会福祉士	精神保健福祉士
	人	人	人	人	人
	栄養士	教員（免許保有者）	医師	看護師	その他
	人	人	人	人	人
8	寄宿の定員数を教えてください。				人
9	通所の定員数を教えてください。				人
10	入所している子どもの数を教えてください。				人
11	通所の措置を受けている子どもの数をご記入ください。				人
その他についてお伺いします。					
12	国や都道府県、市町村等が実施する公的サービスで利用しているものがあればすべて教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字に丸を付けてください。				
	1. 養育支援研修の受講		3. 児童相談所への相談		
	2. 養育環境の整備等支援に係る費用の受給		4. その他		
13	上記の他に、国や都道府県、市町村等が実施する公的なサービスで利用しているものがあれば教えてください。				

	現在子どもの支援を行う上で特に苦労していることがあれば教えてください。※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください	
14	1. 発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる 2. 医療的ケアの内容が難しい子どもがいる 3. 医療的ケアの頻度が多い子どもがいる 4. 緘黙等の理由で意思疎通がはかれない子どもがいる	5. 暴力行為に及ぶ子どもがいる（家庭内外を問わず） 6. 支援を行うための人員が足りていない。 7. 支援を行うための資金が足りていない。 8. その他
13	現在子どもの支援を行う上で特に工夫していることがあれば教えてください。	
ご回答者様についてお伺いします。		
14	より正確に実態を把握するため、個別にヒアリングをお願いする可能性がございます。 ヒアリングをお受けすることは可能でしょうか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ	
15	回答者様のお名前を教えてください。 ※文字を入力してください	
16	電話番号をご記入ください。 ※数字を入力してください	
17	メールアドレスをご記入ください。 ※メールアドレスを入力してください	
	設問は以上となります。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。	

児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化における 本体施設のバックアップ体制に関する調査研究事業 『児童心理治療施設に関するアンケート調査』					
【ご回答いただくにあたって】 このアンケートは、現時点の状況でご回答ください。					
基本情報についてお伺いします。					
1	貴施設のお名前を教えてください。				
2	貴施設の種類の教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 児童養護施設児童 2. 児童心理治療施設 3. 児童自立支援施設 4. 自立援助ホーム				
3	貴施設が所在している都道府県を教えてください。				
4	施設が所在している市町村名を教えてください。				
5	貴施設の設立後年数を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上				
6	貴施設全体の従業員数を教えてください。				人
7	貴施設に常駐している有資格者の人数を記入してください (複数の役割がある場合は重複してカウントしてください)				人
	臨床心理士	公認心理師	保育士	社会福祉士	精神保健福祉士
	人	人	人	人	人
	栄養士	教員（免許保有者）	医師	看護師	その他
	人	人	人	人	人
8	寄宿の定員数を教えてください。				人
9	通所の定員数を教えてください。				人
10	入所している子どもの数を教えてください。				人
11	通所の措置を受けている子どもの数をご記入ください。				人
その他についてお伺いします。					
12	国や都道府県、市町村等が実施する公的サービスで利用しているものがあればすべて教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字に丸を付けてください。				
	1. 養育支援研修の受講		3. 児童相談所への相談		
	2. 養育環境の整備等支援に係る費用の受給		4. その他		
13	上記の他に、国や都道府県、市町村等が実施する公的なサービスで利用しているものがあれば教えてください。				

	現在子どもの支援を行う上で特に苦労していることがあれば教えてください。※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください	
14	1. 発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる 2. 医療的ケアの内容が難しい子どもがいる 3. 医療的ケアの頻度が多い子どもがいる 4. 緘黙等の理由で意思疎通がはかれない子どもがいる	5. 暴力行為に及ぶ子どもがいる（家庭内外を問わず） 6. 支援を行うための人員が足りていない。 7. 支援を行うための資金が足りていない。 8. その他
13	現在子どもの支援を行う上で特に工夫していることがあれば教えてください。	
ご回答者様についてお伺いします。		
14	より正確に実態を把握するため、個別にヒアリングをお願いする可能性がございます。 ヒアリングをお受けすることは可能でしょうか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ	
15	回答者様のお名前を教えてください。 ※文字を入力してください	
16	電話番号をご記入ください。 ※数字を入力してください	
17	メールアドレスをご記入ください。 ※メールアドレスを入力してください	
	設問は以上となります。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。	

- 【**個人票**】現在受け入れている子どもについて、それぞれ以下の設問にご回答ください。
- ・本回答シートは入所または通所の措置を受けている子ども全員について回答をお願いいたします。
 - ・入所時期や年齢等によってケアの段階が異なることが想定されますが、**特に指定のない限り現時点の状況についてご記入ください。**
 - ・基幹的職員等、子ども及び職員の状況を全体的に把握し、その運営管理を担っている職員様にて回答をお願いいたします。
 - ・一時保護の方は、個人票の対象外のため、ご記入いただく必要はございません。
 - ・回答はプルダウンからの選択方式ですが、コピー＆ペーストも可能です。
 - ・設問内に「※」がある場合は、別シート「設問の該当例」を参考に該当有無を確認してください。
 - ・行が不足する場合には、恐れ入りますが、行をコピーして入力をお願いいたします。
 - ・回答にあたっては、必要に応じて別紙の「アンケート回答にあたっての補足資料」をご参照ください（設問の趣旨や回答例を記載しております） ※本ファイルの別シートでも参照可能です

設問番号	Q	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6-1	Q6-2	Q6-3	Q6-4	Q6-5	Q6-6	Q6-7	Q6-8	Q6-9	Q6-10	Q6-11	Q6-12	Q6-13	Q6-14	Q6-15	Q6-16	Q7-1	Q7-2	Q7-3	Q7-4	Q7-5	Q7-6	Q7-7	Q7-8	Q7-9	Q7-10	Q7-11	Q7-12	Q7-13	Q7-14		
質問	入所・通所の区分を教えてください。	子どもの性別を教えてください。	子どもの年齢を教えてください。（数値のみ入力）	子どもの入所期間を教えてください。	就学状況を教えてください。	就労状況（アルバイト含む）を教えてください。	社会的養育が必要となった背景や理由として、以下の項目が当てはまる場合、○を選択してください。																以下の項目が当てはまる場合、○を選択してください。 (疾患・障がい・PTSD等に起因する課題)												以下の項目が当てはまる場合、○を選択してください。 (日常生活)			
							倒心、理的虐待、悪口、侮辱を受けていた（日常的に罵	身体的虐待を受けていた（日常的に暴力を受けていた）	性的虐待を受けていた	関係、または親・養育困難を向けられ親	親の養育拒否・養育困難を向けられ親	医療的ネグレクトを受けていた	等）	適切な養育環境におかれていた（年齢に応じた食事を与えられていた）	食事が不衛生な住居など、不適切な環境におかれていた	アルコールや薬物依存の家族がいた	家族に虐待体験があった	家族に虐待体験があった	家庭内暴力があった	父・母との別離があった	家族の自殺（未遂含む）があった	経済的に困窮していた	親が社会的孤立状態であった	家族に服役者がいた	好ましくない学校生活（いじめ被害、不登校）であった	疾患（※1）を有している	発達障害を有している（疑いがある場合を含む）	学習障害を有している（疑いがある場合を含む）	知的障害を有している（疑いがある場合を含む）	身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む）	精神障害、知的障害、トラウマ、依存（発達障害を除く）	精神障害、知的障害、トラウマ、依存（発達障害を除く）	精神障害、知的障害、トラウマ、依存（発達障害を除く）	精神障害、知的障害、トラウマ、依存（発達障害を除く）	トラウマ起因の行動や症状がある（※2）	多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等）	自傷行為がある※3	自殺念慮、自殺企図の懸念がある※4
回答形式	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択		選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択					選択			選択	選択	選択	選択	選択	選択
（記入例）	入所	男	16	1年未満	学校等に通っていない（籍は有るが、不登校）	非正規雇用（パート・アルバイト）	○						○				○								○		○							○				
1人目																																						
2人目																																						
3人目																																						
4人目																																						
5人目																																						
6人目																																						
7人目																																						
8人目																																						
9人目																																						
10人目																																						
11人目																																						
12人目																																						
13人目																																						
14人目																																						
15人目																																						
16人目																																						
17人目																																						
18人目																																						
19人目																																						
20人目																																						
21人目																																						
22人目																																						
23人目																																						
24人目																																						
25人目																																						

★設問の該当例

※ 1	以下のような疾患を有する場合（医師から診断されている場合）は○をしてください。 心臓疾患、発達協調性運動障害、口唇口蓋裂、喘息性気管支炎、循環器系疾患、内臓疾患、両下肢不完全及び機能障害、ダウン症、てんかん、何等かの脳機能障がい、新生児呼吸逼迫症候群、原因不明の発育課題	
※ 2	(例)	侵入症状がある（トラウマとなった出来事に関する不快で苦痛な記憶が突然蘇ってきたり、悪夢を見る、悪夢を反復する、恐怖体験を遊びなどで反復する、母のリストカットする様子を再現する等） 回避症状がある（出来事に関して思い出したり考えたりすることを極力避けようしたり、思い出させる人物、事物、状況や会話を回避する、間隔の麻痺や遮断がある等） 認知と気分の陰性の変化がある（否定的な認知、興味や関心の喪失、周囲との疎隔感や孤立感を感じ、陽性の感情（幸福、愛情など）がもてない等） 覚醒度と反応性の著しい変化がある（いつもイライラしているなどトラウマ体験が原因と思われる症状や行動がある、無謀または自己破壊的行動、過剰な警戒心、ちょっとした刺激にもひどくビクッとするような驚愕反応、集中困難、睡眠障害がみられる、大きな音や暗闇を過度に怖がる等）
※ 3	(例)	リストカット 抜毛 ヘッドバッティング 自分の腕を噛む けがをするまで壁を叩くなど自分の身体を気付つける行動 等
※ 4	(例)	死にたいと何度も言う 実際に死のうとした 等
※ 5	(例)	早朝覚醒 中々眠りににつけない 眠りが浅い 夜中に目が覚める 夜泣きがある 夜中に突然起きて大声で騒ぐ、暴れる（夜驚） 夜尿 等

※ 6	(例)	施設内で個別対応職員や担当養育者、心理担当職員等による個別的なトレーニングを行っている
		医療機関等の理学療法士、作業療法士等によるトレーニングを定期的に行っている
		その他
※ 7	(例)	施設内で個別対応職員や担当養育者、心理療法担当職員等による個別的なトレーニングを行っている
		医療機関等の言語聴覚士等によるトレーニングを定期的に行っている等
		その他
※ 8	(例)	言葉だけでは指示が通りづらい子どもについて、視覚的、聴覚的、触覚的な工夫を行い、生活援助を行っている
		雑音の多い場所では指示が通りづらかったり、お友達とトラブルになる子どもについて、静かな環境を設定したり一人になる時間を設けている
		物音や体に触れることに対して特別配慮している
		その他
※ 9	(例)	授業中の徘徊
		教師の指示が入らない
		集団活動ができない
		友人とのトラブルなど学校生活に関する問題を抱えている 等
※ 10	(例)	火遊び等の危険な遊びを行う
		動物の虐待を行う（動物を蹴る、魚を水から出す等）
		虫や昆虫の足を捕まえて殺す、足を引きちぎる 等
※ 11	(例)	子どもと担当職員が1対1で過ごす時間を、日々の中で意識して設けている
		担当養育者と2人きりで過ごす時間を1日設けることで、子どもが担当養育者にゆったりと甘えられる時間を意識して作っている
		養育者とのかわりを求めない
		養育者にしがみつきなかなか離れない
		養育者を怖がり萎縮するなど養育者との関係性に問題がある 等
※ 12	(例)	歯磨きをしない、片付けができない、座って食事を食べられない、トイレでお尻を拭かない等
		突然笑いだしたり、次の瞬間急に怒り出す
		他児や養育者の嫌がることをわざとする
		他児が嫌がっているのを見て笑っている
		その他

※ 1 3	(例)	他児を蹴ったり後から押し倒し殴ったりする
		暴言（「うるさい」「死ね」等の発言をする）
		すぐに反発する
		すぐに他人を挑発する
		相手が嫌がっていることに気付けない
		会話の途中で突然TVやDVDの中のセリフをまくしたてる
		他入の領域にすぐに踏み入れる
※ 1 4	(例)	反射的に者を壊す 等
		生まれつきの疾患を有しており、定期的な受診が必要
		疾患は完治しているが、継続的なフォローを要する
		複数科を受診している
		継続して飲まなければならない薬がある
		発達フォローが必要
		複数回の手術が必要
		嘱託医だけではなく、大学病院、総合病院等の複数の医療機関受診が必要
		その他
※ 1 5	(例)	生まれつき障害を有しており、定期的な受診や訓練が必要
		装具を必要とするため、定期的な受診と訓練が必要
		診断はついていないが、実年齢に比べて発達が遅れている項目があるため、定期的な受診と訓練が必要
		診断はついていないが、生活に支障をきたす症状（身体がぐにやぐにゃしている、座位が取りづらい、言語理解が大幅に遅れている、発語がなかなか出ない等）が見られるため、定期的に受診して助言をいただいている
		発達支援センターや視覚支援学校等、地域の支援機関と連携している
		その他
※ 1 6	(例)	ミルクを飲むことを嫌がる
		スポイトで授乳している
		普通の乳首では飲むことが出来ない
		ミルクを飲むのに時間がかかる
		とろみのあるミルクを飲んでいる
		アレルギー対応のミルクを飲んでいる
		離乳食が遅れている
		離乳食の段階がなかなか進まない
		噛む力が弱い
		飲み込む力が弱い
		とろみをつけないと飲み込めない
		繊維のある食材が苦手
		口に入れてもすぐ出してしまう
		食材の大きさや形に配慮が必要
		味や食感に特別な工夫が必要
		同じ色の食材のみ好んで食べる
		同じ食材や料理のみ好んで食べる 等

アンケート回答にあたっての補足資料

- ・アンケートは施設全体の状況をお伺いするwebアンケートと子ども個別の状況についてお伺いする個票の2種類がございます。
- ・それぞれの設問内容、設問の趣旨、回答例を記載しておりますので、アンケート回答時の参考としてください。
- ・なお、子どもの個票内にも補足シート（該当例の例示）がございますので、併せて回答時にご参照ください。

1. Webアンケートの内容

#	区分	設問	設問の趣旨	回答例
Q1	基本情報	貴施設のお名前を教えてください。	施設名をご回答ください	●●会
Q2		施設が所在している都道府県を教えてください。	所在地の都道府県名をお答えください	●●県
Q3		施設が所在している市町村名を教えてください。	所在地の市区町村名をお答えください	●●市
Q4		貴施設の設立後年数を教えてください。	設立後年数をお答えください （選択肢から選択）	5年以上10年未満
Q5		貴施設の従業員数を教えてください。 （半角で数字をご記入ください）	非常勤職員も含めた実数をご回答ください	●人
Q6		貴施設に常駐している有資格者の人数をお答えください。	有資格者の配置状況を把握するための設問です。有資格者の人数をご回答ください。（複数該当する方がいる場合は重複してカウントしてください。）	●人
Q7	公的サービスの活用	施設全体の定員数を教えてください。 （半角で数字をご記入ください）	施設全体の定員数をご回答ください	●人
Q8		入所している子どもの数をご記入ください。	入所割合を把握するための設問です。入所している児童の数をご回答ください。（一時保護や通所は含みません）	●人
Q9	苦労と工夫	国や都道府県、市町村等が実施する公的なサービスで利用しているものがあれば教えてください。	活用している公的サービスについてご回答ください。（選択肢から選択）	養育環境の整備等支援に係る費用の受給
Q10	苦労と工夫	国や都道府県、市町村等が実施する公的なサービスで利用しているものがあれば教えてください。（自由記述）	選択肢ないもので活用しているサービスがあればご回答ください。	（自由記述）
Q11		現在子どもの支援を行う上で特に苦労していることがあれば教えてください。（選択肢から選択）	施設全体として特に苦労している点を把握するための設問です。	支援を行うための人員が足りていない
Q12		現在子どもの支援を行う上で特にしていることがあれば教えてください。（自由記述）	施設全体として特に苦労している点を把握するための設問です。	（自由記述）

2. 子どもの個票についての内容

#	区分	設問	設問の趣旨	回答例
Q1	基礎情報	子どもの性別を教えてください。	性別をご回答ください。	男
Q2		子どもの年齢を教えてください。 (数値のみ入力)	年齢をご回答ください。	12
Q3		子どもの入所期間を教えてください。	入所期間についてご回答ください。(選択肢から選択) ※再入所は積算しません。また、通所から寄宿になった場合においては、寄宿の期間のみご回答ください	1年未満
Q4		就学状況を教えてください。	就学状況をご回答ください。(選択肢から選択) ※学籍無、浪人等の場合は「学校等に通っていない(籍は無し)」を選択してください	全日制の高校に通っている
Q5		就労状況(アルバイト含む)を教えてください。	就労状況をご回答ください。(選択肢から選択)	非正規雇用(パート・アルバイト)
Q6-1	社会的養育が必要となった背景や理由	心理的虐待を受けていた(日常的に罵倒、侮辱、悪口、侮辱を受けていた)	心理的虐待が要因の一つとなっているかを確認するための項目です。	該当する場合に「○」を選択
Q6-2		身体的虐待を受けていた(日常的に暴力を受けていた)	身体的虐待が要因の一つとなっているかを確認するための項目です。	該当する場合に「○」を選択
Q6-3		性的虐待を受けていた	性的虐待が要因の一つとなっているかを確認するための項目です。 ※身体面での性的虐待だけでなく、性の暴露(アダルトビデオ、両親の性行為を見せる等)も含みます	該当する場合に「○」を選択
Q6-4		親の養育拒否・養育困難、冷たい親子関係、または親から関心を向けられていなかった	親のネグレクトや養育困難であったことが要因の一つとなっているかを確認するための項目です。	該当する場合に「○」を選択
Q6-5		医療的ネグレクトを受けていた	医療的ネグレクトが要因の一つとなっているかを確認するための項目です。(全般的なネグレクトとは別に医療部分について何う設問です。)	該当する場合に「○」を選択
Q6-6		食事が無い、不衛生な住居など、不適切な養育環境におかれていた(年齢に応じた食事を与えられていなかった等)	過去の不適切な生活環境が要因の一つとなっているかを確認するための項目です。(ゴミ屋敷状況等、家族の衛生状態が適切でないことも含みます。)	該当する場合に「○」を選択
Q6-7		アルコールや薬物依存の家族がいた	アルコールや薬物依存の家族(同居の親族(内縁含む))がいたことが要因の一つとなっているかを確認するための項目です。	該当する場合に「○」を選択
Q6-8		家族にうつや統合失調症などの精神疾患があった	家族(同居の親族(内縁含む))に精神疾患があったことが要因の一つとなっているかを確認するための項目です。	該当する場合に「○」を選択
Q6-9		家族に被虐待体験があった	身体的な被害ではなく家族(同居の親族(内縁含む))の被虐待体験や、それを見聞したこと自体が要因の一つとなっているかを確認するための項目です。	該当する場合に「○」を選択
Q6-10		家庭内暴力があった	身体的な被害ではなく家庭内での暴力(親同士、親と兄弟、兄弟同士等)があったこと自体が要因の一つとなっているかを確認するための項目です。(なお、暴力の視認自体はQ6-1に含みます。)	該当する場合に「○」を選択

Q6-11		父・母との別離があった	父・母との別離（死亡、離婚、別居）があったことが要因の一つとなっているかを確認するための項目です。 ※単身赴任のように住居が離れていても家族関係が維持されている場合は該当しないものとしてください	該当する場合に「○」を選択
Q6-12		家族の自殺（未遂含む）があった	家族（同居の親族（内縁含む））の自殺による別離や、自殺未遂があったことが要因の一つとなっているかを確認するための項目です。	該当する場合に「○」を選択
Q6-13		経済的に困窮していた	家族の借金、破産状態、両親の不就労、生活保護を受給している（もしくは受給資格があるが受給していない）ことによる経済学部困窮の状況を把握するための項目です。	該当する場合に「○」を選択
Q6-14		親が社会的孤立状態であった	親が行政や支援機関も含めて周りに相談する人がおらず、社会的に孤立している状態であったかを把握するための設問です。	該当する場合に「○」を選択
Q6-15		家族に服役者がいた	家族に服役者がいたかを把握するための項目です。	該当する場合に「○」を選択
Q6-16		好ましくない学校状況（いじめ被害、不登校）があった	いじめ被害や不登校等の好ましくない学校生活状況であったか	該当する場合に「○」を選択
Q7-1	疾患・障がい・PTSD等に起因する課題	疾患を有している	疾患を有することによって特別な配慮が必要になっているか（「設問の該当例」を参照してください）	該当する場合に「○」を選択
Q7-2		発達障害を有している（疑いがある場合を含む）	発達障害によって特別な配慮が必要になっているか ※ＡＤＨＤ、ＡＳＤまたはそれに準ずる状態の場合に該当するとしてください	該当する場合に「○」を選択
Q7-3		学習障害を有している（疑いがある場合も含む）	発達障害・知的障害でないものの、読み・書き・計算などの特定の領域で学習の遅れ等があり、特別な配慮が必要になっているか	該当する場合に「○」を選択
Q7-4		知的障害を有している（疑いがある場合を含む）	知的障害によって特別な配慮が必要になっているか	該当する場合に「○」を選択
Q7-5		身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む）	身体障害によって特別な配慮が必要になっているか。 ※障害手帳の保持、またはそれに準ずる状況の場合に該当するとしてください	該当する場合に「○」を選択
Q7-6		精神障害の診断がついている（発達障害、知的障害、トラウマ、依存症を除く全て）	明確に診断のついている精神障害によって特別な配慮が必要になっているか	該当する場合に「○」を選択
Q7-7		精神障害の疑いがある（発達障害、知的障害、トラウマ、依存症を除く全て）	診断はついていないものの、精神障害の疑いがあり、特別な配慮が必要になっているか	該当する場合に「○」を選択
Q7-8		トラウマ起因の行動や症状がある（PTSDやPTSD疑い含む）	トラウマ起因の行動や症状によって特別な配慮が必要になっているか（PTSDやPTSD疑い含む）	該当する場合に「○」を選択
Q7-9		多動・集中困難がある（じっと落ち着いてられない等）	多動・集中困難によって特別な配慮が必要になっているか	該当する場合に「○」を選択
Q7-10		自傷行為がある	自傷行為に及ぶことがあるか	該当する場合に「○」を選択
Q7-11		自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうとしたことがある※ 4	自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうとしたことがあるか	該当する場合に「○」を選択
Q7-12		過度の従順さがある	過去の虐待やトラウマ等から過度の従順さがあるか	該当する場合に「○」を選択

Q7-13	日常生活等における課題	不定愁訴（病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態）を行うことがある	不定愁訴（病気がないにも関わらず何か病気があるように感じてそのように振る舞ってしまう状態）があるか（職員の負担を把握）	該当する場合に「○」を選択
Q7-14		食事に課題がある（過食・拒食・偏食・異色（紙や虫を食べる等））	過食・拒食・偏食・異食等の課題があるか	該当する場合に「○」を選択
Q7-15		睡眠に課題がある（入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）	入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒などの課題があるか（職員の負担を把握）	該当する場合に「○」を選択
Q7-16		排泄に課題がある（一日に何度も漏らす等）	排泄の課題があるか（職員の負担を把握）	該当する場合に「○」を選択
Q7-17		生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする	生活面での特別な配慮が必要かどうか	該当する場合に「○」を選択
Q7-18	学校・非行行動・その他における課題	（登校はしているが、）学校不適応、集団不適応の傾向がある	登校自体はしているものの、学校生活や集団生活に馴染めない等の課題があるか	該当する場合に「○」を選択
Q7-19		不登校または不登校傾向	左記の通り	該当する場合に「○」を選択
Q7-20		学習困難、学業不振である	左記の通り	該当する場合に「○」を選択
Q7-21		不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある	左記の通り	該当する場合に「○」を選択
Q7-22		非行行動① 盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある	非行行動に及ぶことがあるか	該当する場合に「○」を選択
Q7-23		非行行動② 火遊び・動物虐待等の危険な行動を行うことがある	非行行動の一部ですが、火遊び、動物虐待については施設として特に負担が大きいため個別にさせていただきます	該当する場合に「○」を選択
Q7-24		虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある	虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行い、職員に負担がかかることがあるか	該当する場合に「○」を選択
Q7-25		ゲームやインターネットへの過度の依存がある	左記の通り	該当する場合に「○」を選択
Q7-26		家族との関係に葛藤を抱えている	家族との関係、面会頻度、再同居等について葛藤や納得していない状態があるか	該当する場合に「○」を選択
Q7-27		内気・緘黙等性格・行動上の問題を有している	左記の通り	該当する場合に「○」を選択
Q7-28		母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい	左記の通り	該当する場合に「○」を選択
Q7-29		その他	その他	該当する場合に「○」を選択
Q8-1	特定の行動の頻度	情緒面について個別的なかわりや情緒面について個別的なかわりや特定の養育者の（密な）関与を必要とする場面の頻度	該当する行動の頻度がどの程度であるか（選択肢から選択）	1日に何度もある
Q8-2		年齢相応の基本的生活習慣が身についていないと感じること		1日に数回程度
Q8-3		施設内での暴力（他児や職員への暴力、暴言、器物破損）や他者とのトラブル		1週間に1回程度
Q9	通院・服薬の状況	定期的な通院（精神科・心療内科等の精神系の診療のための通院）を必要としている	定期的な通院による職員の負担を把握するための設問	該当する場合に「○」を選択
Q10		定期的な通院（Q9以外）を必要としている	定期的な通院による職員の負担を把握するための設問	該当する場合に「○」を選択
Q11		定期的な服薬を必要としている	定期的な服薬（の支援や管理）による職員の負担を把握するための設問	該当する場合に「○」を選択

Q12-1	障害福祉サービスの利用状況	児童発達支援サービス	該当するサービスの利用頻度を確認	該当する場合に「○」を選択
Q12-2		放課後等デイサービス		該当する場合に「○」を選択
Q12-3		就労支援サービス		該当する場合に「○」を選択
Q12-4		その他のサービス		該当する場合に「○」を選択
Q12-5		利用していない		該当する場合に「○」を選択
Q13	職員負担	直近1か月以内に人手を割きにくい時間帯に特別な配慮が必要になったことはありますか（外出前、勤務時間帯等）。	職員の負担を把握	該当する場合に「○」を選択
Q14		直近1か月以内に複数人での特別な配慮が必要になったことはありますか。		該当する場合に「○」を選択
Q15		直近1か月以内に勤務外の人員のヘルプが必要になったことはありますか。		該当する場合に「○」を選択
Q16		Q6～8のような課題に気づいていても、忙しさ等を理由に十分対応できていない等の不全感を職員として感じることはありますか。		該当する場合に「○」を選択

里親・ファミリーホーム・施設のあり方の検討に関する調査研究事業 『児童自立支援施設に関するアンケート調査』					
【ご回答いただくにあたって】 ・このアンケートは、現時点の状況でご回答ください。					
基本情報についてお伺いします。					
1	貴施設のお名前を教えてください。				
2	貴施設の種類を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 児童養護施設児童 2. 児童心理治療施設 3. 児童自立支援施設 4. 自立援助ホーム				
3	施設が所在している都道府県を教えてください。				
4	施設が所在している市町村名を教えてください。				
5	貴施設の設立後年数を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上				
6	貴施設全体の従業員数を教えてください。				
7	貴施設に常駐している専門職の人数を記入してください (複数の役割がある場合は重複してカウントしてください)				
	医師	看護師	保育士	児童生活支援員	児童指導員 (少年指導員含む)
	人	人	人	人	人
	児童自立支援専門員	個別対応職員	家庭支援専門相談員	心理療法担当職員	職業指導員
	人	人	人	人	人
	栄養士	調理員	母子支援員		
	人	人	人		
8	貴施設全体の定員数を教えてください。				
9	入所している子どもの数を教えてください。				
その他についてお伺いします。					
10	公的サービスで利用しているものがあればすべて教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字に丸を付けてください。				
	1. 養育支援研修の受講		3. 児童相談所への相談		
	2. 養育環境の整備等支援に係る費用の受給		4. その他		
11	上記の他、公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。				
12	現在子どもの支援を行う上で苦勞していることがあれば教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください				
	1. 発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる		5. 暴力行為に及ぶ子どもがいる（家庭内外を問わず）		
	2. 医療的ケアの内容が難しい子どもがいる		6. 支援を行うための人員が足りていない。		
	3. 医療的ケアの頻度が多い子どもがいる		7. 支援を行うための資金が足りていない。		
	4. 緘黙等の理由で意思疎通がはかれない子どもがいる		8. その他		
13	現在子どもの支援を行う上で特にしていることがあれば教えてください。				

ご回答者様についてお伺いします。		
14	より正確に実態を把握するため、個別にヒアリングをお願いする可能性がございます。ヒアリングをお受けすることは可能でしょうか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ	
15	回答者様のお名前を教えてください。 ※文字を入力してください	
16	電話番号をご記入ください。 ※数字を入力してください	
17	メールアドレスをご記入ください。 ※メールアドレスを入力してください	
	設問は以上となります。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。	

【子どもの個票】現在受け入れている子どもについて、それぞれ以下の設問にご回答ください。

- ・入所時期や年齢等によってケアの段階が異なることが想定されますが、**特に指定のない限り現時点の状況についてご記入ください。**
 ・一時保護の方は、個人票の対象外のため、ご記入いただく必要はありません。
 ・回答はプルダウンからの選択方式ですが、コピー＆ペーストも可能です。
 ・設問内に「※」がある場合は、別シート「設問の該当例」を参考に該当有無を確認してください。
 ・施設内で複数のユニットがある場合は、ユニットごとに1シートで回答してください。

[illegible]

★設問の該当例

※ 1	以下のような疾患を有する場合（医師から診断されている場合）は○をしてください。 心臓疾患、発達協調性運動障害、口唇口蓋裂、喘息性気管支炎、循環器系疾患、内臓疾患、両下肢不完全及び機能障害、ダウン症、てんかん、何等かの脳機能障がい、新生児呼吸逼迫症候群、原因不明の発育課題		
※ 2	(例)	侵入症状がある（トラウマとなった出来事に関する不快で苦痛な記憶が突然蘇ってきたり、悪夢を見る、悪夢を反復する、恐怖体験を遊びなどで反復する、母のリストカットする様子を再現する等） 回避症状がある（出来事に関して思い出したり考えたりすることを極力避けようしたり、思い出させる人物、事物、状況や会話を回避する、間隔の麻痺や遮断がある等） 認知と気分の陰性の変化がある（否定的な認知、興味や関心の喪失、周囲との疎隔感や孤立感を感じ、陽性の感情（幸福、愛情など）がもてない等） 覚醒度と反応性の著しい変化がある（いつもイライラしているなどトラウマ体験が原因と思われる症状や行動がある、無謀または自己破壊的行動、過剰な警戒心、ちょっとした刺激にもひどくビクッとするような驚愕反応、集中困難、睡眠障害がみられる、大きな音や暗闇を過度に怖がる等）	
※ 3	(例)	リストカット 抜毛 ヘッドバッティング 自分の腕を噛む けがをするまで壁を叩くなど自分の身体を気付つける行動 等	
※ 4	(例)	死にたいと何度も言う 実際に死のうとした 等	
※ 5	(例)	早朝覚醒 中々眠りににつけない 眠りが浅い 夜中に目が覚める 夜泣きがある 夜中に突然起きて大声で騒ぐ、暴れる（夜驚） 夜尿 等	

※ 6	(例)	施設内で個別対応職員や担当養育者、心理担当職員等による個別的なトレーニングを行っている
		医療機関等の理学療法士、作業療法士等によるトレーニングを定期的に行っている
		その他
※ 7	(例)	施設内で個別対応職員や担当養育者、心理療法担当職員等による個別的なトレーニングを行っている
		医療機関等の言語聴覚士等によるトレーニングを定期的に行っている等
		その他
※ 8	(例)	言葉だけでは指示が通りづらい子どもについて、視覚的、聴覚的、触覚的な工夫を行い、生活援助を行っている
		雑音の多い場所では指示が通りづらかったり、お友達とトラブルになる子どもについて、静かな環境を設定したり一人になる時間を設けている
		物音や体に触れることに対して特別配慮している
		その他
※ 9	(例)	授業中の徘徊
		教師の指示が入らない
		集団活動ができない
		友人とのトラブルなど学校生活に関する問題を抱えている 等
※ 10	(例)	火遊び等の危険な遊びを行う
		動物の虐待を行う（動物を蹴る、魚を水から出す等）
		虫や昆虫の足を捕まえて殺す、足を引きちぎる 等
※ 11	(例)	家族の行方がわからない
		親の問題が解決せず、家庭復帰につながらない
		そもそも自分が施設にいる理由が了解できていない
		親への強い思いを抱いたままである 等
※ 12	(例)	子どもと担当職員が1対1で過ごす時間を、日々の中で意識して設けている
		担当養育者と2人きりで過ごす時間を1日設けることで、子どもが担当養育者にゆったりと甘えられる時間を意識して作っている
		養育者とのかかわりを求めない
		養育者にしがみつきななか離れない
		養育者を怖がり萎縮するなど養育者との関係性に問題がある 等

※ 1 3	(例)	歯磨きをしない、片付けができない、座って食事を食べられない、トイレでお尻を拭かない等
		突然笑いだしたり、次の瞬間急に怒り出す
		他児や養育者の嫌がることをわざとする
		他児が嫌がっているのを見て笑っている
		その他
※ 1 4	(例)	他児を蹴ったり後から押し倒し殴ったりする
		暴言（「うるさい」「死ね」等の発言をする）
		すぐに反発する
		すぐに他人を挑発する
		相手が嫌がっていることに気付けない
		会話の途中で突然TVやDVDの中のセリフをまくしたてる
		他入の領域にすぐに踏み入れる
		反射的に者を壊す 等
※ 1 5	(例)	生まれつきの疾患を有しており、定期的な受診が必要
		疾患は完治しているが、継続的なフォローを要する
		複数科を受診している
		継続して飲まなければならない薬がある
		発達フォローが必要
		複数回の手術が必要
		嘱託医だけではなく、大学病院、総合病院等の複数の医療機関受診が必要
		その他
※ 1 6	(例)	生まれつき障害を有しており、定期的な受診や訓練が必要
		装具を必要とするため、定期的な受診と訓練が必要
		診断はついていないが、実年齢に比べて発達が遅れている項目があるため、定期的な受診と訓練が必要
		診断はついていないが、生活に支障をきたす症状（身体がぐにやぐにゃしている、座位が取りづらい、言語理解が大幅に遅れている、発語がなかなか出ない等）が見られるため、定期的な受診して助言をいただいている
		発達支援センターや視覚支援学校等、地域の支援機関と連携している
		その他

※ 1 7	(例)	ミルクを飲むことを嫌がる
		スポイトで授乳している
		普通の乳首では飲むことが出来ない
		ミルクを飲むのに時間がかかる
		とろみのあるミルクを飲んでいる
		アレルギー対応のミルクを飲んでいる
		離乳食が遅れている
		離乳食の段階がなかなか進まない
		噛む力が弱い
		飲み込む力が弱い
		とろみをつけないと飲み込めない
		繊維のある食材が苦手
		口に入れてもすぐ出してしまう
		食材の大きさや形に配慮が必要
		味や食感に特別な工夫が必要
		同じ色の食材のみ好んで食べる
		同じ食材や料理のみ好んで食べる 等

里親・ファミリーホーム・施設のあり方の検討に関する調査研究事業 『母子生活支援施設に関するアンケート調査』				
【ご回答いただくにあたって】 このアンケートは、現時点の状況でご回答ください。				
基本情報についてお伺いします。				
1	貴施設のお名前を教えてください。			
2	施設が所在している都道府県を教えてください。			
3	施設が所在している市町村名を教えてください。			
4	貴施設の設立後年数を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上			
5	貴施設の職員数を教えてください。			人
6	貴施設に常駐している専門職の人数を記入してください。（複数の役割がある場合は重複してカウントしてください）			
	医師	母子支援員	少年指導員	保育士
	人	人	人	人
	調理員	心理療法担当職員	個別対応職員	その他
	人	人	人	人
7	その他の職員の具体例を教えてください。			
8	貴施設は、「本体施設」「小規模・地域分散化施設」のいずれに該当しますか。 1. 本体施設 2. 小規模地域分散化施設			
9	小規模化の目的を教えてください。			
10	貴施設では小規模・地域分散化施設を行っていますか ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください			
	1. 小規模化・地域分散化の双方を行っている		3. 地域分散化のみ行っている	5. どちらも行っていない
	2. 小規模化のみ行っている		4. どちらも行っていない	
11	（小規模化・地域分散化を行っている場合）以下に挙げるとの施設を含んでいますか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください。			
	1. 小規模グループケア（敷地内）		3. 自治体の独自制度によるグループケア	5. 実施していない
	2. 小規模グループケア（分園型）		4. 地域小規模児童養護施設	
【すべての施設】の方にお伺いします。				
12	公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。			
	1. 養育支援研修の受講		3. 児童相談所への相談	5. 就労支援
	2. 養育環境の整備等支援に係る費用の受給		4. 福祉事務所との連携による住宅の確保支援	6. その他
13	上記の他、公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。			

ご回答者様についてお伺いします。		
14	より正確に実態を把握するため、個別にヒアリングをお願いする可能性がございます。ヒアリングをお受けすることは可能でしょうか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ	
15	回答者様のお名前を教えてください。 ※文字を入力してください	
16	電話番号をご記入ください。 ※数字を入力してください	
17	メールアドレスをご記入ください。 ※メールアドレスを入力してください	
	設問は以上となります。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。	

【個人票】現在受け入れいてる母子について、それぞれ以下の設問にご回答ください。

- ・本回答シートは入所している子ども全員について回答をお願いいたします。
- ・入所時期や年齢等によってケアの段階が異なることが想定されますが、**特に指定のない限り現時点の状況についてご記入ください。**
- ・基幹的職員等、子ども及び職員の状況を全体的に把握し、その運営管理を担っている職員様にて回答をお願いいたします。
- ・一時保護の方は、個人票の対象外のため、ご記入いただく必要はございません。
- ・回答はプルダウンからの選択方式ですが、コピー＆ペーストも可能です。
- ・設問欄に「※」がある場合は、別シート設問の該当例を参考に該当有無を確認してください。
- ・①目に該当する時、もしくは子どもがいない場合は空欄のままご提出ください。
- ・回答欄のうろ、黄色く塗られている箇所は母について、青く塗られている箇所は子どもについての質問となります。
- ・Q1～Q15で回答した母の子どもについて、Q16以降への回答をお願いいたします。
- ・施設内で複数のユニットがある場合は、ユニットごと1シートで回答してください。シートや行が不足する場合には、恐れ入りますが

Q1～Q15は母についての設問となります。

[illegible]

[illegible]

★回答する際の例示

※ 1	以下のような疾患を有する場合（医師から診断されている場合）は○をしてください。 心臓疾患、発達協調性運動障害、口唇口蓋裂、喘息性気管支炎、循環器系疾患、内臓疾患、両下肢不完全及び機能障害、ダウン症、てんかん、何等かの脳機能障がい、 新生児呼吸逼迫症候群、原因不明の発育課題	
※ 2	(例)	侵入症状がある（トラウマとなった出来事に関する不快で苦痛な記憶が突然蘇ってきたり、悪夢を見る、悪夢を反復する、恐怖体験を遊びなどで反復する、母のリストカットする様子を再現する等）
		回避症状がある（出来事に関して思い出したり考えたりすることを極力避けようしたり、思い出させる人物、事物、状況や会話を回避する、間隔の麻痺や遮断がある等）
		認知と気分の陰性の変化がある（否定的な認知、興味や関心の喪失、周囲との疎隔感や孤立感を感じ、陽性の感情（幸福、愛情など）がもてない等）
		覚醒度と反応性の著しい変化がある（いつもイライラしているなどトラウマ体験が原因と思われる症状や行動がある、無謀または自己破壊的行動、過剰な警戒心、ちょっとした刺激にもひどくビクッとするような驚愕反応、集中困難、睡眠障害がみられる、大きな音や暗闇を過度に怖がる等）
※ 3	(例)	リストカット
		抜毛
		ヘッドバッティング
		自分の腕を噛む
		けがをするまで壁を叩くなど自分の身体を傷つける行動
※ 4	(例)	死にたいと何度も言う
		実際に死のうとした 等
※ 5	(例)	何事も「自分が悪かったから」という思考になる
		「自分はダメだ」のような自己を否定する言動がある
		親として不適格だと思い込む 等

※ 6	(例)	自分で決められなくなる
		自身で判断や決断ができない
		虐待者のやり方に合わせて自身の方針を変える
		物事の処理能力が極端に落ちている
※ 7	(例)	早朝覚醒
		中々眠りににつけない
		眠りが浅い
		夜中に目が覚める
		夜泣きがある
		夜中に突然起きて大声で騒ぐ、暴れる（夜驚）
		夜尿 等
※ 8	(例)	ミルクを飲むことを嫌がる
		スポイトで授乳している
		普通の乳首では飲むことが出来ない
		ミルクを飲むのに時間がかかる
		とろみのあるミルクを飲んでいる
		アレルギー対応のミルクを飲んでいる
		離乳食が遅れている
		離乳食の段階がなかなか進まない
		噛む力が弱い
		飲み込む力が弱い
		とろみをつけないと飲み込めない
		繊維のある食材が苦手
		口に入れてもすぐ出してしまう
		食材の大きさや形に配慮が必要
		味や食感に特別な工夫が必要
		同じ色の食材のみ好んで食べる
		同じ食材や料理のみ好んで食べる 等

※ 9	(例)	施設内で個別対応職員や担当養育者、心理担当職員等による個別的なトレーニングを行っている
		医療機関等の理学療法士、作業療法士等によるトレーニングを定期的に行っている
		その他
※ 1 0	(例)	施設内で個別対応職員や担当養育者、心理療法担当職員等による個別的なトレーニングを行っている
		医療機関等の言語聴覚士等によるトレーニングを定期的に行っている等
		不安の改善のための個別、少人数からの段階的トレーニングを行っている
		その他
※ 1 1	(例)	言葉だけでは指示が通りづらい子どもについて、視覚的、聴覚的、触覚的な工夫を行い、生活援助を行っている
		雑音の多い場所では指示が通りづらかったり、お友達とトラブルになる子どもについて、静かな環境を設定したり一人になる時間を設けている
		物音や体に触れることに対して特別配慮している
		その他
※ 1 2	(例)	授業中の徘徊
		教師の指示が入らない
		集団活動ができない
		友人とのトラブルなど学校生活に関する問題を抱えている 等
※ 1 3	(例)	火遊び等の危険な遊びを行う
		動物の虐待を行う（動物を蹴る、魚を水から出す等）
		虫や昆虫の足を捕まえて殺す、足を引きちぎる 等
※ 1 4	(例)	子どもと担当職員が1対1で過ごす時間を、日々の中で意識して設けている
		担当養育者と2人きりで過ごす時間を1日設けることで、子どもが担当養育者にゆったりと甘えられる時間を意識して作っている
		養育者とのかかわりを求めない
		養育者にしがみつきなかなか離れない
		養育者を怖がり萎縮するなど養育者との関係性に問題がある
		その他
※ 1 5	(例)	歯磨きをしない、片付けができない、座って食事を食べられない、トイレでお尻を拭かない等
		突然笑いだしたり、次の瞬間急に怒り出す
		他児や養育者の嫌がることをわざとする
		他児が嫌がっているのを見て笑っている
		その他

※ 1 6	(例)	他児を蹴ったり後から押し倒し殴ったりする
		暴言（「うるさい」「死ね」等の発言をする）
		すぐに反発する
		すぐに他人を挑発する
		相手が嫌がっていることに気付けない
		会話の途中で突然TVやDVDの中のセリフをまくしたてる
		他入の領域にすぐに踏み入れる
		反射的に者を壊す 等
※ 1 7	(例)	生まれつきの疾患を有しており、定期的な受診が必要
		疾患は完治しているが、継続的なフォローを要する
		複数科を受診している
		継続して飲まなければならない薬がある
		発達フォローが必要
		複数回の手術が必要
		嘱託医だけではなく、大学病院、総合病院等の複数の医療機関受診が必要
		その他
※ 1 8	(例)	生まれつき障害を有しており、定期的な受診や訓練が必要
		装具を必要とするため、定期的な受診と訓練が必要
		診断はついていないが、実年齢に比べて発達が遅れている項目があるため、定期的な受診と訓練が必要
		診断はついていないが、生活に支障をきたす症状（身体がぐにやぐにゃしている、座位が取りづらい、言語理解が大幅に遅れている、発語がなかなか出ない等）が見られるため、定期的に受診して助言をいただいている
		発達支援センターや視覚支援学校等、地域の支援機関と連携している
		その他

里親・ファミリーホーム・施設のあり方の検討に関する調査研究事業 『自立援助ホームに関するアンケート調査』									
【ご回答いただくにあたって】 ・このアンケートは、現時点の状況でご回答ください。									
Q	基本情報についてお伺いします。								
1	基本情報 貴施設のお名前を教えてください。								
2	貴施設が所在している都道府県を教えてください。								
3	貴施設が所在している市町村を教えてください								
4	貴施設設立後の年数を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください								
	1．1年未満	2．1年以上3年未満	3．3年以上5年未満	4．5年以上10年未満	5．10年以上				
5	貴施設の従業員数を教えてください。				人				
6	貴施設に常駐している有資格者の人数をお答えください。								
	医師	看護師	保育士	社会福祉士	精神保健福祉士	栄養士	教員	心理士	その他
	人	人	人	人	人	人	人	人	人
7	入所している子どもの人数を教えてください。				人				
8	定期的に服薬している子どもの数をご記入ください。				人				
9	公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください								
	1. 養育支援研修の受講				3. 児童相談所への相談				
	2. 養育環境の整備等支援に係る費用の受給				4. その他				
10	上記の他、公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。（自由記述）								
11	現在子どもの支援を行う上で苦労していることがあれば教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字をすべて選んでください								
	1. 発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる				5. 暴力行為に及ぶ子どもがいる				
	2. 医療的ケアの内容が難しい子どもがいる				6. 支援を行うための人員が足りていない				
	3. 医療的ケアの頻度が多い子どもがいる				7. 支援を行うための資金が足りていない				
	4. 緘黙等の理由で意思疎通がはかれない子どもがいる				8. その他				
	現在子どもの支援を行う上で苦労していることがあれば教えてください。（自由記述）								
12									
その他についてお伺いします。									
13	より正確に実態を把握するため、個別にヒアリングをお願いする可能性がございます。ヒアリングをお受けすることは可能でしょうか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください								
	1. はい 2. いいえ								
14	回答者様のお名前を教えてください。 ※文字を入力してください								
15	電話番号をご記入ください。 ※数字を入力してください								
16	メールアドレスをご記入ください。 ※メールアドレスを入力してください								
設問は以上となります。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。									

【個人票】現在受け入れている子どもについて、それぞれ以下の設問にご回答ください。

- ・入所時期や年齢等によってケアの段階が異なることが想定されますが、**特に指定のない限り現時点の状況についてご記入ください。**
- ・一時保護の方は、個人票の対象外のため、ご記入いただく必要はございません。
- ・回答はプルダウンからの選択方式ですが、コピー＆ペーストも可能です。
- ・設問内に「※」がある場合は、別シート「設問の該当例」を参考に該当有無を確認してください。
- ・施設内で複数のユニットがある場合は、ユニットごとに1シートで回答してください。
- ・回答枠を30人分まで用意しております。例えば、入所している子どもが20人の場合、21人目以降の欄は空白のままご提出ください。

設問番号	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7-1	Q7-2	Q7-3	Q7-4	Q7-5	Q7-6	Q7-7	Q7-8	Q7-9	Q7-10	Q7-11	Q7-12	Q7-13	Q7-14	Q7-15	Q7-16	Q7-17	Q8-1	Q8-2	Q8-3	Q8-4	Q8-5	Q8-6	Q8-7	Q8-8	Q8-9	Q8-10	Q8-11	Q8-12	Q8-13
質問	子どもの性別を教えてください。	子どもの年齢のみを入力）	子どもの受け入れ期間を教えてください。	就学状況を教えてください。	就労状況（アルバイト含む）を教えてください	さいの月々の収入額（額面）がわかる場合、ご記入ください。 ※千の位を切り捨てた数字をご記入ください	社会的養育が必要となった背景として、以下の項目が当てはまる場合、○を選択してください。																	養育を行う上で、												
							倒心、侮理的虐待を悪口、侮辱を受けていた（日常的に罵	力身体的虐待を受けていた（日常的に暴	性的虐待を受けていた	い関係、または親か養育困難、冷たい親	医療的ネグレクトを受けていた	等）	応じた食事環境におかれな（年齢不適	食事が不衛生な住居など、不適	アルコールや薬物依存の家族がいた	患家族にうつや統合失調症などの精神疾	家族に虐待体験があった	家庭内暴力があった	父・母との別離があった	家族の自殺（未遂含む）があった	経済的に困窮していた	社会的孤立状態であった	家族に服役者がいた	が他の施設や里親のもとでの生活に課題	その他	疾患（※1）を有している	精神医学的診断がつき服薬している	精神障害の疑いがある	身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む）	発達障害を有している（疑いがある場合を含む）	学習障害を有している（疑いがある場合を含む）	知的障害を有している（疑いがある場合を含む）	（PTSDやPTSD疑い含む）※2	トラウマ起因の行動や症状がある	自傷行為がある※3	自殺念慮、自殺企図の懸念がある、または行おうとしたことがある、ま
回答形式	選択	選択	選択	選択	選択	数値入力	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
（記入例）	男	16	○	夜間・通信制の高校に通っている	正規雇用	12 （例：額面が126,000円の場合）	○						○				○										○	○		○			○			
1人目																																				
2人目																																				
3人目																																				
4人目																																				
5人目																																				
6人目																																				
7人目																																				
8人目																																				

Q8-14	Q8-15	Q8-16	Q8-17	Q8-18	Q8-19	Q8-20	Q8-21	Q8-22	Q8-23	Q8-24	Q8-25	Q8-26	Q8-27	Q8-28	Q8-29	Q8-30	Q8-31	Q8-32	Q8-33	Q8-34	Q8-35	Q8-36	Q8-37	Q9-1	Q9-2	Q9-3	Q10	Q11	Q12	Q13-1	Q13-2	Q13-3	Q13-4	Q13-5	Q14	Q15	Q16	Q17	
特別配慮が必要だと感じることとして、以下の項目が当てはまる場合、○を選択してください。																							その他の内容（Q7-31）があれば教えてください	以下の行動等が発生する頻度を選択してください。 （選択肢から最も近いものを選択してください）			体系的な通院のため（精神科・心療内科等）の精神療	定期的な通院（Q9以外）を必要としている	定期的な服薬を必要としている	利用している障害福祉サービスがあれば、○を選択してください。					別な近1か月以内に人手を割きにくい時間帯（外出前、勤務時間帯等）。	直近1か月以内に複数人での特別な配慮が必要	直近1か月以内に勤務外の人員のヘルプが必要	忙しさ等による十分な対応できていない等、の不全感を感じることがあります。	
睡眠に課題がある（入眠困難、早朝覚醒など）※5	多動・集中困難がある（じっと落ち着いていない等）	身体面において個別的需要とする※6	7 社会面（言語面含む）において個別的需要とする※7	8 生活面において視覚的・聴覚的・触覚的な配慮を必要とする※8	身体面において個別的需要とする※9	金銭を浪費してしまうため、管理が必要である	就労先が決まらない	就労が継続しない	就労先での適応に課題がある	引きこもり、または引きこもり傾向にある※9	学校不適応、集団不適応の傾向がある	不登校または不登校の傾向がある	学習困難、学業不振である	不適切な性行動、性暴力に及ぶことがある	他者への過度の依存がある	盗み、喫煙、飲酒、徘徊などの非行行動を行うことがある	虚言癖や虚言で混乱を招く言動を行うことがある	ゲームやインターネットへの過度の依存がある	10 家族との関係に葛藤を抱えている※	内気・臆黙等性格・行動上の問題を有している	母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい	その他		頻度※11	愛着形成※12	愛着形成※13				能力※14	施設内での暴力（器物損壊）や他職員への暴行	児童発達支援サービスを利用している	放課後等デイサービスを利用している	就労支援サービスの利用					その他のサービスを利用している
選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	自由記述	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
											○		○	○		○	○	○							1日に数回程度	1日に何度もある	殆ど無い	○	○	○					○	○	○	○	

★設問の該当例

※ 1	以下のような疾患を有する場合（医師から診断されている場合）は○をしてください。 心臓疾患、発達協調性運動障害、口唇口蓋裂、喘息性気管支炎、循環器系疾患、内臓疾患、両下肢不完全及び機能障害、ダウン症、てんかん、何等かの脳機能障がい、新生児呼吸逼迫症候群、原因不明の発育課題		
※ 2	(例)	侵入症状がある（トラウマとなった出来事に関する不快で苦痛な記憶が突然蘇ってきたり、悪夢を見る、悪夢を反復する、恐怖体験を遊びなどで反復する、母のリストカットする様子を再現する等） 回避症状がある（出来事に関して思い出したり考えたりすることを極力避けようしたり、思い出させる人物、事物、状況や会話を回避する、間隔の麻痺や遮断がある等） 認知と気分の陰性の変化がある（否定的な認知、興味や関心の喪失、周囲との疎隔感や孤立感を感じ、陽性の感情（幸福、愛情など）がもてない等） 覚醒度と反応性の著しい変化がある（いつもイライラしているなどトラウマ体験が原因と思われる症状や行動がある、無謀または自己破壊的行動、過剰な警戒心、ちょっとした刺激にもひどくビクッとするような驚愕反応、集中困難、睡眠障害がみられる、大きな音や暗闇を過度に怖がる等）	
※ 3	(例)	リストカット 抜毛 ヘッドバッティング 自分の腕を噛む けがをするまで壁を叩くなど自分の身体を気付つける行動 等	
※ 4	(例)	死にたいと何度も言う 実際に死のうとした 等	
※ 5	(例)	早朝覚醒 中々眠りににつけない 眠りが浅い 夜中に目が覚める 夜泣きがある 夜中に突然起きて大声で騒ぐ、暴れる（夜驚） 夜尿 等	

※ 6	(例)	施設内で個別対応職員や担当養育者、心理担当職員等による個別的なトレーニングを行っている
		医療機関等の理学療法士、作業療法士等によるトレーニングを定期的に行っている
		その他
※ 7	(例)	施設内で個別対応職員や担当養育者、心理療法担当職員等による個別的なトレーニングを行っている
		医療機関等の言語聴覚士等によるトレーニングを定期的に行っている等
		その他
※ 8	(例)	言葉だけでは指示が通りづらい子どもについて、視覚的、聴覚的、触覚的な工夫を行い、生活援助を行っている
		雑音の多い場所では指示が通りづらかったり、お友達とトラブルになる子どもについて、静かな環境を設定したり一人になる時間を設けている
		物音や体に触れることに対して特別配慮している
		その他
※ 9	(例)	授業中の徘徊
		教師の指示が入らない
		集団活動ができない
		友人とのトラブルなど学校生活に関する問題を抱えている 等
※ 10	(例)	家族の行方がわからない
		親の問題が解決せず、家庭復帰につながらない
		そもそも自分が施設にいる理由が了解できていない
		親への強い思いを抱いたままである 等
※ 11	(例)	子どもと担当職員が1対1で過ごす時間を、日々の中で意識して設けている
		担当養育者と2人きりで過ごす時間を1日設けることで、子どもが担当養育者にゆったりと甘えられる時間を意識して作っている
		養育者とのかかわりを求めない
		養育者にしがみつきなかなか離れない
		養育者を怖がり萎縮するなど養育者との関係性に問題がある 等
※ 12	(例)	歯磨きをしない、片付けができない、座って食事を食べられない、トイレでお尻を拭かない等
		突然笑いだしたり、次の瞬間急に怒り出す
		他児や養育者の嫌がることをわざとする
		他児が嫌がっているのを見て笑っている
		その他

※ 1 3	(例)	他児を蹴ったり後から押し倒し殴ったりする
		暴言（「うるさい」「死ね」等の発言をする）
		すぐに反発する
		すぐに他人を挑発する
		相手が嫌がっていることに気付けない
		会話の途中で突然TVやDVDの中のセリフをまくしたてる
		他入の領域にすぐに踏み入れる
		反射的に者を壊す 等

この事業は令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
により実施したものです。

「里親・ファミリーホーム・施設のあり方の検討に関する調査研究」

令和5年(2023年)3月発行

発行 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-9 JA 共済ビル 9 階
TEL 03-3221-7011(代表) FAX 03-3221-7022

不許複製